

HP Operations Manager i

ソフトウェア・バージョン:10.00

OMi ユーザ・ガイド

ドキュメント・リリース日:2015年1月(英語版) ソフトウェア・リリース日:2015年1月(英語版) OMi ユーザ・ガイド ご注意

ご注意

保証

HP 製品,またはサービスの保証は,当該製品,およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的,編集上の誤り,または欠如について, HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータ・ソフトウェアです。これらを所有,使用,または複製するには,HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータ・ソフトウェア,コンピュータ・ソフトウェアに 関する文書類,および商用アイテムの技術データは,FAR12.211および12.212の規定に従い,ベン ダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe [®] および Acrobat [®] は, Adobe Systems Incorporated の商標です。

AMD および AMD Arrow ロゴは, Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

Citrix[®] および XenDesktop[®] は Citrix Systems, Inc. およびその1つ以上の子会社の登録商標で,米国およびその他の国の特許商標庁に登録されている可能性があります。

Google[™] および Google Maps[™] は, Google Inc. の商標です。

Intel[®], Itanium[®], Pentium[®], Intel[®] Xeon[®], およびLync[®]は, Intel Corporationの米国およびその他の国における商標です。

Linux[®]はLinus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標です。

Java は, Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

OMi ユーザ・ガイド ご注意

Microsoft®, Windows®, Windows NT®, Windows® XP, および Windows Vista®は, Microsoft Corporationの米国登録商標です。

Oracle は, Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

Red Hat[®]は, Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。

UNIX[®] は The Open Group の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別番号が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメント・リリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェア・リリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック,またはご使用のドキュメントが最新版かどうかのご確認には,次のサイトをご利用ください。 https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result?keyword=.

このサイトでは, HP Passport アカウントが必要です。アカウントがない場合は, HP Passport の [サインイン] ページで [**Create an account**] ボタンをクリックし てください。

サポート

次の HP ソフトウェアのサポート Web サイトを参照してください。https://softwaresupport.hp.com

連絡先情報と、HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HP ソフトウェア・サポートではセルフ・ソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけ ます。HP ソフトウェア・サポート Web サイトのサポート範囲は次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポート・ケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェア・カスタマーとの意見交換
- ソフトウェア・トレーニングの検索と登録

ー部を除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ID を登録するには、https://softwaresupport.hp.com にアクセスし、[登録]をクリックしてください。

アクセス・レベルに関する詳細は、以下の Web サイトにアクセスしてください。https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels

HP Software Solutions& 統合およびベスト・プラクティス

HP ソフトウェア・カタログの製品の連携方法, 情報交換の方法, ビジネス・ニーズの解決方法を調べるには, HP Software Solutions Now (https://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp) にアクセスしてください。

さまざまなベスト・プラクティスのドキュメントや資料を入手するには, Cross Portfolio Best Practices Library (https://hpln.hp.com/group/best-practices-hpsw) にア クセスしてください。

コンテンツ

ご注意	2
保証	2
権利の制限	2
著作権について	2
商標について	2
第I部: はじめに	9
第1章: 0Mi の移動および使用	11
第2章: 0Mi へのログイン	
第3章: マイ・アカウント	
第4章: ユーザ・エンゲージメント	17
第5章: イベント	
イベントの優先度	24
イベント相関処理	
イベント履歴	27
第6章: イベント・ブラウザ	
イベント・ブラウザの設定	48
ビューおよびビューに基づく承認によるフィルタリング	50
ユーザまたはユーザ・グループへのイベントの割り当て	51
手動でのイベントの関連付け	
手動で関連付けたイベントからの相関処理ルールの作成	53
Operations Orchestration ラン・ブックの起動	
クローズしたイベントの表示	61
イベント・データのエクスポート	63
イベント詳細	65
一般	66
追加情報	
ソース情報	72
アクション	73
注釈	74

カスタム属性	
関連イベント	
履歴	
解決ヒント	83
命令	85
転送	
イベント・フィルタ	
フィルタリングの方法	90
ビューを使用したイベントのフィルタ方法	
構成アイテムを使用したイベントのフィルタ方法	93
イベント・フィルタの表示および適用方法	
シンプル・イベント・フィルタの定義方法	
詳細なイベント・フィルタの定義方法	96
イベント・フィルタを共有する方法	
フィルタ・マネージャのユーザ・インタフェース	
[イベント フィルタの選択] ダイアログ・ボックスおよび [イベント フィ	ィルタの
管理] ダイアログ・ボックス	
[シンプル フィルタ] 設定ダイアログ・ボックス	101
[詳細フィルタ] 設定ダイアログ・ボックス	
詳細フィルタの[正規表現を編集]ダイアログ・ボックス	111
[フィルタ構成] ダイアログ・ボックスで使用する演算子	116
トラブルシューティングと制限事項	119
イベントの終了とアーカイブ用のツール	
opr-archive-events コマンドライン・インタフェース	
opr-close-events コマンドライン・インタフェース	
第7章: 状況	127
イベント・タイプ・インジケータ	127
状況インジケータ	
HI ベースの KPI の計算	130
注釈ツール	133
変更およびインシデント・コンポーネント	138
カスタム・イメージ・コンポーネント	142
地理マップ・コンポーネント	
状況インジケータ・コンポーネント	155
状況トップ・ビュー・コンポーネント	
階層コンポーネント	166

隣接マップ・コンポーネント	179
トップ・ビュー・コンポーネント	
トポロジ・マップ・コンポーネント	192
ビュー・エクスプローラ・コンポーネント	200
監視リスト・コンポーネント	204
第8章: アクション	
第9章: ツール	214
第10章: ビュー	218
第10章: マイ・ワークスペース	
第11章: 「マイ ワークスペース]を使用した環境の監視	
定義済みページ	
利用可能なコンポーネント	
[マイ ワークスペース] のユーザ・インタフェース	230
マイ・ワークスペース	
[ページ ギャラリ] ダイアログ・ボックス	
[コンポーネント ギャラリ] ダイアログ・ボックス	237
[新規コンポーネント] / [コンポーネントの編集] ダイアログ・ボックス	र239
[ワイヤリング] ダイアログ・ボックス	242
第12章: [マイ ワークスペース]のセットアップ方法	
ワークスペースでのユーザ権限	246
ページ・レイアウトの設定方法 - 使用例のシナリオ	247
外部コンポーネントの作成方法	250
動的 URL を使用したコンポーネントの作成方法 - 使用例のシナリオ	252
コンポーネント間のワイヤリングのセットアップ方法	253
ページおよびコンポーネントのカテゴリの変更方法	254
最大ページ数の変更方法	255
[マイ ワークスペース] のトラブルシューティング	256
[マイ ワークスペース]のページおよびコンポーネントが欠落している.	256
第Ⅲ部: ダッシュボード	257
第13章: 監視ダッシュボード	259
第14章: 360° View	
第15章: 経過時間ごとの KPI ダッシュボード	269
第16章: 投資利益率ダッシュボード	275

第Ⅳ部: 操作コンソール	281
第17章: イベント・パースペクティブ	282
第18章: Health Perspective	283
第19章: パフォーマンス・グラフ作成の概要	285
グラフの種類	287
ベースライン・グラフ	288
グラフの概要	288
データ・ソース	289
メトリクス	290
グラフの管理 - ワークフロー	290
[マイ ワークスペース] でのグラフの描画	291
OMi からのグラフの描画	291
パフォーマンス・パースペクティブからのグラフの描画	293
グラフの設計	294
グラフの編集	295
グラフの削除	296
[パフォーマンス グラフ作成]のユーザ・インタフェース	297
パフォーマンス・パースペクティブのグラフィカル・ユーザ・インタフェース	297
描画済みグラフのオプション	301
プロセスへのドリルダウン	306
[表のハイライト] の使用	307
[表フィルタ] の使用	308
メトリックの選択	309
[表グラフ] ウィンドウ	309
グラフのエクスポート・ダイアログ・ボックス	311
グラフ・デザイン	311
[グラフ属性] タブ	312
[メトリック リスト] タブ	316
[メトリックの選択] ウィンドウ	317
[メトリックのプロパティ] ウィンドウ	318
[特殊な属性] タブ	322
[グラフの保存] ダイアログ・ボックス	325
グラフ属性 - 一覧および説明	326
日付範囲パネル	330
トラブルシューティングと制限事項	331

第19章: OMi 状況ステータス	
ドキュメントのフィードバックの送信	

第1部:はじめに

OMi ユーザは, [ワークスペース] 領域を使用して,環境の監視,イベントの管理,問題の解決を行います。OMi の [ダッシュボード] および [操作コンソール] ワークスペースには,これらを行うための標準設定ページがあります。ただし,管理者は,オペレータ用に特別に設計したページを提供することもできます。または, [マイワークスペース] に独自のページを作成する権限がユーザに付与されている場合もあります。

ワークスペースでは、各ページの設計ごとに異なる方法で情報が提供されます。これらのページ内で 表示できる情報の種類は、管理者から割り当てられるユーザ・ロールによって決まります。たとえ ば、オペレータの Dave は自分の割り当てられているイベントと、表示が許可されているその他のイ ベントをドメイン間ビューに表示できます。たとえば、彼は企業の電子メール・サーバの保守を行い ますが、別のオペレータに割り当てられているイベントを表示できる場合があります。

詳細

ワークスペースについて

[ワークスペース]領域は、次の主要セクションに分かれています。

- マイ・ワークスペース: [マイ ワークスペース] では、ユーザおよび管理者は、OMi から標準設定ページを表示し、OMi コンポーネントや外部コンポーネントを含む新しいページを作成できます。各ページは [マイ ワークスペース] 内にタブとして表示されます。詳細については、「マイ・ワークスペース」(231ページ)を参照してください。
- ダッシュボード: [ダッシュボード] には、環境の状況の概要がグラフィック形式で表示されます。データはリアルタイムで更新されるため、常に最新の情報が表示されます。OMi には標準設定で次のダッシュボードがあります。
 - 監視ダッシュボード:(以前のイベント・ダッシュボード)監視ダッシュボードには,監視対象となっている環境内のイベントの概要が示されます。監視ダッシュボードの使用により,環境の状況をすばやく評価でき,また,注意を要する領域を特定できます。詳細については,「監視ダッシュボード」(259ページ)を参照してください。
 - 360°: このページには、選択したビューの CI のステータスに関する概要が表示されます。
 ビュー内の CI の階層、各 CI に割り当てられた KPI、それらの KPI ステータスが表示されます。
 詳細については、「360° View」(268ページ)を参照してください。
 - 経過時間ごとの KPI: 経過時間ごとの KPI ダッシュボードでは,選択した KPI および CI のステータスまたは値を,経過時間ごとに表示できます。このレポートでは,多数のレイアウトから選択してステータスと値を一目で監視できます。詳細については,「経過時間ごとの KPI

ダッシュボード」(269ページ)を参照してください。

- ROI ダッシュボード:(投資利益率) ROI ダッシュボードには、OMi が受信したイベントと、オペレータによる介入が必要であったイベントで自動処理したものの比率が表示されます。自動処理されたイベントの比率が高いほど、OMi によるインフラストラクチャ管理への貢献度が高くなります。一般的なイベントを手動で処理するコストがわかっている場合、この値をOMi に入力できます。この値に基づき、OMi によって達成されたコスト節約の合計を表示できます。これらの統計情報は、OMi によって IT 環境が監視されている間の任意の指定期間について表示できます。詳細については、「投資利益率ダッシュボード」(275ページ)を参照してください。
- 操作コンソール: [操作コンソール] ワークスペースは、オペレータが日常タスクを行う場所です。OMi には、理想的な作業ワークスペースのサンプルとして、事前定義された3つのパースペクティブが用意されています。
 - イベント・パースペクティブ: [Event Perspective] ページには、イベント関連の情報が別々のペインで表示されます。詳細については、「イベント・パースペクティブ」(282ページ)を参照してください。
 - 状況パースペクティブ: [Health Perspective] ページには、選択したイベントに関連するトポロジ情報および状況インジケータが表示されます。この表示では、イベントを別の複数の観点から同時に確認でき、複雑な関係および依存関係をより明確にします。詳細については、「Health Perspective」(283ページ)を参照してください。
 - パフォーマンス・パースペクティブ: [Performance Perspective] ページでは、テンプレート からグラフを作成することができます。また、選択した CI に必要なメトリックを選択することによって、即興のグラフを描画することもできます。詳細については、「パフォーマンス・ グラフ作成の概要」(285ページ)を参照してください。

第1章: OMi の移動および使用

OMi は,Web ブラウザで実行され,Web ブラウザのナビゲーション機能を使用します。たとえば,Web ブラウザの [戻る] ボタン, [進む] ボタン,ブックマーク,履歴,更新,全画面表示,印刷の機能を使用できます。

各 OMi UI には専用の URL があります。この URL をブックマークすれば,個々の UI にすばやくアクセ スできます。

詳細

タイトル・バーとメニュー・バー

タイトル・バーには、ロゴ、Operations Manager i 製品の名前、メニューが表示されます。

[**ワークスペース**] および [管理] メニューのサブメニューは,展開したり,折りたたんだりできま す。各サブメニューの展開や折りたたみの状態は,OMi で記録されているため,簡単に戻ることがで きます。

[メニュー項目の検索]フィールドを使用して,特定の項目のメニューを検索できます。入力内容に 一致したメニュー項目が OMi によって提案されます。

ユーザ・メニューには、現在ログインしているユーザの名前が表示されます。このメニューを使用して、すべてのユーザ固有の領域(アカウントまたはパスワード情報など)にアクセスできます。 また、ユーザ・メニューを使用して、OMiからログアウトすることもできます。

[**ヘルプ**] メニューでは, OMi オンライン・ヘルプやインターネットのほかのリソースにアクセスできます。さらに, このメニューから OMi のバージョンを調べることもできます。

現在位置表示リスト

ブレッドクラムトOMi ブレッドクラムでは, OMi 内での位置を追跡できます。 内の現在位置を追跡で きます。ブレッドクラムでは,現在のページまでに移動してきた各ページに戻るためのリンクが提供 されます。

ブレッドクラムのいずれかのリンクをクリックして、複数レベルのコンテキスト内で以前のページを 表示できます。

第2章: OMi へのログイン

本項では、OMi へのログイン手順について説明します。

詳細

OMi へのアクセス

OMi へのアクセスは, OMi サーバにネットワーク接続されている任意のコンピュータから, サポート されている Web ブラウザを使用して行います。

ユーザに許可されるアクセス・レベルは,ユーザ権限によって異なります。詳細については,OMi管理ガイドを参照してください。

標準設定では, OMi はライトウェイト・シングル・サインオン(LW-SSO)で設定されます。詳細に ついては, OMi 管理ガイドを参照してください。

要件

ブラウザ要件および OMi を表示するための最低要件の詳細については, OMi サポート・マトリックス を参照してください。

タスク

本項の内容

- 「OMi へのログイン方法」(12ページ)
- 「OMi のログアウト方法 OMi」(13ページ)

OMi へのログイン方法

1. ブラウザで,次の URL を入力します。

http://<server_name>.<domain_name>/omi

説明

<server_name> および < domain_name> は, OMi サーバの完全修飾ドメイン名(FQDN)です (http://server1.domain1.ext/omi など)。サーバが複数ある場合,または OMi が分散アーキテ クチャにデプロイされている場合は、必要に応じて、ロード・バランサまたはゲートウェイ・ サーバの URL を指定します。

2. ログイン名とパスワードを入力します。初回アクセスの場合は,管理者のユーザ名 (「admin」)とパスワードを使用できます。

注意: 初回のログインが完了したら,不正な侵入を防ぐためにシステムのスーパーユーザが このパスワードをすぐに変更することをお勧めします。ユーザ・パスワードの変更の詳細 については,「マイ・アカウント」(16ページ)を参照してください。ログイン名は変更でき ません。

注: パスワードは,インストールとは別に実行できる設定ウィザードの最終手順または設定 サーバ・ユーティリティで設定されます。

ログインすると、ページの右上(上部のメニュー・バーの下)にログイン名が表示されます。

注: ライトウェイト・シングル・サインオン(LW-SSO)が無効になっている場合,ログインURL に.<ドメイン名>構文を追加する必要はありません。LW-SSOの詳細については,OMi管理ガ イドを参照してください。

OMi のログアウト方法 OMi

セッションが完了したら、不正な侵入を防ぐためにログアウトすることをお勧めします。

▲ ユーザ・メニューで [**ログアウト**] をクリックします。

ヒントとトラブルシューティング

ログインのトラブルシューティング

ログインの問題を解決するには、エラー警告ダイアログ・ボックスに表示されるエラー番号を使用して、次の表の考えらえれるログイン・エラーの原因を参照します。トラブルシューティング情報の詳 細については、セルフ・ソルブ技術情報の検索をご利用ください。

エラー番号	問題 / 考えられる原因	解決策
LIOO1	 OMi からゲートウェイ・サーバ で実行されているアプリケー ション・サーバに接続できな い。次のような原因が考えられ ます。 アプリケーション・サーバが ダウンしている。 OMi サービスに問題がある。 アプリケーション・サーバか ら要求されたポートが別のア プリケーションで使用されて いる。 	解決策1:ゲートウェイ・サーバ・マシンのす べてのアプリケーションを終了して、マシンを 再起動します。 解決策2:ゲートウェイ・サーバ・マシンで実 行されているほかのアプリケーション (スター トアップ・ディレクトリから実行されるアプリ ケーション、アプリケーション・サーバの別の インスタンス、MSDE または Microsoft SQL Server、その他のプロセスなど) でこのポート が使用されていないことを確認します。
L1002	ゲートウェイ・サーバで実行さ れているアプリケーション・ サーバが応答しない,または適 切にインストールされない。	OMi を再起動します。
L1003	管理データベースが壊れている (ユーザ・レコードが誤って データベースから削除された場 合など)	別のユーザとしてログインするか,OMi 管理者 に新しいユーザを作成してもらいます。
LI004	RMI (Remote Method Invocation) 例外が原因で Tomcat サーブレット・エンジン とアプリケーション・サーバ間 の接続に失敗する。これは、ア プリケーション・サーバへの RMI 呼び出しの問題に原因があ ると考えられます。	どのアプリケーション・サーバ・ポートも別の プロセスで使用されていないことを確認しま す。また,RMIポートがバインドされているこ とも確認します。 ポートの詳細については,OMi 管理ガイドを参 照してください。

エラー番号	問題 / 考えられる原因	解決策
	 OMi ログインに失敗またはハン グする。次のような原因が考えられます。 管理データベースに接続できない。 現在のユーザにプロファイルへのアクセス権がない。 認証方法が適切に設定されていない。 	 管理データベースへの接続が良好であることを 確認します。 1. Web ブラウザで, http://localhost:29000/jmx- console/index.html と入力して JMX コン ソールに接続します。 2. リンク [System] > [JMX MBeans] > [Topaz] > [Topaz:service=Connection Pool Information] をクリックします。 3. java.lang.String showConfigurationSummary()を特定し て, [起動] をクリックします。 4. [Active configurations in the Connection Factory] で, 管理データベースの該当す る行を見つけます。 5. 管理データベースの列 [Active Connection] や [Idle Connection] の値が 0 よりも大きいことを確認します。 6. データベース接続に問題がある場合は, データベース・マシンが起動して実行され ていることを確認します。必要に応じ, セットアップおよびデータベース設定ユー ティリティを再実行します。 解決策 3:ユーザに OMi にアクセスするための 適切な権限の詳細については,『OMi 管理ガイ ド』を参照してください。 解決策 4:認証方法が適切に設定されているこ とを確認します。認証方法の詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。

第3章: マイ・アカウント

[マイ アカウント] ダイアログ・ボックスを使用して,個々のユーザは名前やタイム・ゾーンを変更できます。また,電子メール・アドレスを入力することもできます。

ここで行った変更は, [ユーザ, グループ, およびロール]のユーザの設定にも適用されます。詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。

アクセス方法

▲ ユーザ・メニューの [マイ アカウント] をクリックします。

タスク

[マイアカウント]の情報を更新する方法

- 1. [名前]フィールドに,新しい表示名を入力します。
- 2. *オプション:*電子メール・アドレスを入力します。現在,この電子メール・アドレスは OMi で使用されません。
- 自分の場所に応じて、[タイムゾーン]を選択します。タイム・ゾーンは、イベントの日時 ([受信時間]や[作成時間]など)を表示するためにイベント・ブラウザで使用される形式 に影響します。「イベント・ブラウザ」(30ページ)も参照してください。
- 4. [適用]をクリックして、変更内容を保存します。

第4章: ユーザ・エンゲージメント

ユーザ・エンゲージメントでは、ゲーミング・テクノロジを使用して、作業に対する関心を高め、 OMiの使用方法を学習して徐々に知識が増えていく過程で自分の業績を確認できます。

ユーザ・エンゲージメントの通常のすべての参加者(ユーザ・エンゲージメント管理権限のない OMi ユーザ)は, [ワークスペース]領域の [ユーザ エンゲージメント] ページから [タセットアッ プ], [エキスパート スコアリング], [業績] ページにアクセスできます。

アクセス方法

▲ ユーザ・メニューの [ユーザ エンゲージメント] をクリックします。

詳細

本項の内容

- 「エキスパート」(17ページ)
- 「業績」(18ページ)
- 「タイムライン」(19ページ)
- 「[参加者の詳細]ページ」(20ページ)
- 「プライバシーおよび通知」(20ページ)

エキスパート

アクセス方法

▲ ユーザ・メニューの [ユーザ エンゲージメント] をクリックします。

[ユーザ エンゲージメント]ページまたはユーザ・エンゲージメント・エキスパート・コンポーネ ントから [**エキスパート スコアリング**]を選択します。

現在の参加者の[プライバシー]設定ページで,エキスパート・ボードに参加することを選択してい る場合にのみ,参加者はエキスパート・ボードを表示できます。

エキスパート・ボードを使用すると、OMiのさまざまな範囲で最も経験豊富なユーザを組織内で特定し、連絡を取ることができます。ユーザ・エンゲージメントの[エキスパート]ページには、全体的

に最も経験豊富なユーザと,選択したカテゴリについて最も経験豊富なユーザが表示されます。各カ テゴリにドリルダウンして,エキスパート・ボードのすべての参加者のリストを表示できます。

• **エキスパート全体**: すべてのアクティビティで獲得したポイントの合計に基づいて,最も経験豊富なユーザが表示されます。

アクティビティは複数のカテゴリに含まれることがありますが、特定のアクティビティで獲得し たポイントは、エキスパート全体ボードで1回しかカウントされません。エキスパート全体の上 位3名が表示され、現在のユーザのランクがリストに追加されます。ユーザが上位5名に入って いる場合、上位5名のすべての参加者がリストに表示されます。エキスパート全体ボードにドリ ルダウンして、参加者と獲得ポイントの完全なリストを表示できます。参加者は、電子メール・ アドレスを共有できます。これにより、ほかの参加者はエキスパートと簡単に連絡を取ることが でき、同僚間のコラボレーションが促進されます。

ユーザ・エンゲージメントおよびエキスパート・ボードに参加する方法や,電子メール・アドレスを共有する方法の詳細については,「プライバシーおよび通知」(20ページ)を参照してください。

カテゴリ・エキスパート:各カテゴリで最も経験豊富なユーザが表示されます。

各エキスパート・ボードには、各カテゴリで上位3名のエキスパートが強調表示されます。ま た、現在のユーザのランクも表示されます。ユーザが上位5名に入っている場合、上位5名のす べての参加者がリストに表示されます。各エキスパート・ボードにドリルダウンして、参加者と 獲得ポイントの完全なリストを表示できます。参加者は、電子メール・アドレスを共有できま す。これにより、ほかの参加者はさまざまなカテゴリのエキスパートと簡単に連絡を取ることが でき、同僚間のコラボレーションが促進されます。

業績

アクセス方法

👤 ユーザ・メニューの [**ユーザ エンゲージメント**] をクリックします。

[ユーザ・エンゲージメント]ダッシュボードページまたはユーザ・エンゲージメント業績コンポーネントから[業績]を選択します。

[業績]ページには,実行中のすべての業績の概要がカテゴリ別にグループ化され,表示されます。 無効な業績および一時停止した業績は,表示されません。各カテゴリには,進行状況バーが表示され ます。

割り当てられた業績により,現時点で最も関連性の高い OMi 機能を集中的に詳しく掘り下げることが できます。これは,所有者のみがアクセスできる個人用の業績リストです。ほかのユーザとは共有さ れません。また,「タイムライン」(19ページ)で完全な割り当て履歴を表示することもできます。

タイムライン

アクセス方法

ユーザ・メニューの [**ユーザ エンゲージメント**] をクリックします。

[ユーザエンゲージメント] ページまたはユーザ・エンゲージメント・セットアップ・コンポーネントから [**セットアップ**] を選択します。

[タイムライン]ページは、ユーザの業績の履歴を表示するために使用されます。タイムラインには、ユーザ・エンゲージメント参加の個人的な概要が表示され、共有されることはありません。

タイムラインには,ユーザ・エンゲージメント参加の個人的な概要が表示され,ほかのユーザと共有 されることはありません。

タイムラインは、次のビューに分かれています。

・今日

最新の業績が表示されます。

・昨日

前日の業績のサマリが表示されます。

• 先週 / 過去 7 日間

一昨日以前の7日間の業績および進行状況のサマリが表示されます。

・先月

前月の業績および進行状況のサマリが表示されます。

・今年

今年の業績および進行状況のサマリが表示されます。

• 昨年

前年の業績および進行状況のサマリが表示されます。

[参加者の詳細] ページ

アクセス方法

▲ ユーザ・メニューの [ユーザ エンゲージメント] をクリックします。

↓↓ ボタンまたはアバター画像をクリックします。

[参加者の設定]ページでは、ログイン名、アバター名、電子メール・アドレスを指定します。

このページからアバターを変更できます。

• [パスワードの変更]には, [パスワードの変更]ダイアログ・ボックスが表示されます。ユー ザ・エンゲージメントでユーザ・アカウントが作成されている場合,このダイアログ・ボックス でユーザ・アカウントのパスワードを変更できます。

[パスワードの変更] ダイアログ・ボックスは,ユーザがユーザ・エンゲージメントのスタンドアロン UI (通常,管理目的でのみ使用される) にログオンしている場合に表示されますが,OMiのライトウェイト・シングル・サインオンを使用している場合は表示されません。また,OMi UI に統合されたユーザ・エンゲージメントの場合も表示されません。変更できるのは,OMiのパスワードではなく,ユーザ・エンゲージメントのパスワードです。

- アバターのアップロード:アバター画像を変更できる[アバターのアップロード]ダイアログ・ ボックスが表示されます。匿名で参加する場合,自分自身を表す任意の画像を選択できます。
- アバターの削除:アバター画像を削除できる [確認] ダイアログ・ボックスが表示されます。これは、参加者のアバター画像がアップロードされている場合にのみ表示されます。
- ログイン:ユーザ・エンゲージメントのユーザ・インタフェースにログオンするために使用される一意のアカウント名。これは 0Mi と同じログインで、編集できません。
- アバター名:ユーザ・エンゲージメントに表示されるアバター名で,自分自身を表すために使用 されます。匿名で参加する場合,自分自身を表す任意の名前を選択できます。
- 電子メール:電子メール・アドレスは、忘れたパスワードをリセットする場合などの管理情報として役立ちます。また、表示されるように選択している場合は、エキスパート・ボードでも使用されます。

プライバシーおよび通知

アクセス方法

▲ ユーザ・メニューの [ユーザ エンゲージメント] をクリックします。

🍄 ボタンをクリックします。

どのユーザ・エンゲージメント機能も使用するかどうかは完全に任意です。この機能を使用すると、 個別に高レベルの制御を行うことができます。いつでもユーザ・エンゲージメントの業績やエキス パート・ボードに参加して、アカウントを適切に設定できます。参加しない場合や、電子メール・ア ドレスをほかの参加者に表示しない場合、[プライバシー]および[通知]ページからこれらのオプ ションを無効にできます。エキスパート・ボードの詳細については、「エキスパート」(17ページ)お よび『OMi 管理ガイド』の「ユーザ・エンゲージメント」の項を参照してください。

通知は,適切なタイミング(最初のツールの作成後など)で業績の肯定的なフィードバックを送信す るために使用されます。経験を積み,業績のレベルが上がり,次第に深く関わるようになっていく と,通知の受信頻度は減りますが,より優れた業績が表示されるようになります。

タスク

本項の内容

- 「完全なエキスパート・リストを表示する方法」(21ページ)
- 「特定のカテゴリの業績を表示する方法」(21ページ)
- 「業績を検索する方法」(21ページ)
- 「アバターをアップロードする方法」(22ページ)
- 「パスワードを変更する方法」(22ページ)

完全なエキスパート・リストを表示する方法

エキスパートの完全なリスト(全体または特定のカテゴリ)を表示するには,関心のあるカテゴリに 関連付けられている[**詳細**]リンクをクリックします。

エキスパートの完全なリストは,ポップアップ・ウィンドウに表示されます。このリストには,個々のスコアや電子メール・アドレス(利用可能な場合)が表示されます。

特定のカテゴリの業績を表示する方法

特定のカテゴリの実行中の業績をすべて表示するには、利用可能なすべての業績を表示するカテゴリのタイトルをクリックします。

そのカテゴリに関連付けられている現在アクティブな業績(完了した業績も含まれる)がドロップダウン・ボックスに表示されます。

業績を検索する方法

業績を検索するには,業績のタイトルに含まれるテキスト文字列を [検索] フィールドに入力します。

[検索]フィールドによって業績がフィルタされ,指定した文字列を含む業績のみが表示されます。 フィルタをクリアするには, * をクリックします。

指定した文字列を含むすべての業績が検索されます。カテゴリを選択した場合、フィルタされた業績 が表示されます。

アバターをアップロードする方法

- 1. [**アバターのアップロード**] をクリックします。
- 2. アップロードするアバター・ファイルの場所を参照し,ファイルを選択します。最適な画像サ イズは 150 x 150 ピクセルです。

パスワードを変更する方法

[パスワードの変更] ダイアログ・ボックスは,ユーザがユーザ・エンゲージメントにログオンして いる場合に表示されますが,OMiのライトウェイト・シングル・サインオンを使用している場合は表 示されません。また,OMi UI に統合されたユーザ・エンゲージメントの場合も表示されません。変更 できるのは,OMi のパスワードではなく,ユーザ・エンゲージメントのパスワードです。

- 1. [パスワードの変更]をクリックします。
- 2. 既存のパスワードを入力します。
- 3. 新しいパスワードを入力して確認します。

第5章:イベント

イベントは,管理対象環境での重要な発生イベントを報告し,ソース・マネージャによって生成され ます。これらのイベントは 0Mi に転送され,解決するためにオペレータに割り当てられます。

詳細

本項の内容

- 「イベント・ソース」(23ページ)
- 「イベントの同期」(24ページ)
- 「通知」(24ページ)

イベント・ソース

次のようなさまざまなソースが発生元となるイベントを処理できます。

- HP ソフトウェア・アプリケーション:
 - HP Operations Manager for UNIX (HPOM for UNIX)
 - HP Operations Manager for Windows (HPOM for Windows)
 - HP Network Node Manager i (NNMi)
 - HP SiteScope
 - HP Systems Insight Manager
- 通常, ほかのソリューション・コンポーネントで監視されない, 特定の環境または特定のニーズ の監視に使用される, 次のようなサードパーティ製の管理ソフトウェア:
 - Microsoft Systems Center Operations Manager, Active Directory, Exchange
 - BlackBerry Enterprise Server
 - SAP

CI ステータス警告,イベント・ベースの警告などの警告からも,OMi にイベントを生成できます。

イベントの同期

イベント同期では、OMiや HPOM などのマネージャ間で、双方向の通信が可能になります。イベント への更新および変更を交換できます。たとえば、イベントの所有者の変更または重要度ステータスへ の変更がサーバ間で同期されます。HPOM サーバから転送されるイベントはすべて、読み取りと書き 込みが許可されるものとして扱われます。イベントに対して変更が加えられると、転送元の HPOM サーバに対する逆同期が実行されます。

イベントの終了,削除,アーカイブ

イベントの終了,削除,アーカイブに, opr-close-events ツールおよび opr-archive-events ツー ルを使用した場合, HPOM イベントは更新されません。HPOM のイベントは影響を受けません。

同様に, OMi でのイベントの終了, 削除, アーカイブに, omwmsgutil ツール (HPOM for Windows), opcack および opchistdown ツール (HPOM for UNIX または Linux)を使用した場合に も, HPOM のイベントは影響を受けません。

これらすべてのツールはそれぞれのデータベースに直接作用し、変更がワークフロー・プロセス を経ることがないため、結果として OMi および HPOM 間で同期されません。

これらのツールを使用してあるシステム(OMiなど)のイベントを終了,削除,アーカイブした 場合は,適切なツールを使用して同一の変更をその他のシステム(HPOM など)でも行う必要が あります。

通知

通知は,事前定義した特徴のイベントを受信したときに OMi で送信できる,電子メール, SMS,ページャのメッセージです。

たとえば,ビジネスに関係するサービスで一番緊急度の高いイベントを週末の任意のときに OMi で受信した場合は,電子メール,SMS,ページャのメッセージ,またはこれらの任意の組み合わで,サービスを担当するエンジニアに直ちに通知されるよう設定します。

イベントの優先度

イベントの優先度は,ビジネス・モデルおよびイベントの重要度から自動的に計算されます。イベントの優先度には,最低,低,中,高,最高の値のいずれかが割り当てられます。

詳細

イベントの優先度の計算

イベントの優先度の計算は,新しいイベントのイベント・パイプラインで実行されます。また,多数 のイベントのコンソール・ショートカット・メニューから手動で開始することも可能です。 計算は次の入力パラメータを使用して行われます。

- イベントの重要度
- 関連 CI (存在する場合)のビジネス上の緊急度

注: 選択したイベントに関連 CI がない場合,優先度は なし です。

ビジネス影響度は Business Impact Service (BIS)によって提供され,重要度はイベントの属性です。

影響		イベント重大度				
	不明	正常域	注意域	警戒域	重要警戒域	危険域
影響なし	最低	最低	低	低	中	中
低	最低	最低	低	低	中	中
中低	低	低	低	中	中	高
中	中	低	中	中	高	高
中高	高	中	中	高	高	最高
高	最高	中	高	高	最高	最高

優先度の計算には、次の表の関係が使用されます。

イベント転送の計算された優先度

計算された優先度は,イベントの転送時に受信アプリケーションに転送されます。イベントと関連する CI が受信アプリケーションで設定される場合,各受信アプリケーションによってイベントの優先度が再計算されます。イベントと関連する CI が受信アプリケーションで設定されない場合,転送されたイベントのイベント優先度が使用されます。

タスク

本項の内容

- 「優先度を手動で設定する方法」(26ページ)
- 「イベント優先度の再計算方法」(26ページ)

優先度を手動で設定する方法

このタスクでは,自動的に割り当てられたイベントの優先度を,手動で変更する方法について説明し ます。

1. イベント・ブラウザを開き, 既知のイベント一覧を開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

- 2. イベント・ブラウザで,優先度の値を変更するイベントを選択します。
- 3. [イベント詳細]ペインを開きます。
- 4. [優先度] 一覧から優先度を選択します。
- 5. [間保存]をクリックします。

イベント優先度の再計算方法

このタスクでは、イベント・ブラウザで選択したイベントの優先度を手動で再計算する方法について 説明します。これは、ビジネス上の緊急度の値が基礎となるビジネス・モデルで変更されて、これら の変更をアクティブなイベントに反映する場合に必要となります。

1. イベント・ブラウザを開き, 既知のイベントー覧を開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

- 2. イベント・ブラウザで,優先度を再計算するイベントを選択します。
- 3. これらのイベントの1つを右クリックして、ショートカット・メニューから [再計算の優先 度]を選択します。

選択したイベントの優先度の値が更新されます。

イベント相関処理

イベント相関処理は、問題の真の要因を自動的に特定、表示するために使用します。Top Level Items フィルタを使用して、要因イベントの症状のみであるイベントを除外すると、解決の必要がある実際 の問題の概要を明確にすることができます。イベント相関処理では、相関処理ルール間、イベントに 関連付けられている EIT と ETI 値間, CI およびこれらの CI 間の関係を定義します。

トポロジベースのイベントの相関処理プロセスが実行する内容は次のとおりです。

- 相関処理されているイベント間に関係が存在しているかどうかを確認する。
- 相関処理されているイベントに割り当てられた CI および ETI 値を監視する。
- イベントが関連付けられる CI のトポロジ・データベースに関係があるかどうかを確認することにより、2つのイベント間の関係を特定する。

イベント・ブラウザのC列には、相関処理プロセスの結果がアイコンで表示されます。

🏪 - このイベントは別のイベントの要因である

🏪 - このイベントは,あるイベントの要因であり,別のイベントの症状である

¼ - このイベントは,別のイベントの症状である

注: 相関処理ルール・マネージャを開く権限がない場合があります。ユーザ認証の詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。

選択したイベントとの相関処理の結果,関連付けられたイベントは[関連イベント]タブに表示され ます。選択したイベントは症状イベントである場合もあり,その要因を[関連イベント]タブで確認 できます。

従来より良い相関処理が得られ,その新しい相関処理の相関処理ルールの方が既存の相関処理を生成 したルールより重み付けが高い場合,既存の相関処理は新しい相関処理に置き換えられます。

起こりうる相関処理の結果は記録され、[関連イベント]タブの[考えられる原因]サブタブに表示 されます。このタブには、考えられる原因となるイベントが、その相関処理を生成した相関処理ルー ルへの参照とともに表示されます。ルールの重み要素、イベントが受信された時刻などの追加情報も 表示されます。オペレータは、症状イベントの原因として考えられる原因をすべて調べ、マッチする 相関処理ルールの理解を深めることができます。オペレータに適切な権限が与えられている場合は、 問題を調査する際、そのイベントの原因を利用可能な他の原因に手動で変更できます。

相関処理済みのイベント,関連イベント,考えられる原因の詳細については,「関連イベント」(79 ページ)を参照してください。

イベント・ブラウザのアイコンの詳細については, 「イベント・ブラウザ」(30ページ)を参照してく ださい。相関処理ルールの設定の詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。

イベント履歴

イベント履歴とは、OMiのイベントの値を変更した、ユーザまたはコンポーネントの情報が記載され たログです。この機能によりオペレータは、重要度の遷移の順序など、イベントの存続期間における イベント属性値の遷移の過程を確認できます。イベントの履歴情報はイベント詳細ペイン内の別のタ ブに表示され、そのイベントにアクセス可能なユーザが表示できます。

詳細

本項の内容

- 「イベント履歴の作成」(28ページ)
- 「イベント履歴の特徴」(28ページ)

イベント履歴の作成

イベント履歴は次のときに作成されます。

- ユーザがイベント・ブラウザを使用してイベントの属性を変更したとき。
- 外部ユーザまたはアプリケーションによって、上位システムとのインタフェースを使用してイベントの属性が変更されたとき。
- HPOM または別の OMi インスタンスによって、OMi の属性の変更の同期が取られたとき。
- 重複抑制によって既存のイベントが変更されたとき。
- 関連イベントが自動終了したとき。
- コントロールが移行, キャンセル, 戻されたとき。
- サーバがイベント転送リストに追加されたとき。

イベント履歴は次のときには作成されません。

- (CI 解決, ETI 解決などの)パイプライン手順でまだ処理中であるために, 受信済みとマークされ ていないイベントがパイプラインで変更されたとき。
- opr-close-events.bat ツールでイベントが変更されたとき。

イベント履歴の特徴

イベント履歴情報の主な技術的特徴の概要は次のとおりです。

- ユーザは既存の履歴情報を変更できない。
- イベントを終了,削除,アーカイブすると,履歴は削除されるが, opr-archive-events ツールに よって生成される XML 出力の一部には履歴が含まれる。
- イベントあたりの履歴エントリ数に制限はない。

履歴は、イベントの次の1つ以上のプロパティが変更されると作成されます。

OMi ユーザ・ガイド 第5章: イベント

- 要因(要因と症状の関係)
- 重複数(オペレーション管理インフラストラクチャ設定の[重複イベント抑制設定] > [重複イ ベント抑制の履歴ラインの生成]で有効または無効にできる)
- 相関処理ルール
- 説明
- 重要度
- HPOM ユーザ
- 割り当てられたグループ
- カスタム属性
- 受信時間
- タイトル
- ライフサイクル状態
- 優先度
- 割り当てられたユーザ

また、イベント履歴ではイベントの注釈への変更も変更として追跡されます。

タスク

関連タスク

• 「クローズしたイベントの表示」(61ページ)

第6章: イベント・ブラウザ

イベント・ブラウザには,監視している IT 環境に存在するアクティブなイベントの概要が表示され ます。次のような詳細が含まれます。

- イベントの発生日時。
- イベントが発生したホスト・システム(ノード)。
- イベントの発生元のアプリケーション。
- イベントの重要度。
- イベントの発生原因の問題解決を担当するユーザが存在する場合は、そのユーザ。

標準設定では、イベントの全体の情報の一部のみが表示されます。

イベント・ブラウザのすべてのレイアウト変更は,変更を行ったたユーザのアカウントに自動保存されます。次回のイベント・ブラウザへのログイン時には,行った設定どおりの最新のイベント一覧が表示されます。たとえば,再ログインすると,前回選択したビューと,[イベントブラウザ]タブが選択された状態で開かれます。

イベント・ブラウザでイベントを選択すると, [詳細] ペインが非表示になっていないかぎり (ボタンを使用して [詳細] ペインをトグルする), イベントのプロパティが [詳細] ペインに表示さ れます。 [詳細] ペインには, 選択したイベントの一側面 (イベント・プロパティ, 注釈, カスタム 属性, 命令テキスト, 優先度など)を表示, 変更するタブが用意されています。

アクセス方法

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

詳細

本項の内容

- 「イベントに割り当てられた重要度」(31ページ)
- 「フィルタ」(31ページ)
- 「ライフサイクル管理」(31ページ)
- 「日付形式」(32ページ)

イベントに割り当てられた重要度

各イベントに重大度を割り当て,根本的な問題の重要度を示すことができます。値は次のとおりで す。危険域,重要警戒域,警戒域,注意域,正常域,不明です。イベント・ブラウザではアイコンを 使用してイベントの重大度を示します。

注: イベント・ブラウザの下部にある項目バーは,アクティブなイベント数を重要度別に示します。アクティブ・イベントとは,未解決で対応中のイベントのことを指します。

フィルタ

イベントによるフィルタリング:イベント・ブラウザの内容をフィルタリングすると,最も重要な情報に重点的に取り組むことができます。たとえば,重要度,割り当てられたユーザ,イベント・カテゴリ,またはライフサイクル状態で,イベントをフィルタして表示することができます。フィルタ選択フィールドには,アクティブなイベント・フィルタが表示されます。

新しいフィルタを設定したり,既存のフィルタを変更することにより,表示情報を変更したり,増や したり,減らすことができます。詳細については,「イベント・フィルタ」(89ページ)を参照してく ださい。

注: イベント・ブラウザでは,未解決のイベントとクローズしたイベントを同時に表示すること はできません。閉じられたイベントの表示方法については,「クローズしたイベントの表示」 (61ページ)を参照してください。

ビューまたは CI によるフィルタリング: CI ツリーで構成アイテムを1つ選択すると, OMi によりイ ベント・ブラウザにフィルタが自動適用され,選択した構成アイテムに関連するイベントのみが表示 されるようになります。アクティブなビューまたは構成アイテム・フィルタは, ([ビュー/CI]) フィルタ ^{TV} ボタンを使用して有効にされるフィルター覧に示されます。詳細については, 「ビュー およびビューに基づく承認によるフィルタリング」(50ページ)を参照してください。

ライフサイクル管理

注: クローズ済み状態のイベントは、注釈とカスタム属性の追加を除き編集できません。解決済 みのイベントを編集するには、そのイベントをもう一度未解決にする必要があります。

イベント・ブラウザでは,定義済みのライフサイクルにおけるイベントの状態を表示および追跡でき ます。ライフサイクルとは,イベントの存続期間全体を包含する,事前定義された一連の状態です。 ライフスタイル状態は次のとおりです。

• 未解決:イベントには,問題の要因の調査が必要であると指定がされています。イベントはまだ ユーザに割り当てられていないか,割り当てられてはいる場合でもまだ対応されていません。

- 実行中:イベントを割り当てられたユーザが,根本的な問題の調査を開始しました。[ユーザ] 列には,割り当てられたユーザの名前が表示されます。
- 解決済み:選択したイベントの根本的な問題の調査で、問題が判明し解決されました。
- クローズ済み:イベントは、イベント・ブラウザのアクティブ・イベント・リストから削除されます。

注: ライフサイクル状態とユーザに付与されている権限はリンクしています。たとえば、イベントが割り当てられたユーザは、割り当てられたイベントの状態を未解決から実行中や解決済みには変更できますが、クローズ済みには変更できません。より上位の権限を持つユーザのみがほかのユーザにイベントを割り当てたり、イベントのライフサイクル状態を解決済みからクローズ済みに変更できます。

イベントのライフサイクル状態には順番がありますが、状態は任意のときに設定できます。たとえ ば、ほかのユーザにイベントを割り当てたり、イベントの状態をクローズ済みから実行中に変更して 調査を再開したりできます。

注: イベントのライフサイクル状態は、イベントを選択し、適切なボタン([未解決] ↓または [作業] [▲]ボタンなど)を選択して、変更できます。

日付形式

イベント・ブラウザに表示される日付形式は,Web ブラウザの言語設定に対応します。たとえば, ブラウザが en-IN(英語(インド))に設定されていると,インドの日 / 月 / 年形式を使用して日付 が表示されます(17/7/13 など)。

現在、次の日付形式がサポートされています。

de : ドイツ語

en:英語

- en-GB:英語(英国)
- en-IN:英語(インド)
- en-US:英語(米国)
- en-CA:英語(カナダ)
- es:スペイン語
- fr:フランス語
- ja : 日本語

OMi ユーザ・ガイド 第6章: イベント・ブラウザ

ko:韓国語

ru: ロシア語

zh-CN:中国語(中国)

zh-HK:繁体字中国語(香港)

zh-SG: 簡体字中国語(シンガポール)

優先言語の指定がない場合は, en-US が使用されます。

注: ドイツ語やフランス語など,特定の地域オプションなしでサポートされる基本言語では, Web ブラウザで地域設定を選択しても,日付形式は常に基本言語から取得されます。

たとえば、Web ブラウザの地域設定でfr-BE を選択すると、日付形式はfr 設定から取得されます。

UI 参照

本項の内容

- 「イベント・ブラウザのアイコン, ボタン, ショートカット・メニュー」(33ページ)
- 「イベント・ブラウザのラベル」(41ページ)
- 「クローズしたイベント・ブラウザ」(46ページ)

イベント・ブラウザのアイコン、ボタン、ショートカット・メニュー

ショートカット・メニューに表示される一部のオプションとツールは、そのツールの起動権限を持つ ユーザとしてログオンしていないと起動できません。

特定の操作(たとえば[**作業**]または[**閉じる**])を実行する権限や,特定のアクション(たとえば [自動アクション]や[オペレータ アクション])を実行する権限がユーザにない場合,イベン ト・ブラウザ内のショートカット・メニュー項目は無効になるか,完全に削除されます。

選択した CI に使用できるメトリック・データが存在しない場合,パフォーマンス・グラフのショー トカット・メニュー項目は完全に削除されます。これは,CIの [モニタ元] 属性の値と,パフォーマ ンス・グラフのインフラストラクチャ設定 [ショートカット メニューの確認] によって決まりま す。

UI 要素	説明
G	再度開く: 選択したイベントのライフサイクル・ステータスを未解決に設定す る。これによって、イベントを調査、解決のためにユーザに割り当てることが 可能になる。
<i>K</i> e	作業 : 選択したイベントのライフサイクル・ステータスを進行中に設定する。 このステータスは,イベントの根本的な問題が調査中であることを示す。
-	解決 : 選択したイベントのライフサイクル・ステータスを解決済みに設定す る。
R	閉じる:選択したイベントのライフサイクル・ステータスを終了に設定する。
	割り当て先 : 特定のユーザまたはユーザ・グループに選択したイベントを割り 当てる [イベント割り当て] ダイアログ・ボックスを開く。
2.	 イベントを関連付け:1つのイベントを要因イベントに割り当てることにより、選択したイベントどうしを手動で関連付けるための[イベントを関連付け]ダイアログ・ボックスを開く。その他のすべてのイベントは症状イベントになる。 手動で関連付けたイベントは、相関処理ルールを自動生成するベースとすることもできる。詳細については、「手動でのイベントの関連付け」(52ページ)と「手動で関連付けたイベントからの相関処理ルールの作成」(53ページ)を参照。
2.	 私に割り当てられたイベントを表示:イベント・ブラウザで,現在のユーザに割り当てられているすべてのイベントを表示します。適用されていたフィルタとビューは非アクティブになります。選択するたびに,現在のユーザに割り当てられたイベントの表示と,最後に選択されたフィルタとビューによってフィルタされたイベントの表示が切り替わります。 [私に割り当てられたイベントを表示]を選択した場合,選択したモードが確認のため情報バーに表示されます。
8	ブラウザ オプション : 現在の [イベント ブラウザ] タブから [ブラウザ オプ ション] ダイアログ・ボックスを開く。表示オプションを変更および設定でき ます(たとえば,カラムの非表示や表示,データの表示順序の変更,イベント 受信時のサウンドの再生など)。
6	イベント・リストのエクスポート : 現在のイベント・ブラウザの[イベント リ ストのエクスポート]ダイアログ・ボックスを開く。このボックスでは,外部 ファイルにエクスポートするイベントの属性を指定できる。

UI 要素	説明
∮i	イベント詳細ペインを表示/イベント詳細ペインを非表示: [イベント ブラウ ザ] ビューで [イベント詳細] ペインの表示,非表示を切り替える。ショート カット・メニュー項目の [表示] > [イベント詳細] を使用するか,またはイベ ントのダブルクリックにより,イベントのイベント詳細をポップアップ・ウィ ンドウで開くことも可能。
C	更新 : ユーザ・インタフェースに表示されたイベント・データを,サーバ上の データベースの最新情報と同期し,強制的に完全に更新する。 自動更新間隔の設定の詳細については,OMi 管理ガイドを参照。
N	クローズしたイベントを表示/クローズしたイベントを非表示:終了したイベントを [終了したイベント] ブラウザに表示する期間を指定するのに使用する [閉じられたイベントのブラウザ設定] ウィンドウを表示する。 [OK] を選択 すると,現在のイベントの関連 CI の終了イベントが選択した期間分表示され る。
	[クローズしたイベントを非表示] 🌄 ボタンをクリックすると,イベント・ブ ラウザに戻ることが可能。
	[クローズしたイベントを表示]を選択した場合,選択したモードおよび,表 示中の終了したイベントの開始時刻と終了時刻, [クローズしたイベント]リ ストの作成時刻が確認のため情報バーに表示されます。
<フィルタなし>	利用可能なビューの1つを選択するためのビュー・セレクタを開く。適切な権 限を持っている場合, [<フィルタなし>]を選択して,選択したビューの選択 を解除できます。
	ユーザとグループを設定し,それらに関連するビューでフィルタされたイベン トのみを見られるようにもできます。ユーザやグループで選択されたビューを 解除し,イベントすべてを表示することもできます。
	イベント・ブラウザを最初ロードしたとき,ビューは選択されていません。選 択されたビューは,イベント・ブラウザのインスタンスが再び開かれるときに 復元されます。
	5 つの最新の選択項目が,リストの最上部に表示されます。
	注: 事前に選択したビューに関連付けられているイベントのみが表示され るように,ロックされた [Event Browser] ページではイベント・ブラウザ のビュー・セレクタが無効になっています。
	ヒント: [イベントの検索] 機能と組み合わせることができます。

UI 要素	説明
…ビューの参照	適用するビューを選択するための[ビューの参照]ダイアログ・ボックスを開 く。イベント・ブラウザに表示される内容は,ビューで選択した CI に限定され ます。
	適切な権限を持っている場合,ビュー・フィルタをクリアすることもできま す。この権限のないユーザは,選択したビューに表示されている CI に関連した イベントのみを見ることができます。詳細については,OMi 管理ガイドを参照 してください。
	注: ビューをクリアする権限を持っていない場合に,イベント・ブラウザ を開こうとすると,[ビューの選択]メッセージが表示されて,[クロー ズしたイベント ブラウザ]ボタンも無効になります。
	ビュー・ドロップダウン・リストからビューを選択した場合(または, ビュー・エクスプローラなどから,ビュー選択が外部的にトリガされた場 合),イベント・ブラウザが表示され,[クローズしたイベント ブラウ ザ]ボタンが有効になります。
	注: ロックされたイベント・ブラウザのページでは [ビューの参照] ボタ ンが無効になるため,事前に選択したビューに関連付けられているイベン トのみが表示されます。
	[ビューの参照]ダイアログ・ボックスから[モデリング スタジオ]を開くこ とができ,そこからビューを管理できます。
	ビューの詳細については, 「ビュー」(218ページ)を参照してください。
<イベント・ フィルタを選択 >	利用可能なイベント・フィルタの1つを選択するためのイベント・フィルタ・ セレクタを開く。選択したフィルタの選択を解除するには, [<フィルタなし >] を選択します。
	5 つの最新の選択項目が、リストの最上部に表示されます。
	ヒント: [イベントの検索] 機能と組み合わせることができます。
UI 要素	説明
-------------------------------	---
…イベント フィ ルタの管理	適用するイベント・フィルタを選択する[イベント フィルタの選択]ダイアロ グ・ボックスを開く。
	[イベント フィルタの選択] ダイアログ・ボックスから [イベント フィルタの 新規作成] ダイアログ・ボックスをさらに開くと,イベント・フィルタの作 成,既存のイベント・フィルタの編集または削除ができる。
	イベント・フィルタの詳細については, 「イベント・フィルタ」(89ページ)を 参照。
<イベントの検 索>	イベント・ブラウザに表示されているテキストから入力したテキスト文字列を 検索し,指定の文字列を含むイベントのみを表示する。このフィールドをクリ アするとすべてのイベントが再度表示される。
	CI が基準のフィルタも実行する場合は,別の CI を選択すると検索フィールドが クリアされます。
注釈の追加	選択したすべてのイベントに対して[注釈の新規作成]ダイアログ・ボックス を開く。注釈は,保存時に選択したすべてのイベントに関連付けられます。
状況インジケー タを終了して再 設定	まだ終了していない選択したイベントのすべての症状イベントで,選択したイ ベントのライフサイクル・ステータスを解決に設定し,関連付けられている HI 値を選択したイベントの標準設定値に再設定します。
[設定]>[イ ベント タイプ インジケータ]	インジケータ・マネージャを新しいウィンドウで開く。インジケータ・マネー ジャおよびその他の管理機能にアクセスするには,適切な権限が必要。
[設定] > [統 合ポリシー]	ポリシー管理の UI を新しいウィンドウで開きます。
[設定] > [パ フォーマンス グ ラフ]	存在する場合は,[グラフのデザイン]ウィザードを新しいウィンドウに表示 します。このウィザードでは,後でテンプレートとして使用できるよう,グラ フを設計して,その属性を指定して保存することが可能。
[設定] > [ツール]	ツール・マネージャを新しいウィンドウで開く。ツール・マネージャおよびそ の他の管理機能にアクセスするには,適切な権限が必要。
[設定] > [ビュー マッピ ング]	ビュー・マッピング・マネージャを新しいウィンドウで開く。管理機能にアク セスするには適切な権限が必要。
項目	重要度,個々のユーザ,個々のユーザ・グループへの割り当てごとのイベント 数を示す。有効な重要度は,危険域,重要警戒域,警戒域,注意域,正常域,

UI 要素	説明
	不明。
	フィルタ前の発生イベントの総数として表示されるイベント数が,選択したイ ベントの数を括弧で囲んで一緒に表示されます。たとえば,「40の25(3)」 は,現在のユーザが処理可能なイベントが40件存在し,そのうちの25件がイ ベント・ブラウザに表示される(15件はフィルタによって削除された)ことを 意味します。イベント・ブラウザでは3つのイベントが選択されます。
	次のアイコンはイベントのステータスを示す。
	😣 - 危険域
	▼ - 重要警戒域
	<u>▲</u> - 警戒域
	🛆 - 注意域
	🛇 - 正常域
	② - 不明
	注: また,イベントの重大度を表す背景色をイベントに適用するようにイ ベント・ブラウザを設定できます。詳細については,「イベント・ブラウ ザの設定」(48ページ)を参照してください。
	通常, これはたとえば HPOM から受信した元のイベントの重要度のステータス と同一。
	重要度アイコンを選択すると, ほかのすべてのイベントがフィルタによって除 去され, 選択した重要度のイベントのみが表示されます。フィルタは, アイコ ンをもう一度クリックしてクリアします。
	次のアイコンはイベントの割り当てステータスを示す。
	🔒 - イベントはログオン・ユーザに割り当てられている
	♪ - イベントはログオン・ユーザが属しているグループの1つに割り当てられている
	都 - イベントはほかのユーザに割り当てられている
	🔐 - イベントの割り当て先は不明
	アクティブなフィルタで選択した設定によっては,フィルタで除外されるなど の理由で,一部の項目値が0で表示されます。

UI 要素	説明
[起動] > [カ スタム アクショ ン]	選択したイベントに関連付けられている CI タイプに設定されているカスタム・ アクション一覧から,選択可能なカスタム・アクション・メニューを開く。
[起動] > [ラ ン ブック]	選択したイベントに関連付けられている CI タイプに設定されているラン・ブッ ク一覧から,選択可能なラン・ブック・メニューを開く。
[起動] > [ツール]	選択したイベントに関連付けられている CI タイプに設定されているツール一覧 から,選択可能な [ツール] メニューを開きます。
再計算の優先度	イベント・ブラウザで選択したイベントの優先度を手動で再計算する。
	イベント・ブラウザ内のイベントと関連する1つ以上のCIのビジネスの緊急度 が変更された場合は,再計算によりこれらのイベントに新しい優先度の値が割 り当てられます。
すべて選択	イベント・ブラウザに表示されているすべてのイベントを選択する。
	注: Ctrl+C のキーの組み合わせを使用して,選択したイベントの詳細をク リップボードにコピーできます。Ctrl+V を使用して,ターゲットの場所に 貼り付けます。イベント・ブラウザで利用可能な情報は,表示されている 順序にコピーされます。必要な情報が欠落している場合,関連するカラム がイベント・ブラウザに表示されるように設定されていることを確認して ください。
[表示] > [ア プリケーション サマリ レポー ト]	存在する場合は, BPM によって作成された選択イベントのアプリケーション・ サマリ・レポートが表示されます。
[表示] > [BPM パフォーマンス アナリシス レ ポート]	存在する場合は,BPM によって作成された選択イベントの BPM パフォーマン ス・アナリシス・レポートが表示されます。
[表示] > [BPM 選別レポート]	存在する場合は,BPM によって作成された選択イベントの BPM 選別レポートが 表示されます。
[表示] > [関 連 CI に対するビ ジネス サービス の影響]	選択したイベントに関連付けられている CI のビジネス・サービスに対する影響 を,新しいウィンドウに表示する。

UI 要素	説明
[表示] > [関 連 CI に対する変 更]	選択したイベントに関連した CI に対する最新の変更に関する情報を表示しま す。
	選択した CI との間で影響関係を持つ子 CI のデータも表示できます。 [子の CI のデータを表示する] チェック・ボックスをクリアすると,選択した CI のデー タのみが表示されます。
	標準設定では,過去1週間の実際の変更とインシデントが表示されます。変更 の要求を示す領域には,前の週に計画されていた変更点と,次の週に計画され ている変更点が表示されます。
[表示] > [ク ローズしたイベ	選択したイベントに関連する CI に関連付けられている終了済みのイベントを示 したクローズしたイベント・ブラウザを表示する。
ント(関連 CI)]	[クローズしたイベントを非表示] ^[2] ボタンをクリックすると,イベント・ブ ラウザに戻ることが可能。
[表示] > [イ ベント詳細]	ポップアップ・ウィンドウにイベントの詳細を開き,イベントに関して有効な すべての情報を表示する。
[表示] > [ソース マネー ジャのイベン ト]	BSM Connector を使用して,接続されたソース・マネージャ・ユーザ・インタ フェースでイベントを開く。
[表示] > [外 部の詳細]	イベントの管理を担う外部アプリケーションでイベントを開く。
[表示] > [フィルタされ たブラウザ (ノード)]	選択したイベントに関連するノード CI のイベントのみを表示する。
[表示] > [フィルタされ たブラウザ (関 連 CI)]	選択した構成アイテムのみに関連するイベントを表示する。
[表示] > [パ フォーマンス グ ラフ(Cl)]	存在する場合は,選択した Cl のパフォーマンス・グラフを新しいウィンドウに 表示します。

UI 要素	説明
[表示] > [パ フォーマンス グ ラフ(隣接)]	存在する場合は,選択した Cl および隣接 Cl のパフォーマンス・グラフを新しい ウィンドウに表示します。
[表示] > [RUM イベント サマリ レポー ト]	存在する場合は,RUM によって作成された選択イベントの RUM イベント・サ マリ・レポートが表示されます。
[表示] > [RUM パフォー マンス アナリシ ス レポート]	存在する場合は,RUM によって作成された選択イベントの RUM パフォーマン ス・アナリシス・レポートが表示されます。
[表示] > [RUM 選別レ ポート]	存在する場合は,RUM によって作成された選択イベントの RUM 選別レポーが 表示されます。
[表示] > [ソース マネー ジャのポリ シー]	ポリシー管理 BSM Connector ユーザ・インタフェースでイベントを開く。
[表示] > [関 連イベント]	[イベント詳細] ダイアログ・ボックスで,選択したイベントとほかのイベン トの関係を示す [関連イベント] タブを開く。表示される情報は,イベント詳 細ペインと同一。
コントロールを 次に移す	選択したイベントを設定した外部マネージャ・アプリケーションに移す。オペ レータが問題を解決できず,サービス・マネージャ・インシデントを作成する などして問題をエスカレーションする必要がある場合に使用します。転送情報 としてインシデント ID を OMi に返すよう,外部マネージャを設定することが可 能。

イベント・ブラウザのラベル

次の表に, [イベント ブラウザ] ペインに含まれるカラムを示します。カラム・コンテンツの簡単 な説明については, ツールチップを確認してください。

UI 要素	説明
A	自動アクション : 次のアイコンで,イベント上の自動アクションの有無とそのス テータスが示されます。
	虊 - イベントに未実行の自動アクションがある
	🍀 - 自動アクションは実行中
	🍀 - 自動アクションは正常に実行された
	🍀 - 自動アクションは正常に実行されなかった
C	相関処理: 相関処理の結果,非表示になっている関連イベントがイベントにあるか どうかを示します。次のアイコンはイベントの連鎖におけるイベントの位置を示し ます。
	🏪 - イベントは相関処理で要因である
	🏪 - イベントはある相関処理では要因であり,ほかの相関処理では症状である
	┗ - イベントは相関処理で症状である
	相関処理済みのイベントの詳細については, 「関連イベント」(79ページ)を参照して ください。
D	重複数: 存在する重複イベント数(2,3など)を示します。
I	命令: イベントに命令が含まれているかどうかを示します。
	命令はイベントを生成するポリシーで設定され,自動アクションおよびオペレータ が開始するアクションの詳細や,問題を解決するために実行する手作業による手順 などが含まれることがあります。
N	注釈 : イベントに注釈が含まれているかどうかを示します。注釈とは,関連(また は類似)イベントに関係するコメントまたは所見である。注釈の有無は次のアイコ ンによって示される。
	🖬 - イベントに注釈がある
	注釈の詳細については, 「注釈」(74ページ)を参照してください。
0	HPOM で所有される:イベントが HPOM のユーザによって所有されているかどうかを 示します(Y)。HPOM のユーザがイベントを所有している場合, [ユーザ] フィー ルド([イベント ブラウザ] および[一般] タブ)に表示されるユーザ名は,たと えば「OM:データベース・オペレータ」のように OM: で始まります。
R	ダウンタイムで受信済み: CI がダウンタイムのとき(スケジュールされた使用不可 期間)に CI から受信したイベント。

UI 要素	説明
т	移転されたコントロール : 関連付けられたイベントの担当が外部マネージャに転送 されたかどうかを示します。
U	ユーザ・アクション : 次のアイコンで,イベント上のユーザ・アクションの有無と そのステータスが示されます。
	🏝 - イベントに未実行のユーザ・アクションがある
	🇞 - ユーザ・アクションが実行中である
	& - ユーザ・アクションは正常に実行された
	🇞 - ユーザ・アクションは正常に実行されなかった
アプリケー ション	アプリケーション : イベントの発生の要因のアプリケーション。
カテゴリ	カテゴリ : イ ベントが属している論理グループの名前(データベース,セキュリ ティ,ネットワークなど)。イベント・カテゴリは,概念的には HPOM のメッセー ジ・グループに似ている。
ロヒント	CI ヒント : HPOM イベントのサービス名などの,関連 CI の解決に役立つ情報。
CI タイプ	CI タイプ: イベントに関連付けられている構成アイテム・タイプ。
会社	会社: [利用可能なカスタム属性] インフラストラクチャ設定([管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定] > [アプリケーション] > [オペレーション管理 - カスタム属性設定]) で設定される標準設定のカスタム属性。 詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。
שו אב	コア ID : イベントが発生したホスト・システム。
カスタマ	カスタマ: [利用可能なカスタム属性] インフラストラクチャ設定([管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定] > [アプリケーション] > [オペレーション管理 - カスタム属性設定]) で設定される標準設定のカスタム 属性。詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。
説明	説明: イベントの元のタイトルや,イベント・ソースから取得したテキストに追加 される,元のイベントに関するオプション情報。

UI 要素	説明
ETI	イベント・タイプ・インジケータ : 選択したイベントおよび現在の値によって報告 されるイベント・タイプ・インジケータ (ETI)の表示名 (Web アプリケーションの 状態 : 低) 。
	WebAppState はイベント・タイプ・インジケータの名前。対応ラベルは[Web アプ リケーションの状態]であり,[一般]タブに表示されます。現在の ETI 値のレベ ルは,[低]です。
	イベント・タイプ・インジケータの割り当てがあるが([ソース情報]タブを参 照)未解決の場合([一般]タブの[イベント タイプ インジケータ]フィールドが 空である)は,設定を修正する必要があります。
イベント寿 命	イベント寿命: イベントが作成されてからの経過時間を表示します。イベント寿命 は、イベント・ブラウザのデータが1分ごとにデータベースと自動的に同期された とき、またはイベント・ブラウザを手動で更新したときに更新されます。
外部 ID	外部 ID: 外部マネージャによって割り当てられたイベントの ID。
グループ	割り当てられたグループ : 選択したイベントが割り当てられたグループの名前。
ID	ID:イベントの ID。メッセージが OMi に移される場合は,HPOM のメッセージの ID と同じ。
マネージャ	マネージャ: [利用可能なカスタム属性] インフラストラクチャ設定([管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定] > [アプリケーション] > [オペレーション管理 - カスタム属性設定]) で設定される標準設定のカスタム 属性。詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。
ノード	ノード: イベントが発生したホスト・システム。リンクをクリックすると, CIの [CI プロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。
ノードのヒ ント	ノードのヒント : ノード CI の特定に使用する情報。たとえば,RTSM でホストを検 出するために使用する HPOM のホスト名。
	• 起点サーバの DNS 名。
	• 起点サーバのノード名。
オブジェク ト	オブジェクト: コンピュータ,プリンタ,モデムなどのデバイス。
起点サーバ	起点サーバ: フレキシブル管理環境で設定されたサーバ連鎖内の,元のイベントを 最初に転送した管理サーバ。
優先度	優先度: 選択したイベントに割り当てられた優先度(低,中,高など)。

UI 要素	説明
地域	地域: [利用可能なカスタム属性] インフラストラクチャ設定([管理] > [セッ トアップと保守] > [インフラストラクチャ設定] > [アプリケーション] > [オ ペレーション管理 - カスタム属性設定]) で設定される標準設定のカスタム属性。 詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。
関連 CI	イベントが発生した,障害のある構成アイテムの名前。
	[関連 CI] がサブコンポーネントを含む場合は,次のように表示されます。関連 CI: サブコンポーネント。たとえば,「Server1: CPU1」となります。
関連 CI の ヒント	関連 CI のヒント : イベントに関連する CI の識別に使用するイベント情報。
送信サーバ	送信サーバ: 0Mi にイベントを転送した HPOM のフレキシブル管理連鎖内の最後の サーバ。.
重要度	重要度: 選択したイベントに割り当てられた重要度。通常,これはたとえば HPOM から受信した元のイベントの重要度のステータスと同一。次のアイコンはイベントのステータスを示す。 ♀ - 600000000000000000000000000000000000
	▼ - 重要警戒域
	▲ - 警戒域
	▲ - 注意域
	🖉 - 正常域
	◎ - 不明
	注: また,イベントの重大度を表す背景色をイベントに適用するようにイベント・ブラウザを設定できます。詳細については,「イベント・ブラウザの設定」(48ページ)を参照してください。
ソリュー ション	解決策 : イベントが示す問題の解決に役立つソリューションが記述されたテキス ト・フィールド。
ソース ር၊	ソース CI : 選択したイベントを生成した監視エージェントまたはプローブが実行さ れているノード。
ソース () のヒント	ソース CI のヒント : ソース CI の特定に使用する情報。

UI 要素	説明
状態	ライフサイクル状態 : 選択したイベントが達したイベントのライフサイクル状態。
	- 未解決
	🔏 - 実行中
	🌄 - 解決済み
	◎ - クローズ済み
	イベントのライフサイクル状態を変更するには,イベントを選択して,イベントー 覧の上にあるステータス・ボタンの1つを選択するか,またはショートカット・メ ニュー・オプションを使用する。ライフサイクル状態の変更権限は,ユーザ権限に よって制御されます。
サブカテゴ リ	サブカテゴリ: イベントが属している論理サブグループ(カテゴリ)の名前(Oracle (データベース), アカウント(セキュリティ), ルータ(ネットワーク)な ど)。
作成時間	作成時間 : イベントの作成日時。
受信時間	受信時間 : イベントの受信日時。
状態変化時 間	ライフサイクル状態が変更された時間 : ライフサイクル状態の最後の変更日時。
タイトル	タイトル : イベントの概要。
タイプ	タイプ: HPOM のメッセージの種類。イベント・カテゴリまたはサブカテゴリ内でさ まざまなイベントの種類を編成するために使用する文字列。
ユーザ	割り当てられたユーザ: イベントの根本的な問題の解決を担当するネットワーク・ ユーザの名前。たとえば, OMi ユーザがイベントを所有している場合, そのユーザ 名が表示されます。HPOM ユーザがイベントを所有している場合は, OM:データベー ス・オペレータ など, OM: で始まるユーザ名が表示されます。

クローズしたイベント・ブラウザ

閉じられたイベントの履歴は、すべてまたは選択した CI のもののみ、指定した期間分だけ表示できます。クローズしたイベント・ブラウザでは、表示されている任意のイベントのライフサイクル状態を変更できます。詳細については、「イベント・パースペクティブ」(282ページ)を参照してください。イベント・ブラウザ内の終了したイベントに関連したすべてのアクションには、クローズしたイベント・ブラウザからアクセスできます。



注: 再度未解決にされたイベントは, [クローズしたイベント ブラウザ]ウィンドウから自動的 に削除されます。ただし,クローズしたイベント・ブラウザが開かれた後に解決済みにされたイ ベントは,現在の [クローズしたイベント ブラウザ]ウィンドウには自動追加されません。更 新を行う必要があります。 [クローズしたイベント ブラウザ]ウィンドウには,スナップ ショットの取得時のタイムスタンプが表示されます。各ユーザが一度に開くことができるクロー ズしたイベント・ブラウザは1つのみです。

トラブルシューティング

サーバへの接続が切断された後に復元されたが,イベント・ブラウザが再接続されない

サーバへの接続が切断されると、イベント・ブラウザは自動的に5秒間隔で10回,接続を再試行し ます。接続が自動的に復元されない場合は、手動で接続できます。手動でも接続できない場合は、別 の0MiUIを開いてから、イベント・ブラウザに戻ります。たとえば、次のように戻ります。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザのステータス・バーのサマリが正しくない

イベント・ブラウザがパージ・モードで,メッセージ・ストームが現在発生している場合,イベント・ブラウザのステータス・バーに「*Items: 32000 of 30000*」などのサマリが表示される場合があります。

2番目の数値は,確認できるイベントの総数です。この数値はサーバで計算され,パージ・モードの 場合もそうでない場合も,常に正しい数値を示しています。

最初の数値は,現在ブラウザ内にあるイベントの数です。この数値は,イベントの実際の総数より大 きくなる場合があります。これは,イベント・ストーム時に新規イベントを追加したためにイベン ト・ブラウザの負荷が許容量に達し,パージされたイベントが削除されていないためです。

イベント・ストームが終了した後すぐに、表示値を再度調整する必要があります。

メッセージの転送時 HPOM for Windows のユーザ名が切り捨てられる

標準設定では, HPOM for Windows の [サーバーによるフレキシブル管理] 設定では OM for UNIX 互換 性モードは有効(true)になっています。これによってユーザ名は切り捨てられます。

[一般サーバーの設定] タブの [サーバーによるフレキシブル管理] の名前空間で OM for UNIX 互換 性モード設定を false に変更します。

イベント・ブラウザの設定

関心のある情報の詳細のみを表示するようにイベント・ブラウザを設定できます。たとえば、カラム の追加や削除、タブを追加するカスタマイズ、フィルタ設定を行うことにより、データの表示方法を 変更したり、向上したりできます。

イベント・ブラウザのすべてのレイアウト変更は,変更を行ったたユーザのアカウントに自動保存されます。次回のイベント・ブラウザへのログイン時には,行った設定どおりの最新のイベント一覧が 表示されます。たとえば,前回選択したビューが選択された状態で開きます。

アクセス方法

イベント・ブラウザで, 🕙 [**ブラウザ オプション**] をクリックします。

タスク

本項の内容

- 「イベント・ブラウザの設定方法」(48ページ)
- 「カラムとしてのカスタム属性の追加方法」(49ページ)

イベント・ブラウザの設定方法

1. [利用可能なカラム] タブから,イベント・ブラウザに表示するカラムを選択して,追加⇒ ボ タンをクリックし, [表示カラム] ボックスにこれらのカラムを含めます。

利用可能なカラムの詳細については,「イベント・ブラウザのラベル」(41ページ)を参照してく ださい。

- 2. [**表示カラム**] ボックスから表示しないカラムを選択して,削除 🤍 ボタンを選択します。
- 3. カラム名を選択して, 🏫 ボタンおよび 🖖 ボタンを使用して表示位置を再調整します。

この一覧の最初のカラム項目がイベント・ブラウザの最初のカラムとして表示されます。後続 のカラム項目は, [これらのカラムを表示]一覧の表示順で順次右に配置されます。

イベント・ブラウザに標準設定のカラムが表示されるように選択するには, [標準設定にJ セット]をクリックします。

- 4. オプション: [その他] タブで, 次のいずれかの追加オプションを設定します。
 - 新規イベントに音声通知を使用する:新しいイベントのサウンド通知を有効にします。イン フラストラクチャ設定マネージャのグローバルな新しいイベントのサウンド通知設定をオー バーライドします。
 - CI フィルタの子 CI を含む: 選択した CI およびその任意の子 CI を使ったイベントのフィルタ を有効にします。
 - イベントの重要度に従ってイベントの背景カラーを指定:イベント・ブラウザ内のイベント に対して、イベントの重要度を表す彩色背景を適用します。イベント背景の彩色には、次の オプションがあります。
 - すべてのイベント:イベント・ブラウザに表示されるすべてのイベントは、イベントの重要度に応じて色付けされます。
 - 現在のユーザに割り当てられたイベントのみ:アクティブなユーザに割り当てられている イベントは、イベントの重要度に応じて色付けされます。その他のすべてのイベントは、 標準設定の淡色の背景で表示されます。
 - 未割り当てのイベントのみ:現在のユーザに割り当てられていないイベントは、イベント・ブラウザに表示され、イベントの重要度に応じて色付けされます。アクティブ・ユーザに割り当てられているイベントは、薄いピンクの背景で表示されます。その他のユーザに割り当てられているイベントは、薄い黄色の背景で表示されます。
- 5. **[OK]** をクリックします。

カラムとしてのカスタム属性の追加方法

対応するインフラストラクチャ設定でカスタム属性を定義することにより、カスタム属性を列として 追加できます。

[管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定]

[オペレーション管理] > [カスタム属性設定] を選択します。

ここに定義したカスタム属性はイベント・ブラウザで列として選択できます。

ビューおよびビューに基づく承認によるフィルタリン グ

ビューを使用して,イベント・ブラウザに表示されるイベントのセットを制限できます。ビュー・セレクタで利用可能なビューを1つ選択すると,利用可能なイベントのサブセットを表示します。このサブセットは,ビューに含まれる,関連するCIを持つイベントのみを含むようにフィルタされています。ビュー・セレクタは,ユーザが権限のあるビューのみを表示します。

イベント・ブラウザを最初ロードしたとき,ビューは選択されていません。しかし,ビューを選択し ていた場合は,このイベント・ブラウザのインスタンスを再オープンしたときに再適用されます。設 定は,イベント・ブラウザのインスタンスごとに独立に保管されます。

ヒント: [私に割り当てられたイベントを表示] () アイコンを使用して,イベント・ブラウ ザで現在のユーザに割り当てられたイベントをすべて表示します。適用されていたフィルタと ビューは非アクティブになります。選択するたびに,現在のユーザに割り当てられたイベントの 表示と,最後に選択されたフィルタとビューによってフィルタされたイベントの表示が切り替わ ります。

ビューの詳細については, 「ビュー」(218ページ)を参照してください。

表示権限

ロールへのビューの割り当て:ユーザが使用を許可されるビューを制限できます。ロールの特定のビューにアクセスを制限することによって、ユーザが表示することを許可されるイベントを制御することもできます。

詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

 ビュー・フィルタをクリアする権限: [操作コンソール] > [Event Browser] リソースでの権限 を設定し、ユーザがビュー・フィルタをクリアしてイベントすべてを表示するようにできます。 この権限のないユーザは、選択されたビューに含まれる CI に関連したイベントのみを表示できま す。

詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。

ロックされたビュー:事前に選択したビューで[マイ・ワークスペース]の[Event Browser]
 ページを設定して、イベント・ブラウザのビュー・セレクタを無効にできます。ユーザは、事前
 に選択したビューに関連付けられているイベントのみを表示できます。

詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

ユーザまたはユーザ・グループへのイベントの割り当 て

イベント・ブラウザには、イベントの調査および解決を担当するユーザおよびグループの割り当てが 示されます。イベントが未割り当ての場合は、[イベント詳細]ペインの[一般]タブからイベント を割り当てることができます。

イベント・カテゴリを使用して、イベントへのユーザ・アクセスを制限できます。たとえば、一部の ユーザは、データベース・カテゴリのイベントのみ表示、操作できるよう制限できます。その他の ユーザは、システム・カテゴリのイベントのみにアクセスできるようにします。

詳細

イベント・カテゴリ

イベント・カテゴリとは、(同じ領域の問題など)類似点を持つイベントを論理的にグループ化した ものです。イベント・カテゴリは、特定のイベント・タイプの調査担当をどのユーザまたはユーザ・ グループに割り当てるか決定するプロセスを合理化するのに役立ちます。

イベント・ブラウザには,選択したイベントが属するカテゴリ(ストレージ,データベース) (DB),システム,WebApp(Webアプリケーション)など)が表示されます。

注: イベント・カテゴリごとにイベント・ブラウザの内容を表示するには,イベント・ブラウザの列オプションに [カテゴリ]を含め,[カテゴリ]列ヘッダを選択してアルファベット順に並べ替えます。

ユーザへのイベントの割り当て

また,受信したイベントを利用可能なユーザ・グループに自動的に割り当てる,ルールを設定することもできます。イベントの解決を担当するユーザ・グループにイベントが自動的に割り当てられるようにすると、イベント管理の効率が向上します。各イベントは受信されると直ちに適切なユーザ・グループに割り当てられます。ユーザ・グループ内のすべてのオペレータは,そのユーザ・グループに割り当てられたのイベントの処理を許可されています。詳細については,OMi管理ガイドを参照してください。

注: イベント・ブラウザの内容をイベントが割り当てられているユーザごとに表示するには, [ユーザ] または [グループ] 列ヘッダを選択します。ユーザおよびユーザ・グループを定義す るには, 次のメニュー・オプションを使用します。

[管理] > [ユーザ] > [ユーザ, グループ, およびロール]

タスク

イベントをユーザまたはユーザ・グループに割り当てる方法

1. イベント・ブラウザを開き, 既知のイベント一覧を開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

- 2. [Event Browser] ペインで,ユーザに割り当てるイベントを選択します。
- 3. 次のいずれかの方法で[イベント割り当て]ダイアログ・ボックスを開きます。
 - [Event Browser] ペインで, [割り当て先] 💑 ボタンをクリックします。
 - イベントを右クリックして、ショートカット・メニューから [割り当て先] を選択します。
- [割り当てられたグループ]ボックスでは、選択したイベントを割り当てるユーザ・グループ (たとえば、データベース・エキスパート、アプリケーション・サーバ・オペレータなど)を 選択します。
- 5. [割り当てられたユーザ] ボックスでは,選択したイベントを割り当てるユーザを選択しま す。

このメニューに表示されるユーザは、前の手順で選択したユーザ・グループを使用してフィル タされます。

注: また, [イベント詳細] ペインの [**一般**] タブで, [割り当てられたグループ] および [割り当てられたユーザ] ボックスからユーザおよびグループを選択して, [**保存**] [□] ボ タンをクリックします。

6. **[OK**] をクリックします。

手動でのイベントの関連付け

イベント・ブラウザで複数のイベントを選択して手動で関連付け,そのうちの1つを要因イベントとして割り当てます。その他のすべての関連イベントは症状イベントになります。

アクセス方法

イベント・ブラウザで,関連付けるイベントを選択し,それらのイベントの1つを右クリックして, ショートカット・メニューから [**イベントを関連付け**]を選択します。

タスク

イベントを手動で関連付ける方法

- 1. イベント・ブラウザで, 関連付けるイベントを選択します。
- これらのイベントの1つを右クリックして、ショートカット・メニューから [イベントを関連 付け] を選択します。 [イベントを関連付け] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3. イベントの1つを要因イベントとして選択します。その他のすべてのイベントは,選択した要 因イベントの症状となります。

相関処理ルールの結果,非表示になっている関連イベントがイベントにあるかどうかを確認し ます。次のアイコンはイベントの連鎖におけるイベントの位置を示します。

¹- イベントは相関処理ルール中の*要因*である

🏪 - イベントはある相関処理ルールでは要因であり,ほかの相関処理では症状である

🏪 - イベントは相関処理ルールでは症状である

相関処理済みのイベントの詳細については, 「関連イベント」(79ページ)を参照してください。

- オプション:手動で関連付けたイベントを使用し、相関処理ルールを自動生成するベースとすることもできます。また、[相関処理ルールウィザードを開く]チェック・ボックスを選択して、現在の関係に基づいて相関処理ルールを作成することもできます。[相関処理ルール生成]を使用して相関処理ルールを作成する方法の詳細については、「手動で関連付けたイベントからの相関処理ルールの作成」(53ページ)を参照してください。
- 5. [**OK**] をクリックします。

手動で関連付けたイベントからの相関処理ルールの作 成

手動で関連付けたイベントは,新しい相関処理ルールのベースとしたり,既存の相関処理ルールの向上に使用できます。イベント・ブラウザから,関連付けるイベントを選び,1つを要因イベントに選択してそれらを手動で関連付けて,イベントの関係を示す相関処理ルールの作成を選択します。

相関処理ルール生成ウィザードで新しいルールを作成する場合,使用されるイベントには関連 CI が 含まれる必要があります。

注: 関連 ETI およびその値がない場合は、インジケータ・マッピング・ルールを定義してインジ

ケータの状態を設定し(OMi管理ガイドを参照),相関処理ルールを作成することができます。 また、この種類のイベントに適切な ETI および値が提供されるよう、HPOM でイベントを作成し たイベント転送ポリシーを変更し、再デプロイする必要があります。次回のこのイベントを受信 すると、イベントには ETI が含まれており、関連付けられている相関処理ルールが起動されま す。

相関処理ルールの詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

アクセス方法

イベント・ブラウザで、関連付けるイベントを選択し、それらのイベントの1つを右クリックして、 ショートカット・メニューから [イベントを関連付け] を選択します。イベントの1つを要因イベン トとして選択して、 [相関処理ルール ウィザードを開く] を選択します。

タスク

手動で関連付けたイベントから相関処理ルールを作成する方法

1. イベント・ブラウザを開き, 既知のイベント一覧を開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

- 2. イベント・ブラウザで, 関連付けるイベントを選択します。イベントは 10 個まで選択できま す。
- これらのイベントの1つを右クリックして、ショートカット・メニューから [イベントを関連 付け] を選択します。

[イベントを関連付け]ダイアログ・ボックスが開きます。

- 4. イベントの1つを要因イベントとして選択します。その他のすべてのイベントは,選択した要 因イベントの症状となります。
- 5. [相関処理ルール ウィザードを開く] を選択し, [OK] をクリックします。 [相関処理ルール 生成] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 6. 🦗 [**原因として使用**]をクリックします。選択した要因を含むすべてのルールが表示されます。
- 7. [相関処理ルールを作成または強化するイベントを選択] セクションから,相関処理ルールに 含めるイベントを追加選択します。

向上可能なルールは、選択した要因イベントのCIタイプによって異なります。

8. [**作成**]をクリックして指定した要因イベントおよび症状イベントに基づいて相関処理ルール を作成するか,既存の相関処理ルールを選択して, [機能強化]をクリックします。

[**ルール プロパティ**] ページが開きます。

- 9. 新しい相関処理ルールのプロパティを指定するか,既存の相関処理ルールに適切な変更を行い ます。
- 10. オプション:相関処理ルールを直ちに有効にするには、 [アクティブ]をクリックします。
- 11. オプション:この相関処理ルールに代わりの時間ウィンドウを選択します。これによって既存の イベントにイベントを相関処理する期間が定義されます。この期間の経過後に受信したイベン トは、元のイベントには相関処理されません。オペレーション管理の[インフラストラクチャ 設定マネージャ]ページに設定されたグローバルの標準設定は、代わりの時間ウィンドウで上 書きされます。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。
- 12. [次へ] をクリックします。 [ルールの詳細] ページが開きます。
- 13. オプション: グラフからノードを選択して, ルールに ETI を追加できます。
- 14. [**完了**]をクリックして新しい相関処理ルールを作成するか,既存の相関処理ルールを変更し ます。

UI 参照

本項の内容

- 「イベントの選択/ルールの選択ページ」(55ページ)
- 「ルール・プロパティ・ページ」(56ページ)
- 「ルールの詳細ページ」(57ページ)

イベントの選択/ルールの選択ページ

相関処理ルール・ジェネレータ・ダイアログ・ボックスには、次の表のUI要素が表示されます。

UI 要素	説明
	原因として使用 : 要因イベントとして使用するイベントを選択する。
∅ i	イベント詳細を開く : 選択したイベントの詳細をポップアップ・ウィンドウに 開く。

UI 要素	説明
Ч <u>и</u>	すべてのイベントを選択: [イベントの選択]ペインですべてのイベントを選 択する。
6	すべてのイベントを選択解除: [イベントの選択] ペインですべてのイベント をクリアする。
作成	選択したイベントを使用して新しい相関処理ルールを作成する。
CI タイプ	イベントに関連付けられている構成アイテム・タイプ。
説明	相関処理ルールの簡単な説明。
機能強化	有効な場合,選択済みの既存の相関処理ルールの変更が可能。
イベント タイト ル	選択したイベントのタイトル。
含める	イベントー覧からイベントを選択またはクリアできます。
インジケータ	イベントに関連付けられているインジケータ。
インジケータ状 態	イベントに関連付けられているインジケータの状態。
名前	選択した相関処理ルールの内部名。 表示名の値から自動生成される。最初の文字は、文字(A-Z, a-z)またはアン ダースコア(_)。その他の文字は、文字(A-Z, a-z)、数字(0-9)またはア ンダースコア(_)。手動で上書きすることが可能。 注:特定のロケールでは無効にできます(ja_JP, zh_CN, ko_KR など)。
相関ルールを作 成または強化す るイベントを選 択	相関処理ルールに基づき, 要因イベントの症状となるように選択したイベン ト。
原因として使用	相関処理ルールに基づき、要因イベントとなるように選択したイベント。

ルール・プロパティ・ページ

ルール・プロパティ・ページには、次の表の UI 要素が表示されます。

UI 要 素	説明
アク ティ ブ	実行時にルールの有効化,無効化に使用する。これは標準設定では無効。
説明	相関処理ルールの簡単な説明。
表示 名	グラフィカル・ユーザ・インタフェースで使用している選択した相関処理ルールの表示 名。
名前	選択した相関処理ルールの内部名。
	表示名の値から自動生成される。最初の文字は,文字(A-Z,a-z)またはアンダースコア (_)。その他の文字は,文字(A-Z,a-z),数字(0-9)またはアンダースコア(_)。手 動で上書きすることが可能。
	注: 特定のロケールでは無効にできます(ja_JP,zh_CN,ko_KR など)。
時間 ウィ ンド	選択した相関処理ルールに対する時間の具体的な指定。これは標準設定では無効になって おり,グローバル値が使用されている。0秒も,設定が無効でグローバル値が使用されて いることを意味する。
ウ	範囲は0~9999秒。

ルールの詳細ページ

ルールの詳細ページには、次の表の UI 要素が表示されます。

UI 要 素	説明
	最短のパスを使用し, 要因に症状を1つ以上バインドする。ほかのすべてのバインディン グは削除される。
	インジケータおよび値など,選択した CI タイプの詳細を表示する。
ルール	・トポロジ・ペイン
<濃い 青の バック グラウ ンド>	症状の CI タイプ。

UI 要 素	説明
<薄い 青の バック グラウ ンド>	要因または症状の Cl タイプではなく,Cl タイプはルール・トポロジの一部。
<オレ ンジの バック グラウ ンド>	要因の Cl タイプ。
<ピン クのフ レーム >	選択されている CI タイプ。
<バッ クグラ ウンド 色なし >	ルールの一部ではない CI タイプ。
	構成アイテム・タイプのインジケータ状態が,選択した相関処理ルールで症状として設定 されていることを示します。
	構成アイテム・タイプのインジケータ状態が,選択した相関処理ルールで要因として設定 されていることを示します。
÷	相関処理ルールにハイライトされたリンク(制約)を追加する。リンクを追加するによっ て,相関処理ルールのコンテキストで,トポロジ・ベースのイベント相関処理の要件であ るリンク・オブジェクト間のパスが有効になる。RTSM ビュー・モデルにはいかなる変更 もありません。
	編集している相関処理ルールからハイライトされたリンク(制約)を削除する。これに よって2つのオブジェクト間のリンクは相関処理ルールのコンテキストでは認識されなく なり,このルールに依存するすべてのルールは以降機能しなくなる。相関処理ルールから リンクを削除しても,RTSM ビュー・モデルにはいかなる変更もありません。
レイア ウト	ルール・トポロジの図を別の方法で表示する。これには,[階層的],[円形],[同心 状の放射構造]の 3 つのオプションがある。
レベル	ルール・トポロジの図に表示されるトポロジ・レベルの深さを選択する。

UI 要 素	説明
拡大	表示されているルール・トポロジ図のサイズを制御する。
症状と野	要因ペイン
×	項目を削除: 相関処理ルールに備えられたインジケーター覧から選択した症状または要因 のインジケータを削除する。
CI タ イプ	一覧のインジケータが割り当てられている構成アイテム・タイプ名。
インジ ケータ	選択した相関処理ルールが参照しているインジケータ名。
インジ ケータ 状態	選択した相関処理ルールが参照しているインジケータの状態の名前。
タイプ	選択した相関処理ルールで,インジケータの定義が症状であるか要因であるかを示す。
[インジケータ] ペイン	
C	インジケータ・リストの内容を更新する。作業中に新しいインジケータが利用可能になっ た際に使用する。
63	タイプによってインジケータをグループ化します 。全インジケーター覧と,状況インジ ケータとイベント・タイプ・インジケータに分割されている一覧間をトグルする。
	要因として追加します: [ルール トポロジ]ペインで選択した構成アイテム・タイプ に,選択したインジケータ状態を要因として設定する。
	症状として追加します: [ルール トポロジ]ペインで選択した構成アイテム・タイプ に,選択したインジケータ状態を症状として追加する。

Operations Orchestration ラン・ブックの起動

オペレータの問題分析または問題解決作業を自動化するために HP Operations Orchestration (00)を 使用している場合,これら 00 ラン・ブックを OMi 内の CI タイプにマッピングできます。

詳細

Operations Orchestration ラン・ブック

ラン・ブックはイベントから開始できます(ショートカット・メニュー)。利用可能なフローのうち どのフローが適切であるかは、イベントに関連付けられている CI によって決まります。イベントか らラン・ブックを起動する場合は、CI またはイベント自体から適切なフロー・パラメータが自動的に 取得されます。

注: 00 からラン・ブックを統合する場合は、各ラン・ブックが有効な CI タイプを指定し、ラン・ブックの入力パラメータとして使用できるイベント属性を定義する必要があります。

ラン・ブックの入力パラメータが CI 属性とイベント属性にマップされている場合は, (イベントから起動される場合)イベント属性が優先されます。

タスク

HP Operations Orchestration ラン・ブックの起動方法

1. イベント・ブラウザを開き, 既知のイベント一覧を開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

2. イベントに実行するラン・ブックを選択します。

右クリック [起動] > [ラン ブック] > < ラン・ブックを選択>

選択したラン・ブックは,選択したイベントに関連付けられているイベントまたは CI のコンテキストで起動されます。

注: このショートカット・メニュー項目は,ログオン・ユーザにラン・ブックを実行する権限がある場合のみ表示されます。[ユーザ,グループ,およびロール]で権限を設定できます。

[管理] > [ユーザ] > [ユーザ, グループ, およびロール]

ラン・ブックに適用する関連カテゴリについては,「権限リファレンス」の項を参照して ください。

クローズしたイベントの表示

期間を指定して,クローズしたイベントの履歴を表示できます。この情報は長く続いている問題をより詳しく把握するのに役立ちます。クローズしたイベント・ブラウザでは,表示されている任意のイ ベントのライフサイクル状態を未解決などに変更できます。

アクセス方法

イベント・ブラウザで, 🌄 [クローズしたイベントを表示] をクリックします。

詳細

クローズしたイベント

クローズしたイベント・ブラウザには、クローズしたイベント・ブラウザを開いた時点の解決済みイ ベントのスナップショットのみが表示されます。再度未解決にされたイベントは、[クローズしたイ ベント ブラウザ]ウィンドウから自動的に削除されます。ただし、クローズしたイベント・ブラウ ザが開かれた後に解決済みにされたイベントは、現在の[クローズしたイベント ブラウザ]ウィン ドウには自動追加されません。更新を行う必要があります。 [クローズしたイベント ブラウザ] ウィンドウには、スナップショットの取得時のタイムスタンプが表示されます。

特定のCIなどを選択する場合、特定のイベントの抽出に役立つフィルタを作成できます。

クローズしたイベントは、データベースから手動で削除できます。**opr-archive-events** ツールを使用 して、クローズしたをデータベースから削除し、アーカイブ・ファイルに追加します。詳細について は、「opr-archive-events コマンドライン・インタフェース」(121ページ)を参照してください。

クローズしたイベントを,自動的にアーカイブすることもできます。詳細については,OMi 管理ガイ ドを参照してください。

インフラストラクチャ設定マネージャでは,クローズしたイベント・ブラウザに表示可能なイベント の最大数を設定できます。詳細については,OMi 管理ガイドを参照してください。

タスク

本項の内容

- 「クローズしたすべてのイベントを表示する方法」(62ページ)
- 「CIのクローズしたイベントの履歴を表示する方法」(62ページ)

クローズしたすべてのイベントを表示する方法

1. [クローズしたイベントのブラウザ構成]ウィンドウで、履歴を表示する期間を指定します。

定義済みの期間を選択すると、関連するクローズしたイベントの数が[選択した範囲内のイベントの数]フィールドに表示されます。

または、[カスタム範囲を選択]を選択し、カスタム時間範囲を指定して、[適用]をクリックします。関連するクローズしたイベントの数が[選択した範囲内のイベントの数]フィールドに表示されます。

2. **[OK**] をクリックして,利用可能なイベントが表示される [クローズしたイベント] ブラウ ザ・ウィンドウを表示します。

CIのクローズしたイベントの履歴を表示する方法

このタスクでは,現在のイベントの関連 CI と関連する,選択した期間のすべてのクローズしたイベントが表示される [クローズしたイベント ブラウザ]ウィンドウを表示します。

1. イベント・ブラウザを開き, 既知のイベントー覧を開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

- イベント履歴を表示するイベントを右クリックして、ショートカット・メニューから [表示] > [クローズしたイベント(関連 CI)] を選択します。
- 3. [クローズしたイベントのブラウザ構成]ウィンドウで,履歴を表示する期間を指定します。

定義済みの期間を選択すると、関連するクローズしたイベントの数が[選択した範囲内のイベントの数]フィールドに表示されます。

または、[カスタム範囲を選択]を選択し、カスタム時間範囲を指定して、[適用]をクリックします。関連するクローズしたイベントの数が[選択した範囲内のイベントの数]フィールドに表示されます。

4. **[OK**] をクリックして,利用可能なイベントが表示される [クローズしたイベント] ブラウ ザ・ウィンドウを表示します。

UI 参照

[クローズしたイベントのブラウザ構成] ダイアログ・ボックス

UI 要素	説明
<終了/ 受信日>	クローズしたイベント・ブラウザにクローズしたイベントを表示する際に,イベン トを受信した時刻を使用するか,ライフサイクルの状態が終了に変わった時刻を使 用するかを選択します。
<日付範囲>	 事前定義された選択した期間内のイベントを表示するフィルタを設定する。選択肢は次のとおりです。 過去1時間 過去24時間 過去3日 過去7日 過去14日 カスタム範囲を選択
開始時間	クローズしたイベントの選択を開始する特定の日時を設定する。
終了時間	クローズしたイベントの選択を終了する特定の日時を設定する。
選択した範 囲内のイベ ントの数	指定した期間にクローズした,表示されるイベントの数を示します。 クローズしたイベントが見つからない場合は,クローズしたイベント・ブラウザを 表示できない。イベントが多すぎる場合,問題領域により焦点を当てることが可能 な短い期間を指定する。

イベント・データのエクスポート

イベント・ブラウザのコンテンツは,外部ファイルにエクスポートできます。サポートされている形 式には,Microsoft Excelリストやカンマ区切り値(.csv)リストがあります。イベント・ブラウザで 表示するように選択された情報(標準設定),その情報のサブセット,または使用されている属性の 任意の組み合わせをエクスポートできます。

注: または、Ctrl+C のキーの組み合わせを使用して、選択したイベントの詳細をクリップボード にコピーすることもできます。Ctrl+V を使用して、ターゲットの場所に貼り付けます。イベン ト・ブラウザで利用可能な情報は,表示されている順序にコピーされます。必要な情報が欠落している場合,関連するカラムがイベント・ブラウザに表示されるように設定されていることを確認してください。

アクセス方法

イベント・ブラウザで, 🎦 [イベント リストのエクスポート] をクリックします。

タスク

イベント・ブラウザのコンテンツのエクスポート方法

- 1. *オプション:*イベント・ブラウザにフィルタを適用して,エクスポートするイベントのみを表示 します。
- 2. イベント・ブラウザで, 🋀 [**イベント リストのエクスポート**] をクリックします。

[エクスポート イベント リスト] ダイアログ・ボックスが開きます。

3. [利用可能なカラム] タブで,エクスポートする属性カラムを選択し,追加⇒ ボタンをクリッ クして [エクスポートするカラム] ボックスに追加します。

すべてのカラムを [**エクスポートするカラム**] ボックスに追加するには,すべて追加^(M) ボタン を使用します。

4. [**エクスポートするカラム**] ボックスで,エクスポートしないカラムを選択し,削除 [<] ボタン をクリックします。

すべてのカラムを [エクスポートするカラム] ボックスから削除するには,すべて削除() ボタンを使用します。

5. カラム名を選択し, アップ 🏫 ボタンとダウン 🖖 ボタンを使用してエクスポート順序を再調整 します。

この一覧の最初のカラム項目が,エクスポートされたファイルの最初のカラムとして表示され ます。後続のカラム項目は, [エクスポートするカラム]一覧の表示順で順次右に配置されま す。

また,エクスポートするように標準設定されたカラムを選択するには, [標準設定にリセット]をクリックします。

6. [ファイルのフォーマット] 一覧で, 作成されるエクスポート・ファイルの形式を選択しま

OMi ユーザ・ガイド 第6章: イベント・ブラウザ

す。

- カンマ区切り値 (.csv)
- Microsoft Excel 2007 ワークブック (.xlsx)
- Microsoft Excel 97-2003 ワークブック (.xls)
- 7. **[OK]** をクリックします。
- 8. 名前を入力し、エクスポート・ファイルの場所を選択して、[保存]をクリックします。

注: カンマ区切り値(.csv)形式を使用して非 ASCII 文字を含むイベント・ブラウザのコンテンツをエクスポートし, Microsoft Excel から直接開く場合は,文字化けする可能性があります。

ファイルは UTF-8 でエンコードされるため,次のいずれかの方法を使用して Microsoft Excel で読み込むことができます。

- UTF-8 文字セットで Excel にファイルをインポートする。
 [データ] > [外部データのインボート] > [データのインボート]
 テキスト・ファイル,65001 エンコード (UTF-8)
- Notepad で CSV 形式ファイルを開き, UTF-8 エンコードで保存する。

イベント詳細

[イベント詳細]ペインには,選択したイベントの情報が表示されます。 本項では,次の[イベント詳細]ペインのタブについて説明します。

- 「一般」(66ページ)
- 「追加情報」(70ページ)
- 「ソース情報」(72ページ)
- 「アクション」(73ページ)
- 「注釈」(74ページ)
- 「カスタム属性」(77ページ)
- 「関連イベント」(79ページ)

OMi ユーザ・ガイド 第6章: イベント・ブラウザ

- 「履歴」(82ページ)
- 「解決ヒント」(83ページ)
- 「命令」(85ページ)
- 「転送」(86ページ)

一般

[イベント詳細] ペインの [一般] タブには、イベントの発生元、作成時間、イベントの問題解決を 担当するユーザを含む、選択したイベントに関する詳細情報が表示されます。関連付けられている一 覧からは、重要度、ライフサイクル状態、優先度、割り当てられたグループ、割り当てられたユーザ の値を変更できます。

注:フィールドが空白の場合,選択した項目に情報はありません。

アクセス方法

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで [一般] タブを選択します。

詳細

イベントの一般詳細

[イベント詳細]ペインの[一般]タブでは,選択したイベントに関連付けられている最もよく利用 される情報が表示されます。イベントの一般的な情報は,次のとおりです。

- 重要度:選択したイベントに割り当てられている問題のレベルを示します。通常,これは HPOM から受信した元のイベントの重要度のステータスと同一。
- ライフサイクル状態:選択したイベントが達したイベントのライフサイクル状態を示します(未解決,実行中,解決済み,クローズ済み)。
- 優先度:選択したイベントに割り当てられた重要度(低,中,高など)。
- 元の問題が発生したネットワークの場所(読み取り専用)。
- 問題の解決を担当するユーザ。
- タイトル・フィールドのメッセージ・テキスト。このタイプのテキスト・フィールドには、URL およびハイパーリンク(Ctrl + クリック)も使用できます。

注: イベント・タイトルの一部となっている URL は,アクティブなリンクとしてイベント・ ブラウザで表示されます。http://,https://,ftp://,fttps://で始まる URL がサポートされて います。

URL に「%」や「/」などの特殊文字が含まれている場合, 「%25」や「%2f」のように自動 的にエスケープされます。

この処理では,挿入された URL にエスケープ済みの文字(「%2f」)が含まれていた場合, これらの文字は再度エスケープされることになり(「%252f」), URL が無効になるという 問題が生じます。

URL にエスケープ済みの文字が含まれ、イベント・タイトルに保管される必要がある場合 は、次に示すように角ブラケットで囲み、再度エスケープされないようにする必要がありま す:'<http://www.google.com/search?q=abc%2fdef>'。

一般タブに表示される情報には,元のイベントの最も重要な情報が要約されています。フィールドが 空白な場合は,関係する情報がないことを示します。必要な特定の種類の情報が自動的に表示されな いことがわかっている場合は,カスタム属性を使用してその情報を表示するようにできます。

UI 参照

[イベント詳細]の[一般]タブ

UI 要素	説明
ť	保存 : 変更した値を保存します。
Q	変更を元に戻す: 変更した値を破棄します。
割り当て られたグ ループ	選択したイベントの割り当て済みユーザが属しているグループの名前。
割り当て られた ユーザ	イベントの根本的な問題の解決を担当するユーザの名前。たとえば, OMi ユーザがイ ベントを所有している場合,そのユーザ名が表示されます。HPOM ユーザがイベントを 所有している場合は, OM:データベース・オペレータ など, OM: で始まるユーザ名が表 示されます。
カテゴリ	イベントが属している論理グループの名前(データベース,セキュリティ,ネット ワークなど)。イベント・カテゴリは,概念的には HPOM のメッセージ・グループに 似ています。

UI 要素	説明
移転され たコント ロール	関連付けられたイベントの担当が上位のマネージャにエスカレーションされたかどう かを示します。
重複数	選択したイベントに関連付けられている重複イベントの数。
イベン ト・タイ プ・イン	選択したイベントおよび現在の値によって報告されるステータスを計算するために使 用されるイベント・タイプ・インジケータ(ETI)の表示名(Web アプリケーションの 状態 : 低)。
ジケータ	WebAppState はイベント・タイプ・インジケータの名前。対応ラベルは[Web アプリ ケーションの状態]であり,[一般]タブに表示されます。現在の ETI 値のレベルは, [低]です。
	イベント・タイプ・インジケータの割り当てがあるが([ソース情報]タブを参照) 未解決の場合([一般]タブの[イベント タイプ インジケータ]フィールドが空であ る)は,設定を修正する必要があります。
ID	選択したイベントの ID。イベントでは運用環境で発生したイベントをレポートしま す。
ライフサ	選択したイベントが達したイベントのライフサイクル状態。
イクル状 態	😼 - 未解決
	🚜 - 実行中
	🌄 - 解決済み
	🖳 - クローズ済み
	イベントのライフサイクル・ステータスを変更するには,一覧からライフサイクル状 態を選択して [保存] をクリックします。ライフサイクル状態の変更権限は,ユーザ 権限によって制御されます。
	受信メッセージでの状態と OMi での状態の相関関係は次のとおりです。
	• メッセージ = 確認済み; ライフサイクル状態 = 解決済み
	 メッセージ=所有済み; ライフサイクル状態=実行中
	 メッセージ = 確認済みまたは所有済みでない; ライフサイクル状態 = 未解決
ノード	イベントが発生したホスト・システム。リンクまたは 🕗 ボタンを使用して,Cl の [Cl プロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。

UI 要素	説明
優先度	選択したイベントに割り当てられた優先度(低、中、高など)。
	イベントの優先度を変更するには,リストから優先度を選択して, [保存]をクリッ クします。
関連 CI	イベントが発生した,障害のある構成アイテムの名前。リンクをクリックすると Cl の プロパティがポップアップ・ウィンドウに表示されます。
	[関連 CI] がサブコンポーネントを含む場合は,次のように表示されます。関連 CI [追加情報] : サブコンポーネント。たとえば,「Server1[Windows]:CPU1」となりま す。
	リンクまたは 🚈 ボタンを使用して,Cl の[Cl プロパティ]ダイアログ・ボックスを 開きます。
重要度	選択したイベントに割り当てられた重要度。通常,これは OMi から受信した元のイベ ントの重要度のステータスと同一。次のアイコンはイベントのステータスを示す。
	😣 - 危険域
	🔻 - 重要警戒域
	📤 - 警戒域
	🛆 - 注意域
	🛇 - 正常域
	😨 - 不明(重要度を不明には変更できない)
	注: また,イベントの重大度を表す背景色をイベントに適用するようにイベント・ ブラウザを設定できます。詳細については,「イベント・ブラウザの設定」(48 ページ)を参照してください。
ソース ር၊	選択したイベントを生成した監視エージェントまたはプローブが実行しているホス ト・システム。
	リンクまたは 🚈 ボタンを使用して, Cl の [Cl プロパティ] ダイアログ・ボックスを 開きます。
サブカテ ゴリ	イベントが属している論理サブグループ(カテゴリ)の名前(Oracle(データベー ス),アカウント(セキュリティ),ルータ(ネットワーク)など)。
作成時間	選択したイベントの作成日時。

UI 要素	説明
状態変化 時間	ライフサイクル状態の最後の変更日時。
受信時間	選択したイベントの受信日時。
タイトル	選択したイベントの特性についての簡単な説明。
タイプ	イベント・カテゴリまたはサブカテゴリ内のさまざまなイベント・タイプを編成する ために使用する文字列(users,ユーザやアプリケーション,アカウント,セキュリ ティ など)。

追加情報

イベント詳細ペインの追加情報タブには、選択したイベントの属性の詳細情報があります。

アクセス方法

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで [追加情報] タブを選択します。

詳細

追加情報

イベントの追加情報は、次のとおりです。

- アプリケーション名
- オブジェクト
- +-
- キーの付いたイベントを終了
- 重複抑制をスキップ
- ダウンタイムで受信済み
- イベントの説明
- イベントのソリューション

UI 参照

[イベント詳細]の[追加情報]タブ

UI 要素	説明
H	保存: 変更した値を保存します。
Q	変更を元に戻す: 変更した値を破棄します。
アプリ	イベントの発生の要因のアプリケーション。
ッーショ ン	RTSM の CI と直接関係する 0Mi の関連 CI 属性とは異なり,アプリケーション属性は, HPOM の単純な文字列タイプの属性です。
	アプリケーション属性の例は Oracle や OS。
キーの付 いたイベ ントを終 了	重複したイベントの自動確認に使用する文字列。
説明	イベントの元のタイトルや,イベント・ソースから取得したテキスト以外の,元のイ ベントに関するオプション情報。
+ -	元の HPOM イベントに関連付けられていたキー。メッセージ・ポリシーの特定に使用 される。重複およびキーの付いたイベントを終了に使用される。
オブジェ	コンピュータ、プリンタ、モデムなどのデバイス。
クト	RTSM の CI と直接関係する 0Mi の関連 CI 属性とは異なり、オブジェクト属性は、HPOM の単純な文字列タイプの属性です。
	オブジェクト属性の例は, orainst, C:, /dev/spool など。
ダウンタ イムで受 信済み	CI がダウンタイムのとき(スケジュールされた使用不可期間)に CI から受信したイベ ントであるかを示す。
重複抑制 をスキッ プ	重複の抑制が非アクティブかどうかを示す。新しいイベントが選択したイベントと重 複する場合に自動的に破棄されないようにします。属性を設定して,イベントの重複 は抑制できる。詳細については,0Mi 管理ガイドを参照してください。
ソリュー ション	イベントが示す問題の解決に役立つソリューションが記述されたテキスト・フィール ド。

ソース情報

[イベント詳細]ペインの [ソース情報] タブには,受信したイベントのソース CI の ID に関連する 情報の概要が表示されます。

アクセス方法

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで [ソース情報] タブを選択します。

UI 参照

[イベント詳細]の[ソース情報]タブ

UI 要素	説明
一致 情報	イベントが一致する次のポリシーの詳細が表示される。
	• ポリシー名
	• ポリシー・タイプ
	• 条件
元の	元のイベントの次の詳細を表示する。
イベント	 元の ID - メッセージを生成したメッセージ・ポリシーによって元の HPOM メッセージに 割り当てられた固有 ID。
	• 元のデータ - HPOM メッセージに書式設定される前の, HP Operations Agent から取得し たイベントの元のテキスト。
	HP Operations Agent のポリシーを使用してメッセージに標準化する前の,元の入力情報 が含まれます。通常,ノード名,メッセージ・グループ,アプリケーション,オブジェ クト,重要度,メッセージ・テキストなどの情報が示されます。


アクション

OMi が HPOM から受信したイベントには、イベントに関連付けられているアクションが入っている場合があります。イベント詳細ペインのアクション・タブには、イベントにあるこれらのアクションが表示されます。指定できるアクションには、ユーザ・アクションと自動アクションの2つのタイプがあります。

アクションを実行するには, [開始]ボタンをクリックします。 [停止]ボタンではアクションの実 行を完了前に停止します。

アクセス方法

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで**[アクション**] タブを選択します。

詳細

アクション

HP Operations Manager のアクションは、アクションの関連付けがあるイベントから手動で開始でき ます。アクションは、イベントの要因となった問題を解決したり、問題の存在を通知などの手段で知 らせる場合に使用できます。

イベント・ブラウザの A 列にアイコンがある場合には,選択したイベントに自動アクションがあることを意味します。U 列にアイコンがある場合には,選択したイベントにユーザ・アクションがあることを意味します。イベント・ブラウザのアイコンの詳細については,「イベント・ブラウザ」(30ページ)を参照してください。

OMi ユーザ・ガイド 第6章: イベント・ブラウザ

タスク

関連タスク

- 「HPOM アクションの実行方法」(211ページ)
- 「カスタム・アクションの起動方法」(212ページ)

UI 参照

[イベント詳細]の[アクション]タブ

UI 要素	説明
アクション	アクションの仕様の概要。
ノード	アクションを実行できるターゲット・システム。
開始	選択したイベントに関連付けられている CI にアクションを開始する。
状態	利用可能なアクションのステータスを示す。次の状態がある。
	▲ - 利用可能
	🇞 - 実行中
	🇞 - 成功
	🇞 - 失敗
停止	現在のアクションを停止する。

注釈

イベント詳細ペインの注釈タブには,選択したイベントに添えられている注釈の一覧があります。注 釈とは,イベントの所有者が根本的な問題およびその解決方法を理解するのを助ける,イベントに関 連するコメントおよび所見です。選択したイベントに注釈を追加するには,[追加]ボタンをクリッ クします。 注: [イベント詳細] ペインでは, 101,298 文字を超える注釈は切り捨てられます。

アクセス方法

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで [注釈] タブを開きます。

詳細

注釈

注釈とは,そのイベントの要因の解決に役立つ可能性のある情報をイベントに追加する,自由形式の 説明です。[イベント詳細]ペインの[注釈]タブでは,イベントへの注釈の関連付けを追加,表示 および管理できます。注釈のテキスト・フィールドには,URLおよびハイパーリンク(**Ctrl**+クリッ ク)も使用できます。

イベント・ブラウザの注釈列Nにアイコンがある場合には,選択したイベントに注釈があることを意味します。イベント・ブラウザのアイコンの詳細については,「イベント・ブラウザ」(30ページ)を参照してください。

タスク

本項の内容

- 「イベントへの注釈の追加方法」(75ページ)
- 「選択したすべてのイベントへの注釈の追加方法」(76ページ)

イベントへの注釈の追加方法

1. イベント・ブラウザを開き, 既知のイベント一覧を開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

- 2. イベント・ブラウザでイベントを選択します。
- 3. [イベント詳細]ペインで, [注釈] タブを開きます。

[注釈] ツールバーから [**注釈の追加**] ** をクリックして, [**注釈の新規作成**] ダイアログ・ ボックスを開きます。

4. 情報テキストを入力します。

5. **[OK]** をクリックします。

選択したすべてのイベントへの注釈の追加方法

1. イベント・ブラウザを開き, 既知のイベント一覧を開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

- 2. イベント・ブラウザで, 注釈を追加するすべてのイベントを選択します。
- 3. 選択したイベントのいずれかを右クリックし, [注釈] ツールバーの [**注釈の追加**] ** をク リックして, [**注釈の新規作成**] ダイアログ・ボックスを開きます。
- 4. 情報テキストを入力します。
- 5. **[OK**] をクリックします。

UI 参照

[イベント詳細]の[注釈]タブ

UI 要 素	説明
*	[注釈の新規作成]ダイアログ・ボックスを開く。[テキスト]フィールドには注釈テ キストを追加する。
	注釈を保存するには, [OK] クリックする。
Ø	[注釈の編集]ダイアログ・ボックスを開く。[テキスト]フィールドでは注釈テキス トを編集する。
	注釈を保存するには, [OK] クリックする。
×	[注釈の削除] ダイアログ・ボックスを開く。
	注釈を削除するには, [はい]をクリックする。
テキス ト	注釈の内容テキスト。
作成時 間	イベントに選択した注釈を追加した日時。
ユーザ	イベントに選択した注釈を追加したユーザの名前。

カスタム属性

[イベント詳細] ペインの [カスタム属性] タブには,管理者または担当ユーザのいずれかが,手動 で設定して選択したイベントに追加した属性の一覧が表示されます。カスタム属性を設定して,選択 したイベントにその属性を追加するには, [追加] ボタンをクリックします。

注: カスタム属性を追加または変更するには、カスタム属性を追加、更新、削除する権限を持つ ユーザとしてログオンする必要があります。

アクセス方法

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで [カスタム属性] タブを選択します。

詳細

本項の内容

- 「カスタム属性」(77ページ)
- 「HPOM のトラブル・チケット・フラグと通知フラグ」(77ページ)

カスタム属性

カスタム属性とは、HP Operations Manager(HPOM)などの監視アプリケーションから転送される, 元のイベントに含まれる追加情報です。たとえば、カスタム属性を定義すると、問題の要素の場所や 問題解決を担当するチームの連絡先詳細を添えることができます。

[イベント詳細]ペインの [カスタム属性] タブでは,イベントに利用可能なカスタム属性を表示お よび管理できます。

また、イベント・ブラウザにカスタム属性列を追加できます。

HPOM のトラブル・チケット・フラグと通知フラグ

HPOM で設定されるポリシーでは、トラブル・チケット・フラグと通知フラグを設定できます。これ らのフラグを設定すると、OMi で次のカスタム属性が生成されます。

- ForwardToTroubleTicket (值 = true)
- NotifyUser (値 = true)

適切に設定されたイベント・フィルタを使用することにより、転送ルールを使用して値が true のこ れらのカスタム属性を含むイベントを外部マネージャに自動的に転送したり、通知ルールを使用して 通知を送信したりできます。

タスク

イベントへのカスタム属性の追加方法

1. イベント・ブラウザを開き, 既知のイベント一覧を開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

- 2. イベント・ブラウザでイベントを選択します。
- 3. [イベント詳細]ペインで, [カスタム属性] タブを選択します。
- 4. [カスタム属性の追加] ** をクリックして, [カスタム属性の追加] ダイアログ・ボックスを 開きます。
- 5. カスタム属性名と値を入力します。
- 6. **[OK]** をクリックします。

UI 参照

[イベント詳細]の[カスタム属性]タブ

UI 要 素	説明
*	[カスタム属性の新規作成] ダイアログ・ボックスを開く。カスタム属性の名前と値を追 加できる。
	カスタム属性を保存するには, [OK]をクリックする。
Ø	[カスタム属性の編集] ダイアログ・ボックスを開く。カスタム属性を編集できる。
	カスタム属性を保存するには, [OK]をクリックする。
×	[カスタム属性の削除] ダイアログ・ボックスを開く。
	カスタム属性を削除するには, [はい]をクリックする。
名前	選択したイベントに定義した選択したカスタム属性の名前。
値	選択したカスタム属性に割り当てられた値。

関連イベント

[イベント詳細] ペインの [関連イベント] タブには,イベント・ブラウザで選択したイベントに関連するすべてのイベントの概要が表示されます。イベントの表示方法によって,相関処理プロセスで イベントが症状としてみなされるか,要因としてみなされるかがわかります。 [関連イベント] タブ で太字で表示されるイベントは, [Event Browser] ペインで選択されているイベントです。

アクセス方法

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで [**関連イベント**] タブを選択します。

詳細

関連イベント

複数のソースからの情報を管理する場合,重複や過負荷の問題を減らすために,トポロジベースの ルールを設定できます。これらのルールでは,症状イベントと要因イベントを区別して相関処理し, 監視している運用環境の状態を明確に示します。

トポロジベースのイベント相関処理では指定した症状と可能性のある要因を併用して,イベントの要因を特定します。その後,イベント・ブラウザでフラグを付けます。イベント・ブラウザの Cカラムのアイコンは,選択したイベントが相関処理されていることを示します。イベントの相関処理の一般的な詳細については,「イベント相関処理」(26ページ)を参照してください。

タスク

関連タスク

「手動でのイベントの関連付け」(52ページ)

UI の説明

[イベント詳細]の[関連イベント]タブ

UI 要 素	説明
74	イベント間の関係を削除する。
	選択したイベントを,0Miが誤って相関処理した場合に役立つ。関連付けを解除アクショ ンは,イベントの関係を作成した関連処理ルールには影響しない。今後このイベントの関 連付けがされないようにするには,関連付けられている相関処理ルールを変更する。
<重要 度>	関連イベントに割り当てられた重要度。
	ヒント: イベントの重要度を示すアイコンの簡潔な説明については,ツールチップを 確認。
割当らたユザ リてれ	関連イベントの根本的な問題の解決を担当するユーザの名前。
相関 処理 ルー ル	関係の作成に使用する相関処理ルールへのリンク。
関連 Cl	イベントが発生した,障害のある構成アイテムの名前。
状態	イベントのライフサイクル状態(未解決,実行中,解決済みなど)。
受信 時間	OMi から関連イベントに関連付けられた元のメッセージを受信した日時。
タイ トル	イベントのテキスト列のプラス記号(+)アイコンは,標準設定では関連イベント・タブ に表示されない,相関処理されたイベントがあることを示します。プラス記号(+)また はマイナス記号(-)アイコンを使用して,相関処理されたイベントを表示したり,非表示 にしたりします。

[考えられる原因] タブ

すべての考えうる相関処理の結果は記録されて, [考えられる原因] タブに表示されます。このタブ には,考えられる原因となるイベントが,その相関処理を生成した相関処理ルールへの参照とともに 表示されます。ルールの重み係数や,関連イベントが OMi から受信された時刻などの,追加情報も表 示されます。オペレータは,症状イベントの原因として考えられる原因をすべて調べ,マッチする相 関処理ルールの理解を深めることができます。オペレータに適切な権限が与えられている場合は,問 題を調査する際,そのイベントの原因を利用可能な他の原因に手動で変更できます。

UI 要 素	説明
2	関連付け: 現在の原因を, [考えられる原因]リストで選んだ原因イベントに置き換えます。
	OMi が誤ったイベントを相関処理したと考えられる場合に役立ちます。関連アクション は,関連する相関処理ルールに対して何の影響も与えません。今後は代替の原因イベント に自動的に関連付けられるようにするには,関連付けられている相関処理ルールを変更し ます。
重要度	関連イベントに割り当てられた重要度。
反	ヒント: イベントの重要度を示すアイコンの簡潔な説明については, ツールチップを 確認。
タイ	OMi から送信されたメッセージのテキスト。
トル	太字のテキストは,イベントが現在の要因として設定されていることを示す。
	[考えられる原因] リストのイベントの1つを原因として設定するには, [関連付け] ボ タンを使用して手動で設定します。
関連 Cl	イベントが発生した,障害のある構成アイテムの名前。
受信 時間	関連イベントに関連付けられた元のイベントを OMi から受信した日時。
状態	イベントのライフサイクル状態(未解決,実行中,解決済みなど)。

UI 要 素	説明
割当らた ユザ	関連イベントの根本的な問題の解決を担当するユーザの名前。
相関 処理 ルー ル	考えられる関係の作成に使用する相関処理ルールへのリンク。
ルー ルの 重み	選択した相関処理ルールに重みを指定します。標準設定の値は正常です。
	相関処理ルールの重みを増大すると、それより小さい重みを使用する別の相関処理ルール によって前に作成された既存の症状関係がオーバーライドされる可能性があります。

履歴

イベント履歴とは, OMi のイベントの値を変更した, ユーザまたはコンポーネントの情報が記載され たログです。この機能によりオペレータは, 重要度の遷移の順序など, イベントの存続期間における イベント属性値の遷移の過程を確認できます。イベントの履歴情報はイベント詳細ペイン内の別のタ ブに表示され, そのイベントにアクセス可能なユーザが表示できます。

アクセス方法

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで [履歴] タブを選択します。

詳細

履歴情報

イベント・コンソールでイベントを手動で変更した場合,またはイベントが,クローズした関連イベント(新しい受信イベントに関連する既存のすべてのイベントを終了する)によって自動的に変更された場合,または抑制された重複イベント(元のイベントを保持および更新して,新しい方の重複イベントを終了する)が存在する場合, [履歴] タブには次の情報が表示されます。

- 変更に関するサーバのタイムスタンプ。
- 変更した属性の新旧の値。
- イベントを変更したユーザの情報。次のいずれかの種類の情報があります。
 - OMi のユーザがイベントを変更した場合,または外部ユーザが変更を行った場合,そのユーザ 名。
 - 関連イベントの自動終了または重複イベントの自動抑制による変更が要約されたタイトル行。
 - イベントが HPOM からのデータによって同期され、変更される場合の HPOM 同期の統合ユーザ 名。
- 注釈およびカスタム属性に対する、削除、変更などのアクション。履歴行に表示されます。

UI 参照

[イベント詳細]の[履歴]タブ

UI 要素	説明
アクション	イベントへの変更の説明。
変更時間	関連付けられた変更をイベントに行った日時。
変更者	関連付けられた変更をイベントに行ったユーザ。
<検索フィールド>	イベント履歴内の文字列の検索に使用するテキスト・フィールド。 送 ボタ ンでは,検索文字列をクリアし,すべての履歴情報を表示します。

解決ヒント

[解決ヒント] タブには,受信したイベントのノード,ソース CI,関連 CI,および ETI に関連する情報が表示されます。

アクセス方法

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで [解決ヒント] タブを選択します。

UI 参照

[イベント詳細]の[解決ヒント]タブ

UI 要素	説明
ETI 解決	ETI 解決のヒント : HPOM のカスタム・メッセージ属性におけるなど,外部マネージャから 受け取った元の文字列。イベントを ETI に関連付けるために使用できる。
	イベントには,このインジケータにマップできる属性を設定する必要がある。これを実行す るには,ETIHint というカスタム・メッセージ属性を HPOM ポリシーで設定します。 CPULoad などインジケータの名前に一致する名前空間を CMA に指定します。高 などのイン ジケータ状態に一致するインスタンスを指定します。CPULoad:高の ETIHint CMA 値を含むイ ベントを受信し,ETI および値が存在する場合は,イベント属性のイベント・タイプ・イン ジケータが設定されます。
ノー ド	選択したイベントに関連付けられている RTSM でホスト・システムの特定に使用する次の情 報。
	• ノードのヒント: RTSM のノードの検索に使用するホスト名。
	• DNS 名:起点システムの DNS 名。
	・ IP アドレス :起点システムの IP アドレス。
	• コア ID :起点システムの ID。
関連	イベントが発生した,障害のある構成アイテムの名前。
	• 関連 CI のヒント: イベントに関連する CI の識別に使用するイベント情報
	• HPOM サービス ID: イベントに関連するサービスの識別に使用するサービス ID

UI 要素	説明
関連	選択したイベントに関連付けられている次の情報:
CI 解決 情報	• 一致したヒントのカウント: RTSM データベースで選択した CI に一致した,識別された ヒントの数。この値はイベントから抽出された利用可能な識別子に占める割合として表 示される。利用可能な識別子は, [解決ヒント] タブの次のセクションに表示される。
	 関連 CI のヒント - コロンで区切られた CI ヒントー覧があり、ホスト識別子を併記す る必要があります。
	 HPOM サービス ID - イベントに関連するサービスの識別に使用する、オブジェクトおよびアプリケーションのサービス ID。
	 ETI のヒント - 各 CI の ETI の特定に使用されます。ETI 解決が正常に完了した場合、CI には ETI が割り当て済みと仮定され、この CI にはより上位の一致順位が割り当てら る。
	• ステータス:関連 CI の解決に使用された一致の情報を示す。
	一致に関する情報を表示する。
	■ 成功 - 一致したことを示し、使用されたヒントが表示されます。
	 失敗した CI 解決 - 解決できなかったヒントが表示されるか、または評価に使えるヒントがなかったことを示す。または、マッチングができなかったことを示し、 Fallback to host などの実行アクションが示される。
ソー ス	選択したイベントに関連付けられている,イベントのソースである RTSM の Cl の特定に使 用する次の情報。
CI	ソース CI のヒント : RTSM から CI を検索するために使用するOMiのイベント属性の説明。

命令

[イベント詳細]ペインの [命令] タブには, 関連イベントをオペレータが処理するのに役立つ命令 情報が表示されます。

アクセス方法

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで [命令] タブを選択します。

詳細

命令

命令は、イベントを生成するポリシーで設定します。命令では、指定したタイプのイベントの受信時 に自動アクションを記述したり、オペレータ起動アクションの実行方法の詳細を提供したり、問題を 解決する手順を詳細に説明したりできます。

命令テキストは、ポリシー・エディタの [命令テキスト]フィールドに直接入力することも、外部命 令インタフェースを使用して生成することもできます。外部で生成された命令を取得するには、関連 するポリシーのポリシー・エディタで命令インタフェース名およびパラメータ文字列を指定する必要 があります。

[命令] タブを選択すると、命令がイベント・ブラウザで動的に取得されます。

命令は、プレーン・テキストまたは HTML で出力できます。命令テキストに URL が含まれている場合、自動的にハイパーリンクに変換されます。http://, https://, ftp://, fttps://, telnet://, mailto: で始まる URL がサポートされています。ハイパーリンクをクリックすると、新しいウィンドウが開き、スクリプトによって返されたページが表示されます。HTML 出力の場合、URL をクリックする と、命令テキストが含まれている新しい HTML ページが開きます。

注: イベントの発生元が HPOM またはほかの OMi サーバの場合は,このサーバを接続サーバとして設定する必要があります。詳細については,OMi 管理ガイドを参照してください。

イベントが複数のサーバで発生する可能性があるフレキシブルな管理環境では,イベントを生成 するポリシーがデプロイされているサーバに接続する必要があります。これは,命令を使用でき るのがこのサーバのみであるためです。

UI 参照

[イベント詳細]の[命令]タブ

UI 要素	説明
命令	イベントに対して生成された命令テキスト。命令は関連ポリシーで設定され,通常, 関連イベントをオペレータが処理するのに役立つように設計されています。

転送

[転送] タブは,外部マネージャに所有権が移ったイベントで表示されます。このタブの表示内容 は、タブが開かれたときに外部マネージャから動的にロードされます。外部マネージャから利用可能 な最新情報をロードするには、[転送] タブの 🌠 ボタンをクリックします。 たとえば、組織で中央のサービス・デスクとして HP Service Manager を使用している場合、イベント のコントロールをイベント・ブラウザから HP Service Manager に移すことができます。これは、OMi のオペレータが問題を解決できず、問題をエキスパートに割り当てる必要がある場合によく行われま す。HP Service Manager ではインシデント ID を作成し、それを OMi に戻します。これは、外部マ ネージャからのイベントに関する追加情報とともに[転送] タブに表示されます。

アクセス方法

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで [転送] タブを開きます。

詳細

外部ターゲット・サーバ

外部マネージャ・サーバは、接続サーバ・マネージャでターゲットとして指定する必要があります。

問題があってコントロールの移転先のシステムに接続できない場合,イベント転送要求またはイベント更新同期要求がキューに保持されます。指定時間内に要求をターゲット・サーバに配信できない場合は,要求はこのキューから自動的に削除されます。

イベント転送の有効期間の設定方法については, OMi 管理ガイドを参照してください。標準設定の値 は2時間で,最小値は1時間です。

タスク

外部マネージャにコントロールを移す方法

- 1. 外部マネージャにコントロールを移すイベントをイベント・ブラウザから選択します。
- これらのイベントの1つを右クリックして、ショートカット・メニューから次の選択を行います。

[コントロールを次に移す] > <マネージャを選択>

UI 参照

[イベント詳細]の[転送]タブ

UI 要素	説明
C	[転送] タブのコンテンツを更新する。
*	保留中のコントールの移転要求を削除する。移転要求が完了している場合,キャン セルは不能で, [コントロールの転送を取り消す]は無効になる。
割り当てら れたグルー プ	外部マネージャがイベントに割り当てたグループ。
割り当てら れたユーザ	外部マネージャがイベントに割り当てたユーザ。
外部 ID	外部マネージャがイベントに割り当てた ID。このリンクにより、イベントを管理す る外部アプリケーションにイベントが開きます。
外部サーバ	外部マネージャをホストしているノード。
ライフサイ クル状態	外部マネージャがイベントに割り当てたライフサイクル状態。
優先度	外部マネージャがイベントに割り当てた優先度。
重要度	外部マネージャがイベントに割り当てた重要度。
転送ステー タス	[転送コントロール] 要求のステータス。次の状態があります。
	 キャンセルが要求されました:キュー内でまだ処理待ちの[転送コントロール] 要求に対して、コントロールを移すことをキャンセルする要求が出された。
	• 転送済み:選択したイベントのコントロールが,選択した外部サーバに移された。
	• キューに登録済み :選択したイベントのコントロールを移す要求は,処理を待っ てキューに入れられている。
転送規則	外部アプリケーションにイベントのコントロールを移す際の転送規則。
転送開始元	外部アプリケーションにイベントのコントロールを移したユーザ。

UI 要素	説明
タイプ	特定のサーバへのイベントの転送方法を指定する。オプション:
	• 通知 : ターゲット・サーバは元のイベントを受信するが,それ以降の更新を受信 しない。
	• 通知して更新 : ターゲット・サーバは元のイベントとそれ以降の更新をすべて受 信する。
	 同期:ターゲット・サーバは元のイベントとそれ以降のすべての更新を受信し、 すべての更新を返送する。
	 同期してコントロールを移す:ターゲット・サーバは元のイベントと更新を受信し、すべての更新を返送する。イベントの所有権は別のサーバに移転される。
	このオプションは,選択した接続サーバで[同期および転送コントロールを有効 化]が有効になっている場合にのみ利用可能です。
	注: 転送テーブル内の転送エントリを別のサーバから受信した場合, このエン トリを送信したサーバが転送規則によって特定されます。
	詳細については,OMi 管理ガイドを参照してください。

イベント・フィルタ

フィルタを定義して、利用可能なイベントの一部のみがイベント・ブラウザに表示されるよう制限す ることができます。たとえば、重要度、割り当てられたユーザ、イベント・カテゴリ、またはライフ サイクル状態で、イベントをフィルタして表示することができます。また、フィルタしたイベントは 別のページに表示することもできます。イベント・ブラウザは動的に更新されます。関連時間フィル タに一致しなくなったイベントはイベント・ブラウザから削除され、一致する新しいイベントが追加 されます。

定義するフィルタは, [イベントフィルタの選択]ダイアログ・ボックスまたはイベント・ブラウザのフィルタ選択のドロップダウン・ボックスにあります。フィルタ選択のドロップダウン・ボックスには,常にアクティブなフィルタが表示されます。

詳細

フィルタの作成

フィルタの定義および編集は,イベント・ブラウザの [イベント フィルタの新規作成] ダイアロ グ・ボックスから行います。サンプル・フィルタの情報は, [一般], [日付], [追加のイベント プロパティ]タブの下にグループ化されています。サンプル・フィルタの定義とは,3つのタブで指 定したすべての情報の組み合わせです。

より複雑なフィルタを定義する詳細モードも使用できます。フィルタの詳細な定義は、プロパティと 演算子を組み合わせて[フィルタ定義]ペインで定義します。

フィルタの可用性

標準設定では,イベント・ブラウザ用のフィルタは作成したユーザのみに表示され,そのユーザのみ が使用できます。適切な OMi 管理権限を持つユーザは,既存のフィルタをユーザすべてが利用できる ようにしてフィルタを共有できます。

イベント・ブラウザ,クローズしたイベント・ブラウザ,監視ダッシュボード,OMiの多数の管理領 域で使用するフィルタを作成できます。

たとえば、[転送ルール]や[通知]の管理で使用されるフィルタはその管理領域に拘束され、ほか のコンテキストでは表示することも、使用することもできません。1つの観点の各インスタンスに は、別のフィルタを適用することが可能です。イベント・ブラウザ用に定義したフィルタはクローズ したイベント・ブラウザで利用でき、またその逆も可能です。ただし、イベント・ブラウザでは、未 解決のイベントとクローズしたイベントを同時に表示することはできません。

クローズしたイベント・ブラウザを使用してクローズしたイベントを調査する際,関心のある期間を まず指定します。その後,利用可能なイベントにフィルタを適用します。

フィルタリングの方法

大規模なIT環境では当然多数のイベントが生成されます。イベント・ブラウザには,アクティブな すべてのイベントが表示されるので,通知されるイベント数の増大に伴い,注意を要するイベント全 体を明確に理解することは次第に難しくなってゆきます。

存在する場合に次を組み合わせて, [Event Perspective] や [Health Perspective] (またはイベン ト・ブラウザおよびビュー・エクスプローラを含むパースペクティブ)などで使用すると, イベン ト・ブラウザのコンテンツをフィルタできます。

・ビュー

ビューでは、構成アイテムを論理的なセットとしてグループ化できます。ビューを選択すると、 イベント・ブラウザには選択したビューで指定した CI と関連するイベントしか表示されません。

• 構成アイテム

CI ツリーから1つ以上のCIを選択すると,選択したCIと関連するイベントしかイベント・ブラウ ザに表示されません。

• 構成アイテムのコレクション

CI ツリーで CI のコレクションを選択すると,イベント・ブラウザには選択したコレクションに含まれる CI と関連するイベントしか表示されません。

・ イベント・フィルタ

イベント・フィルタを適用すると、重要度、ライフサイクル状態、割り当て(所有権)などの条件でイベントをフィルタするルールを定義して、イベント・ブラウザに表示されるイベントのタ イプを制限できます。

イベント・ブラウザでは,すべてのユーザがアクセスできるように,イベント・フィルタを共有 できます。フィルタを共有するには,適切な権限を持っている必要があります。詳細について は,OMi 管理ガイドを参照してください。共有フィルタは,監視ダッシュボードのウィジェット で必要です。

• クイック・フィルタ

イベント・ブラウザのステータス・バーには、重要度別と、個々のユーザおよび個々のユーザ・ グループへの割り当て別のイベント数の要約が示されます。ステータス・バーの各重要度アイテ ムもクイック・フィルタとして使用できます。これを選択して、選択した重要度に対応するイベ ントを表示できます。複数のアイテムを選択して、複数の重要度をもったすべてのイベントを表 示できます。

・検索

イベントはまた,検索文字列によってフィルタすることもできます。イベント・ブラウザに表示 されているテキストから入力したテキスト文字列を検索し,指定の文字列を含むイベントのみを 表示する。このフィールドをクリアするとすべてのイベントが再度表示される。

利用可能なフィルタリング方法を組み合わせて適用すると、担当している最重要イベントのみを表示 できます。オペレータの担当に合わせた CI ツリー・リストを表示するビューを作成することができ ます。その後、オペレータは CI ツリーから CI を選択してすべての関連イベントを表示できます。ま たは、オペレータがフィルタを定義して、危険域および重要警戒域というラベルの付いたイベントの みを表示するようにもできます。CI の選択と、同フィルタの適用を併用すると、選択した CI の中の 危険域および重要警戒域のラベルが付いているすべてのイベントを表示できます。

フィルタの選択

[Event Browser] ペインの内容は,選択したビューまたは構成アイテム,および選択したイベント・フィルタによってフィルタできます。

イベント・ブラウザの内容のフィルタに使用したアクティブなビューまたは構成アイテムは、イベント・ブラウザのタイトルに示されます。たとえば、[ホストのリソース]というビューを選択した場合、イベント・ブラウザのタイトルには [Event Browser for Host Resources] と表示されます。選択したビューの名前も、イベント・ブラウザのステータス・バーに表示されます。

イベント・ブラウザを初めて開いたときは、フィルタは適用されません。 [イベント フィルタの選 択] が [Event Browser] のフィルタ適用済みリストに表示され、 [フィルタなし] がイベント・ブ ラウザのビュー・セレクタ・リストに表示されています。フィルタを選択すると、アクティブなイベ ント・フィルタの名前がフィルタの選択フィールドに表示されます。フィルタの選択をクリアするに は、 [フィルタなし] を選択します。イベント・ブラウザに対するフィルタはクリアされますが、必 要に応じて再適用できます。ビューを選択すると、アクティブなビューの名前がビュー・セレクタ・ フィールドに表示されます。ビューの選択をクリアするには、 [フィルタなし] を選択します。イベ ント・ブラウザからはビューはクリアされますが、必要に応じて再適用できます。管理者は、イベン ト・ブラウザのビューを事前に選択できます。事前に選択したビューに関連付けられているイベント のみが表示されるように、ロックされた [Event Browser] ページではビュー・セレクタが無効に なっています。

ビューを使用したイベントのフィルタ方法

このタスクでは,ビューを使用して,イベント・ブラウザに表示されるイベントをフィルタする方法 を説明します。イベント・ブラウザには,選択したビューに含まれる構成アイテムと関連するイベン トのみが表示されます。

ビューを使用してイベントをフィルタするには、次の手順を実行します。

1. 次の手順に従って [Event Perspective] または [Health Perspective] を開始します。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

- 2. 次のいずれかを実行します。
 - ビュー・エクスプローラの [ビューの参照] タブのビュー一覧から,適用するビューを選択します。
 - イベント・ブラウザで,ビュー・セレクタからビューを選択します。5つの最新の選択項目が、リストの最上部に表示されます。

イベント・ブラウザに表示されるイベントは,選択したビューに関連するイベントに制限され ます。イベント・ブラウザのタイトルは,選択したビューを示すように変更されます。

注:

- イベント・ブラウザのビュー・セレクタでビューを選択すると、ビュー・エクスプロー ラで選択した CI が無効になるように、OMi のパースペクティブが接続されます。
- 事前に選択したビューに関連付けられているイベントのみが表示されるように、ロック された[Event Browser]ページではイベント・ブラウザのビュー・セレクタが無効に なっています。

構成アイテムを使用したイベントのフィルタ方法

このタスクでは,構成アイテムを使用して,イベント・ブラウザに表示されるイベントをフィルタす る方法を説明します。イベント・ブラウザには,選択した構成アイテムと関連するイベントのみが表 示されます。

構成アイテムでイベントをフィルタするには,次の手順を実行します。

1. 次のように [Event Perspective] または [Health Perspective] など, イベント・ブラウザおよび ビュー・エクスプローラが含まれるパースペクティブを開始します。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

ビュー・エクスプローラの [ビューの参照] タブのビュー一覧から, 適用するビューを選択します。

2. イベント・フィルタで使用する1つ以上の構成アイテム, CI コレクション, またはこれらの組 み合わせを [View Explorer] ペインで選択します。

イベント・ブラウザには,ビュー・エクスプローラで選択した CI と関連するイベントのみが表示されます。

イベント・ブラウザに表示されるイベントは,選択した CI に関連するイベントに限定されま す。イベント・ブラウザのタイトルは,選択した CI を示すように変更されます。

選択した CI は、イベント・ブラウザのステータス・バーに表示されます。

注: ビュー・エクスプローラで CI を選択すると,イベント・ブラウザのビュー・セレクタで 選択したビューが無効になるように,OMi のパースペクティブが接続されます。

イベント・フィルタの表示および適用方法

このタスクでは,設定済みのイベント・フィルタを表示し,イベント・ブラウザに適用する方法を説 明します。

設定済みのイベント・フィルタを一覧表示するには,次の手順を実行します。

1. 次のように [Event Perspective] または [Health Perspective] など, イベント・ブラウザおよび ビュー・エクスプローラが含まれるパースペクティブを開始します。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

[フィルタ] リストからフィルタを選択します。

注: ビュー・リストからビューを選択した場合,その選択したビューによってイベント・ブラウザもフィルタされます。

イベント・ブラウザまたはクローズしたイベント・ブラウザから、 [イベント フィルタの選択] ダイアログ・ボックス (...)を開きます。

[イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスが開き,利用可能なイベント・フィルタが 表示されます。

- 3. 適用するイベント・フィルタを選択します。
- 4. オプション: [項目の編集] ダボタンを使用して [イベントフィルタの編集] ダイアログ・ボックスを開き,選択したフィルタを変更して [OK] をクリックします。
- 5. [OK] をクリックして選択したイベント・フィルタを有効にします。

フィルタを有効にすると、ブラウザの内容が直ちに更新されます。

選択したフィルタで必要な結果が表示されない場合,選択したイベント・フィルタを再定義するか,別のイベント・フィルタを選択します。

注: フィルタの選択をクリアするには、フィルタの選択ボックス(ビューおよびフィルタ) で [**フィルタなし**]を選択します。イベント・ブラウザのフィルター覧から選択したフィ ルタを削除すると、イベント・ブラウザには [フィルタなし] が自動適用されます。

シンプル・イベント・フィルタの定義方法

このタスクでは, [イベント フィルタの新規作成]ダイアログ・ボックスを使用して,イベント・ ブラウザまたはクローズしたイベント・ブラウザのシンプル・フィルタを設定する方法を説明しま す。

イベント・フィルタを定義するには、次の手順を実行します。

1. イベント・ブラウザまたはクローズしたイベント・ブラウザから、 [イベント フィルタの管理] (…)ボタンを使用して [イベント フィルタの選択] ダイアログ・ボックスを開きます。

[イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスが開き,利用可能なイベント・フィルタが 表示されます。

2. [イベント フィルタの選択] ダイアログ・ボックスの [新規作成] ** ボタンを使用し, [新規 シンプル フィルタ] を選択して, [イベント フィルタの新規作成] ダイアログ・ボックスを開 きます。

[イベントフィルタの新規作成]ダイアログ・ボックスが開きます。

- 3. 新しいフィルタの表示名と説明を入力します。
- 4. 表示されたタブ([一般], [日付], [追加のイベント プロパティ])を使用して新しい フィルタを設定します。

イベントの重大度が[危険域]であるなど, [イベント フィルタの新規作成]ダイアログ・ ボックスのフレーム内のいずれかの選択条件と一致するイベントがフィルタで選択されます。

イベントがフィルタで選択されるには,重要度が [危険域] で [割り当て先] が [自分] であ るなど,フレーム内での選択およびその他のすべてのフィルタ条件が一致する必要がありま す。

たとえば、同じペインで危険域および重要警戒域の重要度が選択されている場合、いずれかの 重要度のイベントが表示されます。別のペインで[割り当てなし]も選択されている場合、 ユーザへの割り当てがなく、しかも選択した重要度のいずれかを示すイベントのみが表示され ます。

注:

- 少なくとも1つのライフサイクル状態を選択する必要があります。
- 一致条件 [一致] と [次と一致しない] を使用して、フィルタでイベントと比較される 正規表現を指定できます。

パターンは, Java 正規表現クラス java.util.regex の構文を使用します。このクラスの正確な構文については, Java のオンライン・ドキュメントを参照してください。

正規表現を含むフィルタの処理には,正規表現のないフィルタよりも多くのリソースが 使用されるため,より簡単な別の方法を使用できない場合にのみ正規表現を使用するこ とをお勧めします。

5. オプション: [詳細に変換] を選択して詳細フィルタの定義モードに切り替え, さらにフィルタ の条件を細かく設定します。詳細については, 「詳細なイベント・フィルタの定義方法」(96 ページ)を参照してください。

注:詳細フィルタを変換してサンプル・フィルタに戻すことはできません。

6. [OK] をクリックして変更を保存します。

[イベント フィルタの新規作成] ダイアログ・ボックスが閉じられ,新しいイベントのフィル タが [イベント フィルタの選択] ダイアログ・ボックスのフィルター覧に追加されます。

 オプション:新しく作成したイベント・フィルタを選択して、[一致するイベントを検索] ボタンをクリックします。これによって、新しく定義したフィルタの結果を反映する新しい [Event Browser] ウィンドウが開きます。必要な結果がフィルタに表示されない場合、フィル タを再定義します。

[イベント フィルタの新規作成] ダイアログ・ボックスの詳細については,「[シンプルフィル タ]設定ダイアログ・ボックス」(101ページ)を参照してください。

詳細なイベント・フィルタの定義方法

このタスクでは, [イベント フィルタの新規作成]ダイアログ・ボックスを使用して,イベント・ ブラウザまたはクローズしたイベント・ブラウザに詳細なイベント・フィルタを設定する方法を説明 します。

詳細なイベント・フィルタを定義するには,次の手順を実行します。

イベント・ブラウザまたはクローズしたイベント・ブラウザから、 [イベント フィルタの管理] (…)ボタンを使用して [イベント フィルタの選択] ダイアログ・ボックスを開きます。

[イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスが開き,利用可能なイベント・フィルタが 表示されます。

 [イベント フィルタの選択] ダイアログ・ボックスの [新規作成] * ボタンを使用し、 [新規 詳細フィルタ] を選択して、 [イベント フィルタの新規作成] ダイアログ・ボックスを開きま す。

[イベントフィルタの新規作成]ダイアログ・ボックスが開きます。

注: または、 [新規サンプル フィルタ] を選択し、表示されたタブを使用して新しいフィル タ(一般,日付,および追加のイベント・プロパティ)に適したシンプルな設定を行いま す。これらの設定は、 [詳細に変換]を選択して詳細フィルタの定義モードに切り替えた 後に行う、詳細フィルタの設定の開始点となります。詳細については、「シンプル・イベ ント・フィルタの定義方法」(94ページ)を参照してください。

- 3. 新しいフィルタの表示名と説明を入力します。
- 4. オプション:シンプル・フィルタから開始した場合は, [詳細に変換]を選択して詳細フィルタの定義モードに切り替えます。

[詳細モード]では,演算子,プロパティ,式を組み合わせて正確にフィルタを指定できます。

注: 新規詳細なフィルタは新規サンプル・フィルタ・ビューで表示することができず,新規 詳細なフィルタ・ビューから新規サンプル・フィルタ・ビューに切り替えることはできま せん。

5. 説明などのプロパティと演算子を[フィルタ定義]ペインにドラッグして,フィルタの作成を 開始します。または要素または演算子を選択し, [追加] ジェクンを使用して,アクティブな フィルタの仕様に追加します。

[正規表現を編集]ダイアログ・ボックスに選択したプロパティ・タイプ用のエディタが開き ます。

- 6. [正規表現を編集] ダイアログ・ボックスには,次の2つの基本タイプがあります。文字列 フィルタおよび事前指定フィルタ:
 - 文字列フィルタを定義するには、次の手順を実行します。

選択したプロパティに[次を含む]などの一致条件を選択し,検索するテキスト文字列を指 定します。

ー致条件[一致]と[次と一致しない]を使用して,フィルタでイベントと比較される正規 表現を指定できます。

パターンは, Java 正規表現クラス java.util.regex の構文を使用します。このクラスの正確な 構文については, Java のオンライン・ドキュメントを参照してください。

正規表現を含むフィルタの処理には,正規表現のないフィルタよりも多くのリソースが使用 されるため,より簡単な別の方法を使用できない場合にのみ正規表現を使用することをお勧 めします。

オプション: [大文字と小文字を区別しない]を選択し,式で大文字と小文字を区別しないようにします。

■ 事前定義されたフィルタを指定するには、次の手順を実行します。

事前定義されたフィルタは,重要度,優先度,ライフサイクル状態,日付など,既知の範囲 の値を持つ属性の選択に使用します。

[次と等しい], [が次のうちの1つ], [true である], [次以前], [次以内]など, 選択したプロパティの一致条件を選択し,該当する場合は,重要度の値,優先度の値,日時,またはライフサイクル状態など1つ以上のオプションを選択します。 7. [OK]を選択して [正規表現を編集] ダイアログ・ボックスを閉じます。

8. 5~7の手順を繰り返し、フィルタの仕様に追加するフィルタ・コンポーネントを指定します。

エントリを変更する場合,それをダブルクリックします。式の仕様を変更する[説明を編集] ウィンドウが開きます。

9. [OK] をクリックして変更を保存します。

[イベント フィルタの新規作成]ダイアログ・ボックスが閉じられ,新しいイベントのフィル タが [イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスのフィルター覧に追加されます。

10. *オプション*:新しく作成したイベント・フィルタを選択して, [**一致するイベントを検索**] [▲] ボタンをクリックします。これによって, 新しく定義したフィルタの結果を反映する新しい [Event Browser] ウィンドウが開きます。必要な結果がフィルタに表示されない場合, フィル タを再定義します。

[イベントフィルタの新規作成] ダイアログ・ボックスの詳細については,「[詳細フィルタ] 設 定ダイアログ・ボックス」(105ページ)を参照してください。

イベント・フィルタを共有する方法

このタスクでは、既存のイベント・フィルタを共有する方法について説明します。

注:

イベント・ブラウザでは、すべてのユーザが適用できるように共有フィルタは利用可能になって います。共有フィルタを作成する権限をもったユーザのみが、共有フィルタを変更または削除で きます。[イベントフィルタ]のセレクタに表示されるイベント・フィルタのリストには、す べての共有フィルタと、現在のユーザによって作成されたフィルタが含まれます。共有フィルタ は、監視ダッシュボード用に使用する必要があります。

共有フィルタは、コンテンツ・マネージャを使用してエクスポートできます。非公開フィルタを エクスポートすることはできません。

イベント・フィルタを共有するには、次の手順を実行します。

1. フィルタを共有する権限を持っていることを確認します。この権限は,次のように設定できま す。

[管理] > [ユーザ] > [ユーザ, グループ, およびロール]

フィルタの共有を有効にするには、**[共有フィルタ**]を選択し、**[フル コントロール**]の下の [操作] タブで [許可] を選択します。 2. 共有するフィルタをイベント・ブラウザで選択します。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで, [イベント フィルタの管理] (…)ボタンを使用して [イベントフィルタの選択] ダイアログ・ボックスを開きます。 [イベント フィルタの選択] ダイアログ・ ボックスには,利用可能なイベント・フィルタのリストが表示されます。フィルタを選択しま す。

3. [共有項目] 🧐 ボタンを使用して,フィルタを共有します。

注: 共有フィルタを非公開フィルタに戻すことはできません。共有フィルタを削除すること はできます。ただし,他のどのユーザがすでにそれを使用中であるかは分かりません。共 有フィルタを非公開フィルタとして使用する場合は,複製してから削除します。

フィルタ・マネージャのユーザ・インタフェース

[イベントフィルタの選択] および [イベントフィルタの管理] ダイアログ・ボックスには,アク ティブなユーザが現在のブラウザまたはマネージャに設定したフィルタの一覧が表示されます。フィ ルタは,設定済みのイベント・フィルター覧から選択および適用したり,既存のフィルタを編集また は削除して新しいフィルタを作成したり,テストすることができます。

そのほかのフィルタのインタフェース要素の詳細については、次のトピックで説明します。

- 「[イベントフィルタの選択]ダイアログ・ボックスおよび[イベントフィルタの管理]ダイアログ・ボックス」(99ページ)
- 「[シンプルフィルタ]設定ダイアログ・ボックス」(101ページ)
- 「[詳細フィルタ] 設定ダイアログ・ボックス」(105ページ)
- 「詳細フィルタの[正規表現を編集]ダイアログ・ボックス」(111ページ)
- 「[フィルタ構成]ダイアログ・ボックスで使用する演算子」(116ページ)

[イベント フィルタの選択] ダイアログ・ボックスおよび [イベント フィルタの管理] ダイアログ・ボックス

アクセ[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>
ス方法
[イベント フィルタの管理] (...) ボタンを使用して [イベント フィルタの選択] ダイ アログ・ボックスを開きます。

関連タ	イベントのフィルタ方法については、次を参照してください。
X7	• 「ビューを使用したイベントのフィルタ方法」(92ページ).
	• 「構成アイテムを使用したイベントのフィルタ方法」(93ページ).
	• 「イベント・フィルタの表示および適用方法」(93ページ).
	• 「シンプル・イベント・フィルタの定義方法」(94ページ).
	• 「詳細なイベント・フィルタの定義方法」(96ページ).
関連情 報	イベントのフィルタの詳細については, 「フィルタリングの方法」(90ページ)および 「イベント・フィルタ」(89ページ)を参照してください。

[イベント フィルタの選択] および [イベント フィルタの管理] ダイアログ・ボックスには,次の 表の UI 要素が表示されます。

UI 要素	説明
C	利用可能なフィルタの一覧に表示されるフィルタ・データを, データベース内の 最新の情報と同期する。
*	選択ボックスが開き,指定するフィルタのタイプとして シンプル・フィルタ また は 詳細フィルタ を選択できます。 [イベント フィルタの新規作成] ダイアロ グ・ボックスが開き,新しいイベント・フィルタを作成および定義できます。 新しいフィルタを保存するには, [OK] をクリックする。
G	選択したフィルタのコピーを作成し, [イベント フィルタの新規作成]設定ダ イアログ・ボックスを開く。
0	変更するために選択したイベント・フィルタを変更する [イベント フィルタの 編集] ダイアログ・ボックスを開く。 [OK] をクリックし,選択したイベント・フィルタに加えた変更を保存する。
×	選択したイベント・フィルタ用に[イベント フィルタの削除]ダイアログ・ ボックスを開く。 選択したフィルタの注釈を削除するには,[はい]をクリックする。
6)	標準設定に復元:カスタマが変更した出荷時の事前定義されたフィルタを,出荷時の標準設定バージョンに戻します。
	このオフションは,純粋にカスタマによって足義されたルールには利用できません。 ん。

UI 要素	説明
-®,	共有項目 :イベント・ブラウザ・フィルタのみ。すべてのユーザが使用できるよう,選択したイベント・フィルタを共有する。共有フィルタを作成する権限を もったユーザのみが,共有フィルタを変更または削除できます。[イベント フィルタの選択]に表示されるイベント・フィルタのリストの内容には,すべて の共有フィルタと,現在のユーザによって作成されたフィルタが示されます。
P	一致するイベントを検索 :イベント・ブラウザのポップアップ・ウィンドウに選 択したフィルタと一致するイベントを表示する。イベント・ブラウザに適用する 前にイベント・フィルタをテストするのに便利。

[シンプル フィルタ] 設定ダイアログ・ボックス

[シンプルフィルタ]設定ダイアログ・ボックスには、イベントを表示する前のフィルタの実行に 使用する属性が表示されます。属性は1つのみ使用することも組み合わせて使用することもできま す。

アクセ ス方法	[ワークスペース]>[操作コンソール]> <パースペクティブの選択>	
	[イベント フィルタの管理](…)ボタンを使用して[イベント フィルタの選択]ダイ アログ・ボックスを開きます。	
関連タ	イベントのフィルタ方法については、次を参照してください。	
~	• 「ビューを使用したイベントのフィルタ方法」(92ページ)	
	• 「構成アイテムを使用したイベントのフィルタ方法」(93ページ)	
	• 「イベント・フィルタの表示および適用方法」(93ページ)	
	• 「シンプル・イベント・フィルタの定義方法」(94ページ)	
	• 「詳細なイベント・フィルタの定義方法」(96ページ)	
	• 「イベント・フィルタを共有する方法」(98ページ)	
関連情 報	イベントのフィルタの詳細については, 「フィルタリングの方法」(90ページ)および 「イベント・フィルタ」(89ページ)を参照してください。	

フィルタ構成タブに表示される情報の詳細については、次の項を参照してください。

- 「共通のボタンおよびアイコン」(102ページ)
- 「[一般] タブ」(102ページ)

OMi ユーザ・ガイド 第6章: イベント・ブラウザ

- 「[日付] タブ」(103ページ)
- 「[追加のイベントプロパティ] タブ」(104ページ)

共通のボタンおよびアイコン

フィルタ構成ウィンドウには、次の表の UI 要素が表示されます。

UI 要 素	説明	
詳細 に変 _換	より包括的なフィルタを定義する[詳細モード]を開く。詳細については, ント・フィルタの定義方法」(96ページ)を参照してください。	「詳細なイベ
X	注: 詳細フィルタは [新規サンプル フィルタ] ビューでは表示できません。	

[一般] タブ

[シンプルフィルタ]設定ダイアログ・ボックスの[一般]タブには,次の表の UI 要素が表示されます。

UI 要素	説明
割り当て 先	検索するイベントが割り当てられているユーザまたはユーザ・グループ。複数の割り 当て先を選択できます。たとえば、 [自分] と [なし] を選択できます。
カテゴリ	フィルタ・オプションとして使用するイベントのカテゴリ。たとえば、DB,ストレー ジ,システム,WebApp などです。
相関処理	検索対象として全イベント,上位レベルのイベントのみ,要因イベントのみのオプ ションを選択します。
	すべてのイベント : ほかのイベントの症状として相関処理されるイベントを含むすべ てのイベント。
	上位レベルのすべてのイベント : 別のイベントの症状として分類されないすべてのイ ベント。
	すべての要因イベント : 根本要因イベントであるすべてのイベント。ほかの要因イベ ントの症状にすることはできません。
説明	元のイベントの説明フィールドの内容に表示されているイベントの説明。

UI 要素	説明
ライフサ イクル状 態	検索しているイベントが到達している,未解決,実行中,解決済み,クローズ済みな どの問題のライフサイクルの段階。複数のライフサイクル状態が選択できます。
優先度	なし,低,中など,指定の優先度と一致するイベントを検索します。複数の優先度を 選択できます。
重要度	フィルタ・オプションとして使用するイベントの重要度。複数の重要度を選択できま す。
サブカテ ゴリ	検索しているイベントが属するイベント・サブカテゴリの名前。
タイトル	検索しているイベントのタイトル。
タイプ	フィルタで表示するイベントのタイプ。

[日付] タブ

[シンプルフィルタ]設定ダイアログ・ボックスの[日付]タブには,次の表の UI 要素が表示されます。

UI 要素	説明
絶対時間	絶対(カレンダー)条件での日付と時刻を指定します。時刻は, カレンダー日 付と時間値(時および分)を入力して指定できます。
関連時間	イベントのフィルタで使用する時間点を指定します。指定した時刻の前または 後のイベントは,次のような演算子を使用して選択できます。
	• 次以内
	時間間隔は,分,時,日,または週単位で指定できます。
	注: イベント・ブラウザは動的に更新されます。関連時間フィルタに一致し なくなったイベントはイベント・ブラウザから削除され,一致する新しい イベントが追加されます。
作成時間	検索しているイベントが発生した日時。

UI 要素	説明
ライフサイクル 状態が変更され た時間	ライフサイクル状態の最後の変更日時。
受信時間	検索しているイベントの通知を OMi が最初に受信した日時。

[追加のイベント プロパティ] タブ

[シンプル フィルタ] 設定ダイアログ・ボックスの [追加のイベント プロパティ] タブには,次の 表の UI 要素が表示されます。

UI 要 素	説明
アプリ ケー ション	指定したアプリケーションにリンクされているイベントを選択します。
CI タ イプ	指定した CI タイプまたは指定した CI タイプの子と関連するイベントを検索するオプションを選択します。CI タイプをフィルタする場合の専用演算子は次のとおりです。
	• 次と等しい:関連 CI が指定の CI タイプと一致する。
	• 派生元:関連 CI が指定した CI タイプから派生している。
カスタ ム属性	フィルタリングで使用するカスタム属性,演算子,値を選択するカスタム属性エディタを 選択します。
	カスタム属性のフィルタは,左のフィールドでカスタム属性名を指定し,リストからフィ ルタの一致条件を選択し,右のフィールドでカスタム属性値を指定して定義します。
	注: 詳細モードでは,さらにカスタム属性の仕様を指定できます。それには利用可能 な任意の演算子を使用して関連付けを行います。
+-	指定したキーへの参照を含むイベントを選択します。
オブ ジェク ト	HPOM の元のメッセージで指定されているオブジェクトと関連するイベントを選択しま す。

UI 要 素	説明
元の データ	HPOM のメッセージにフォーマット化する前の,HP Operations Agent からキャプチャした イベントの元のテキスト。
	HP Operations Agent のポリシーを使用してメッセージに標準化する前の,元の入力情報 が含まれます。通常,ノード名,メッセージ・グループ,アプリケーション,オブジェク ト,重要度,メッセージ・テキストなどの情報が示されます。
ソ リュー	イベントで特定された問題を解決するために取られたソリューション手順を説明するテキ スト・フィールド。
ション	ソリューション・テキストを, サービス・マネージャなどの外部マネージャに同期できま す。

[詳細フィルタ] 設定ダイアログ・ボックス

[詳細フィルタ]設定ダイアログ・ボックスには、イベントを表示する前のフィルタの実行に使用する属性が表示されます。属性は1つのみ使用することも組み合わせて使用することもできます。

アクセ	[ワークスペース]>[操作コンソール]> <パースペクティブの選択>
ス方法	[イベント フィルタの管理](…)ボタンを使用して[イベント フィルタの選択]ダイ アログ・ボックスを開きます。
関連タ	イベントのフィルタ方法については,次を参照してください。
X9	• 「ビューを使用したイベントのフィルタ方法」(92ページ)
	• 「構成アイテムを使用したイベントのフィルタ方法」(93ページ)
	• 「イベント・フィルタの表示および適用方法」(93ページ)
	• 「シンプル・イベント・フィルタの定義方法」(94ページ)
	• 「詳細なイベント・フィルタの定義方法」(96ページ)
	• 「イベント・フィルタを共有する方法」(98ページ)
関連情 報	イベントのフィルタの詳細については, 「フィルタリングの方法」(90ページ)および 「イベント・フィルタ」(89ページ)を参照してください。

フィルタ構成タブに表示される情報の詳細については、次の項を参照してください。

OMi ユーザ・ガイド 第6章: イベント・ブラウザ

- 「詳細フィルタ設定」(106ページ)
- 「一般的なフィルタ要素」(106ページ)
- 「日付フィルタ要素」(107ページ)
- 「追加のイベント・プロパティ・フィルタ要素」(108ページ)
- 「詳細なプロパティ・フィルタ要素」(109ページ)

詳細フィルタ設定

フィルタの一致条件リストには、次の表の UI 要素が表示されます。

UI 要素	説明
Ø	変更するために選択したイベント・フィルタ要素を変更する [説明を編集] ダイアログ・ ボックスを開きます。
	[OK]をクリックすると、変更するイベント・フィルタ要素に適用できます。
×	選択したイベント・フィルタ仕様から選択したイベント・フィルタ要素を削除します。
R	トグルして、フィルタ仕様をフル・ビューまたはコンパクト・ビューで表示します。
÷	新しい要素を追加し,新しく追加された要素の [式] ダイアログ・ボックスを開きます。
説明 を編 集	記述するフィルタ・コンボーネントの定義(フィルタ定義に含める選択した属性の値など) を指定するためのダイアログ・ボックス。
フィ ルタ 定義	フィルタを定義するために選択したコンポーネントが含まれます。プロパティは値と関連付 けられ,演算子を使用して結合されます。
フィ ルタ 要素	詳細なフィルタの指定に使用する,利用可能な演算子およびプロパティが含まれます。フィ ルタの定義ペインに必要なプロパティまたは演算子をそれぞれドラッグし,フィルタの論理 的な場所にドロップします。フィルタ定義のエントリを編集または削除するには,ボタンを 使用するか,変更する式をダブルクリックします。

一般的なフィルタ要素

[詳細フィルタ]設定ダイアログ・ボックスの [一般] 要素には,次の表の UI 要素が表示されます。

UI 要素	説明
割り当て 先	検索するイベントが割り当てられているユーザまたはユーザ・グループ。複数の割り 当て先を選択できます。たとえば, [自分] と [なし] を選択できます。
カテゴリ	フィルタ・オプションとして使用するイベントのカテゴリ。たとえば、DB,ストレー ジ,システム,WebApp などです。
相関処理	検索対象として全イベント,上位レベルのイベントのみ,要因イベントのみのオプ ションを選択します。
	すべてのイベント : ほかのイベントの症状として相関処理されるイベント。
	上位レベルのすべてのイベント : 要因の割り当てがないすべてのイベント。
	すべての要因イベント: 根本の要因イベントであるすべてのイベント。ほかの要因イ ベントの症状にすることはできません。
説明	元のイベントの説明フィールドの内容に表示されているイベントの説明。
ライフサ イクル状 態	検索しているイベントが到達している,未解決,実行中,解決済み,クローズ済みな どの問題のライフサイクルの段階。複数のライフサイクル状態が選択できます。
優先度	なし,低,中など,指定の優先度と一致するイベントを検索します。複数の優先度を 選択できます。
重要度	フィルタ・オプションとして使用するイベントの重要度。複数の重要度を選択できま す。
サブカテ ゴリ	検索しているイベントが属するイベント・サブカテゴリの名前。
タイトル	検索しているイベントのタイトル。
タイプ	フィルタで表示するイベントのタイプ。

日付フィルタ要素

[詳細フィルタ]設定ダイアログ・ボックスの[日付]要素には,次の表の UI 要素が表示されます。

UI 要素	説明
<絶対時間>	絶対(カレンダー)条件での日付と時刻を指定します。時刻は,カレンダー日付と 時間値(時および分)を入力して指定できます。指定した時刻の前または後のイベ ントは,次のような演算子を使用して選択できます。 ・次の前
	• 次の後
<関連時間>	イベントのフィルタで使用する,現在の時刻を基準にした時間点を指定します。現 在の時刻よりも古いまたは新しいイベントは,次のような演算子を使用して選択で きます。
	• 次以上
	• 次以内
	時間間隔は,分,時,日,または週単位で指定できます。
	注: イベント・ブラウザは動的に更新されます。関連時間フィルタに一致しな くなったイベントはイベント・ブラウザから削除され,一致する新しいイベン トが追加されます。
作成時間	検索しているイベントが発生した日時。
ライフサイ クル状態が 変更された 時間	ライフサイクル状態の最後の変更日時。
受信時間	検索しているイベントの通知を OMi が最初に受信した日時。

追加のイベント・プロパティ・フィルタ要素

[詳細フィルタ]設定ダイアログ・ボックスの[追加のイベントプロパティ]要素には、次の表の UI要素が表示されます。

UI 要素	説明
アプリケー ション	指定したアプリケーションにリンクされているイベントを選択します。
UI 要素	説明
-------------------------------	--
CI タイプ	指定した CI タイプまたは指定した CI タイプの子と関連するイベントを検索するオプ ションを選択します。CI タイプをフィルタする場合の専用演算子は次のとおりで す。
	• 次と等しい : 関連 CI が指定の CI タイプと一致する。
	• 派生元:関連 CI が指定した CI タイプから派生している。
カスタム属 性	フィルタリングで使用するカスタム属性, 演算子, 値を選択するカスタム属性エ ディタを選択します。
	カスタム属性のフィルタは,左のフィールドでカスタム属性名を指定し,リストか らフィルタの一致条件を選択し,右のフィールドでカスタム属性値を指定して定義 します。
イベント・ タイプ・イ ンジケータ	イベント・タイプ・インジケータ(ETI)でフィルタできます。任意の演算子を使用 して複数のインジケータを結合できます。
イベント・ タイプ・イ ンジケータ の値	イベント・タイプ・インジケータ(ETI)値でフィルタできます。
+-	指定したキーへの参照を含むイベントを選択します。
オブジェク ト	HPOM の元のメッセージで指定されているオブジェクトと関連するイベントを選択 します。
元のデータ	HPOM のメッセージにフォーマット化する前の,HP Operations Agent からキャプ チャしたイベントの元のテキスト。
	HP Operations Agent のポリシーを使用してメッセージに標準化する前の,元の入力 情報が含まれます。通常,ノード名,メッセージ・グループ,アプリケーション, オブジェクト,重要度,メッセージ・テキストなどの情報が示されます。
ソリュー ション	イベントで特定された問題を解決するために取られたソリューション手順を説明す るテキスト・フィールド。
	ソリューション・テキストを,サービス・マネージャなどの外部マネージャに同期 できます。

詳細なプロパティ・フィルタ要素

[詳細フィルタ]設定ダイアログ・ボックスの[詳細プロパティ]要素には、次の表の UI 要素が表示されます。

UI 要素	説明
割り当てられた ユーザ	ユーザに割り当てられているか割り当てられていないイベント,または特定の ユーザに割り当てられているイベントを選択します。
割り当て済み ワークグループ	グループに割り当てられているか割り当てられていないイベント,または特定 のグループに割り当てられているイベントを選択します。
自動アクション 状態	指定した自動アクション状態のいずれかを示すイベントを選択します。次の状 態があります。
	• 利用可能
	• 実行中
	• 成功
	• 失敗
	• 利用不可
CI 解決の品質の 測定値	指定した CI 解決の品質の測定値に適合するイベントを選択します。
CI 解決の成功の ステータス	指定した CI 解決の成功のステータスのイベントを選択します。
移転されたコン トロール	コントロールが外部サーバに移転されたか,または外部サーバに移転されな かったイベントを選択します。
ETI ヒント	指定した ETI 解決のヒントのイベントを選択します。
外部 ID	指定した外部 ID のイベントを選択します。
命令インタ フェース名	指定した命令インタフェース名のイベントを選択します。
命令パラメータ 文字列	指定した命令パラメータ文字列のイベントを選択します。
ダウンタイムで 受信済み	ダウンタイムで受信済みしたか,またはダウンタイムで受信済みしなかったイ ベントを選択します。
関連 Cl のヒン ト	指定した関連 CI のヒントのイベントを選択します。

UI 要素	説明
ユーザ・アク ション状態	指定したユーザ・アクション状態のいずれかを示すイベントを選択します。次 の状態があります。
	• 利用可能
	• 実行中
	• 成功
	• 失敗
	• 利用不可

詳細フィルタの [正規表現を編集] ダイアログ・ボックス

[詳細フィルタ] 設定ダイアログ・ボックスには,指定する説明のタイプに専用の[説明を編集]ダイアログ・ボックスが組み込まれています。次の項では,それらの[説明を編集]ダイアログ・ボックスについて説明します。

アクセ	[ワークスペース]>[操作コンソール]> <パースペクティブの選択>
ス万法	[イベント フィルタの管理](…)ボタンを使用して[イベント フィルタの選択]ダイ アログ・ボックスを開きます。
関連タ	イベントのフィルタ方法については,次を参照してください。
77	• 「ビューを使用したイベントのフィルタ方法」(92ページ)
	• 「構成アイテムを使用したイベントのフィルタ方法」(93ページ)
	• 「イベント・フィルタの表示および適用方法」(93ページ)
	• 「シンプル・イベント・フィルタの定義方法」(94ページ)
	• 「詳細なイベント・フィルタの定義方法」(96ページ)
	• 「イベント・フィルタを共有する方法」(98ページ)
関連情 報	イベントのフィルタの詳細については, 「フィルタリングの方法」(90ページ)および 「イベント・フィルタ」(89ページ)を参照してください。

[[]説明を編集] ダイアログ・ボックスの詳細については、次の項を参照してください。

OMi ユーザ・ガイド 第6章: イベント・ブラウザ

- •「事前設定リストに含まれる属性」(112ページ)
- •「テキスト文字列によって特定される属性」(112ページ)
- 「カスタム属性」(113ページ)
- 「日付別に選択されたイベント」(113ページ)
- 「CIタイプ」(114ページ)
- 「リストからの属性の選択」(114ページ)
- 「数値」(115ページ)
- 「 [True] または [False] 」(115ページ)

事前設定リストに含まれる属性

この[説明を編集]ダイアログ・ボックスは,通常,属性の組み合わせを選択する場合(たとえば, 現在のユーザに割り当てられているイベントおよびどのユーザにも割り当てられていないイベント) に使用します。

正規表現を編集	
割り当て先 はそのうち 1 つの	☑ 🎝 自分
	📄 🔊 その他
	🗹 🦙 なし
	UK キャンセル

イベントの一覧に含める選択可能なイベント属性を1つ以上選択してください。

テキスト文字列によって特定される属性

[説明を編集] ダイアログ・ボックスは,通常,値との間に指定された関係がある属性(たとえば, カテゴリ値が [database] になっているイベント)を選択する場合に使用します。選択項目の大文字 と小文字は区別されません。

正規表現る	を編集	
カテゴリ	次と等しい 💙 database	
✓ 大文字	と小文字を区別しない	
	OK キャンセル	

選択した属性について,検索するテキスト文字列を入力し,属性とその値の間の関係を確立する演算 子を選択します。利用可能な演算子の詳細については,「テキスト演算子」(117ページ)を参照して ください。

[大文字と小文字を区別しない]を選択し、指定したテキストをすべての形式で検索してください。

カスタム属性

この[正規表現を編集]ダイアログ・ボックスは,値との間に指定された関係があるカスタム属性 (たとえば,値が true になっているカスタム属性 ForwardToTroubleTicket を含むイベント)を選択 する場合に使用します。選択項目の大文字と小文字は区別されません。

正規表現を編	集			
カスタム 属性 🛃 大文字と小	ForwardToTroubleT 文字を区別しない	次と等しい	► true	
			OK	キャンセル

指定したカスタム属性について,検索する属性値のテキスト文字列を入力し,カスタム属性とその値の間の関係を確立する演算子を選択します。利用可能な演算子の詳細については,「テキスト演算子」(117ページ)を参照してください。

[大文字と小文字を区別しない]を選択し、指定したテキストをすべての形式で検索してください。

日付別に選択されたイベント

この[説明を編集]ダイアログ・ボックスは,作成日付,受信日付,またはライフサイクル状態が遷移した時期に応じてイベントを選択する場合に使用します。この例では,4時間よりも前に作成されたイベントが選択されます。

正規表現	を編集		
作成時間	次以上	~	4 🔷 時間 🖌
			OK キャンセル

選択した属性について,該当するイベントの特定に使用する時刻および演算子を入力します。利用可 能な演算子の詳細については,「日付演算子」(116ページ)を参照してください。

CIタイプ

この[説明を編集]ダイアログ・ボックスは,指定したCIタイプに関連したイベント,または指定したCIタイプから派生したCIタイプに関連したイベントを選択する場合に使用します。この例では,CIタイプ「Computer」から派生したCIタイプのイベントが選択されます。

正規表現を	編集			
CI タイプ	派生元	~	Computer	~
			ОК	キャンセル

[CI タイプの選択] ダイアログ・ボックス(…)から CI タイプを選択し,演算子(「次と等しい」または「派生元」)を選択します。

• 次と等しい:関連 CI が,指定した CI タイプと一致する

• 派生元: 関連 CI が,指定した CI タイプから派生している

リストからの属性の選択

この[説明を編集]ダイアログ・ボックスは,通常,事前定義リストから1つの属性を選択する場合 (たとえば,ワークグループに割り当てられたイベント)に使用します。

正規表現を編集	
○ イベントがどのワークグループにも割り当てられてい	ます
 イベントがワークグループに割り当てられていません 	
● イベントがワークグループに割り当てられています	~
	UK キャンセル

イベントのリストに含めるイベント属性を1つ選択し、必要に応じて、その属性の値を指定します (たとえば、「Administrators」と呼ばれるワークグループ)。

数値

この[説明を編集]ダイアログ・ボックスは,通常,数値との間に指定された関係がある属性(たと えば, [CI解決の品質の測定値]の値が3以上なっているイベント)を選択する場合に使用します。

正規表現を編集			
CI 解決の品質の測定値	次以上	~	3
		ОК	キャンセル

イベント属性の値を選択し、イベント属性とその値の間の関係を確立する演算子を選択します。利用 可能な演算子の詳細については、「数値演算子」(116ページ)を参照してください。

[True] または [False]

この[説明を編集]ダイアログ・ボックスは,通常,設定中のイベント属性の属性値として[True] または[False]を選択する場合(たとえば, [移転されたコントロール]が[False])に使用します。

正規表現を編集
移転されたコントロール !!!opr.fx.af.statement.is!!! 🔵 True ● False
OK キャンセル

設定中のイベント属性について, [True] または [False] を選択します。

[フィルタ構成] ダイアログ・ボックスで使用する演算子

詳細フィルタ設定ダイアログ・ボックスでは、次の表にある演算子がサポートされています。

- 「日付演算子」(116ページ)
- 「数値演算子」(116ページ)
- 「テキスト演算子」(117ページ)
- 「True False の演算子」(118ページ)

日付演算子

次の表に,日付の式で使用する演算子の一覧を示します。

演算子	説明
次の後	絶対時間を指定すると,指定した時間よりもタイムスタンプが新しいイベントが選 択されます。
次の前	絶対時間を指定すると,指定した時間よりもタイムスタンプが古いイベントが選択 されます。
次以内	関連時間を指定すると,選択した時点よりもタイムスタンプが新しい(たとえば, [1日よりも新しい])イベントが選択されます。
次以上	関連時間を指定すると,選択した時点よりもタイムスタンプが古い(たとえば, [1 日よりも古い])イベントが選択されます。

数値演算子

次の表に、数式で使用する演算子の一覧を示します。

演算子	説明
=	指定した値と同じ,選択した属性と同じ属性を持つすべてのイベントを表示する。
<	指定した値より小さい,選択した属性と同じ属性を持つすべてのイベントを表示す る。
<=	指定した値と同じであるか小さい,選択した属性と同じ属性を持つすべてのイベント を表示する。たとえば[CI 解決の品質の測定値]として値 33 を選択すると,CI 解決 の品質の測定値が 33% 未満のすべてのイベントが表示される。
>	指定した値より大きい,選択した属性と同じ属性を持つすべてのイベントを表示す る。
>=	指定した値と同じであるか大きい,選択した属性と同じ属性を持つすべてのイベント を表示する。たとえば[CI 解決の品質の測定値]として値 50 を選択すると,CI 解決 の品質の測定値が 50% を超えるすべてのイベントが表示される。

テキスト演算子

次の表に、テキスト式で使用する演算子の一覧を示します。

演算子	説明
次を含む	選択した属性に指定した文字列への参照を含むすべてのイベントを表示する。たとえば、「データベース」を含むすべての文字列を検索すると、次が返されます。
	• データベース
	• データベースのステータス
	• Oracle データベースのステータス
次と等し い	指定した文字列と同じ属性または属性値を持つすべてのイベントを表示する。たとえば,「データベース」と等しいカテゴリ・タイプのイベントを検索すると,次のカテ ゴリのイベントが返されます。
	・ データベース
存在する	指定した文字列のカスタム属性を含むイベントを表示する。たとえば, 「 ABC 存在す る」では,カスタム属性 ABC を含むすべてのイベントが表示されます。

演算子	説明
一致	指定した正規表現と一致するすべてのイベントを表示する。
	パターンは,Java 正規表現クラス java.util.regex の構文を使用します。このクラスの 正確な構文については,Java のオンライン・ドキュメントを参照してください。
	正規表現を含むフィルタの処理には,正規表現のないフィルタよりも多くのリソース が使用されるため,より簡単な別の方法を使用できない場合にのみ正規表現を使用す ることをお勧めします。
次を含ま ない	選択した属性に指定した文字列への参照が含まれないすべてのイベントを表示する。 データベースを含まない文字列を検索すると,次のようにデータベースを含まないす べての文字列が返される。 • 青い月
	• その他のすべて
等しくな い	指定した文字列と同じでない属性を持つすべてのイベントを表示する。たとえば,イ ベント・カテゴリがデータベースとは同一でないものを検索すると,データベースと は同一でないカテゴリを持つイベントが返されます。次などのイベント属性が返され ます。
	• ストレージ
	• DB
	• ネットワーク
次と一致	指定の正規表現と一致しないすべてのイベントが表示される。
しない	パターンは,Java 正規表現クラス java.util.regex の構文を使用します。このクラスの 正確な構文については,Java のオンライン・ドキュメントを参照してください。
	正規表現を含むフィルタの処理には,正規表現のないフィルタよりも多くのリソース が使用されるため,より簡単な別の方法を使用できない場合にのみ正規表現を使用す ることをお勧めします。

True - False の演算子

次の表に, True および False 式で使用する演算子の一覧を示します。

演算子	説明
False	false の場合に属性をマッチングするために使用します。
True	true の場合に属性をマッチングするために使用します。

トラブルシューティングと制限事項

このセクションでは,フィルタの作成,変更,有効化など,OMiのイベント・フィルタの問題のトラブルシューティングについて説明します。

イベントのフィルター覧にフィルタが表示されない

- アクティブなユーザがフィルタを所有していない。
- フィルタは、作成された領域でのみ利用可能。たとえば [Event Browser] のフィルタは管理 UI では使用できない。

イベントが表示されない

- 正しいフィルタが有効になっていることを確認する。
- 現在有効なフィルタが正しく設定されていることを確認する。
- 現在適用されている CI またはビューが、表示するイベントをフィルタリングしていないことを確認する。

イベントの終了とアーカイブ用のツール

コマンドライン・ツール opr-close-events および opr-archive-events を使用して,イベントを終了, アーカイブできます。

両方のコマンドライン・ツールはデータ処理サーバのみで利用可能で,権限を持たないユーザは実行 できないようになっています。

詳細

本項の内容

- 「opr-close-events コマンドライン・インタフェース」(120ページ)
- 「opr-archive-events コマンドライン・インタフェース」(120ページ)
- 「「HPOM イベント」」(120ページ)

opr-close-events コマンドライン・インタフェース

注意: このツールは、オフラインでの実行のみを対象としています。

IT 環境では、特定の問題により、同様のイベントが大量に生成され(イベント・ストーム)、OMi に 送信されることがあります。それらの大量のイベントの参照、フィルタには時間がかかり、タイムア ウト・エラーとなることがあります。たとえば、イベント・ストームが発生した後で、opr-closeevents CLI を使用して、特定のノード、関連 CI、またはノードと関連 CI の組み合わせに関連するすべ てのアクティブなイベントを終了できます。

タイムアウトは、たとえば、ブラウザのイベントをすべての選択して閉じるなど、Web アプリケー ションで大量のイベントを処理する結果として発生します。ユーザ・インタフェース・サーバでは、 起動に時間がかかったり、メモリのボトルネックが生じます。

OMi ユーザ・インタフェースに応答がない場合, opr-close-events コマンドライン・インタフェー ス・ツールを使用すると,イベント・ストーム時に発生する,関連イベントを含む大量のイベントを 終了できます。

opr-close-events コマンド・オプションの詳細については, 「opr-close-events コマンドライン・インタフェース」(123ページ)を参照してください。

opr-archive-events コマンドライン・インタフェース

クローズしたイベントは,データベースから自動的に削除されません。データベース保守用のコマン ドライン・ツール opr-archive-events では,終了したイベントをアーカイブできます。指定した終了 イベントは XML 形式のファイルにエクスポートされます。これらのイベントはアーカイブ時にデー タベースから削除されます。

注:終了イベントのインポートはサポートしていません。

opr-archive-events コマンド・オプションの詳細については, 「opr-archive-events コマンドライン・インタフェース」(121ページ)を参照してください。

「HPOM イベント」

イベントの終了,削除,アーカイブに, opr-close-events ツールおよび opr-archive-events ツールを 使用した場合,HPOM イベントは更新されません。HPOM のイベントは影響を受けません。

また,イベントの終了,削除,アーカイブに,omwmsgutil (HPOM for Windows) ツール,opcack お よび opchistdown (HPOM for UNIX) ツールを使用した場合にも,イベントは更新はされません。OMi のイベントは影響を受けません。

これらすべてのツールはそれぞれのデータベースに直接作用し、変更がワークフロー・プロセスを経ることがないため、結果として OMi および HPOM 間で同期されません。

これらのツールを使用してあるシステム(OMi など)のイベントを終了,削除,アーカイブした場合 は,適切なツールを使用して同一の変更をその他のシステム(HPOM など)でも行う必要がありま す。

opr-archive-events コマンドライン・インタフェース

クローズしたイベントは,データベースから自動的に削除されません。opr-archive-events コマンド ライン・インタフェースを使用してデータベースからクローズしたイベントを削除し,アーカイブ・ ファイルに追加します。

注: イベントの終了,削除,アーカイブに,opr-close-events ツールおよび opr-archive-events ツールを使用した場合,HPOM イベントは更新されません。HPOM のイベントは影響を受けません。

また,イベントの終了,削除,アーカイブに,omwmsgutil (HPOM for Windows) ツール, opcack および opchistdown (HPOM for UNIX) ツールを使用した場合にも,イベントは更新はさ れません。OMi のイベントは影響を受けません。

これらすべてのツールはそれぞれのデータベースに直接作用し、変更がワークフロー・プロセス を経ることがないため、結果として OMi および HPOM 間で同期されません。

これらのツールを使用してあるシステム(OMiなど)のイベントを終了,削除,アーカイブした 場合は,適切なツールを使用して同一の変更をその他のシステム(HPOM など)でも行う必要が あります。

場所

<OMi ホーム>/bin/opr-archive-events

標準設定:

Windows :C:\HPBSM\bin

Linux :/opt/HP/BSM/bin

構文

opr-archive-events

```
opr-archive-events -u <date> -o <ouputPathAndFileName[-a][-s][-force][-utc][-i <severities>]
opr-archive-events -u <date> -d [-s][-force][-utc][-i <severities>]
opr-archive-events -h
```

注: 角括弧で囲まれたオプションは組み合わせて使用できます。これ以外の場合は,オプション は個別に使用します。

オプション

オプション	説明
-a, archiveOnly < アーカイブ・ ファイル>	データベースからイベントを削除せず,イベントのアーカイブのみを行う。
-d, deleteOnly	アーカイブすることなくデータベースからイベントを削除する。
-force	ユーザに確認することなくイベントをアーカイブする。
-h,help	コマンド・オプションのサマリを表示して、終了する。
-i,severities <重要度>	指定された重要度(重要警戒域,危険域など)を持つイベントのみをアーカイブ または削除することを選択します。
-o,output < アーカイブ・ ファイル>	アーカイブしたイベントの格納に使用する XML ファイルのパスと名前。
-s, sweepOrphans	イベントに関係ないオーファン・オブジェクトをすべて削除する。「-a」を指定 している場合,このオプションは無視されます。
-t,olderThan <よりも古い>	指定時間よりも古いイベントをアーカイブする。 例:opr-archive-eventsolderThan 3D12H5M12S この例では,現在の時刻(CLIを実行している時刻)から3日と12時間5分12秒 を引いた値を時刻として受信したすべてのイベントがアーカイブされます。時刻 に関する引数では,日,時間,分,秒のサブセットも使用できます。たとえば, パラメータ「-olderThan 3D」も有効です。
-u,until <日 付>	指定時の前に受信したイベントをアーカイブする。時間は次のいずれかの形式で 指定する必要がある。 yyyy.mm.dd-hh:mm:ss yyyy.mm.dd-hh:mm yyyy.mm.dd-hh yyyy.mm.dd
-utc	UTC 時間で表したスレッド日付/時刻パラメータ。

制限

opr-archive-events コマンドライン・インタフェースを実行しているユーザは, ローカル・ユーザ (Windows) であるか, OMi プロセスが実行されているユーザ(Linux) である必要があります。SQL Server インスタンスで Windows 認証モードが使用されている場合は, opr-archive-events を実行して いるユーザにイベント・データベースへのアクセス権を付与する必要があります。

opr-close-events コマンドライン・インタフェース

このセクションでは, opr-close-events コマンドライン・インタフェースで利用可能なオプションと パラメータについて説明します。

注意:このツールは、オフラインでの実行のみを対象としています。

注: イベントの終了,削除,アーカイブに,opr-close-events ツールおよび opr-archive-events ツールを使用した場合,HPOM イベントは更新されません。HPOM のイベントは影響を受けません。

また,イベントの終了,削除,アーカイブに,omwmsgutil (HPOM for Windows)ツール, opcack および opchistdown (HPOM for UNIX) ツールを使用した場合にも,イベントは更新はさ れません。OMi のイベントは影響を受けません。

これらすべてのツールはそれぞれのデータベースに直接作用し、変更がワークフロー・プロセス を経ることがないため、結果として OMi および HPOM 間で同期されません。

これらのツールを使用してあるシステム(OMiなど)のイベントを終了,削除,アーカイブした 場合は,適切なツールを使用して同一の変更をその他のシステム(HPOM など)でも行う必要が あります。

場所

<OMi ホーム>/bin/opr-close-events

標準設定:

Windows :C:\HPBSM\bin

Linux :/opt/HP/BSM/bin

構文

opr-close-events [-f <日付>] [-u <日付>] [-s <重要度>] [-force] [-utc] [-n <ci_id> [<ci_id>, ...]][-c <ci_id> [<ci_id>, ...]] opr-close-events -all [-force] [-utc] opr-close-events -olderThan <相対時間> [-force] [-n <ci_id> [<ci_id>, ...]][-c <ci_id> [<ci_id>, ...]] opr-close-events -h

注: 角括弧で囲まれたオプションは組み合わせて使用できます。これ以外の場合は,オプション は個別に使用します。

オプション

オプショ ン	説明
-all	すべてのイベントを閉じる
-c, relatedCild <i><関連 Cl</i> ID>	任意のタイプの Cl をそれぞれが表す,1 つ以上の CMDB Cl ID を指定します。指定した Cl に関連するすべてのイベントが閉じ,すべてのイベント・ブラウザが更新されま す。
	CMDB ID は,関連 CI の一般プロパティから検索できます。たとえば,関連 CI である myApache Tomcat Service の CMDB ID は,次の形式になります。 ef372b80d3ed6bbeecf1a7d1a960dcb7
	-c オプションを -n オプションと組み合わせて使用すると,指定したノードおよび指定した関連 CI の両方に一致するすべてのイベントを選択できます。ノードおよび特定の CI の両方に関連するイベントを閉じるには,-c および -n オプションを組み合わせ,関連 CI の CMDB ID とノードの CMDB ID を指定します。コマンドは,次のようになります。
	opr-close-events -n 1e3aab8e7ecd24482a8118e24200f981 -c ef372b80d3ed6bbeecf1a7d1a960dcb7

オプショ ン	説明
-f,from < 日付>	指定時後に受信したイベント(関連イベントを含む)を終了する。このオプションは severity および until time オプションと併用できる。時間は次のいずれかの形式で指 定する必要がある。
	yyyy.mm.dd-hh:mm:ss yyyy.mm.dd-hh:mm yyyy.mm.dd-hh yyyy.mm.dd
-force	ユーザに確認することなくイベントを閉じる。
-h,help	コマンド・オプションのサマリを表示して、終了する。
-n,node <ノード>	ノード・タイプの CI をそれぞれが表す,1 つ以上の CMDB CI ID を指定します。指定し たノードに関連するすべてのイベントが閉じ,すべてのイベント・ブラウザが更新さ れます。
	CMDB ID は, 関連 CI の一般プロパティから検索できます。たとえば, ノード mynode.example.com の CMDB ID は, 次の形式になります。 1e3aab8e7ecd24482a8118e24200f981
	-n オプションを -c オプションと組み合わせて使用すると,指定したノードおよび指定した関連 CI の両方に一致するすべてのイベントを選択できます。ノードおよび特定の CI の両方に関連するイベントを閉じるには,-c および -n オプションを組み合わせ,関連 CI の CMDB ID とノードの CMDB ID を指定します。コマンドは,次のようになります。
	opr-close-events -n 1e3aab8e7ecd24482a8118e24200f981 -c ef372b80d3ed6bbeecf1a7d1a960dcb7
-r, resetHls	イベントを閉じた後に状況インジケータをリセットする。
-s, severity < <i>重要度</i> >	指定の重要度のイベントを終了する。このオプションは from time および until time オプションと併用できる。重要度は,次のいずれかになります。NORMAL, WARNING,MINOR,MAJOR,CRITICAL。
-t, olderThan <よりも古	指定時間よりも古いイベントを終了する。 例 : opr-archive-eventsolderThan 3D12H5M12S
61>	この例では,現在の時刻(CLIを実行している時刻)から3日と12時間5分12秒を 引いた値を時刻として受信したすべてのイベントが閉じられます。時刻に関する引数 では,日,時間,分,秒のサブセットも使用できます。たとえば,パラメータ「- olderThan 3D」も有効です。

オプショ ン	説明
-u,until < 日付>	指定時間の前に受信したイベントを終了する。このオプションは severity および from time オプションと併用できる。時間は次のいずれかの形式で指定する必要があ る。 yyyy.mm.dd-hh:mms yyyy.mm.dd-hh yyyy.mm.dd-hh yyyy.mm.dd
-utc	UTC 時間で表したスレッド日付/時刻パラメータ。

制限

opr-close-events コマンドライン・インタフェースを実行しているユーザは, ローカル・ユーザ (Windows) であるか, OMi プロセスが実行されているユーザ(Linux) である必要があります。SQL Server インスタンスで Windows 認証モードが使用されている場合は, opr-close-events を実行してい るユーザにイベント・データベースへのアクセス権を付与する必要があります。

第7章:状況

OMiを使用すると、組織内で収益を生み出すアプリケーションとサービスの可用性とパフォーマンス を監視できます。また、OMiでは、そのデプロイメントの状況が追跡され、検出された問題に関する 情報を得られます。

OMi では、HP ソフトウェア・アプリケーションで収集されたデータが使用されます(HP Operations Manager, HP Operations Agent のほか,外部モニタリング・ツールで収集されたデータなど)。OMi は、ERP, CRM, Web, Citrix などのさまざまな環境から、エンド・ユーザ・エクスペリエンスに関す るメトリクスを収集します。また、Web サーバ、J2EE アプリケーション、データベース、ネット ワーク・デバイス、ストレージ・デバイスなどの各種バックエンド・インフラストラクチャ・コン ポーネントから、システム・パフォーマンスに関するメトリクスを収集します。

収集,集計されたデータは,OMiの状況インジケータ(HI)と主要管理指標(KPI)によって使用さ れ、ビジネス目標の達成度を監視するのに役立つ定量化可能な測定値が提供されます。KPIとHIは、 ビジネスおよびプロセスの現在の状況をリアルタイムで評価します。これにより、重要なパフォーマ ンス変数を経過時間ごとに追跡でき、システム内の問題がビジネスに与える影響度を評価できます。

OMi では,最上位レベルで,重要なアプリケーションとビジネス・プロセスの統合ビューが示されます。そこから,これらの重要なビジネス・プロセスに関連する,基盤のIT インフラストラクチャにドリルダウンできます。このドリルダウン・ビューは,データ・センターごと,テクノロジ・クラスタごと,地理的な場所ごとなど,さまざまな方法でレイアウトできます。

イベント・タイプ・インジケータ

イベント・タイプ・インジケータ(ETI)とは、管理対象のIT環境内で発生するイベントを、発生の タイプ別に分類するのに使用する OMi の属性です。OMi のイベントは、HPOM や Network Node Manager などのマネージャからメッセージを受信すると生成されます。HPOM では、イベント・タイ プ属性の設定に使用されるカスタム属性 ETIHint を組み込むようにイベントを設定できます。このカ スタム属性が設定されていないと、イベント・タイプ属性は該当するマッピング・ルールによって設 定されます。十分な情報がない場合は ETI は設定されません。

監視対象のシステムで特定のタイプの OMi イベントが生成される場合,同じ ETI を割り当てる必要が あります。適切な相関処理ルールの定義後,イベントは ETI に基づいて相関処理されます。相関処理 ルールでは,CI で生じるイベントのタイプを関連付けます。

詳細

ETI の特徴

ETI には次の特徴があります。

- 複数のイベントの発生源を抽出するために、イベントのタイプをカテゴリわけします。
- 値は最低1つ必要です。この値は、環境内でのイベントの発生を記述するのに使用されます。た とえば、次のような ETI が示されます。システムの再起動:発生発生 という1つの値が便宜上作 成されるので、通常は、このような ETI には値を設定する必要はありません。
- イベントには1つ ETI 属性が含まれます。ETI は、それ自体がインスタンスとしては存在しません。
- 対応する HI なしの ETI は [Health Indicators] ペインには表示されません。
- 手動でリセットする必要はありません。ETI は単なるイベント属性に過ぎません。

構成アイテムは、HI などの ETI の割り当てを親の構成アイテム・タイプから継承します。たとえば、 構成アイテム・タイプのデータベースに割り当てられた ETI は、Oracle の構成アイテム・タイプにも 割り当てられ、Oracle データベースの構成アイテムが存在する場合、それらすべてに適用されます。

タスク

イベント・タイプ・インジケータの表示方法

1. インジケータ・マネージャを起動します。

イベント・ブラウザでイベントを選択し、ショートカット・メニューから次を選択します。

[設定] > [イベント タイプ インジケータ]

- 2. [CIタイプ]ペインからCIタイプを選択します。
- 3. [インジケータ] ペインからインジケータを選択します。

選択したインジケータの詳細が [詳細] ペインに表示されます。

状況インジケータ

状況インジケータ(HI)は,監視している CI の指定の局面の状況を決定および表示します。HIは, 「システム:実行中」などの1つの値を使用して CI の通常の状態を表すイベント固有のモニタです。 異常な状態には,「システム:停止済み」など,1つ以上の追加値が使用されます。このようにし て,ハードウェア・リソースが利用可能で応答しているかを状況インジケータは示します。

状況インジケータを使用すると、ソフトウェア・アプリケーションの状況も示すことができます。た とえば、データベース・サーバの可能な状態として、次のように指定できます。 [利用可能], [開 始中]または [停止中]。また、状況インジケータを使用して、ソフトウェア・アプリケーションの 使用状況が「正常」, 「高」,または「超過」のいずれの負荷であるかを示すこともできます。 HI は, CI の状態の情報を提供するイベントのみが設定できます。状況インジケータは, 関連付けられ ている ETI を通して特定の構成アイテム・タイプに割り当てられています。OMi では, イベント属性 やマッピング・ルールを使用して, インジケータを自動的に設定します。

詳細

マッピング・ルール

マッピング・ルールを使用して、受信したイベントの属性を、個々の設定タイプごとの低または高な どの定義済みの状況インジケータの値と一致することができます。たとえば、UNIX システムでの CPU 負荷に関連したイベントを監視する HI を定義できます(CI タイプ: [Infrastructure Element] > [Node] > [Computer] > [Unix])。CPU の負荷が低または高であるとレポートするイベントを受 信した場合、適切な状況インジケータ値が設定されます。

HI ベースの KPI の計算

HIは,監視しているリソースの可用性およびパフォーマンスの計算に KPI が必要とするデータを提供 します。KPI では,計算ルールを使用して,複数の状況インジケータからの値を照合し, [危険 域], [重要警戒域], [警戒域],または[正常域]などの重要度レベルを設定します。たとえ ば,データベースの KPI には,全体の状況を判別するのに実行状態(稼働中,停止),キャッシュの ヒット率(0,50,100%),クエリ・キューの長さ(空,完全),応答時間(#ms)といった,複数 の状況インジケータを備えることが可能です。

KPIの詳細については、「HI ベースの KPI の計算」(130ページ)を参照してください。

タスク

本項の内容

- 「HIの詳細の表示方法」(129ページ)
- 「状況インジケータのリセット方法」(130ページ)

HI の詳細の表示方法

1. [Health Perspective] タブを開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > [Health Perspective]

- 2. [Event Browser] ペインで状況インジケータの状態の詳細を表示するイベントを選択します。
- 3. [Health Indicators] ペインで,詳細を表示する対象として,状況インジケータの ^{QQ} などの状態アイコンをポイントします。

選択した KPI の詳細がポップアップ・ウィンドウに表示されます。バックグラウンドの色は KPI の状態を示します。

詳細には次の情報が示されます。

- KPIのステータス
- KPI に適用されているビジネス・ルール
- 状況インジケータの重要度
- メッセージ
- ∎ 値

状況インジケータのリセット方法

HI をリセットするとは,オブジェクトの重要度のステータスを [正常域] などの定義済みの標準設定 値に戻すことを言います。

注: HI のリセットは通常は不要です。OMi が自動的にリセットしないなどの例外的な状況でのみ 実行してください。

1. イベント・ブラウザを開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

- 2. [Event Browser] ペインで,状況インジケータを終了してリセットするイベントを右クリックします。
- 3. 表示されたショートカット・メニューで [**状況インジケータを終了して再設定**]を選択します。

HI ベースの KPI の計算

主要管理指標(KPI)では、状況インジケータから渡されるデータに計算ルールを適用して、状況インジケータが割り当てられているオブジェクトの可用性およびパフォーマンスを決定します。計算の結果得られる値は、正常域、注意域、警戒域、重要警戒域、危険域などの重要度レベルの設定に使用されます。

選択したイベントに関連する KPI は [Health Perspective] タブの [Health Indicators] ペインに表示 されます。示される色は重要度を示します。KPI は, [Health Top View] の属する監視オブジェクト 下に表示されます。 各 KPI の色は, KPI の現在の重要度の状況を示します。重要度の状況は,重要度状況がどのように, そしていつ関係の連鎖で伝搬されるかを指定するビジネス・ルールによって決定されます。定義上, 危険域の問題があるリソースに依存するすべてのリソースが危険域にあることはありません。KPI で は複数のソースからの情報を使用し,依存の連鎖の上下にわたる全体の影響を決定して,それに応じ た重要度の状況を決定します。

注: 提供される情報の重要度は、ソースのタイプによって決定されます。たとえば、ノードで直 接実行されているモニタからのライブ・データは、KPIの関係と依存を計算のベースとするビジ ネス・ルールからのデータよりも重要視されます。これは、ビジネス・ルールによって伝播され た KPI の状況は、CI からの直接のライブ・データによって上書きされる場合があることを意味し ます。

詳細

本項の内容

- 「状況ベースのデータの KPI」(131ページ)
- 「イベント・ベースのデータの KPI」(131ページ)

状況ベースのデータの KPI

次の KPI ではヘルスベースのデータを使用します。

- システムおよびアプリケーションのパフォーマンスの KPI: 状況インジケータからのパフォーマンス関連のデータには、データベース・キャッシュのヒット率、サーバ接続の速度、キュー長、データベース・クエリの処理時間の値などがあります。この例では、データベースの構成アイテム・タイプに固有の状況インジケータを説明します。その他の構成アイテム・タイプには別の状況インジケータがあります。
- システムおよびアプリケーションの可用性の KPI: 可用性関連のデータには,サーバの実行状況 (稼働中,停止,起動中,終了中)またはプロセスのアクティビティ(拒否,接続の許可,応答 なし)などがあります。

イベント・ベースのデータの KPI

ほかに2つ,未割り当てまたは未解決イベント用にイベント・データを使用する KPI タイプがあり, これらは標準設定ですべての構成アイテムに割り当てられています。未割り当ての KPI のイベントと は,根本的な問題の調査を行うユーザが割り当てられていないイベントを指します。未解決の KPI と は,根本的な問題がまだ修正されていないイベントを指します。

注: 未割り当てのイベントベースの KPI も定義上は未解決です。

未割り当てまたは未解決の KPI が1つ以上のイベントのデータを参照する場合, KPI の色は, ビジネ ス・ルールで設定した重要度の色になります。未割り当ておよび未解決の KPI に標準設定で関連付け られているビジネス・ルールは [操作のイベント ライフサイクルのグループ ルール] ですが, これ は KPI のステータスとして, 関連する構成アイテムに関連付けられているすべてのイベントの最上位 の重要度を設定します。たとえば, 未割り当てのイベントの KPI が1つの危険域のイベントと4つの 正常域のイベントを参照する場合, その KPI は危険域イベントを示す赤で表示されます。

注:子 CI からは伝播されません。

タスク

本項の内容

- 「KPI のビジネス・ルールの設定の表示方法」(132ページ)
- 「HI ベースの主要管理指標の詳細の表示方法」(132ページ)

KPI のビジネス・ルールの設定の表示方法

このタスクでは, KPI の重要度を設定するために OMi が適用するビジネス・ルールを特定する方法を 説明します。KPI では, 1 つ以上の状況インジケータにより提供されるデータを使用して, 監視対象 オブジェクトに特定の重要度レベルを設定します。KPI ビジネス・ルールは, 依存 KPI のステータス がどのように結合されるかと, その結果が親 KPI の重要度の計算でどのように使用されるかを指定し ます。

1. [Health Perspective] タブを開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > [Health Perspective]

2. [Event Browser] ペインでイベントを選択します。

イベントと関連する CI およびその直接の近隣 CI が [Health Top View] に表示されます。

3. [Health Top View] ペインで, KPI ビジネス・ルールを表示するオブジェクトをポイントします。

開いたポップアップ・ウィンドウで,ビジネス・ルールのエントリの値を確認し,重要度のス テータスの設定に [ワースト チャイルド ルール] などのどのビジネス・ルールが使用されたか を確認します。

HI ベースの主要管理指標の詳細の表示方法

このタスクでは, KPIの詳細のリストを作成して表示する方法について説明します。KPIでは, 1つ以 上の状況インジケータよって提供されるデータを使用して, 監視対象オブジェクトの重要度レベル ([正常域], [注意域], [危険域])を設定します。

1. [Health Perspective] タブを開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > [Health Perspective]

- 2. [Event Browser] ペインで KPI の詳細を表示するイベントを選択します。
- [Health Indicators] ペインで,詳細を表示する KPI のステータス・アイコンを指します。ス テータス,ビジネス・ルール名,ステータスの最終変更日などの KPI の詳細がポップアップ・ダ イアログ・ボックスに表示されます。

CI 影響度階層に沿ってイベントを伝搬および合計する方法

CI 影響度階層に沿ってイベントを伝搬および合計するには, KPI の未解決および未割り当てのイベント用のイベント KPI グループと兄弟ルール(OMi)を使用します。

- 1. イベント・ベースの KPI (未割り当て,未解決)用の標準設定グループ・ルールを [イベント KPI グループと兄弟ルール (OMi)]に変更します。
- CI タイプ [Configuration Item] に対する KPI 割り当てルール([OMi KPI 割り当て]) を,ビジネス・ルール [イベントKPI グループと兄弟ルール(OMi)] を使用するように変更します(この割り当て中の 2 つの KPI のそれぞれごとに1回変更します)。
- CI タイプ [Configuration Item] に対する伝搬ルール([OMi 未割り当てイベント KPI のプロパ ゲーション] および [OMi 未解決イベント KPI のプロパゲーション])を, [イベント KPI グ ループと兄弟ルール (OMi)] を使用して KPI を伝搬するように変更します。
- リポジトリ UI 内のルール定義に移動し、チェック・ボックスを選択してルール・パラメータを 設定可能にすることによって、非表示のルール・パラメータを表示します。次に、KES 割り当て 中の KPI のルールを更新します。割り当てを保存した後、ルール・パラメータを再度非表示にで きます。

あるいは,既存の KPI を削除してから,KES 割り当てを実行することもできます。この処理は,割り当てによって KPI の更新ではなく作成が行われる原因になります。

5. すべての CI を同期します(CI の数によっては,これには時間がかかることがあります)。

注釈ツール

このページでは、表示しているトポロジ・マップのスナップショットに注釈を追加して、重要な領域 を強調表示できます。

注釈ツールは、トポロジ・マップと隣接マップのコンポーネントにおいて同一のツールです。

アクセス方法

トポロジ・マップまたは隣接マップを組み込んだカスタム・ページを作成します。ビュー・エクスプ ローラやトップ・ビューなどの, CIを選択するためのコンポーネントを追加します。

トポロジ・マップまたは隣接マップのツールバーで [注釈] 📝 ボタンをクリックします。

詳細については, 「[マイ ワークスペース]のセットアップ方法」(244ページ)を参照してください。

UI の説明

注釈オプション

スナップショットに注釈を追加できるようにする要素です。

注釈オプションは [注釈ツール] ウィンドウの左側にあります。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
(1)	パン・ツール: スナップショットに移動します。
	ツールの選択: クリック・アンド・ドラッグで,スナップショットの特定の領域を 選択します。

UI 要素	説明
G	図形ツール :クリック・アンド・ドラッグで、スナップショットに図形を追加しま す。図形ツール・ボタンをクリックすると、次の図形ボタンが有効になります。
	• 四角形: クリック・アンド・ドラッグで,スナップショットの特定の領域を 四角形でマークします。
	• 昼りつぶし四角形: クリック・アンド・ドラッグで、スナップショットの特定の領域を塗りつぶした四角形でマークします。
	•
	• ④ 塗りつぶし楕円 : クリック・アンド・ドラッグで,スナップショットの特定 の領域を塗りつぶした楕円形でマークします。
	• □ 角丸四角形: クリック・アンド・ドラッグで,スナップショットの特定の領 域を角丸四角形でマークします。
	• ・ 塗りつぶし角丸長方形: クリック・アンド・ドラッグで、スナップショットの特定の領域を塗りつぶした角丸長方形でマークします。
	カスタマイズ: このボタンを選択すると,インタフェースの次の各部分を使用して 線の外観をカスタマイズできます。
	• 線のタイプ:追加する線の種類(実線または点線)を選択します。
	• 線の幅:注釈内の線の幅をピクセル単位で選択します。
N	線ツール: クリック・アンド・ドラッグで,線ツールが有効になります。このツー ルは,選択したスナップショットの領域を線でマークします。
	カスタマイズ: このボタンを選択すると,インタフェースの次の各部分を使用して 線の外観をカスタマイズできます。
	 線のスタイル:追加する線のスタイル(標準の線,エンドポイント付きの線,矢 印付きの線)を選択します。
	• 線のタイプ: 追加する線の種類(実線または点線)を選択します。
	• 線の幅:注釈内の線の幅をピクセル単位で選択します。

UI 要素	説明
Т	テキスト・ツール: クリック・アンド・ドラッグでボックスを開き,スナップ ショットにテキストを追加します。
	例 : 構文の追加 : マークしている線の上に「これは問題のあるトランザクションで す」という構文を追加します。
境界線と塗 りつぶしの	該当の四角形を選択して,注釈の境界線と塗りつぶしの色を選択します。次の四角 形を使用できます。
В	• 上の四角形:線ツールで生成し塗りつぶしなしで表示されている図形の線の色を 選択します。
	• 下の四角形 : 図形を塗りつぶす色を選択します。
	どちらの四角形をクリックしても,色を選択する次のタブを含むダイアログ・ボッ クスが表示されます。
	Swatches
	• HSB
	• RGB
不透明度	不透明度バーをスライドして,注釈内で選択した図形の線,テキスト行,または図 形の色の濃さのレベルを選択します。
	注:
	 不透明度が高いほど、より暗く表示されます。不透明度が低いほど、より明るく 表示されます。
	 このフィールドは、図形ツール、ライン・ツール、またはテキスト・ツール・ボタンのいずれかが選択された場合に有効です。

メニュー・バー

スナップショットに対するアクションの実行を可能にする要素を表示します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示しま す)。

UI 要素	説明				
	保存 : スナップショットをローカル・マシンに保存します。 注 :				
	• スナップショットは .png 形式で保存されます。				
	• [マイ ドキュメント] ディレクトリまたはそのサブ・ディレクトリに保存す る場合, [新規フォルダ] アイコン 词 は選択できません。				
	すべて選択: スナップショットに追加されたすべての注釈を選択します。				
×	選択内容をクリア: すべての注釈をクリアします。				
5	元に戻す : スナップショットに対して実行した最新のアクションをロールバック します。				
2	やり直し: スナップショットに対して実行した最新のアクションのロールバック をキャンセルします。				
•	ズーム・イン: スナップショット・ビューを拡大します。				
Q	ズーム・アウト : スナップショット・ビューを縮小します。				
ð.	元のサイズに戻す: スナップショットを元のサイズに戻します。				
	印刷: スナップショットを印刷します。				
?	ヘルプ : 現在表示しているページのヘルプをオンライン・ドキュメントで表示し ます。				
次のフィールドは, [テキスト ツール]ボタン 邒 が選択されている場合に有効です。					
В	太字 : テキストを太字にします。				
Ι	斜体 : テキストを斜体にします。				
U	下線: テキストを下線付きにします。				
A	アンチエイリアス : テキストまたは注釈行のピクセルの読み込みを調整し,滑ら かに表示されるようにします。				

UI 要素	説明
<フォント・ ファミリ>	レポート内のテキストのフォントを選択します。
<フォント・サ イズ>	レポート内のフォントのサイズを選択します。

変更およびインシデント・コンポーネント

変更およびインシデント・コンポーネントでは、アクティブなビューで選択した CI に対して開始されたインシデント、CI に対する変更の要求、および CI に対する実際の変更点を表示できます。

アクセス方法

• [ワークスペース] > [ダッシュボード] > [360° View]

CIを選択し,次のいずれかをクリックします。 [実際の変更], [計画済みの変更], [インシ デント]。

また、CIの選択場所であるコンポーネント([トップビュー]など)と一緒に、このコンポーネントをユーザ定義のページに追加することもできます。詳細については、「[マイワークスペース]のセットアップ方法」(244ページ)を参照してください。

詳細

インシデントおよび変更の要求

インシデントと変更の要求に関する情報が, RTSM フェデレーション・アダプタから収集されます。 フェデレーション・アダプタは, OMi内 (History Data Source などの用意済みのアダプタ)または OMi 外 (HP Service Manager など)のどちらでもセットアップできます。

- フェデレーションの設定の詳細については, 『RTSM 開発者向け参考情報ガイド』を参照してく ださい。
- HP Service Manager との統合の詳細については, HP ソフトウェア統合サイトの [統合] タブの [OMi] セクションを参照してください。

実際の変更

ローカル・マシン上の CI の実際の変更に関する情報が、RTSM から直接収集されます。表示される変 更点の種類には、履歴属性の変更と履歴関係の変更があります。

- 属性の変更点は,変更の監視対象としてマークされている各属性について表示されます。詳細については,『モデリング・ガイド』を参照してください。
- 関係の変更は,関係がTRACK_LINK_CHANGESの修飾子付きで定義されている場合に表示されま す。詳細については,『モデリング・ガイド』を参照してください。

使用できる CI タイプ

標準設定では,インシデントと変更の要求が表示されるのは,ビジネス・サービス, Siebel アプリ ケーション,ビジネス・アプリケーション,ノードの各 CI タイプです。ほかの CI タイプの変更とイ ンシデントに関する情報を表示するには,OMi 管理ガイドを参照してください。

タスク

表示する CI の選択方法

ワークスペースに, CIを選択できるコンポーネント(モデル・エクスプローラ,トップ・ビュー,ト ポロジ・マップ,または階層)と変更およびインシデント・コンポーネントが含まれている場合は, CIを選択してその関連する変更およびインシデント・データを表示できます。

変更およびインシデント・コンポーネントをほかのコンポーネントから独立して使用する場合は、コンポーネント自体から CI を選択できます。変更およびインシデント・コンポーネントのツールバーの[フィルタ]ボタンをクリックして、[構成アイテム]をクリックします。[構成アイテム]ダイアログ・ボックス内でビューを開き、CIを選択して、その変更およびインシデント・データを表示します。

注: 標準設定では,選択した CI と影響の関係を持つ子 CI のデータも表示されます。 [**子の CI の** データを表示する] チェック・ボックスを選択解除すると,選択した CI のデータのみが表示されます。

継続時間の変更方法

標準設定では,変更およびインシデント・コンポーネントでは前の週のデータが表示されます。この 設定を前の週,日,時間(現在の時刻まで)に変更できます。

- [360° View] ページ以外で変更およびインシデント・コンポーネントを使用している場合、ビジネス影響度コンポーネント・ツールバーの [コンポーネントの構成] ボタン ≥ をクリックして、新しい継続時間の設定を [期間] フィールドに入力します。
- ・ 階層コンポーネントから変更およびインシデントにドリルダウンする場合, 階層コンポーネント・ツールバーの [コンポーネントの構成] ボタン ≥ をクリックし, 新しい継続時間の設定を [期間] フィールドに入力します。この設定は, すべての階層 CI 詳細ドリルダウンで共通です。

更新頻度の変更方法

標準設定では、このコンポーネントは5分単位で更新されます。

用意済みのページの更新頻度は変更できませんが、必要なコンポーネントでユーザ定義のページを作成し、コンポーネント・ツールバーのコンポーネント [メニュー] ボタン 🗈 を使用してその更新頻度を変更できます。 [プリファレンス] を選択し、更新頻度を必要に応じて変更します。

UI の説明

[実際の変更] 領域

UI 要素	説明
属性	変更された CI 属性の名前。
変更のタ イプ	発生した変更の種類。
チェン ジャ	CI のプロパティを変更したユーザやイベントに関する説明(たとえば,ユーザ名や ディスカバリ)。
CI 名	変更された CI の名前。
日付	変更が発生した日時。
新規値	CI 属性の新しい値。
旧値	CI属性の以前の値(変更前)。
関連 CI	CI 間の関係変更を伴う変更の場合は,選択した CI との関係が変更された CI 名がこの フィールドに表示されます。

[インシデント] 領域

UI 要素	説明
CI 名	インシデントを起動した CI の名前。
終了時 間	インシデントが終了した日時。
説明	インシデントの説明。

UI 要素	説明
ID	インシデントの ID。ソース・アプリケーション内と同じように表示されます(たとえ ば,HP Service Manager 内)。
開始時 間	インシデントが開始した日時。
接続元	インシデントのソース。
重要度	インシデントの重要度。ソース・アプリケーション内と同じように表示されます(たと えば,HP Service Manager 内)。
ステー タス	インシデントのステータス。ソース・アプリケーション内と同じように表示されます。
更新時 刻	インシデントが更新された日時。

[変更の要求] 領域

UI 要素	説明
00	以前に列のサイズを変更した場合は、クリックするとすべての列が元の幅に戻 ります。
	テーブル内に表示する列を選択するためのダイアログ・ボックスを表示しま す。
CI 名	変更が計画されている CI の名前。
連絡先	変更について連絡する相手の名前。
ID	変更要求のID。ソース・アプリケーション内と同じように表示されます。
影響の重大度	変更による影響の程度。ソース・アプリケーション内と同じように表示されま す。
開いているユー ザ	変更要求を開いたユーザの名前。
計画済みの終了 日付	変更の終了が予定されている時間。

UI 要素	説明
計画済みの開始 日付	変更の開始が予定されている時間。
リスク評価	変更によるリスクの程度。ソース・アプリケーション内と同じように表示され ます。
ステータス	計画された変更のステータス。ソース・アプリケーション内と同じように表示 されます。
サマリ	計画された変更の説明。

カスタム・イメージ・コンポーネント

[カスタムイメージ]を使用して、リアルタイム・ステータス・インジケータで表現されるビューの CI を、ビューが表現する実際の状況を示すカスタム・イメージに関連付けることができます。組織で使用されるビューのグラフィカル表現には、論理ネットワーク図、ビジネス・ロジック、またはその他のグラフィック画像があります。

たとえば,企業のネットワークを表すグラフを,ネットワークのさまざまな部分から送られるリアル タイム・データと関連付けられます。



各ビューには,カスタム・イメージを1つ定義できます。上に示すイメージは,アクティブなビュー に定義されているイメージです。別のビューを選択すると,対応するイメージが自動的に表示されま す。ビューにカスタム・イメージを定義していない場合にカスタム・イメージ・コンポーネントにア クセスすると,そのビューにはイメージが定義されていないことを示すメッセージが表示されます。

カスタム・イメージは,サービス状況管理に定義します。詳細については,OMi管理ガイドを参照してください。

OMi ユーザ・ガイド 第7章: 状況

アクセス方法

独自のページを作成してこのコンポーネントを組み入れることも可能です。詳細については,「[マ イワークスペース]のセットアップ方法」(244ページ)を参照してください。

詳細

カスタム・イメージの例

カスタム・イメージは、ネットワーク内の各要素のステータスを表示できます。



カスタム・イメージの追加の例を次に示します。

実運用					
CRM		PRM			
ログイン		ログイン			
ログアウト		<u>п/л.</u>			
ホームページ	((ホームページ)			
クエリ・トランザクション		クエリ・トランザクション			
カスタマの請求先住所のクエリ	O :	カスタマの請求先住所のクエリ			
カスタマのサービスのクエリ(インストール済みアセット)	(カスタマのサービスのクエリ(インストール済みアセット)			
カスタマの請求前アカウントの問い合わせ	8	カスタマの請求前アカウントの問い合わせ			
カスタマの請求後アカウントの問い合わせ	Q	カスタマの請求後アカウントの問い合わせ			
カスタマのクエリ-新しい製品/機能	(
カスタマのクエリ計画	(
カスタマのクエリ製品	(
更新トランザクション					
カスタマのアカウント詳細の更新					
カスタマの約束手形					
カスタマのクレジット・カード支払					
カスタマの新規注文					
カスタマのキャンセルした注文					

	1–חכ		70-2		70 —3		70-4	
DNS	0	8	0		8	©	0	à
ホーム ページ	8	0	8	8	0		0	I
サブ ページ	8	Ø	0	0	<u>A</u>	8	8	0
その他	Â	8	0		8	0	0	8
	可用性-パフォーマンス		可用性-パフォーマンス		可用性-パフォーマンス		可用性-パフォーマンス	
タスク

カスタム・イメージを使った作業の方法 カスタム・イメージは、次の2つの段階で使用します。

- 1. サービス状況管理でイメージをビューに関連付け,イメージ内で各 CI を配置する場所を指定します。詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。
- 次にサービス状況アプリケーションで、カスタム・イメージ・コンポーネントにアクセスし、 作成したカスタム・イメージで、ビュー内のCIのステータスを確認します。

注: CI を IT ユニバース・モデルから削除すると,対応する CI アイコン(サービス状況管理内の) とステータス・インジケータ(サービス状況内の)が,関連するカスタム・イメージから自動的 に削除されます。

更新頻度の変更方法

用意済みのページの更新頻度は変更できませんが、必要なコンポーネントでユーザ定義のページを作成し、コンポーネント・ツールバーのコンポーネント [メニュー] ボタン 🗈 を使用してその更新頻度を変更できます。 [プリファレンス] を選択し、更新頻度を必要に応じて変更します。

UI の説明

カスタム・イメージ・アプリケーション UI

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示しま す)。

<ステータス・イ ンジケータ> ステータス・インジケータには、CIの最悪ステータス(すべての KPIの中での 最悪)が示されます。ステータス・インジケータは、カスタム・イメージに対 して定義したように、標準のステータス・アイコンまたはステータスを色で示 した CI タイプ・アイコンになります。

<ツールチップ>	CI のステータス・アイコンの上にカーソルを移動すると,その CI にアタッチ されている各 KPI に関するその他の情報が別のセクションに表示されます。CI のステータス・インジケータに関連付けられているツールチップでは,その CI にアタッチされている各 KPI に関する情報が別のセクションに表示されます。 各セクションの色は,対応する KPI のステータスを表します。
	KPI に応じて,ツールチップには次の情報のいずれかを表示できます。
	• 各セクションのヘッダには, [詳細]に続いて KPI 名が表示されます。
	• CI名: CIの名前。
	・ ステータス :KPI のステータス。
	• 最終ステータス変更:ステータスが現在のステータスに変更された日時。
	• 履歴のワースト: CI のステータス履歴を表すツールチップ。詳細について は, OMi 管理ガイドを参照してください。

地理マップ・コンポーネント

このコンポーネントでは、リアルタイム・ステータス・インジケータと、それぞれが関連する地理的 場所に配置されたビューの CI を地理マップ上に表示できます。ステータス・インジケータには、そ の地理的な場所にある CI の最悪ステータスが示されます。また、CI の KPI に関する詳細情報へもアク セスできます。

- インターネットに接続されている場合,地理マップは Virtual Earth を使用して表示されます。
- インターネットに接続されていない場合は、オフライン・マップを使用して地理マップを表示できます。
- 地理マップの情報を, Google Earth アプリケーションを使用して3次元マップで参照することもできます。

ヒント: 地理マップでは利用できないレベルまで特定の場所にズームする必要がある場合は,代わりにマップ画像を作成してカスタム・イメージ機能を使用します。

アクセス方法

独自のページを作成してこのコンポーネントを組み入れることも可能です。詳細については,「[マ イワークスペース]のセットアップ方法」(244ページ)を参照してください。

詳細

本項の内容

- 「場所のステータス情報」(147ページ)
- 「MSN Virtual Earth」 (147ページ)
- 「オフライン・マップ」(148ページ)
- 「Google Earth」(149ページ)

場所のステータス情報

マップには、各地理的場所にアタッチされたすべての CI の最悪の KIP ステータスを示す、色分けされたステータス・インジケータが表示されます。色分けの方法は、サービス状況で使用されるほかのアイコンと同じです。

場所を指定するには,該当するタイプの場所の CI を作成し,その場所 CI と,地理マップにステータス・インジケータを表示する CI の間の関係を作成します。詳細については,『モデリング・ガイド』を参照してください。ビューに含まれる CI が1つも場所 CI に関連付けられていない場合,[地理マップ]タブにはマップのみが表示されます。

マップ内の各ステータス・インジケータで,ビュー内の同じ場所にある1つ以上のCIを表すことができます。ビュー・エクスプローラでCIを選択すると,地理マップが自動的に再表示され,選択したCIとその子CI(場所が指定されている場合)のステータス・インジケータのみが表示されます。別のビューを選択すると,地理マップが自動的に再ロードされ,該当する場所にあるビューのCIのステータス・インジケータが表示されます。

注: オフライン・マップとビュー・エクスプローラは接続されていないため, CI の選択を変更しても, オフライン地理マップには反映されません。

ビュー・エクスプローラで特定の CI を検索して検索結果をクリックした場合は,地理マップは自動的に再表示されません。ブラウザ・モードに戻ったときにのみ,マップが再表示されます。マップには,選択した CI とその子 CI (場所 CI に関連付けられている場合)のステータス・インジケータのみが表示されます。

MSN Virtual Earth

インターネットに接続されている場合,地理マップは標準設定で Microsoft MSN Virtual Earth を使用 して表示されます。Virtual Earth では,地球が地政学的な平面ビューとして表現され,国境または地 勢,またはその両方を表示できます。ビューの CI が地理的場所に割り当てられている場合は,マッ プ上のそれらの地理的場所にリアルタイム・ステータス・インジケータが表示されます。 OMi ユーザ・ガイド 第7章: 状況

注: Virtual Earth マップは英語でのみ提供され、翻訳することはできません。

Virtual Earth の例:



Virtual Earth の地理マップでは地球が地政学的な平面ビューとして表現され、国境、地勢、またはその両方を表示できます。

ビューを拡大すると、画面に表示された範囲内にある主な都市が現れます。

オフライン・マップ

インターネットに接続されていない場合, [地理マップ] ページは [**Virtual Earth を使用**] インフラ ストラクチャ設定が [**False**] に設定されていればオフライン・マップとして表示されます (「オフ ライン・マップを有効にする方法」(151ページ)を参照)。マップには,各地理的場所の最悪ステー タスと, CI の KPI に関する詳細情報が表示されます。

オフライン・マップの例



オフライン・マップの標準設定の色は青です。この色を変更するには、「地理マップ・コンポーネント」(146ページ)を参照してください。

このマップには,昼/夜のおおよその線を表示する昼夜オーバーレイ・オプションがあります。この オプションを有効にするには,「地理マップ・コンポーネント」(146ページ)を参照してください。

Google Earth

Google Earth アプリケーションを使用して,地理マップの情報を 3 次元マップで参照できます。 Google Earth の例 :



タスク

本項の内容

- 「地理マップの操作方法」(150ページ)
- 「オフライン・マップを有効にする方法」(151ページ)
- 「場所ツールチップに表示される CI の最大数の指定」(151ページ)

地理マップの操作方法

地理マップを使用するには、次の手順を実行します。

- 1. [RTSM 管理]内で,該当するタイプの場所の CI を作成し,その場所 CI と,ステータス・インジケータを表示する CI の間の関係を作成します。
- 次に、[サービス状況管理]で、使用するマップのタイプを指定してマップを設定します(任意)。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。
- 3. 次に, ワークスペース内で, 地理マップおよびビュー・エクスプローラ・コンポーネントを

ページに追加します。ページにアクセスすると,地理的場所に基づいてビューに CI ステータス が表示されます。

注: コンポーネント・ツールバーのコンポーネント [メニュー] ボタン ⁽⁾ を使用して,更 新頻度を変更できます。 [プリファレンス] を選択し,更新頻度を必要に応じて変更しま す。

オフライン・マップを有効にする方法

1. インフラストラクチャ設定を開きます。

[管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定]

- [アプリケーション] ドロップダウン・リストから、[サービス状況アプリケーション] を選 択します。
- 3. [サービス状況アプリケーション マップ管理プロパティ] テーブルの [Virtual Earth を使用] で、[設定の編集] ボタン 2 をクリックします。
- 4. [**値**] ドロップダウン・リストで, [False] を選択します。
- 5. [保存] をクリックします。

場所ツールチップに表示される CI の最大数の指定

地理マップ内の場所のツールチップに表示できる、CIの最大数を指定できます。標準設定は10です。

CI はツールチップの[原因] セクションに表示されるため,この領域に収まる分だけ指定するように します。

場所ツールチップに表示される CI の最大数を変更するには, [インフラストラクチャ設定]を開きます。

1. インフラストラクチャ設定を開きます。

[管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定]

- [アプリケーション]ドロップダウン・リストから、[サービス状況アプリケーション]を選 択します。
- 3. [サービス状況アプリケーション マップ管理プロパティ]テーブルで, [場所ツールチップの最大 CI 数] エントリを見つけます。新しい最大値を入力します。

UI の説明

Virtual Earth の地理マップ

UI 要素	説明
۲	完全にズーム・アウトします。
	地理マップの表示への変更を保存します。
Ω	マップに変更を加えても保存はしない場合に,マップを最後に保存したバージョ ンに戻します。
\mathbf{Q}	ビューの地理マップを Google Earth を使用して開きます。
) P	ズーム・インおよびズーム・アウトして,マップを拡大または縮小できます。
	マップの中心を,最も近い CI に移動します。
[o]	完全にズーム・アウトします。
<調整>	マップをクリックしてドラッグして,ウィンドウ内で移動します。
	マップをダブルクリックすると、ズーム・インします。
<場所のステー タス>	ビューの地理マップでは、各地理的場所の最悪ステータスが表示されます。
	ビガリのガムは, リーレス状況で使用されるはかのアイコンと回しぐ9。

UI 要素	説明
<ツールチップ >	カーソルをステータス・アイコンの上部に移動するとその場所のツールチップが 表示され,その場所に関連付けられているすべての KPI の最悪ステータスが表示 されます。対応する場所 CI に関連する CI のうち,少なくとも1つに割り当てら れていれば, KPI はその場所に関連付けられます。
	ツールチップには、次の情報が表示されます。
	• KPI名: KPI の名前。ヘッダの色は, KPI の最悪ステータスを示します。
	• 場所 : 場所の名前(国,都市,および,当てはまる場合は州)。
	・ ステータス :KPI のステータス。
	• ステータス保持開始 :KPI のステータスが現在のステータスに変更された日時。
	• 原因 : 問題が発生した CI 名。
最新の更新	コンポーネントの情報が最後に更新された日時が表示されます。
	コンポーネントの情報を手動で更新するには, [更新]アイコンをクリックしま す。
[道路] / [空	クリックすると、マップの表示が次のように変更されます。
튧] / [Bird's Eye] / [合	• 道路:マップに国境が表示されます。
成] / [ラベ ル]	• 空撮:マップに地勢が表示されます。
	• Bird's Eye:(非アクティブ)
	 ラベル: CI のステータス・インジケータ以外のすべてのラベルがマップから 削除されます。
検索	この機能は,Microsoft MSN Virtual Earth 内(OMi の外側)で検索を実行する際 に使用します。

オフライン・マップの地理マップ

UI 要 素	説明
۲	完全にズーム・アウトします。
	地理マップの表示への変更を保存します。
Ω	マップに変更を加えても保存はしない場合に,マップを最後に保存したバージョンに戻し ます。
Ω	ビューの地理マップを Google Earth を使用して開きます。
$\Theta \Theta$	ズーム・インおよびズーム・アウトして,マップを拡大または縮小できます。
<場	ビューの地理マップでは、各地理的場所の最悪ステータスが表示されます。
所の ス テー タス >	色分けの方法は,サービス状況で使用されるほかのアイコンと同じです。
< ツー ル チッ	カーソルをステータス・アイコンの上部に移動するとその場所のツールチップが表示され、その場所に関連付けられているすべての KPI の最悪ステータスが表示されます。ある場所にアタッチされた CI のうち、少なくとも1つに割り当てられていれば、KPI はその場所に 関連付けられます。
フ>	ツールチップには、次の情報が表示されます。
	• KPI名: KPIの名前。ヘッダの色は, KPIの最悪ステータスを示します。
	• 場所:場所の名前(国,都市,および,当てはまる場合は州)。
	• ステータス:KPI のステータス。
	• ステータス保持開始: KPI のステータスが現在のステータスに変更された日時。
	• 原因: 問題が発生した CI 名。
<国 名>	国の上にカーソルを移動するとその国が強調表示され、国名が表示されます。

Google Earth の地理マップ

UI 要素	説明
<場所領域>	ビューを選択して,表示する CI をフィルタします。
<場所のステータ ス> 坙	ビューの地理マップでは,各地理的場所の最悪ステータスが表示されます。 マップには,各地理的場所の最悪ステータスを表す,色分けされたステータ ス・インジケータが表示されます。色分けの方法は,サービス状況で使用さ れるほかのアイコンと同じです。
<ツールチップ>	カーソルをステータス・アイコンの上部に移動するとその場所のツールチッ プが表示され、その場所に関連付けられているすべての KPI の最悪ステータ スが表示されます。ある場所にアタッチされた CI のうち、少なくとも 1 つに 割り当てられていれば、KPI はその場所に関連付けられます。 ツールチップには、次の情報が表示されます。 ・ KPI 名: KPI の名前。ヘッダの色は、KPI の最悪ステータスを示します。 ・ 場所:場所の名前(国,都市,および,当てはまる場合は州)。 ・ ステータス: KPI のステータス。 ・ ステータス: KPI のステータス。 ・ ステータス保持開始: KPI のステータスが現在のステータスに変更された 日時。
<ズームおよび方 向ツール>	現在の表示でズーム・インまたはズーム・アウトできます。

状況インジケータ・コンポーネント

状況インジケータ・コンポーネントでは,選択した CI の現在のステータスを計算,設定するために 使用される状況インジケータ(HI)に関する詳細情報が表示されます。各 HI のステータスと値が表 示されます。このコンポーネントでは,KPI の計算に使用する HI と,KPI の計算には使用されない HI の 2 つのカテゴリにグループ化されて HI が表示されます。複数の KPI の計算に使用される HI は複数 回リストされます(関与する各 KPI に表示)。

アクセス方法

• [ワークスペース] > [ダッシュボード] > [360° View] > [Hierarchy] を選択します。CI を選 択し, [インジケータ] をクリックします。

- 別のサービス状況コンポーネントから HI の詳細を表示するには、CI を選択し、次に [表示] > [HI] メニュー・コマンドを選択します。
- また、CIの選択場所であるコンポーネント([トップビュー]など)と一緒に、このコンポーネントをユーザ定義のページに追加することもできます。詳細については、「[マイワークスペース]のセットアップ方法」(244ページ)を参照してください。

詳細

HI とイベント・コンソール

メトリックベースの HI がイベントを生成すると,状況インジケータ・コンポーネントとイベント・ コンソールに, HI のステータス変更を示す同じ日時が表示されます。この HI が, KPI での変更も生成 すると,その KPI はこの KPI 変更の日時も示します。

イベントベースの HI が作成されると, HI とイベント・コンソールには同じ日時が表示されます。ただし, HI が KPI で変更を生成すると, その KPI は, HI からのデータで更新されるまでの数秒先の時間を示します。

状況インジケータ・ツールチップ

HIツールチップの内容および構造は、そのデータ・ソースによって決まります。

- メトリックベースの HI: HI がサンプル・データに基づいている場合、HI ツールチップ・フィール ドは HI を計算するビジネス・ルールに対応します。各ルールのツールチップの詳細については、 OMi 管理ガイドを参照してください。
- イベントベースの HI: HI がイベントに基づいている場合、ツールチップには HI の最新のステータ ス変更の要因となった特定のイベントに関する情報が表示されます。

HI が複数のイベント(たとえば SiteScope によって監視される CI)の影響を受ける場合, ツール チップにはイベントとその重大度に関する一般的な情報が表示されます。[影響元]フィールドに は, HI に影響を与えた測定値のリストが表示されます。HI のステータスが [OK] の場合, イベン ト・データはまったく表示されません。ツールチップには, HI 自体と同じステータスのイベントが 表示されます。

注: ビジネス・ロジック・エンジンを再起動すると, ツールチップのデータがリセットされます。

Multiple Values

HI に複数の測定値がある場合(複数の SiteScope モニタなど), [値] カラムには [Multiple Values] と表示され, ツールチップには HI のステータスに影響を与えた値が表示されます。例:

•	状況インジケー	-タ - Mozilla Fi	irefox		_	□ X
🛞 win-31ep86fcrou.hyk.com/topaz/jsps/dash/mair	PopupDialog.jsp?	strutsAction=%2	Fdash%2FdisplayHIs	.do&viewNa	me=OMi Deploymer	nt witl 🦁
win-31ep86fcrou (Windows)						
KPI に関与する状況インジケータ						
						最終
						ス
KPI	状況インジケータ			状態	値	テー
						ダス 変更
◎ システん パフォーマンス	メモリ負荷		•	-	N/A	-
	CPU 割り当	て使用レベル	•	-	Multiple Values	15/3/
KDI に貢献したい状況 インジケータ					percent used - 15.0	1 % - 15.0
状況インジケータ ◆	状態	値	最終ステータス変更			
CPU 使用レベル	-	N/A	15/3/14 3:52			

注: 設計上, ツールチップには HI のステータスに影響を与える測定値のみが表示されます。 そのため, ツールチップに1つの測定値のみがある場合でも「Multiple Values」と表示され ることがあります。

複数のイベントの影響を受ける HI ツールチップの例

次の画像では,2つの SiteScope モニタが単一のサーバにある2つのディスクのディスク使用率 を監視しています。 [システム パフォーマンス] KPI はホスト・ディスク使用率 HI によって入力 され,ディスク使用率 HI はこれらのモニタによって入力されます。(この画像では,関連する 領域に焦点を絞っています)。

🛛 Eve	ent Bro	owser	- iwfv	m016	24													
Γ.,	No.	🎭 [×1	-	•		🔓 🛄 Sy	stems_In	nfrastructure	~	ペイベント フ	ィルタを	~	🕙 🛃	₽ i f	C 2	1	ベントの検
重	Prio	C N	I	A U	D	状態	受信時間		タイトル						▼ 関連	CI		
	▼					Γ.,	3/3/15 01	:36:59	Measuren	nent 'percen	t full' changed s	tatus from 'nodat	a' to 'warnir	ng'.	i wf vn	01624: S	iteSco	⊳e:I₩FVMO24
Θ						г.,	3/3/15 01	:38:14	Measuren	nent 'percen	t full' changed s	tatus from 'nodat	a' to 'error'		iwf∨n	01624: S	iteSco	e:IWFVM024
↓ 項目:: 丘	384 の P ≪	8 (1) ×	Hea iwfv Kl	tsv alth In vm010 ⊃I (⊂ : [[iwfv idicat 624(二関:	^{vm01624} tors Wind 与す	ows) る状況-	ハンジ	₩ 0 ケータ	<u>A</u> 1	0	0		Ø 0		8 1 0	₩ Yi	<u>∦a</u> i0 -⊡ - <
			к	ы				状》	兄インジケータ	•	状態		値		最終ステ	テータス	変更	
			0	シス	テム	、バフ	ォーマン		PU 自荷 スト ディスク	使田家	<u>▲ ビジー</u> ◎ 合陥域	N	N/A		15/3/3	3 1:47		
										ステータス::: 影響元:	い。 詳細 危険域 1 個の影響のある・	イベント中 1 ·	個のイベン	ሉ:				

この例では, HI は [危険域] であり, HI に入力している 2 つのイベントのうち 1 つが [危険域] です。ツールチップでは, [**1 個の影響のあるイベント中 1 個のイベント**] が表示されます。こ れは, この HI に影響を与えるイベントの 1 つが HI と同じステータスであることを意味します。

🔔 Ev	ent Br	rows	er –	iwfvr	n 01 6	24													
۵.	Je.	2	R	,	-	•		🚽 🚊 Sy	stems_Infr	astructure	~	(1222	フィルタを	~ .	. 🔇 🛃	🦸 🕴 💋	2	133	トの検索
重	Prio	C	N	I	A U	D	状態	受信時間		タイトル	,					▼ 関連 CI			
	▼						T _o	3/24/15	08:18:10	Measure	ment 'percer	nt full' change	d status from	'error' to 'warr	ning'.	iwf∨m016	24		
Δ	₹						T_0	3/4/15 0	8:18:13	Metric '	License days	s remaining'	changed statu	s from 'good'	to 'warning	'iwf∨m016	24		
・ 項目:	384 Ø. ₽ ≪	> 8 (: >	1)	Hea iwfv KF	isv Ith In m010 PI (⊂	iwfs dicat 624(二関・	^{m01624} cors Windo 与する	<mark>♀</mark> ╹ ows) る状況-	インジケ	v -−∕s	<u>A</u> 2		0	۵ ا	@ 0	<u>A</u>	0	а 14	i0 ₽ «
				KF	I				状況-	インジケーク	¢ ♦	状態		値		最終ステー	タス変	更	
				0		_,			CPL	」自荷		<u>^</u> <u>E</u> 37-	_	N/A		15/3/3 1	L:47		
۰				U	ンス	テム		オーマノ	^ ホス	トディスク	7使用率	🔺 正常	域より非常(高					
												ステータス 影響元:	:警戒域 2 個の影響の percent fu	詳細 あるイベント中 2 11	2 個のイベント	`			

次の画像では, [危険域] だったモニタの重大度が [警戒域] に変更されています。

HIも同様に[警戒域]に変更されます。HIに入力している両方のイベントが[警戒域]であるため,ツールチップには[**2個の影響のあるイベント中 2個のイベント**]が表示されます。

上記のどちらの例でも, HI に入力しているイベントのサブカテゴリ(またはサブコンポーネント)は 「percent full「です。このサブカテゴリは,影響を与える各イベントについてツールチップで表示 されます。

ヒント: サブコンポーネントのない HI を作成して後からサブコンポーネント・データを受け入れ るようにする場合は, CI からその HI を削除し,再度サブコンポーネント・データのあるイベン トを送信します。

HI ツールチップに影響を与えるルール・パラメータ

イベントベースのHIは,汎用状況インジケータ・サブコンポーネント・ルールによって計算されま す。標準設定では,このルールはツールチップの動作に影響を与える次のルール・パラメータを使用 します。これらの標準設定を変更すると,メモリ使用量が増加します。

- clearNormalStatuses:標準設定では,ステータスが[正常域]のイベントはイベントベースのHI 計算に含まれません。
- reportNormalStatusesEvents:標準設定では、ステータスが [正常域] のイベントはイベント ベースの HI ツールチップに表示されません。clearNormalStatuses が false に設定されている場 合,reportNormalStatusesEvents の設定は無視されます。
- maxNumOfDisplayedEvents:標準設定では、最大8個のイベントをイベントベースのHIツール チップに表示できます。そのため、HIに影響を与えるイベントが10個ある場合、標準設定では HIツールチップに10個の影響のあるイベント中8個のイベントが表示されます。

イベントベースの HI のツールチップ・フィールド

状況インジケータがイベントによって入力される場合,標準設定では,そのツールチップに次の フィールドが含まれる場合があります。

カスタム属性を OMi で定義している場合も、これらのフィールドが表示されます。

ツールチッ プ・フィー ルド	説明
割り当てら れたユーザ	イベントの根本的な問題の解決を担当するユーザの名前。

ツールチッ プ・フィー ルド	説明
カテゴリ	イベントが属している論理グループの名前(データベース,セキュリティ,ネット ワーク)。
イベント・ タイプ・イ ンジケータ	選択したイベントおよび現在の値によって報告されるステータスを計算するために 使用されるイベント・タイプ・インジケータ(ETI)の表示名(たとえば, Web ア プリケーションの状態:低)。
ライフサイ クル状態	選択したイベントが達したイベントのライフサイクル状態。未解決,実行中,解決 済み,クローズ済み。
優先度	選択したイベントに割り当てられた優先度(低,中,高など)。
重要度	選択したイベントに割り当てられた重要度。
状態変化時 間	ライフサイクル状態の最後の変更日時。
受信時間	イベントが管理サーバで受信された時刻。
タイトル	選択したイベントの特性についての簡単な説明。
タイプ	イベント・カテゴリまたはサブカテゴリ内のさまざまなイベント・タイプを編成す るために使用する文字列(ユーザやアプリケーション,アカウント,セキュリティ など)。
サブカテゴ リ	イベントが属している論理サブグループ(カテゴリ)の名前(Oracle(データベー ス),アカウント(セキュリティ),ルータ(ネットワーク)など)。
ソリュー ション	イベントが示す問題の解決に役立つソリューションが記述されたテキスト・フィー ルド。
説明	イベントの元のタイトル,イベント・ソースから取得したテキスト以外の,元のイ ベントに関する情報(省略可能)。

タスク

表示する CI の選択方法

ワークスペースに, CI を選択できるコンポーネント(モデル・エクスプローラ, トップ・ビュー, ト ポロジ・マップ, または階層)と状況インジケータ・コンポーネントが含まれている場合は, CI を選 択して関連する状況インジケータを表示できます。 状況インジケータ・コンポーネントをほかのコンポーネントから独立して使用する場合は,コンポー ネント自体から CI を選択できます。状況インジケータ・コンポーネントのツールバーの [**フィル 夕**] ボタンをクリックして, [**構成アイテム**] をクリックします。 [構成アイテム] ダイアログ・ ボックス内でビューを開き, CI を選択して, その状況インジケータ・データを表示します。

HI 状態の標準設定へのリセット方法

ー部のワークフローでは、問題が発生したことを示す HI が表示されることがあります。ただし、問題への対応が済んだら、HI の状態を[**正常域**] (標準設定)にリセットできます。

HI を標準設定の状態にリセットするには, HI のメニュー・コマンドにアクセスし, [**状況インジ** ケータのリセット]を選択します。HI の標準設定の状態が即座に復元され, 次の更新時に新しいス テータスがコンポーネントに反映されます。

ヒント: OMi 以外では, Reset HIs API を使用して HI を標準設定にリセットすることもできます。 詳細については, OMi 拡張性ガイドを参照してください。

次の点に注意が必要です。

- イベント/メトリック: [状況インジケータのリセット] メニュー・コマンドは,一般にイベントベースのHIに使用され,メトリックベースのHIには使用されません。
- ローカル影響ビュー:ローカル影響ビューでは、HI は標準設定にリセットできません。これは、 HI のリセットがルール計算を使用せずにイベントから直接ステータスを設定するイベントベースのHI に関連するためです。

(ローカル影響ビューでは, KPI およびメトリックベースの HI のみに関連する別のステータス計 算を作成できます。ローカル影響ビューでのイベントベースの HI にはグローバル・ビューと同じ ステータスが表示され, HI をリセットするとすべてのビューのステータスに影響します。これは 望ましくない動作です。)

状況インジケータ・コンポーネントからのドリルダウン方法

HI ショートカット・メニューを使用して,関連する HI タイプ, CI タイプ, [**モニタ元**] 属性(HI で 情報を収集するデータ・コレクタを表す)の組み合わせに基づき,さまざまなアクションやレポート にアクセスできます。

たとえば,イベント・ブラウザで,HIから対応するイベントにドリルダウンできます。HIのメ ニュー・コマンドから,[**原因となるイベントを表示**]を選択します。

UI の説明

状況インジケータ・コンポーネントのユーザ・インタフェース ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示しま

す)。

UI 要素	説明
<ci 名=""></ci>	表示されている状況インジケータが割り当てられている CI の名前。
•	CI 名の隣にある矢印をクリックして,その CI のメニュー・オプションにアクセス します。使用できるオプションは,CI タイプと,CI に対して定義されたショート カット・メニューに応じて変わります。
	HI 名の隣にある矢印をクリックして,その HI のメニュー・オプションにアクセス します。
	カラム幅のリセット: クリックして,テーブルのカラムの幅を標準設定の幅に戻し ます。
	カラムの選択: テーブルに表示するカラムを選択します。
状況インジ ケータ	 HIステータス・アイコン、および状況インジケータの表示名。 [saveLastSample] グローバル・パラメータが [true] に設定されている場合、HI リンクをクリックしてその最後のサンプルの詳細を表示できます。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。 HIステータスは特定の値には基づかず、複数のメトリックまたはイベントを使用して計算され、複数のメトリックまたはイベント値で構成される可能性があります。 ツールチップを使用して、最新の HIステータスが計算されたメトリックの値を表示できます。HIツールチップの内容および構造は、そのデータ・ソースによって決まります。
KPI に関与す る状況イン ジケータ	選択した CI に割り当てられた状況インジケータ,およびその CI の KPI の計算に使 用された状況インジケータのリスト。
KPI に貢献し ない状況イ ンジケータ	選択した CI に割り当てられているが, KPI の計算に使用されていない状況インジ ケータのリスト。

UI 要素	説明
КРІ	ステータスの計算に状況インジケータを使用している KPI 名。現在の KPI のステー タスもステータス・アイコンで表示されます。
	ツールチップには,KPI のステータス,その計算ルール,そのステータスが最後に 変更された日付,および選択した KPI のルールに応じた追加のツールチップ・パラ メータが表示されます。
最終ステー タス変更	この HI の現在のステータスが開始した日時。
トレンド	「上」(緑の矢印), 「下」(赤の矢印), 「変化なし」(青の矢印)の3つの方 向を使用して示される, HIのリアルタイム・ステータスのトレンド。 注 : このカラムは, 標準設定では表示されません。
値	HI の値。 HI に複数の測定値がある場合(SiteScope で監視している場合など), [値] カラ ムには [Multiple Values] と表示され, ツールチップには HI のステータスに影響 を与えた値が表示されます。

状況トップ・ビュー・コンポーネント

状況トップ・ビュー・コンポーネントには、システム・コンポーネントのビジネス可用性が表示されます。[Health Top View]のCI バー・アイコンには、選択したイベントの関連CI のヘルスが、 ビューごとに定義された階層ツリー構造に基づいて視覚的に示されます。バーどうしをつなぐ線は、 CI 間の関係を定義します。

注:別のビューを適用すると, [Health Top View] ペインの表示内容を調整できます。

ビュー・マッピング・マネージャを使用すると、個々の構成アイテム・タイプにビューをマップできます。[Health Top View] ペインの[選択された表示]一覧には、マップされているビューの一覧が表示されます。[選択された表示]リストの内容は、イベント・ブラウザで選択したイベントと関連する構成アイテム・タイプによって決まります。ビューのマップの詳細については、「ビューのマップ」(219ページ)を参照してください。

HIと KPI の詳細については, 「状況インジケータ」(128ページ)と「HI ベースの KPI の計算」(130ページ)を参照してください。

アクセス方法

独自のページを作成してこのコンポーネントを組み入れることも可能です。詳細については、「[マ

イワークスペース]のセットアップ方法」(244ページ)を参照してください。

詳細

[Health Top View] に表示されるガイダンス・メッセージ

[Health Top View] ペインには次のガイダンス情報が表示されます。

- イベントが何も選択されていない場合は、イベントの選択を促すメッセージが表示される。
- 関連 CI なしのイベントを選択すると、CI 情報が存在しないことを通知するメッセージが表示される。
- 関連 CI が指定されていても、関連付けられたビュー・マッピングなしのイベントを選択すると、 ビュー・マッピングが存在しないことを通知するメッセージが表示される。適切なビュー・マッ ピングを設定することができるビュー・マッピング・マネージャへのリンクも表示されます。
- 関連 CI とビュー・マッピングが指定されているイベントを選択すると、マップされたビューのリストがドロップダウン・ボックスに表示され、選択したビューが表示される。

UI 参照

[Health Top View] ペイン

UI 要素	説明
<選択した ビュー>	[イベント ブラウザ]で選択したイベントが参照する構成アイテム・タイプ(およ び存在する場合はその親)にマップされたビュー一覧。これには Cl,および設定さ れている場合,フィルタされているイベント・カテゴリが含まれます。
	[Health Top View] ペインのコンテンツに適用するビューを選択します。この ビューでは,表示される構成アイテム・タイプおよび数量を調整します。ビューで は,表示されているトポロジに影響する追加(関連)項目を除外したり含めたりで きるため,選択したビューは構成アイテムの重要度のステータスにも影響します。
	構成アイテム・タイプにはビューをマップできます。ビューのマップの詳細につい ては, 「ビューのマップ」(219ページ)を参照してください。
最終更新	状況トップ・ビューの情報の最終更新日を表示します。

状況トップ・ビューのツールチップ

[Health Top View] ペインに表示される構成アイテム(ツリーのルート構成アイテムまたはグレーに 彩色されたすべての項目を除く)にカーソルを重ねると,次の表に説明されている構成アイテムのス テータスに影響を与える要因の詳細が OMi によって表示されます。

UI 要素	説明	
ビジネス・ ルール	選択した構成アイテムの可用性およびパフォーマンスの決定に使用するビジネ ス・ルール。	
CI 名	DB_Server.example.com など,選択されている構成アイテムの名前。	
クラス・タイ プ	選択した CI の CI タイプ。	
非表示チャイ ルド Cl	選択した CI に, [Health Top View]に表示されない子 CI があることを示しま す。	
KPI 名	システムの可用性 KPI といった,表示されている状況インジケータを割り当てら れている主要管理指標の表示名。 KPI の詳細については,「HI ベースの KPI の計算」(130ページ)を参照してくださ い。	
最終ステータ ス変更	選択した構成アイテムに現在のステータスが適用された日時。	
ステータス	選択した CI に割り当てられた重要度。	
未割り当ての イベント	ユーザに未割り当ての、または未解決のイベントと関連付けられている KPI。この情報には、パフォーマンスおよび可用性 KPIの詳細以外に、選択したオブジェクトと関連付けられている重複するまたは関連する(未割り当ての)イベント数	
未解決のイベ ント	も含まれます。バックグラウンドの色は選択したオブジェクトと関連付けられ いる KPI の最上位の重要度を示します。	

トラブルシューティング

本項の内容

- 「 [Health Top View] が空である」(165ページ)
- 「状況インジケータの表示が不正」(166ページ)

[Health Top View] が空である

- イベント・ブラウザで選択されているイベントがない
- 選択したイベントの関連 CI にマップされているビューがない
- 選択したイベントに関連する CI がない

• Java アプレットが起動しなかったか、不正に実行されている

状況インジケータの表示が不正

状況インジケータは、たとえば利用不可という状態に対して危険域を割り当てるなど、状態の重要度 を割り当てるために使用します。状態および割り当ては [Health Indicators] ペインに示されます。 ただし、KPI の計算ルールでは、 [Health Top View] 内のオブジェクトの新しい重要度レベルの設定 に、いくつかの状況インジケータを使用している場合があります。

- イベント・ブラウザで選択されているイベントがない
- [Health Top View] ペインでハイライトされている構成アイテムに状況インジケータの割り当て がない
- [Event Browser] ペインで選択したイベントとは別の構成アイテムを [Health Top View] で選択 した

階層コンポーネント

階層コンポーネントには,ビュー内の CI の階層と, CI に割り当てられている各 KPI のリアルタイム・ ステータスが表示されます。KPI はドメイン別にグループ分けされており,ドメインを折りたたむ と,ドメイン内の全 KPI 中の最悪ステータスを表示できます。また,特定のステータスの KPI を持つ CI や,特定の CI タイプの CI のみを表示するように,フィルタを設定できます。

階層コンポーネントの CI を選択すると、CI の詳細が表示されます。次に詳細リンクをクリックすると、選択した CI に関する追加情報を表示できます。

ヒント: 階層表示のはカスタマイズがきわめて容易です。選択による特定の KPI ドメインの表示や,特定の CI ステータスのフィルタを行って,特に関心のある領域に焦点をあてることができます。

アクセス方法

独自のページを作成してこのコンポーネントを組み入れることも可能です。詳細については,「[マ イワークスペース]のセットアップ方法」(244ページ)を参照してください。

詳細

CI 詳細リンク

階層コンポーネントで CI を選択してから,その CI 詳細リンクをクリックすると,CI に関する次のような情報にアクセスできます。

- 状況インジケータ:アクティブなビューで選択した CI のステータスを計算,設定するために使用 される状況インジケータ(HI)に関する詳細情報を表示します。詳細については,「状況インジ ケータ・コンポーネント」(155ページ)を参照してください。
- 変更およびインシデント:アクティブなビューで選択した CI に対して開始されたインシデント, および変更の要求と実際に CI に対して行われた変更点を表示します。詳細については、「変更お よびインシデント・コンポーネント」(138ページ)を参照してください。

階層のカスタマイズ

次の変更は, 階層コンポーネントで実行でき(次の項で説明), 将来のセッションのために保存でき ます(ユーザごと, コンポーネントごと)。

- カラムの順序
- カラムの幅
- カラムの表示 / 非表示
- KPI ドメインの折りたたみ / 展開
- CIの折りたたみ/展開
- サウンドのオン / オフ(サウンド・モードが True に設定されている場合)
- フラット・フィルタ・モードまたは階層的フィルタ・モードの選択

ユーザ定義のページで変更を行った場合,現在のセッションで変更を保持するには[**保存**]をクリックします。設定を将来のセッションで保存するには,ブラウザを終了する準備ができたときに[**ログ** アウト]をクリックします。(ログアウトせずにブラウザを閉じると,変更が保存されません)。

タスク

次のタスクは省略可能で、任意の順序で実行できます。

クイック CI フィルタの作成方法

階層コンポーネントにはクイック・フィルタ・メカニズムが用意されており,特定のステータスの KPIを少なくとも1つ含むCIのみを表示できます。ここで作成されるフィルタは一時的なフィルタ で,ユーザのログオフ,ステータスの選択内容の変更,または別のフィルタの選択のいずれかが実行 されるまで維持されます。フィルタは,ビュー内でフィルタ条件を満たしているすべてのCIを返し ます。

注: 同一のユーザ名 (admin など)を使用して複数のユーザが同時にログインしている場合,い

ずれかのユーザがフィルタへの変更を保存するたびに,関連するフィルタ・ファイルがそのユー ザのフィルタのコピーで更新されます。

- 特定のステータスの KPI を持つ CI のみを一時的に表示するには、階層ツールバーの [フィルタ] ボタンをクリックし、開くフィルタ・バーで1つ以上のステータスを選択して、 [フィルタ] を クリックします。
- フィルタ設定を解除するには、 [フィルタの削除] ボタンをクリックします。

例:

フィルタを設定しない場合, 階層コンポーネントではすべての KPI ステータスが表示されます。



名前	ステータス	□ システム 未割り当てイベ ント
OMi Deployment with HP Operat	i -	-
HP Operations Manager	· 🔺	2
- 🕞 😨 HP Operations Agent		2
win-31ep86fcrou		2

詳細フィルタの作成方法

詳細フィルタでは、一時的フィルタまたは永続的フィルタのいずれかを使用して、特定の KPI ステータスを基準にして CI をフィルタすることで、問題のある特定の領域に焦点を当てることができます。たとえば、定義済みの[エラーを表示]フィルタでは、ステータスが[危険域]の KPI が1つ以上ある CI のみが表示されます。

また, KPI ステータスと CI タイプの両方を基準にしたフィルタ設定を組み合わせた詳細フィルタも作成できます。たとえば,ステータスが [危険域]の KPI を1つ以上含むホスト(CIT は [ノード])のみを表示するフィルタを作成できます。

フィルタは、ビュー内でフィルタ条件を満たしているすべてのCIを返します。

1. 一時的な詳細フィルタを作成するには, 階層ツールバーの [**フィルタ**] ボタンをクリックして, フィルタ・バーの [**詳細**] をクリックします。

永続的な詳細フィルタを作成するには, [お気に入りフィルタ メニュー] ボタン 🔤 をクリック して, [新規作成] をクリックします。

- 2. [Status Selection] ペインで,フィルタに組み込む KPI ステータスのチェック・ボックスを選択します。
- (オプション) [Type Selection] ペインで, 階層に表示する CI をフィルタするための CI タイ プを選択します。

上位の CIT を選択すると、その子孫 CIT もフィルタに含まれます。

4. 一時的なフィルタを有効にする場合は、 [フィルタ] をクリックします。

フィルタを有効にして設定を保存する場合は、[フィルタして保存]をクリックします。

例:

[Worst Hosts] フィルタは, CIT が [Node] の CI のうち, 少なくとも 1 つの KPI のステータスが [危険域] の CI のみを表示するために作成されています。

Status Selection									
フィル夕名: Worst Hosts						可視性:	רדא ©	ック 🍳 プライベート	
次の KPI T	でのステータン	スに従って CI	をフィルタリ	レング:					
	13	13	₽3	R	53	æ	8	₽2	8
OT の影響	₽ <mark>OK</mark>	📄 注意域	📄 警戒域	🔲 重要警戒域	📄 危険域	📄 情報	🔲 最新ではない	♪■ 停止	🔲 ダウンタイム
PNR					□ □ 4				
RT の影響	E OK	🔲 注意域	🔲 警戒域	🔲 重要警戒域	🔲 危険域	🔲 情報	🔲 最新ではな(♪■ 停止	🔲 ダウンタイム
SAP		A	🔲 🔺		S	i			
SAP ア ラート			A		8				
Siebel		A 1	🔲 🔔	V		i	0		
Siebel I		🔲 注音域	■ 啓載博	🔲 重重整动情	──	情報	🔲 是新でけか(小同信止	■ ガウンタイト ▼
Type Selection: CI タイプに従って CI をフィルタリング (親 CI タイプを選択すると、その子孫もすべて含まれます): DatacenterResource Node ClusterResourceGroup Computer									
	• • • Net	Device							-

KPI が危険域になった場合のサウンド通知の設定方法

階層コンポーネント内の KPI のステータスが [**危険域**] に変わったときに警告サウンドを再生するようにサービス状況を設定できます。

最初にビューが読み込まれる際に, [危険域]のステータスで読み込まれた KPI については, サウンドは再生されません。サウンドをオンにすると, ビュー内の KPI のステータスが [危険域] (赤)に変わったときに, サウンドが再生されます。 [危険域]のステータス・アイコンは点滅し, ユーザがアイコン上にマウス・ポインタを置くまで点滅が続きます。ビューの非表示の部分にある CI のステータスが [危険域] に変わり, 現在表示されている分岐に含まれる CI のステータスには変更がない場合は, サウンドは再生されません。

次のオプションを使用できます。

• **サウンドを有効または無効にする**:インフラストラクチャ設定を開きます。

[管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定]

[アプリケーション]を選択して [サービス状況アプリケーション]を選択します。 [サービス 状況アプリケーション - サウンド通知] タブで, [サウンド通知] を見つけます。この値を [true] に変更するとサウンド通知が有効になり, [false] にすると無効になります。この変更 は,ただちに有効になります。

- 消音または復元: 階層ツールバーの [サウンドのオン/オフ] ボタンを使用して, サウンド・オプ ションを一時的にオンまたはオフにできます。

更新頻度の変更方法

標準設定では, 階層コンポーネントは5秒ごとに更新されます。

用意済みのページの更新頻度は変更できませんが、必要なコンポーネントでユーザ定義のページを作成し、コンポーネント・ツールバーのコンポーネント [メニュー] ボタン 🗈 を使用してその更新頻度を変更できます。 [プリファレンス] を選択し、更新頻度を必要に応じて変更します。

階層コンポーネントに表示される CI レベル数の変更方法

標準設定では, 階層コンポーネントには階層表示の2つのレベルが表示されます。たとえば, ビューを選択すると, コンポーネントにはビュー名(階層ルートとして)とその上位のCIが表示されます。選択したCIからドリルダウンすると, 選択したCIがルートとして表示され, その子CIも表示されます。

階層コンポーネントに表示されるレベル数を変更するには、次の手順を実行します。

1. インフラストラクチャ設定を開きます。

[管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定]

[アプリケーション]を選択して [サービス状況アプリケーション]を選択します。

[サービス状況レイアウトのプロパティ]テーブルで、[階層 - 表示レベル数階層 - 表示レベル数]を見つけます。ここでは、1~4の値を選択できます。1を指定すると、子 CI は表示されますが、展開はできません。

展開された子 CI ではなく折りたたまれた子 CI の表示方法

1. インフラストラクチャ設定を開きます。

[管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定]

[アプリケーション]を選択して [サービス状況アプリケーション]を選択します。

2. **[サービス状況レイアウトのプロパティ]** テーブルで, **[階層 - 標準の状態]** プロパティを見つけ, その値を **[子 CI を折りたたんで表示します]** に変更します。

UI の説明

階層ツールバー

このツールバーを使用すると,階層テーブルへのデータの表示方法をカスタマイズし,表示する KPI を定義するフィルタを作成できます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<ビュー・	ドロップダウン・リストからビューを選択すると,ビュー内の CI の情報が表示されま
セレクタ>	す。

UI 要素	説明
	メニュー : 次のオプションのいずれかを選択します。
	• 国国 利用可能なレベルを展開/すべてを折りたたむ :階層コンポーネントに表示される CI を展開または折りたたみます。
	これらのボタンは,現在表示されている CI に,展開または折りたたみが可能な CI が 1 つ以上含まれている場合に有効になります。
	• ジ ドリルダウン :Cl を選択してからクリックすると,その子 Cl にドリルダウンします。このボタンは,Cl を選択している場合にのみ有効となります。
	フィルタがアクティブな場合にドリルダウンすると,選択した CI に対して新しい ブラウザ・ウィンドウが開きます。
	● 1 つ上のレベル :階層コンポーネントに現在表示されている CI の, 親 CI が表示 されます。
	このボタンは,現在表示されている CI に親 CI がある場合にのみ有効になります。
	•
	表示する KPI を追加または削除するには,矢印を使用します。
T	フィルタ : フィルタ・バーが開きます。フィルタ・バーを使用すると,指定したス テータスの KPI を少なくとも 1 つ含む CI のみを表示できます(たとえば,ステータス が[危険域]の KPI を少なくとも 1 つ含む CI のみを表示)。
	[フィルタ] ボタンに黄色と赤の境界線がある場合は,現在フィルタが有効になって いることを示します。
7	フィルタの削除 : フィルタが有効な場合にクリックすると,フィルタ設定が解除さ れ,すべての CI のすべての KPI ステータスが表示されます。

UI 要素	説明
<フィル 夕・バー>	[フィルタ] ボタンを押すと, 階層ツールバーの真下にこのバーが表示されます。
	KPI ステータスの組み合わせを選択して,指定したステータスの KPI が少なくとも 1 つ含まれる CI のみが表示されるようにします。
	フィルタ・バーには、次のボタンがあります。
	• フィルタ:ステータスの選択後クリックすると、フィルタが有効になります。
	• クリア : すべてのステータスをクリアします。
	• 詳細設定 : 詳細フィルタを作成します。ここでは,特定の KPI または CI タイプを基 準にしたフィルタ設定や,永続的なフィルタの作成が可能です。
	注 :フィルタ・バーを使用して作成されるフィルタは一時的なフィルタです。ユーザ のログオフ,ステータスの選択内容の変更,または別のフィルタの選択のいずれかが 実行されるまで維持されます。
<お気に入 りフィル	このリストには、定義済みフィルタと、詳細フィルタを使用して作成されたフィルタ が表示されます。
タのリス ト>	• 階層の表示に適用するフィルタを選択します。
	 フィルタの編集,複製,削除を行う場合は、このリストからフィルタを選択して、[お気に入りフィルタメニュー]ボタンをクリックします。
	定義済みフィルタ は、一般的に必要となる情報を表示する際に便利ですが、変更や削 除はできません。定義済みフィルタには、次のものがあります。
	• グローバル : エラーを表示 : KPI のステータスが [危険域] である CI を表示しま す。
	 グローバル:エラーと警告を表示: KPIのステータスが[警戒域], [重要警戒域], または [危険域]のCIを表示します。
	 グローバル: PNR を表示 - すべての CI タイプのうち、 [PNR] KPI が [OK], [注意域], [警戒域], [重要警戒域], [危険域], または [データなし] のステータスの CI のみが表示されます。

UI 要素	説明
1	お気に入りフィルタ・メニュー : ドロップダウン・メニューが開き,次のアクション を実行できます。
	• 詳細フィルタの作成: [新規作成] をクリックします。
	 フィルタの編集または削除:お気に入りフィルタ・リストからフィルタを選択して、[編集]または[削除]をクリックします。
	定義済みフィルタを変更または削除することはできません。
	 フィルタの複製:お気に入りフィルタ・リストからフィルタを選択して、[複製] をクリックします。
	階層的フィルタ・モード :フィルタが有効な場合にクリックすると,フィルタ条件を 満たしている CI が,親 CI のコンテキストの階層構造で表示されます。
	フラット・フィルタ・モード :フィルタが有効な場合にクリックすると,フィルタ条 件を満たしている CI が,親 CI を含まない非階層構造のリスト形式で表示されます。
N	サウンドのオン/オフ: KPI のステータスが[危険域]に変わったときに警告サウンド を再生するように,サービス状況を設定できます。
	クリックすると、サウンドのオンとオフが切り替わります。

階層テーブルの列

UIとして表示されるユーザ・インタフェース要素について次に説明します(ラベルのない要素は山括 弧内に表示されます)。

UI 要素	説明
確認	このカラムのアイコンをクリックして CI の確認を設定または設定解除しま す。チェック・マーク Ӯ は,確認が設定されていることを示します。

UI 要素	説明
ビジネス影響度	注: ビジネス影響度は標準設定では表示されません。この設定を変更するに は, 『OMi 管理ガイド』を参照してください。
	このバーによって,CI のビジネス影響度が 0(影響なし)から 5(影響度 高)のレーティングで示されます。レーティングでは,CI が監視環境にある ビジネス CI および SLA に対してどの程度の影響を与えるかが示されます。
	標準設定では,ビジネス影響度のレーティングは,影響を受けるビジネス Cl の重要度,および影響を受けるビジネス Cl および SLA の数に基づいて決ま ります。詳細については,『OMi 管理ガイド』を参照してください。
	フラット・フィルタ・モードの場合, カラム・ヘッダをクリックして昇順/ 降順で並べ替えることができます。
<kpi></kpi>	各 KPI 列には,テーブルに表示されている各 CI に含まれる特定の KPI の,ス テータスと値が表示されます。
<kpi ドメイン=""></kpi>	KPI はドメイン別にグループ分けされます。たとえば,アプリケーション・ ドメインには, [アプリケーション パフォーマンス]KPI と[アプリケー ションの可用性]KPI が含まれます。
	ドメインに含まれるすべての KPI を表示するか,ドメインを折りたたんで, ドメインに含まれる全 KPI 中の最悪ステータスを表示できます。
最終ステータス変	CI が現在のステータスに変更された日時が表示されます。
更	フラット・フィルタ・モードの場合, カラム・ヘッダをクリックして昇順/ 降順で並べ替えることができます。
名前	このカラムには,選択したビューの CI が階層構造で表示されます。CI を展 開してその子 CI にドリルダウンできます。
ステータス	CI の最悪の KPI ステータスを表示します。 フラット・フィルタ・モードの場合,カラム・ヘッダをクリックして昇順 / 降順で並べ替えることができます。

階層テーブルの行

UI 要素	説明
<ci 名=""></ci>	テーブルの各行に,指定した CI の KPI ステータスが表示されます。

UI 要素	説明
•	CI名の隣の下矢印をクリックすると、そのCIのメニュー・オプションにアクセス できます。使用できるオプションは、CIタイプと、CIに対して定義されたショート カット・メニューに応じて変わります。CIにショートカット・メニューが定義され ていない場合、このメニューの矢印は表示されません。選択したCIでメニュー・ オプションがサポートされていない場合、そのオプションは無効または非表示にな ります。
<kpi ステー<br="">タス / KPI の 値></kpi>	 KPIの現在のステータスまたは値を示す、テキストまたはアイコンが表示されます。 ツールチップ: ステータス:CIのステータス(ステータスの計算方法のいずれかに基づいて計算される)。次も表示されることがあります。 最新ではない:減退したCIで表示され、CIのタイムアウト時間が過ぎたことを示します(SiteScope CIの場合は、SiteScope モニタが無効になった後でこのステータスが表示されます)。 停止:ビジネス・プロセスが停止された場合に表示されます。 ビジネス・ルール:KPIのステータスまたは値を計算するルールの名前。 最終ステータス変更:このCIの現在の操作上のステータスが開始した日時。
<kpi の履歴=""> ◇°似 ↑</kpi>	 CIを選択すると、履歴ステータス・アイコンは、指定された期間内の KPI について、最悪ステータスまたは平均ステータスを示します。詳細については、『OMi 管理ガイド』を参照してください。 ツールチップ: 履歴タイプ:履歴ステータスの計算に使用される履歴のタイプ(最悪ステータスまたは平均ステータス)。 履歴のワースト/平均:選択した期間中の、KPIの最悪ステータスまたは平均ステータス。
<kpi のトレ<br="">ンド> ◇°1↓ ↓</kpi>	CI を選択すると, トレンド・ステータス・アイコンは, 「上」, 「下」, 「変化な し」という3つの方向を使用して, KPI のリアルタイム・ステータスのトレンドを 示します。詳細については, 『OMi 管理ガイド』を参照してください。 ツールチップ: ・トレンド: 選択した期間の KPI のトレンド。

[フィルタの定義/編集] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用して,新しいフィルタの定義や,既存のフィルタのカスタマイズが できます。アクセスするには, [アプリケーション] > [サービス状況] > [360° View] > [Hierarchy] を選択します。 [フィルタ] をクリックしてから [詳細設定] をクリックするか,あ るいは [お気に入りフィルタ メニュー] ボタンをクリックします。

Status Selection											
フィルタ名	4:						可視性:	רדת ©	ック 🍳 プライベート		
次の KPI でのステータスに従って CI をフィルタリング:											
	R	8	8	53	B	8	5	R			
OT の影響	Section 2015	📄 注意域	📄 警戒域	📄 重要警戒地	或 📄 危険域	■ 情報	📄 最新ではな	い 一停止	🔲 ダウンタイム		
PNR					4						
RT の影響	¥ 📄 OK	🔲 注意域	📄 警戒域	🔳 重要警戒地	或 📄 危険域	🔲 情報	🔲 最新ではな	い 一停止	🔲 ダウンタイム		
SAP	0		🔲 🔔			i					
SAP ア ラート						i					
Siebel			🔲 🔔		8	i (i)					
Siebel I		■ 注音博	■ 啓粛博	🔲 臿亜啓粛t	ず 🔲 合脸博	■ 情報	🔲 是新でけた	小同信止	■ ガウンタイト ▼		

Type Selection:

CI タイプに従って CI をフィルタリング (親 CI タイプを選択すると、その子孫もすべて含まれます):

😑 📜 ConfigurationItem	^
🔁 💮 BusinessElement	
GiCollection	
Dynamic Node Factory	

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
5	選択の切り替え : すべての KPI について,ステータスのいずれかを選択または選 択解除します。
<ステータス・ チェック・ ボックス>	フィルタに含める KPI ステータスのチェック・ボックスを選択します。階層に は,フィルタ条件を満たす KPI が少なくとも 1 つ含まれるすべての CI が表示され ます。
キャンセル	変更内容を保存せずに, [フィルタの定義/編集] ダイアログ・ボックスを終了 します。
フィルタ	フィルタが適用されます(フィルタ設定は保存されません)。

UI 要素	説明
フィルタして 保存	フィルタが適用され、フィルタへの変更が保存されます。
フィルタ名	作成しているフィルタの名前を入力します。
Type Selection	CI タイプの階層が表示され,特定の CI タイプのフィルタ設定に使用できます。CI タイプを選択して,このタイプの CI のみが階層に表示されるようにします。
	CI タイプによるフィルタは,ステータスによるフィルタと組み合わされます。た とえば,[Status Selection]ペインですべての KPI の危険域ステータスを選択 し,[タイプの選択]ペインでビジネス要素 CI を選択するとします。階層には, この CIT (およびその子孫 CIT)の CI のうち,危険域ステータスの KPI が少なくと も 1 つ含まれる CI のみが表示されます。
	注 : 上位の CIT を選択すると,その子孫 CIT もすべてフィルタに含まれます。
可視性	 必要な可視性のオプションを選択します。 非公開:作成したユーザのみが利用可能な非公開フィルタを作成します。非公開アクティブ・フィルタの作成には、グローバル・アクティブ・フィルタおよび公開アクティブ・フィルタをテンプレートとして使用できます。名前は、private: <名前>という形式です。 OMi へのログオン時に使用されるユーザ名ごとに、関連付けられたフィルタ・ファイルが Service Health によって作成されます。特定のユーザ名を使用して OMi にログオンした場合は、そのユーザに関連付けられたフィルタ・ファイルに入っているフィルタのみを表示、変更できます。フィルタ・ファイルは、このユーザ名を使用してログインした各ユーザが行ったフィルタの変更で更新されます。そのため、フィルタになんらかの変更を加えることで、前のユーザによる変更を上書きしてしまう可能性があります。 公開:管理者、または適切な権限を持つユーザは、公開アクティブ・フィルタを作成できます。このフィルタは、特定の顧客の全ユーザが利用できます。公開アクティブ・フィルタの作成には、グローバル・アクティブ・フィルタをテンプレートとして使用できます。名前は、public:<名前>という形式です。
	注: [可視性]は、管理者または必要な権限を持つユーザにのみ表示されます。

隣接マップ・コンポーネント

隣接マップには,選択した CI の親 CI と子 CI が,インタラクティブなグラフィックで表示されます。 ビューに示される各 CI は,その現在の最悪 KPI ステータスを示す色分けアイコンが付いたバーで表示 されます。CIの名前の下のアイコンは、関連 KPI およびその現在のステータスを識別しています。

CI は, 隣接マップ内でレイヤに分けて表示できます。よって, 最も関心のあるレイヤ(ビジネスの有 効化, インフラストラクチャ, ソフトウェアなど)に焦点を当てることができます。

CI 間のリンクは, RTSM に定義されているとおりに, ビューの折りたたみなしで示されます。CI 間の リンクは, RTSM に表示されるとおりの物理リンクを表します。

ヒント: 隣接マップは,たとえば,監視対象ビュー外の CI に起因する可能性のある問題の原因を 調べる際に特に有用です。

アクセス方法

隣接マップを組み込んだカスタム・ページを作成します。ビュー・エクスプローラやトップ・ビュー などの、CIを選択するためのコンポーネントを追加します。詳細については、「[マイワークス ペース]のセットアップ方法」(244ページ)を参照してください。

詳細

表示オプション:プレーン・モードおよびレイヤ・モード 隣接マップのCIは,次の2つのモードのいずれかで表示できます。

- **プレーン・モード**: プレーン・モードでは, 各 CI は独立して表示されます。
- レイヤ・モード:レイヤ・モードでは、CI は機能レイヤごと(ビジネスの有効化、インフラストラクチャ、ソフトウェアなど)に分けられます。CI は、RTSM のレイヤ属性に基づいてレイヤに割り当てられます。たとえば、レイヤ・モードでは、アプリケーション・リソース CIT およびアプリケーション・システム CIT は、レイヤ属性に基づいてソフトウェア・レイヤに割り当てられます。

レイヤ・モードでは、レイヤへの CI の追加、レイヤからの CI の削除を行うことができます。さらに、RTSM 管理で、レイヤ属性を使用して追加のレイヤを作成できます。

隣接マップ内のレイヤは、トポロジ・マップのレイヤと同一です。標準設定の各レイヤの詳細については、「トポロジ・マップ・コンポーネント」(192ページ)を参照してください。

イメージの注釈と保存

隣接マップでは、注釈を使用して表示しているイメージのスナップショットを作成して保存し、イ メージの重要な領域を強調表示できます。ツールバーの [結果をキャプチャして注釈を追加します] ボタンをクリックして注釈ツールにアクセスできます。注釈ツールは、隣接マップとトポロジ・マッ プでまったく同一です。詳細については、「注釈ツール」(133ページ)を参照してください。
タスク

隣接マップに表示する CI の数の変更方法

標準設定では、CI が選択されると, 隣接マップに親 CI が 2 レベル,子 CI が 2 レベルで表示されます。つまり, 隣接マップには, 選択した CI が, その親 CI とさらにその親 CI, および子 CI とさらにその子 CI のコンテキストで表示されます。

この設定は, 1 ~ 3 レベルの CI を表示するように変更できます。使用するインフラストラクチャ設定は,

[管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定]

[アプリケーション] > [サービス状況アプリケーション] にアクセスします。 [サービス状況アプ リケーション - サービス状況レイアウトのプロパティ] テーブルで [近隣ビューの深さ] エントリを 見つけ,必要に応じて変更します。

隣接マップの表示のカスタマイズ方法

隣接マップの表示は簡単にカスタマイズできます。CI のレイヤ表示または個別表示, CI の最小限の情報または詳細な情報の表示, それぞれの間のリンクの表示, および表示内の他の要素の変更を行うことができます。詳細については, 以下の UI の解説を参照してください。

注: 隣接マップの表示をカスタマイズしても, RTSM トポロジにはまったく影響がありません。 カスタマイズの内容は, このコンポーネントでの CI の表示方法にのみ影響します。

更新頻度の変更方法

用意済みのページの更新頻度は変更できませんが、必要なコンポーネントでユーザ定義のページを作成し、コンポーネント・ツールバーのコンポーネント [メニュー] ボタン 🗈 を使用してその更新頻度を変更できます。 [プリファレンス] を選択し、更新頻度を必要に応じて変更します。

UI の説明

隣接マップ・ツールバー

UI 要素	説明
Ø	更新: パフォーマンスを向上するため,隣接マップは,RTSM内のCIトポロジに対して行われた変更は反映しません。RTSM内のCIトポロジに対して変更を行った場合は, [更新]をクリックして,CIトポロジの表示を更新できます。
	リフォーカス:隣接マップのフォーカスを,選択した CI から別の CI に変 更するには,CIを選択し,[リフォーカス]ボタンをクリックします。 隣接マップは,フォーカスを変更して,選択した CI を強調表示し,その CI の親 CI と子 CI を表示します。
	選択: 選択モードでは、CI またはグループを選択して、選択した要素に対してアクションを実行できます。たとえば、CI を移動するには、選択モードにする必要があります。
	インタラクティブ・ズーム: ズーム・モードで隣接マップ内をクリック し,ドラッグアップまたはドラッグダウンして画像をズーム・インまたは ズーム・アウトします。
	パン: パン・モードでは、隣接マップの画像がスクロール可能な場合、画像をクリックおよびドラッグして移動できます(画像全体が画面に収まる場合、この機能を実行しても効果はありません)。
	画面に合わせる: グラフを拡大または縮小することでペインに合わせま す。画像の相対比率は維持されます。
	プレゼンテーション・タイプの切り替え: 最小ビューを切り替えます。このビューには、CI アイコンと最悪ステータスのみが表示され,詳細ビューにはさらに CI 名と KPI ステータスが表示されます。
🗞 オプションを表示	表示オプションのドロップダウン・リストを開きます。次のオプションを それぞれ選択または選択解除できます。 • リンクの表示:このオプションを選択すると,隣接マップには,リン
	クされた CI 間の矢印が表示されます。 • リンク・ラベルの表示: このオプションを選択すると、隣接マップに は、各リンクがリンクの種類(相手を含む、依存関係があるなど)と ともに表示されます。 [リンクの表示]オプションが選択されていな い場合、このオプションは無効です。

UI 要素	説明
プレーン モード・	次の表示モードのいずれかを選択します。
	 プレーン・モード:各 CI は独立して表示されます。
	 レイヤ・モード:隣接マップには、関連する上位レベルの CI がレイヤ ごとに表示されます。たとえば、ビジネス要素 CI は [ビジネスの有効 化] レイヤに表示され、ノード CI とノード要素 CI は [インフラストラ クチャ] レイヤに表示されます。
	ミニマップの表示: 隣接マップの画像を小ウィンドウ(ミニマップ)に表 示します。これは,標準の隣接マップの上に重ねて表示されます。
	ミニマップ画像の強調表示された領域は,隣接マップのどの部分が大きい 画像で表示されるかを示します。この強調表示された領域をサイズ変更ま たは移動して,操作の対象とする隣接マップの部分に焦点を当てることが できます。ミニマップ・ウィンドウを閉じるには,大きい画像内でクリッ クします。
	結果をキャプチャして注釈を追加します:注釈ツールを開きます。注釈 ツールでは隣接マップのスナップショットを作成し、スナップショットに 注釈を付けて、重要な領域を強調表示できます。このツールでは、スナッ プショットに描画したり、イメージに線やテキストを追加したりできま す。詳細については、「注釈ツール」(133ページ)を参照してください。

隣接マップの表示

UI 要素	説明
	選択したビューの各 CI は,次の要素を含む,隣接マップ内のバーとして表示さ れます。
	 バーの左側には、RTSM で表されるように、CI の CI タイプを示すアイコンが 表示されます。
	 CIの集計ステータスは、CIT アイコンの上に重ねて表示されます。
	 隣接マップが詳細ビューで表示されている場合、CI名と KPI ステータスも表示されます。
	ツールチップ: CI のツールチップには,CI 名とCI タイプが表示されます。KPI の ツールチップには,KPI のステータスとパフォーマンスのデータが表示されま す。
	OMi Processing S ¹⁰ ¹⁰ ¹⁰ ¹⁰ ¹⁰ ¹⁰ ¹⁰ ¹⁰
	詳範 - OMi Processing Server on win-31ep86fcrou
	ステータス: 危険域 Class Type: OMi Processing Server
	U および KPI のステーダスは、巴利さのアイコンで表示されます。
<ci のレイヤ=""></ci>	レイヤ・モードでは,上位レベルのCIがレイヤ内に表示されます。これらのレ イヤは,機能(ビジネスの有効化やインフラストラクチャなど)ごとに分類され ます。各レイヤは灰色で示された別個の領域に表示され,レイヤ名でラベル付け されます。
	レイヤ名の変更,レイヤの削除はできません。レイヤからの CI の削除,レイヤ への CI の追加はできます。
<ci 間のリンク<br="">></ci>	[オプションを表示] のリストで, [リンクの表示] を選択すると, 隣接マップ には RTSM 内でリンクされた CI 間の矢印が表示されます。
	[リンク ラベルの表示] オプションも選択すると, 隣接マップにはリンクの種 類(相手を含む, 所有権があるなど)も表示されます。

UI 要素	説明
<ミニマップの 画像>	[ミニマップの表示]ボタンをクリックすると,隣接マップの画像が,標準の隣 接マップの上に重なるように,小ウィンドウ(ミニマップ)に表示されます。
annen <mark>jähn</mark> eaanne ä	隣接マップの一部分である強調表示された領域は,大きい画像で表示されます。 この強調表示された領域をサイズ変更または移動して,操作の対象とする隣接 マップの部分に焦点を当てます。
最新の更新	コンポーネントの情報が最後に更新された日時が表示されます。
	CI ステータスを手動で更新するには, [更新] アイコンをクリックします。

トップ・ビュー・コンポーネント

トップ・ビューでは,システム・コンポーネントのビジネス可用性がひとめでわかります。コンポーネント内の CI バーは,各ビュー用に定義された階層構造に基づいて,ビジネス・アプリケーション にマップされたリアルタイムの IT パフォーマンス・メトリックを視覚的に表現します。バーどうしをつなぐ線は,CI 間の関係を定義します。



重要なアプリケーションとビジネス・プロセスを統合された単一ビューで表現することにより、トッ プ・ビューでは、ビジネス・サービスの状況を全体的に確認できます。これにより、パフォーマンス の問題がビジネスの任意の部分の可用性にどのように影響するかをすばやく評価できます。各 CI は、CI の KPI が保持する最悪ステータスを示すように彩色されています。また、KPI の詳細や CI のビ ジネス影響度を即座に表示することもできます。 アクセス方法

カスタム・ページを作成する場合,組み込みのビュー・セレクタを使用する独立したコンポーネント としてか,あるいはビュー・エクスプローラなどのビューを選択する別のコンポーネントとともに, トップ・ビューを使用できます。詳細については,「[マイワークスペース]のセットアップ方 法」(244ページ)を参照してください。

詳細

インタラクティブ・マップ

トップ・ビューは、CIのインタラクティブ・マップを示します。インタラクティブ・マップはマウス を使用して直感的に操作でき、ツリー内の特定の分岐にドリルダウンして特定のビジネス領域や問題 のある領域にフォーカスできます。

標準設定では、トップ・ビュー・コンポーネントは4つのレベルのCIを表示します。それ以外のCI は折りたたまれます。CI は第4レベルから展開し、子CIを表示できます。バーどうしをつなぐ線 は、ツリーの分岐を示します。バーと線を操作して、表示する情報量や図のレイアウト全体を変更で きます。

色とアイコンについて

ビューに示される各 CI は,その CI の現在の最悪動作ステータスに応じて色付けされたバーで表示されます。

サービス状況で使用される KPI のリストについては、OMi 管理ガイドを参照してください。

注: ルート CI には KPI アイコンは表示されません。これはコンテナであり,実際の CI ではないからです。

仮想コンテナ

仮想コンテナ CI は、そのグループに含まれる子 CI の現在の最悪動作ステータスに応じて色付けされ、トップ・ビューの通常の CI バーに表示されます。バーをクリックしてショートカット・メニューのオプションを表示することはできません。

タスク

トップ・ビューの使用方法

• 表示の操作:コンポーネント内の任意の場所をクリック・アンド・ドラッグして,そこを中心に グラフィックを移動および回転します。CIをダブルクリック(または,選択したCIの右下隅をク リック)して,選択した CI が中央に表示されるようにトップ・ビューを再配置します。ツール バーの [**ビューの再ロード**]をクリックすると,ビューが元の表示に戻ります。

- CI 表示サイズの増減:ツールバーの拡大鏡スライダを使用して, CI 表示サイズを増減できます。 変更はユーザごと,コンポーネントごとに保存されます。
- CIの詳細の表示:標準設定では、CIには KPI は表示されません。すべての CI で KPI アイコンを表示するには、ツールバーの[オプションを表示] > [KPI を表示] を選択します。特定の CI の KPI とそのステータスのリストを表示するには、CI をクリックします。

HI 情報を表示するには,ツールバーの [オプションを表示] > [HI を表示] を選択します。HI が 割り当てられた各 CI には,その CI バーに 🛛 アイコンが表示されます。このアイコンをクリック すると,HI の詳細が表示されます。表示されるデータの詳細については,「状況インジケータ・ コンポーネント」(155ページ)を参照してください。

マウス・ポインタを CI のステータス・アイコンの上に置くと、そのステータスと CI タイプが表示 されます。マウス・ポインタを KPI のステータス・アイコンの上に置くと、そのステータスと計 算ルールが表示されます。

• 問題のある領域へのフォーカス:問題のある CI を選択して,ツールバーの [**ルートへのパス**] を クリックすると,選択した CI からビュー・ルート CI へのパスが表示されます。

また,問題のある CI を選択して,ツールバーの [問題のあるサブツリー]をクリックすると,ス テータスが危険域または重要警戒域である子 CI がすべて表示されます。これは,選択した親 CI の ステータスが OK 以外になる原因をつくる問題のある子 CI を見つけるのに有効です。

注: [問題のあるサブツリー] と [ルートへのパス] は, ブレークダウンが設定されている ローカル影響ビューでは使用できません。

CIの検索:現在トップ・ビューに表示されているCIの中から特定のCIを検索することができます。ツールバーにある検索バーにCI名の最初の文字を入力します。そうすると、現在トップ・ビューに存在する関連CIのリストが表示されます。そこでCIを選択して絞り込み、そのCIの詳細を表示します。

キーボード・ナビゲーションの使用方法

トップ・ビューでは、次のキーボード・ナビゲーションを使用できます。

- 矢印キー(上,下,右,左):あるCIから別のCIに移動します。
- Shift-C: トップ・ビューで選択した CI に焦点を当てます。

- プラス(+)およびマイナス(-)キー:選択したCIの展開と折りたたみを行います。
- Ctrl + (プラス)および Ctrl (マイナス): Cl 表示サイズを増減します。

トップ・ビューをカスタマイズする方法

サービス状況管理を使用して、次に示すさまざまな外観をカスタマイズすることができます。

- トップ・ビューの色、フォント、レイアウト
- CI または KPI の表示オプション
- 背景画像
- 表示する CI のレベル数

トップ・ビューのカスタマイズの詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

トップ・ビューをデバッグする方法

トップ・ビューをデバッグするには, [Ctrl] + [Alt] + [L] キーを押して, クライアントのログ・デ バッグ・メカニズムを制御します。

トップ・ビューを終了すると,デバッグ・レベルは標準設定にリセットされます。レベルを固定する には, [**ログ レベル**]インフラストラクチャ設定を使用します。詳細については,OMi 管理ガイド を参照してください。

データは、コンソールに出力され、<ユーザ名>\.hp\logs にあるログ・ファイルに保存されます。

更新頻度の変更方法

トップ・ビューの更新頻度の標準設定は5秒です。

用意済みのページの更新頻度は変更できませんが、必要なコンポーネントでユーザ定義のページを作成し、コンポーネント・ツールバーのコンポーネント [メニュー] ボタン 🗈 を使用してその更新頻度を変更できます。 [プリファレンス] を選択し、更新頻度を必要に応じて変更します。

注:

トップ・ビューの制限事項:トップ・ビューが, CI で KPI が定義されていないビューをロードす る場合(システム・ソフトウェア監視ビューなど), このビューは更新間隔ごとに再ロードされ ます。

UI の説明

トップ・ビューのツールバー

UI 要素	説明
<ビュー・セレクタ>	ツールバーの左上領域にあるドロップダウン・リストからビューを選 択して,トップ・ビューに CI を表示します。
<検索バー>	CI名を入力して、トップ・ビューでそのCIに絞り込みます。
	注:現在トップ・ビューで利用可能な CI の中からのみ検索できます。 別のビューまたはトップ・ビューがアクセスできない階層レベルにあ る CI は検索できません。
Q	ビューの再ロード : クリックすると、トップ・ビューが元の表示に戻 ります。
Qa	ルートへのパス : 問題のある CI を選択してからクリックすると,選択 した CI からビュー・ルート CI へのパスが表示されます。再度クリック すると,トップ・ビュー全体が表示されます。
	注 : ブレークダウンが設定されているローカル影響ビューでは使用で きません。
Tg.	問題のあるサブツリー:問題のある CI を選択してからクリックする と,ステータスが危険域または重要警戒域である子 CI がすべて表示さ れます。これは,問題のある子 CI を特定するのに有効です。再度ク リックすると,トップ・ビュー全体が表示されます。
	注 : ブレークダウンが設定されているローカル影響ビューでは使用で きません。
オプションを表示 🔹	KPI を表示:クリックすると、CIの KPI アイコンが表示または非表示に なります。
	HI を表示:クリックすると, CI に HI が割り当てられているかどうかを 示す, CI の HI アイコンが表示または非表示になります。
ବ୍	スライダを使用して, CI 表示サイズを増減します。変更はユーザご と, コンポーネントごとに保存されます。

トップ・ビューの表示

UI 要素	説明
<ci></ci>	標準設定では,選択したビューの各 CI が 1 つのバーに表示されます。この バーには,CI の集計ステータスと名前が含まれます。
	€ tx_5
	ツールバーの[オプションを表示]> [KPI を表示]を選択すると,各 CI バーの下に KPI アイコンが表示されます。
	€ tx_5
	CIをクリックすると、その詳細が表示されます。
	V tx_5 BusinessTransaction
	アプリケーションパフォーマンス 🔮 アプリケーションの可用性 🔮
	 詳細表示には、CIの名前とステータス、CIタイプ、ビジネス影響度、 KPI、KPIのステータスが含まれます。
	• Cl および KPI のステータスは,色付きのアイコンで表示されます。
	 ビジネス影響度バーでは、0(影響なし)から5(影響度高)のレー ティングを使用して、監視環境にあるビジネス CI および SLA に対して CI がどの程度の影響を与えるかが示されます。
	注: ビジネス影響度バーは,標準設定ではサービス状況アプリケー ション・コンポーネントには表示されません。この設定を変更する には,OMi 管理ガイドを参照してください。
	 右下隅のターゲット・アイコンをクリックして,選択した CI が中央に 表示されるようにトップ・ビューを再配置します。
	状況インジケータ: ツールバーの [オプションを表示] > [HI を表示] を 選択し, CI に HI が割り当てられている場合は, CI バーに 田 アイコンが表 示されます。このアイコンをクリックすると, HI の詳細が表示されます。 表示されるデータの詳細については, 「状況インジケータ・コンポーネン

UI 要素	説明
	ト」(155ページ)を参照してください。
	ツールチップ: CI のツールチップには,CI のステータスとタイプが表示さ れます。KPI のツールチップには,KPI のステータスとパフォーマンスの データが表示されます。
<右クリックメ ニューのオプション >	CI バーを右クリックすると,利用可能なメニューのオプションがリストさ れます。
最新の更新	コンポーネントの情報が最後に更新された日時が表示されます。 コンポーネントの情報を手動で更新するには, [更新] アイコンをクリッ クします。

トラブルシューティング

トップ・ビューでブラウザがフリーズする

マイ・ワークスペースで多くのトップ・ビュー・ページが同時に実行されている OMi クライアントが ロードされ,長期間ログインしている場合,メモリ不足の問題によってブラウザがフリーズすること がまれにあります。これを回避するには, [**トップ ビュー単独の更新**] インフラストラクチャ設定 を使用して,ほかのコンポーネントとは独立してトップ・ビューを更新するように設定します。詳細 については,OMi 管理ガイドを参照してください。

トポロジ・マップ・コンポーネント

トポロジ・マップにより,ビュー内の CI のインタラクティブなグラフィック表現を使用して,シス テム・コンポーネントのビジネス可用性をひとめで評価できます。ビューに示される各 CI は,その 現在の最悪 KPI ステータスを示す色分けアイコンが付いたバーで表示されます。CI の名前の下のアイ コンは,その KPI およびその現在のステータスを識別しています。

ビューの折りたたみ(ビュー表示)に従うか,またはRTSM でのCIの定義(グラフ表示)に従って,CIを表示できます。トポロジ・マップを使用して,CIをグループごと(CIタイプまたはアプリケーション別に分類)または機能レイヤごとに整理することもできます。

ヒント: 重要なアプリケーションとビジネス・プロセスを統合された単一ビューで表現すること により、トポロジ・マップでは、ビジネス・サービスの状況を全体的に確認できます。これによ り、パフォーマンスの問題がビジネスの任意の部分の可用性にどのように影響するかをすばやく 評価できます。 アクセス方法

カスタム・ページを作成する場合,組み込みのビュー・セレクタを使用する独立したコンポーネント としてか,あるいはモデル・エクスプローラなどのビューを選択する別のコンポーネントとともに, トポロジ・マップを使用できます。詳細については,「[マイワークスペース]のセットアップ方 法」(244ページ)を参照してください。

詳細

プレーン・モード、グループ・モード、レイヤ・モード

トポロジ・マップの CI は,次の 3 つの方法のいずれかで表示できます。

- プレーン・モード:プレーン・モードでは、CIのグラフィック表示にグラフまたはレイヤは含まれません。
- グループ・モード:グループ・モードでは、トポロジ・マップのグラフィック表示に CI グループ を含めることができます。CI は、CIT または RTSM の分類属性に基づいて自動的にグループ化され ます。

また,ユーザ定義のグループを作成し,組織のニーズに合わせて CI をそのグループに追加し,グ ループから削除することもできます。

グループ・モードでは,グループ内のすべての CI のワースト・ステータスが次のようにステータ ス・アイコンに表示されます。

🥝 SQL Server	+	😳 IIS Web Server	+
Ļ			
😧 Windows	🕀 🕂		

レイヤ・モード:レイヤ・モードでは、CI は機能レイヤごと(ビジネスの有効化、インフラストラクチャ、ソフトウェアなど)に分けられます。CI は、RTSM のレイヤ属性に基づいてレイヤに割り当てられます。たとえば、レイヤ・モードでは、アプリケーション・リソース CIT およびアプリケーション・システム CIT は、レイヤ属性に基づいてソフトウェア・レイヤに割り当てられます。

レイヤ・モードでは、レイヤへの CI の追加、レイヤからの CI の削除を行うことができます。さらに、RTSM 管理で、レイヤ属性を使用して追加のレイヤを作成できます。

グループはグループ・モードでのみ利用可能です。レイヤはレイヤ・モードでのみ表示できます。

新規のレイヤを作成する場合,[標準設定ビューを復元]ボタンを使用して,レイヤを適切にト ポロジ・マップに表示します。

標準設定のレイヤ

レイヤ・モードでは、CIは、RTSM内のCIT属性に基づいて標準設定のレイヤに割り当てられます。 次の項では、すぐ使用できるように事前に定義された各レイヤについて説明します。

ビジネスの有効化:このレイヤには、ビジネス・サービス、プロセス、アクティビティが含まれます。これらには、ビジネス・サービス(ビジネスが別のビジネスに対して提供するサービス(または1つの組織がビジネス内の別の組織に提供するサービス))およびITサービス(IT 組織がビジネス・サービスまたはIT業務をサポートするために提供するサービス)の両方が含まれます。

ビジネス・サービスには通常,関連するエンド・ユーザまたはカスタマ,ビジネス・アプリケー ション,サービス・レベル・アグリーメントが含まれます。例として,支払処理,バックアップ とリカバリ,セルフサービス型のヘルプ・デスクがあります。

 アプリケーションとサービス:このレイヤには、アプリケーションとそのコア・コンポーネント が含まれ、デプロイ可能な要素は含まれません。アプリケーションは、ビジネス・アクティビ ティをサポートする一連のコンポーネントで構成されます。これは全体で1つとみなされ、特定 の名前で識別されます。

[アプリケーションとサービス] レイヤには,ビジネス・トランザクションのほか,ビジネス・ サービスとビジネス・プロセスをサポートするインフラストラクチャ・サービスも含まれます。 例として,音声/ネットワーク・サービス,データベース・サービス,バックアップ/復元サー ビス,デスクトップ・サービス,Windows管理サービスがあります。

- ソフトウェア:このレイヤには、ソフトウェア要素の個々のインストールが含まれます。これら はデプロイ可能な実行可能ファイルであり、実際に論理システムにデプロイされている場合もあ ります。
- インフラストラクチャ:このレイヤには、仮想化やクラスタリングなどの論理システム、および ストレージ・デバイス、ネットワーク・デバイス、サーバなどの物理システムが含まれます。
- 設備:このレイヤには、場所、サイト、建物、部屋、棚などが含まれます。

ビュー表示またはグラフ表示

トポロジ・マップでのCIの基本構造は、次のどちらかの方法で定義できます。

• ビュー表示:ビューの折りたたみ状態に基づき,単一ルート・ノードで再帰ループなしの子 CI で 構成された,ビューのトポロジを表示します。このようなループは, CI をコピーすることで解決 されるため, CI はビュー内で数分間表示できます。

ビュー表示は影響モデルに続いているため, CI 間のすべてのリンクは, [Impact (Dependency)]または [Impact(Containment)]です。標準設定では, リンク・ラベルは ビュー表示には表示されません。

 グラフ表示:ビューの折りたたみなしで、RTSM に定義されているとおりのビューのトポロジを 表示します。CI間のリンクは、RTSM に示される物理リンクを表します。標準設定では、トポロ ジ・マップにはグラフ表示のリンク・ラベルが表示されます。

タスク

トポロジ・マップ表示のカスタマイズ方法

トポロジ・マップの表示は簡単にカスタマイズできます。CI のレイヤ表示またはグループ表示, CI の 最小限の情報または詳細な情報の表示,それぞれの間のリンクの表示,および表示内の他の要素の変 更を行うことができます。オプションの詳細については,この後の UI の解説の項を参照してください。

注: トポロジ・マップの表示をカスタマイズ (CI の非表示化, CI のレイヤへの追加, CI のレイ ヤからの削除など)しても, RTSM トポロジにはまったく影響がありません。カスタマイズの 内容は, このコンポーネントでの CI の表示方法にのみ影響します。

イメージの注釈と保存方法

トポロジ・マップ内では、ツールバーの [結果をキャプチャして注釈を追加します] ボタンをクリックして注釈ツールにアクセスします。注釈を使用して表示しているイメージのスナップショットを作成して保存し、イメージの重要な領域を強調表示できます。詳細については、「注釈ツール」(133ページ)を参照してください。

更新頻度の変更方法

用意済みのページの更新頻度は変更できませんが、必要なコンポーネントでユーザ定義のページを作成し、コンポーネント・ツールバーのコンポーネント [メニュー] ボタン 🗈 を使用してその更新頻度を変更できます。 [プリファレンス] を選択し、更新頻度を必要に応じて変更します。

UI の説明

トポロジ・マップ・ツールバー

UI 要素	説明
<ビュー・セレクタ>	ツールバーの左上領域にあるドロップダウン・リストからビューを選択し て,トポロジ・マップにビューを表示します。
	選択: 選択モードでは、CIまたはグループを選択して、選択した要素に対し てアクションを実行できます。たとえば、CIまたはグループを移動するに は、選択モードにする必要があります。
•	インタラクティブ・ズーム: ズーム・モードでトポロジ・マップ内をク リックし,上または下にドラッグ(または,マウス・ホイールを使用)し て画像をズーム・インまたはズーム・アウトします。
	パン: パン・モードでは、トポロジ・マップの画像がスクロール可能な場合、画像をクリックおよびドラッグして移動できます(画像全体が画面に 収まる場合、この機能を実行しても効果はありません)。
	画面に合わせる: グラフを拡大または縮小することでペインに合わせま す。画像の相対比率は維持されます。
04) 48	プレゼンテーション・タイプの切り替え: 最小ビューを切り替えます。こ のビューには, CI アイコンと最悪ステータスのみが表示され,詳細ビュー にはさらに CI 名と KPI ステータスが表示されます。
🗞 オプションを表示	表示オプションのドロップダウン・リストを開きます。次のオプションを それぞれ選択または選択解除できます。
	 リンクの表示:このオプションを選択すると、トポロジ・マップには、 リンクされた CI 間の矢印が表示されます。
	 リンク・ラベルの表示:このオプションを選択すると、トポロジ・マップには、各リンクがリンクの種類(相手を含む、依存関係があるなど)とともに表示されます。[リンクの表示]オプションが選択されていない場合、このオプションは無効です。

UI 要素	説明
プレーン モード・	次の表示モードのいずれかを選択します。
	 プレーン・モード:各CIは、レイヤまたはグループ内ではなく、独立して表示されます。
	 グループ・モード:トポロジ・マップには、関連する下位レベルの CI が グループごとに表示されます。たとえば、アプリケーション・システム 階層では、SAP または Siebel に関連する CI は ERP グループにまとめら れます。
	 レイヤ・モード:トポロジ・マップには、関連する上位レベルのCIがレイヤごとに表示されます。たとえば、ビジネス要素CIは[ビジネスの有効化]レイヤに表示され、ノードCIとノード要素CIは[インフラストラクチャ]レイヤに表示されます。
	選択内容を非表示: 選択した CI またはグループを非表示にします。CI は, 非表示にされてもビュー計算の対象となります。
Ô	非表示のものを復元: 任意の非表示の Cl またはグループをトポロジ・マッ プに復元します。
+	新規グループ: グループ・モードで次のいずれかを実行します。
	 [新規グループ]ボタンをクリックし、新しい(空の)グループを作成します。その後、CIをこの新規グループにドラッグできます。
	 1つ以上の CI を選択し、次に [新規グループ] ボタンをクリックして、 これらの CI を格納するグループを作成します。
	このボタンは、グループ・モードでのみアクティブになります。
×	グループの削除: グループを選択し, [グループの削除] ボタンをクリッ クしてグループ・コンテナを削除します。
	削除したグループが別のグループの入れ子になっていた場合,Cl は親グ ループに移動されます。削除したグループが入れ子でなかった場合,Cl は ビュー階層の元の場所に移動されます。
	このボタンは、グループ・モードでのみアクティブになります。

UI 要素	説明
	層を再配置: レイヤ・モードで、クリックしてグラフィック表示を再配置 します。これで、CI とそのリンクが整理されます。これは、レイヤへのCI の追加や削除のあとで、表示を整理して再配置する場合に便利です。
	レイヤに対して CI の追加,削除を行った場合,この操作を行っても CI は元 のレイヤには復元されません。
	このボタンは、レイヤ・モードでのみアクティブになります。
\bigcirc	標準設定ビューを復元: トポロジ・マップを元のカスタマイズ前の設定に 復元します。
	注 : 新規のレイヤを作成する場合,[標準設定ビューを復元]ボタンを使用 して,レイヤを適切にトポロジ・マップに表示します。
ビュー表示/グラフ	次のいずれかの方法を選択して,トポロジ・マップを作成します。
表示	 ビュー表示:ビューの折りたたみ状態に基づき、影響モデルを使用して、単ールート・ノードで再帰ループなしの子 CI で構成された、ビューのトポロジを表示します。
	 グラフ表示:ビューの折りたたみなしで、RTSM に定義されているとおりのビューのトポロジを表示します。CI間のリンクは、RTSM に示される物理リンクを表します。
Ţ	ミニマップの表示: トポロジ・マップの画像を小ウィンドウ(ミニマッ プ)に表示します。これは,標準のトポロジ・マップの上に重ねて表示さ れます。
	ミニマップ内の拡大鏡アイコンをドラッグしてトポロジ・マップにフォー カスし,操作の対象とする領域を表示します。ミニマップは,ヘッダ・ バーをクリックしてドラッグすることで移動できます。ミニマップ・ウィ ンドウを閉じるには,大きいトポロジ・マップ画像内でクリックします。
	結果をキャプチャして注釈を追加します:クリックして注釈ツールを開きま す。このツールにより、トポロジ・マップのスナップショットを作成し、 スナップショットに注釈を追加して重要な領域を強調表示できます。この ツールでは、スナップショットに描画したり、イメージに線やテキストを 追加したりできます。詳細については、「注釈ツール」(133ページ)を参照 してください。

トポロジ・マップの表示

UI 要素	説明
<ci ノード<br="">></ci>	選択したビューの各 CI は,次の要素を含む,トポロジ・マップ内のバーとして表示 されます。
1 1 1 1	 バーの左側には、RTSM で表されるように、CIのCIタイプを示すアイコンが表示 されます。
	• CI の集計ステータスは, CIT アイコンの上に重ねて表示されます。
	 トポロジ・マップが詳細ビューで表示されている場合、CI名と KPI ステータスも 表示されます。
	ツールチップ: CI のツールチップには, CI 名と CI タイプが表示されます。KPI のツー ルチップには, KPI のステータスとパフォーマンスのデータが表示されます。
	OMi Processing S
	詳細 - OMi Processing Server on win-31ep86fcrou
	ステータス: 危険域 Class Type: OMi Processing Server
	Cl および KPl のステータスは,色付きのアイコンで表示されます。
<ci のグ<br="">ループ></ci>	グループ・モードでは,関連しあった CI のグループがボーダー内に表示されます。 一部の CI は,標準設定でグループに割り当てられます。ニーズに合わせてグループ を作成することもできます。
	グループを変更するには,トポロジ・マップ・ツールバーの [選択] ボタンをクリッ クします。その後,次の処理を実行します。
	 グループの名前を変更するには、グループ名をダブルクリックして、そのグループの新しい名前を入力します。
	 グループへの CI の追加,またはグループからの CI の削除を行うには,対象の CI をグループの中または外にドラッグします。
	 1つのグループを別のグループの入れ子にするには、1つのグループを別のグルー プ内にドラッグします。
	 グループを展開または折りたたむには、グループ・コンテナの右上隅にある[折 りたたみ]アイコンまたは[展開]アイコンをクリックします。

UI 要素	説明
<() のレイ ヤ>	レイヤ・モードでは,上位レベルの CI がレイヤ内に表示されます。これらのレイヤ は,機能(ビジネスの有効化やインフラストラクチャなど)ごとに分類されます。各 レイヤは灰色で示された別個の領域に表示され,レイヤ名でラベル付けされます。
	レイヤ名の変更,レイヤの削除はできません。レイヤからの CI の削除,レイヤへの CI の追加はできます。
<ci 間のリ<br="">ンク></ci>	[オプションを表示]のリストで, [リンクの表示]を選択すると, トポロジ・マッ プには, RTSM 内でリンクされた CI 間の矢印が表示されます。
	[リンク ラベルの表示]オプションも選択すると,トポロジ・マップにはリンクの 種類(相手を含む,依存関係があるなど)も表示されます。
	注 : グループ外の CI がグループ内のいくつかの CI とリンクしている場合, グループを 折りたたむとリンク・ラベルは表示されず, グループを展開すると各リンクのリン ク・ラベルが表示されます。
<ミニマッ プの画像>	[ミニマップの表示] ボタンをクリックすると,トポロジ・マップの画像が,標準の トポロジ・マップの上に重なるように,小ウィンドウ(ミニマップ)に表示されま す。
and the second s	トポロジ・マップの一部分である強調表示された領域は,大きい画像で表示されま す。この強調表示された領域をサイズ変更または移動して,操作の対象とするトポロ ジ・マップの部分に焦点を当てます。
<右クリッ クメ ニューの オプショ ン>	CI バーを右クリックすると,利用可能なメニューのオプションがリストされます。
最新の更 新	コンポーネントの情報が最後に更新された日時が表示されます。
~848	コンポーネントの情報を手動で更新するには, [更新]アイコンをクリックします。

ビュー・エクスプローラ・コンポーネント

ビュー・エクスプローラには, Run-time Service Model (RTSM) データベースの構成アイテムが表示 されます。表示対象は, ビューを適用してフィルタできます。ビューへの設定によって, ビューに指 定した構成アイテムのみがビュー・エクスプローラに表示されるようになります。

ビュー・エクスプローラ・コンポーネントと、ほかのコンポーネントでページ上に提示される情報との相互作用は、コンテキストに応じて変わります。たとえば、CI ツリーで1つ以上の構成アイテムを 選択すると、イベント・ブラウザにフィルタが自動適用され、選択した構成アイテムに関連するイベ ントのみが表示されるようになります。また,ビューを選択すると,そのビューの CI と関連するイベントのみが表示されるようにもできます。

注: イベント・ブラウザの動作は選択した CI のタイプによって異なります。CI のタイプには, CI グループ・タイプ, ノード・タイプまたはその他のタイプがあります。

アクティブなフィルタは [Filter applied list] に示されます。 [**すべてクリア**] ボタンを使用する と、ビュー・エクスプローラでの選択をクリアすることもできます。

トップ・ビューやトポロジ・マップなどの一部のコンポーネントは組み込みのビュー・エクスプロー ラを備えていますが,複雑なビューでの操作を容易にするため,これらのコンポーネントのいずれか でページにビュー・エクスプローラ・コンポーネントを追加することもできます。

アクセス方法

- ・ [ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>
- マイ・ワークスペースには、このコンポーネントが組み込まれている多数の標準設定のページがあります。
- 独自のページを作成してこのコンポーネントを組み入れることも可能。詳細については、「[マイワークスペース]のセットアップ方法」(244ページ)を参照してください。

詳細

[ビューの参照] タブと [検索] タブ

ビュー・エクスプローラには、[ビューの参照] タブと [検索] タブがあります。

- [ビューの参照] タブでは、ビューを検索、表示し、ビューを参照して特定の CI を見つけること ができます。CI に対する操作をショートカット・メニューから実行することもできます。
- [検索] タブでは, ビューまたは RTSM 内の 1 つ以上の CI を名前または CI タイプで検索できま す。

利用できないビューと Cl

ビュー・エクスプローラのビューの一覧に, RTSM 内のすべてのビューが表示されない場合や, ビューの内容が表示されない場合があります。これは,次のことが原因です。

必要な権限が設定されたビューだけが含まれている。権限を設定するには、[ユーザ、グループ、およびロール]を開きます。

[管理] > [ユーザ] > [ユーザ, グループ, およびロール]

- アプリケーションに割り当てられたビューだけが含まれている。
- 選択できない非アクティブなビュー(赤で表示)が含まれている。
- すぐに使用できるビューであるが、それに対するライセンスがない。これらのビューには CI がありません。すぐに使えるビューの詳細については、『モデリング・ガイド』の「定義済みのフォルダとビュー」を参照してください。

タスク

ビューの選択方法

1. [Event Perspective] または [Health perspective] を開き, 既知のイベントー覧を表示します。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

- 2. 次のいずれかを実行します。
 - [View Explorer] ペインで [ビューの参照] タブを選択し, ビューの一覧を使用して利用可 能なビューを表示して, 必要なビューを選択します。

注: ビュー・フィールドに文字を入力すると、ビュー名の最初の一致が表示されます。

イベント・ブラウザで,ビュー・セレクタからビューを選択します。5つの最新の選択項目
 が、リストの最上部に表示されます。

イベント・ブラウザに表示されるイベントは,選択したビューに関連するイベントに制限され ます。イベント・ブラウザのタイトルは,選択したビューを示すように変更されます。

注:

- イベント・ブラウザのビュー・セレクタでビューを選択すると、ビュー・エクスプロー ラで選択した CI が無効になるように、OMi のパースペクティブが接続されます。
- 事前に選択したビューに関連付けられているイベントのみが表示されるように、ロック された[Event Browser]ページではイベント・ブラウザのビュー・セレクタが無効に なっています。

ビュー・エクスプローラの更新方法

モデリング・スタジオを使用して,新しいビューを設定したり,既存のビューを変更することにより,表示情報を変更したり,増やしたり,減らしたりすることができます。

[管理] > [RTSM 管理] > [モデリング] > [モデリング スタジオ]

RTSM ビュー・リストはキャッシュされ,同じユーザによる後続の要求で再利用されます。ビュー・ リストは,要求されるたびに RTSM から直接読み込まれることはありません。

3時間後または OMi サーバが再起動されたときに、キャッシュは自動的にクリアされます。

UI の説明

[ビューの参照] タブ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示しま す)。

UI 要素	説明
<ci></ci>	現在選択されているビューに含まれている CI です。
<ツール チップ>	カーソルを CI に合わせると, 関連する CI タイプのツールチップが表示されます。
<ビュー>	ビュー・ ボックスには,現在選択されているビューが表示されます。表示する ビューを選択するには, [ビュー]ボックスの右側にある下矢印をクリックしま す。これにより,ごく最近にアクセスしたビューを含むビューの簡略リストが表示 されます。リストの下部にある矢印をクリックすると,リスト全体をスクロールで きます。
	あるいは,カーソルをリスト内に合わせ,ビューの名前を入力します。入力した最 初の数文字が既存のエントリと一致すると,ビュー名の完全な表記が表示されま す。同じ文字で始まる名前を持つビューが複数存在する場合は,一致するビューが すべてリストに表示されます。

[検索] タブ

UI 要素	説明
<ショートカット・ メニューのオプショ ン>	ビュー・エクスプローラのショートカット・メニューには,表示される ページごとに異なるオプションが表示されます。

UI 要素	説明
<検索結果>	検索を実行すると,検索結果はビュー・エクスプローラ・コンポーネント の下部にリストされます。結果は,次の2つのカラムに表示されます。
	• 名前: CI の名前が含まれます。
	• タイプ : Cl の Cl タイプが含まれます。
	CIまたはビュー名が省略されている場合は,テーブルの列サイズを変更し てください。検索結果を並べ替えるには,該当する見出しをクリックしま す。
名前	名前でCIを検索するには、検索するCIの名前を入力します。
検索	検索を実行します。
タイプ	CI タイプで CI を検索するには、検索する CI タイプを入力します。

監視リスト・コンポーネント

監視リスト・コンポーネントでは,重要なCIの状況に関する高レベルの概要を複数のビューで示します。

CIのカスタマイズ可能なリストでCIの情報を表示できます。たとえば、システム管理者が、操作の 実行に重要な8台のサーバを複数の拠点で所有している場合、監視リストを作成して、それぞれのCI のステータスを表示することができます。

各 CI の詳細が個別のカードに表示されます。



OMi ユーザ・ガイド 第7章: 状況

アクセス方法

[マイ・ワークスペース]のユーザ・ページで,追加の監視リストをコンポーネントとして作成しま す。詳細については,「[マイワークスペース]のセットアップ方法」(244ページ)を参照してくだ さい。

詳細

監視リスト・カードの情報

監視リストには, CI に関する情報が仮想カードとして表示されます。各カードには, CI に関する次の 情報が含まれています。

- CI の追加元の RTSM ビューの名前
- CIの名前
- CIタイプ
- CI に関連付けられている KPI の中でステータスが最も重大な CI のステータスを示すアイコン。
- 監視環境にあるビジネス CI および SLA に対して CI が与える影響を示すビジネス影響度バー。ビジネス影響度は、0(影響なし)から5(影響度高)のレーティングで示されます。

注: ビジネス影響度バーは,標準設定ではサービス状況アプリケーション・コンポーネント には表示されません。この設定を変更するには,OMi 管理ガイドを参照してください。

• 状況ステータスが現在示されているステータスに変化した時刻

関連する KPI のリスト

カードの右下隅をクリックしてカードをめくり、CI に関連付けられている KPI のステータスを表示します。カードの裏側には、ステータスが OK 以外の KPI が最大 7 個表示されます。

KPI の上にポインタを置いたままにすると、ツールチップに KPI のステータスとパフォーマンス・ データが表示されます。

ステータスが OK 以外の KPI が 8 個以上ある場合は, [詳細] リンクから新しいウィンドウを開いて, ステータスが OK 以外の KPI の完全なリストを表示できます。



タスク

監視リストに CI を追加する方法

監視リストに CI を追加するには、編集モードにします。監視リストに追加する CI をビューのリストから選択するか、または [検索] タブから該当する CI を検索します。

注:編集モードにアクセスするには適切な権限が必要です。

1. [監視リスト] ページで, [監視リストの編集] 🌌 をクリックします。

- 2. [ビューの参照] タブでビューを選択してから該当する CI を選択するか, または [検索] タブ を使用して該当する CI を検索します。
- 3. [CI を監視リストに追加] 🔛 をクリックしてから, [変更を保存して監視リストをビュー モードで開きます] 📝 をクリックします。

注: CIを監視リストにドラッグ・アンド・ドロップすることはできません。

ワイヤリングされたコンポーネントから CI を追加する方法

コンポーネントのワイヤリングにより、同じページにそのコンポーネント間のリンクが作成されま す。これにより、1つのコンポーネントで項目を選択すると、その項目が画面上の別の場所に表示さ れた場合、サービス状況は自動的にその項目を選択します。

マイ・ワークスペース または サービス状況 のあるページに監視リストとほかのコンポーネントが同時に含まれている場合,画面上のほかのコンポーネントから監視リストに結合された CI を追加できます。たとえば,[マイ・ワークスペース]のページの1つのペインにトポロジ・マップ,別のペイ

ンに監視リストが表示されている場合,トポロジ・マップにある CI をクリックして監視リストに追加することができます。

- 1. 監視リストとほかのコンポーネントが含まれているページを開くか、または作成します。
- 2. 監視リストで, [**監視リストの編集**] 🖉 をクリックして編集モードを開きます。
- 別のコンポーネント(たとえば、トポロジ・マップ)で、現在監視リストに含まれていない Cl をクリックしてからメッセージ・ボックスの[OK]をクリックし、その Cl を監視リストに追加 します。

注:

- ワイヤリングされたコンポーネントの仮想ブレークダウン CI にある CI を選択すると、監視リ ストに追加するためのプロンプトが表示されない場合があります。
- <ビュー名> ルート CI は監視リストに追加できません。
- 編集モードで OMi(イベント・ブラウザ)を使用した監視リストのワイヤリングは、現在サポートされていません。

UI の説明

監視リストのビュー・モード

UI 要素	説明
Ø	監視リストの編集 : 編集モードを開き,監視リストで CI を追加または削除で きます。
ð	新規ウィンドウに開く : 監視リストを別のポップアップ・ウィンドウで開き ます。
カード サイズ	Cl カードの表示サイズを設定します。

監視リストの編集モード

UI 要素	説明
+	CI を監視リストに追加: 選択した CI を右側のペインに追加します。

UI 要素	説明
	前回の保存以降のすべての変更をキャンセルします : 編集モードを開いてか ら行ったすべての変更を削除します。
V	変更を保存して監視リストをビュー モードで開きます : 変更を保存して編集 モードを閉じます。
左ペイン	ビューのリスト,または監視リストに追加する CI を選択する検索領域。
右ペイン	現在監視リストにある CI のリスト。

第8章: アクション

[Actions] ペインは,選択したイベント,イベントの関連 CI, CI をホストするノードに有効なアク ションを表示するのに使用されます。アクションには,ツール,ラン・ブック,カスタム・アクショ ン,パフォーマンス・グラフがあります。[Actions]ペインは, [Event Perspective] および [Health Perspective] にあり,カスタマイズした観点に追加することもできます。

アクセス方法

[Actions] ペインのある観点を開き,既知のイベントおよび関連付けられているアクションの一覧 を表示します。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

詳細

本項の内容

- 「HP Operations Manager のアクション」(209ページ)
- 「カスタム・アクション」(210ページ)

HP Operations Manager のアクション

HP Operations Manager で設定したアクションを OMi から実行できます。OMi で受信した HPOM のイベントには、イベント関連のアクションがある場合があります。イベントに関連付けられているアクションがある場合は、イベント・ブラウザの A 列および U 列に次のアイコンが表示されます。

📟 - 自動アクションがある

🚨 - ユーザ・アクションがある

オペレータが開始するアクションおよび自動アクションは, [イベント詳細] ペインの [アクション] タブにも表示されます。

その他のアイコンは,開始,実行,成功,および失敗などのアクションのステータスを示します。利 用可能なアイコンおよびアクションの詳細については,「イベント・ブラウザ」(30ページ)を参照し てください。

これらのアクションは、[アクション]タブまたはイベントのショートカット・メニューから実行で きます。ポリシーで設定している場合は、アクションの実行結果として[履歴]にエントリが作成さ れ、イベントに追加されます。イベントに関連付けられているアクションは、実行の完了前に停止す ることもできます。 割り当てられたイベントおよび割り当てられていないイベントに関連付けられているアクションを 実行するには,権限が必要です。イベント・アクションの実行権限がない場合,設定されているコマ ンドを表示することはできますが,実行することはできません。

注: \$OPC_GUI_CLIENT 変数および **\$OPC_GUI_CLIENT_WEB** 変数を含むアクションはサポートされ ておらず,除外されます。

カスタム・アクション

カスタム・アクションは、スクリプトを使用した、選択したイベントから実行するアクションです。 カスタム・アクションは、カスタム・アクション・マネージャで設定します。このマネージャでは、 イベント時にカスタム・アクションを実行するスクリプトを設定します。たとえば、イベント・ブラ ウザで判別しやすくするために、特定のイベントにテキスト文字列を追加できます。イベントに対し て実行できるカスタム・アクションは、ショートカット・メニューから実行します。

カスタム・アクションの作成および管理の詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

タスク

本項の内容

- 「アクションの実行方法」(210ページ)
- 「HPOM アクションの実行方法」(211ページ)
- 「カスタム・アクションの起動方法」(212ページ)

アクションの実行方法

1. イベントを1つ選択します。

[Actions] ペインに,選択したイベントで利用可能なアクションが表示されます。

アクションの各種類は、次のアイコンを使用し示されています。

虊 — 自動アクション(「HPOM アクションの実行方法」(211ページ)も参照)

🍱 — カスタム・アクション(「カスタム・アクションの起動方法」(212ページ)も参照)

🖗 — パフォーマンス・グラフ(「パフォーマンス・グラフ作成の概要」(285ページ)も参照)

🗟 — ラン・ブック(「Operations Orchestration ラン・ブックの起動」(59ページ)も参照)

🎹 — ツール(「ツール」(214ページ)も参照)

🚨 — ユーザ・アクション(「HPOM アクションの実行方法」(211ページ)も参照)

注: ツールで使用するスクリプトおよび実行可能コマンドの最大長は,解決で得られるパラ メータを含めて 2,500 文字に制限されています。

ツールの実行で,解決で得られたパラメータを含めたスクリプトおよび実行可能コマンドの長さが 2,500 文字を超えた場合,エラー・メッセージが表示されます。

可能性があるカスタム・パラメータの値を見直すか,ツールの設計者に連絡してスクリプ トまたはコマンドの長さを短くしてください。

2. [Actions] ペインからアクションを選択します。

アクションにデータの追加が必要ない場合は,すぐに実行されます。ツールまたはラン・ブッ クなどにデータを追加する必要がある場合は,関連のユーザ・インタフェースが起動するの で,そのウィザードに従いアクションを起動します。

オプション: [検索] フィールドにアクション名またはアクション名の一部を入力すると,一覧 に表示されるアクションを減らすことができます。同様に, [CI] または [ノード] を選択する と,表示されるアクション一覧を,関連する CI またはホスト・ノードのいずれかに該当するも のに絞り込むことができます。

HPOM アクションの実行方法

1. イベント関連のアクションが含まれるイベントを選択します。

次のアイコンのアクションは、イベント・ブラウザのA列およびU列に表示されます。

虊 - 自動アクションがある

🚨 - ユーザ・アクションがある

その他のアイコンは,開始,実行,成功,および失敗などのアクションのステータスを示します。利用可能なアイコンおよびアクションの詳細については,「ツール」(214ページ)を参照してください。

2. [**アクション**] タブを選択します。

アクションの指定,ターゲット・ノード,および利用可能なアクションのステータスが表示されます。1つのイベントには,最大で1つの自動アクションと1つのユーザ・アクションがあります。

3. 実行するアクションで, [開始]を選択します。

また,イベントのショートカット・メニューから,次のように適切なアクションを選択しま す。

[アクション]を右クリック > [開始]

アクションが開始され、ステータスが[実行中]に変わり、イベント・ブラウザの関連付けられているアクションのアイコンがこのステータスを反映するよう変更されます。

アクションが正常に実行されると、このステータスは [成功] に変わります。アクションが正 常に実行されなかった場合、このステータスは [失敗] に変わります。

4. 実行したアクションのサマリを表示するには、 [注釈] タブを選択します。

カスタム・アクションの起動方法 イベントに実行するカスタム・アクションを選択します。 右クリック > [**起動**] > [カスタム アクション] > <カスタム・アクションを選択> 選択したカスタム・アクションが選択したイベントのコンテキストで起動されます。

UI 参照

[Actions] ペイン

UI 要素	説明
CI	選択したイベントに関連する Cl。
クリア	現在入力している検索文字列をクリアし,選択した CI に有効なすべてのアクショ ンを表示します。
イベント	イベントを簡単に説明するイベントのタイトル。

UI 要素	説明
フィルタ	[Actions] ペインに表示するアクションを, Cl またはノードに適用可能なアク ションのみに絞り込みます。
	すべて - 選択したイベントに適用可能なすべてのアクションを表示します。
	CI - 選択したイベントに関連する CI に対して実行可能なアクションを表示します。
	ノード - 選択したイベントに関連するノードに対して実行可能なアクションを表示 します。
	ソース Cl - 受信したイベントのソース Cl に対して実行可能なすべてのアクション を表示します。
ノード	イベントが関連付けられているホスト名。
検索	[Actions] ペインに表示するアクションを,入力した検索文字列に一致するもののみに絞り込みます。

第9章: ツール

たとえば,システムを ping するためのツールを指定できます。これらのツールはイベントまたはア クション・パネルから起動して,関連 CI で実行します。ツールは,ユーザが一般的な問題を迅速か つ効率的に解決できるよう設計されています。

すべての利用可能なツールは,構成アイテムのコンテキストで開かれる[ツールの選択]ウィンドウ に表示されます。ショートカット・メニューには,特定のイベントに影響している構成アイテムに利 用できる一連のツールが表示されます。

詳細

ショートカット・メニューのツール

イベントのコンテキストでは,利用可能なツールは [起動] > [ツール] ショートカット・メニュー に表示されます。

構成アイテムのコンテキストでは、利用可能なツールは[**ツールを起動**]ショートカット・メニュー 以外に観点の[アクション]ペインにも表示されます。

ショートカット・メニューには,特定のイベントに影響している構成アイテムに利用できる一連の ツールが表示されます。

カスタム・ツールの設定に使用するツール・マネージャの使用の詳細については, OMi 管理ガイドを 参照してください。

タスク

ツールの起動方法

このタスクでは、特定の構成アイテム・タイプに設定されているツールを起動する方法を説明しま す。ツールはショートカット・メニューに表示されます。

注: 選択したイベントで利用可能なツール,カスタム・アクション,パフォーマンス・グラフ,00 ラン・ブックは, 観点の [アクション] ペインにも表示されます。

1. イベント・ブラウザを開き, 既知のイベントー覧を開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

2. [View Explorer] ペインで,起動するツールの構成アイテム・タイプを含むビューを選択します。

注:構成アイテムの名前や場所が不明な場合は検索機能を使用します。

- 3. 次のいずれかの選択し, [ツールの実行] ダイアログ・ボックスを開きます。
 - イベント・ブラウザでイベントを右クリックし、次を選択する。

[起動] > [ツール] > <ツールを選択>

■ ビュー・エクスプローラで構成アイテムを右クリックし、次を選択する。

[ツールを起動] > <ツールを選択>

イベントに関連付けられている構成アイテム・タイプに設定されている選択したツールが [ツールの実行]ダイアログ・ボックスに表示されます。

- ツールがパラメータの解決にほかの情報を必要とする場合、その情報を[ツールの実行]ウィ ザードのページに入力します。
- 5. 選択したツールを実行するには、 [ツールの実行]を選択します。

スクリプトおよび実行可能コマンドについては, [実行結果] ウィンドウにツールの実行の出 力が表示されます。

[出力のワード ラップ]オプションを使用すると、出力ペイン内にすべての出力テキストが確 実に表示されます。

表示されている出力を更新したり、ツールの実行中に表示されている出力を定期的に更新する 更新間隔を選択するには、[**更新**]ボタンを使用します。

URL の開始には、ブラウザにターゲットの URL が開きます。

6. スクリプトおよび実行可能コマンドについては、ツールの実行後に[閉じる]を選択します。

UI 参照

[ツールの実行] のユーザ・インタフェース

ツールを実行する前に[ツールの実行]ダイアログ・ボックスでは、そのツールを表示することができます。また、同じツールのショートカット・メニューに表示されるほかのツールも参照できます。

[ツールの実行]ページには、次の表の UI 要素が表示されます。

UI 要素	説明
戻る	存在する場合, [ツールの実行] ウィザードの前のページを開きます。前のページがな い場合は, [戻る] ボタンは非アクティブ(グレー表示)になっています。
キャン セル	ツールを実行せずに[ツールの実行]ウィザードを閉じます。
閉じる	ツールの実行後, [ツールの実行] ウィザードを閉じます。
次へ	存在する場合, [ツールの実行] ウィザードの次のページを開きます。次のページがな い場合は, [次へ] ボタンは非アクティブ(グレー表示)になっています。
更新	アクティブなツールの出力表示を更新します。
毎回更 新	一覧から選択した更新間隔を使用し,アクティブなツールの出力表示を自動更新しま す。
ツール の実行	[ツールの実行]ウィザードで選択されているツールを起動します。ツールがパラメー 夕の解決にほかの情報を必要とする場合,ツールの起動前にウィザードから必要情報を 入力します。
出力の ワード ラップ	折り返して、ツールからの出力されたテキストを出力ペインの幅内に表示します。

トラブルシューティングと制限事項

本項では, OMi ツールの起動および使用上の問題のトラブルシューティングについて説明します。 ツールの設定および可用性に関するトラブルシューティングの詳細については, OMi 管理ガイドを参 照してください。

ツールがまったく表示されない

- 選択した構成アイテム・タイプまたは選択したイベントに関連付けられている構成アイテム用に はツールは存在しません。
- 選択したイベントには, 関連 CI やノードの情報が存在しません。

ツールが実行されない

ツールの設定が不正です。
ツールは,イベントのコンテキストでは実行されません。構成アイテムでのみ実行できます。た だし,すべてのツールにはイベントのパラメータがあります。

• ツールが,現在有効でないネットワークやインターネット接続に依存しています。

第10章: ビュー

何千という構成アイテム(CI)があるため,設定管理データベースのCIモデルが大容量化している場合があります。ビューでは,CIモデル全体から興味のある特定分野のCIのみを抽出したサブセットを構築できます。独自のビューを定義して,組織のビジネスで必要な情報のみを表示できます。

詳細

本項の内容

- 「ビューによるフィルタリング」(218ページ)
- 「ビューの管理」(218ページ)
- 「ビューのマップ」(219ページ)
- 「サービス状況ビュー・バンドル」(219ページ)

ビューによるフィルタリング

OMiのビューでは,ビュー・エクスプローラに表示される CI を制限できます。OMi では,イベント・ パースペクティブおよび状況パースペクティブのイベント・ブラウザの内容を,選択したビューで フィルタします。

管理者は、ユーザとグループを設定し、それらに関連するビューでフィルタされたイベントのみを見 られるようにもできます。ユーザやグループで選択されたビューを解除し、イベントすべてを表示す ることもできます。詳細については、0Mi 管理ガイドを参照してください。

詳細については, 「ビューおよびビューに基づく承認によるフィルタリング」(50ページ)を参照して ください。

ビューの管理

ビューを設定および変更するには、モデリング・スタジオを使用します。

[管理] > [RTSM 管理] > [モデリング] > [モデリング スタジオ]

また,既存のビューを変更して,表示される情報の量および種類を変更,増分,減分することもでき ます。コンテンツ・パック・マネージャのインポートおよびエクスポート機能を使用すると,OMiの インスタンス間でビューを交換できます。

OMi 管理パックには、タスクをより効率的に実行するのに役立つ、構成アイテムをセットとしてグループ化するビューがあります。

ビューのマップ

ビューでは,興味のある特定領域の CI のみなど, ConfigurationItem モデル全体のサブセットを表示 できます。ビューを選択すると, [CI ツリー] または [Health Top View] ペインなどに表示する情報 の種類と量の両方を絞り込むことができます。

構成アイテム・タイプにはビューをマップできます。マップしたビューは [Health Perspective] タ ブの [Health Top View] ペインの [選択された表示] リストに表示されます。 [Health Top View] お よび [選択されたビュー] リストの内容の詳細については, 「状況トップ・ビュー・コンポーネン ト」 (163ページ)を参照してください。

コンテンツ・パック・マネージャのインポートおよびエクスポート機能を使用すると, OMi のインス タンス間で設定したビュー・マッピングを交換できます。

注:管理機能を使用できるのは、適切なアクセス権限を持つユーザのみです。

サービス状況ビュー・バンドル

RTSM で定義されたビューの中には、OMi の標準設定で利用できないものがあります。これらのアプ リケーションは、 [サービス状況] という名前のビュー・バンドルでフィルタされるためです。OMi に表示されないビューを表示するには、RTSM 管理または サービス状況 の [ビュー ビルダ] で ビューを開き、 [サービス状況] バンドルにビューを割り当てます。バンドルの詳細については、 『モデリング・ガイド』の「ビジネス・ビューの構築」を参照してください。

第10章: マイ・ワークスペース

[マイ・ワークスペース] は OMi の操作に使用する,カスタマイズ可能な Web 2.0 ユーザ環境です。 OMi 管理者は,実際の作業を行うユーザやシニア・マネージメントなど,さまざまなユーザ向けの ロールベースのワークスペースを作成できます。[マイ・ワークスペース]を使用すると,異なる OMi コンポーネント間で円滑にやり取りできます。

マイ・ワークスペースの操作に関する詳細は、次の章を参照してください。

- 「[マイワークスペース]を使用した環境の監視」(221ページ)。本章では, [マイ・ワークスペース]と利用可能なページやコンポーネントについて説明します。
- 「 [マイワークスペース] のセットアップ方法」(244ページ)。本章では,新しいページの作成お よび [マイ・ワークスペース] へのコンポーネントの追加方法について説明します。

第11章: [マイ ワークスペース] を使用した環 境の監視

マイ・ワークスペース 管理者は,特定のユーザやユーザ・グループが関心を持つコンポーネントを 含むページをセットアップします。各ページでのページ上のコンポーネントのレイアウトおよびコン ポーネント間の相互作用は,管理者が定義します。

OMi マイ・ワークスペース

マイ・ワークスペースには、次が含まれます。

コンポーネント:各コンポーネントは、ユーザのビジネス・タスクに関連する情報を表示する OMiの一部です。コンポーネント・ギャラリには、[マイ・ワークスペース]内で使用できるアプリケーション・コンポーネントが表示され、ソース・アプリケーションごとにグループ化されています。詳細については、「利用可能なコンポーネント」(225ページ)を参照してください。

ページには,コンポーネント・ギャラリのコンポーネントを追加できます。ページ上のほかのコンポーネントとの相互作用も可能な,外部 URL に基づいたコンポーネントを追加することもできます。詳細については,「外部コンポーネントの作成方法」(250ページ)を参照してください。

ページ:ページは、一緒に表示され、相互作用し合う複数のコンポーネントで構成されています。

ページは,アプリケーションごとにグループ化された,定義済みのページが含まれたページ・ ギャラリから開くことができます。詳細については,「定義済みページ」(222ページ)を参照して ください。

OMi コンポーネントと外部コンポーネントの両方を使用して,新しいページを簡単に作成することもできます。詳細については,「[マイワークスペース]のセットアップ方法」(244ページ)を参照してください。

 ワイヤリング:ワイヤリングはページのコンポーネントが相互作用する方法を指します。ページ 内では、コンポーネント間での情報の交換が可能なため、1つのコンポーネントが別のコンポー ネントで発生した変更に対応できます。たとえば、あるコンポーネントで CI を選択した場合に、 同じページにあるほかのコンポーネントでもその CI に焦点を当てるようにページをセットアップ できます。

標準設定のページではワイヤリングが事前定義されています。標準設定以外のページについては ワイヤリングを定義することもできます。詳細については、「コンポーネント間のワイヤリング のセットアップ方法」(253ページ)を参照してください。

• レイアウト:レイアウトとは,ページ上でのコンポーネントの配置方法を指します。コンポーネ

ントは,水平,垂直,タブに分割などの方法で配置できます。詳細については,「ページ・レイ アウトの設定方法 - 使用例のシナリオ」(247ページ)を参照してください。

[マイワークスペース]の操作

- ページを開くには、ワークスペースの右上の領域にある、ページ管理ツールバーの [ページセレ クタ]ドロップダウン・リストから対象となるページを選択します。 [ページセレクタ]にペー ジ名の一部を入力して、ドロップダウン・リストに表示されるページ数を制限することもできま す。
- ページを閉じるには、ページ右上角にある閉じるアイコンをクリックします。
- ユーザ権限によっては、ページの作成や削除、ページ・レイアウトの設定、ページへのコンポーネントの追加と削除、コンポーネント間のインタラクション方法の定義、ページおよびコンポーネントのカテゴリの編集が可能な場合があります。これらのオプションの詳細については、「[マイワークスペース]のセットアップ方法」(244ページ)を参照してください。

外部ポータルで表示

OMi 情報を表示するには、コンポーネントの URL をコピーし、それを外部ポータルに貼り付けます。

定義済みページ

OMi のワークスペース領域には多数の定義済みページがあり,すぐに使用できます。これらのページ は,ツールバーの [ページの選択] ドロップダウン・リストを使用するか, [ページ ギャラリ] 🛅 ボタンを使用して開けます。

また,選択したコンポーネントを使用してカスタム・ページを作成することもできます。マイ・ワー クスペース のページおよびコンポーネントを使用した作業方法の詳細については,「[マイ ワーク スペース]のセットアップ方法」(244ページ)を参照してください。

ー部のページは、ビュー・セレクタを組み込んだ単一のコンポーネントで構成されます。それ以外の ページは複数のコンポーネントで構成され、1 つのコンポーネントがほかのコンポーネントのビュー や CI の選択に使用されます。各コンポーネントの詳細については、「利用可能なコンポーネント」 (225ページ)を参照してください。

[マイ・ワークスペース]内の定義済みのページは、次のとおりです。

注: 「ワークスペースでのユーザ権限」(246ページ)で説明されているように,アクセスできるのは,権限が設定されたページのみです。

ページ	説明
ダッシュボー	۴
360° View	選択した CI に関する包括的なデータが、1 か所に集めて表示されます。360-View には、選択したビューの CI に関する KPI データを提供する階層コンポーネントが含 まれています。階層コンポーネント内の CI を選択すると、その詳細リンクを表示で きます。詳細リンクをクリックすると、次のコンポーネントにアクセスできます。 ビジネス影響度、状況インジケータ、警告、変更およびインシデント。詳細につい ては、「360° View」(268ページ)を参照してください。
KPI Over Time	経過時間ごとの KPI ダッシュボードでは,選択した経過時間ごとの KPI および CI の ステータスやステータス・サマリを表示できます。ダッシュボードでは,履歴 KPI ステータス・データや監視対象環境の状況を一目で確認できる多数のウィジェット を選択できます。詳細については,「経過時間ごとの KPI ダッシュボード」(269 ページ)を参照してください。
Monitoring Dashboard	監視ダッシュボードには,監視対象となっている環境内のイベントの概要が示され ます。監視ダッシュボードの使用により,環境の状況をすばやく評価でき,また, 注意を要する領域を特定できます。詳細については,「監視ダッシュボード」(259 ページ)を参照してください。
ROI Dashboard	投資利益率ダッシュボードには、オペレータによる介入が必要であったイベントに 対する、OMiによって受信され自動処理されたイベントの比率が表示されます。自 動処理されたイベントの比率が高いほど、OMiによるインフラストラクチャ管理へ の貢献度が高くなります。一般的なイベントを手動で処理するコストがわかってい る場合、この値をOMiに入力できます。この値に基づき、OMiによって達成された コスト節約の合計を表示できます。これらの統計情報は、OMiによってIT環境が監 視されている間の任意の指定期間について表示できます。詳細については、「投資 利益率ダッシュボード」(275ページ)を参照してください。
Operations Co	nsole
Discover OMi	事前に定義されたパスに従って、OMiのさまざまな機能を順に試していきながら、 OMiの機能を学習できます。このマップは、対話型のチュートリアルから始まりま す。各手順には、組み込み情報や、追加リソース(関連 UI ページ、オンライン・ヘ ルプ、ビデオなど)へのリンクが含まれています。 [OMi 探索] により進行状況を 追跡し、参照済みの領域を把握できます。進行状況はローカルに保存されます。ブ ラウザのクッキーを削除する(またはマップ内の [状態のリセット] をクリックす る)と、進行状況が削除されます。
Event Perspective	監視中の動作環境で発生するイベントのサマリと,選択したイベントに関する詳細 情報が表示されます。詳細については,「イベント・パースペクティブ」(282ペー ジ)を参照してください。

ページ	説明
Health Perspective	イベントのコンテキスト内の関連 CI の状況が表示されます。イベント・ブラウザで 選択したイベントにより, [Health Top View] や [Health Indicators] のペインの表 示内容が決まります。
	このページは,オブジェクトの状況ステータスを理解するのに役立つうえ,どのビ ジネス・ルールや KPI が使用されているか,および選択したオブジェクトの状況ス テータスが関連 CI の状況にどのように影響するかを示します。詳細については, 「Health Perspective」(283ページ)を参照してください。
Performance Perspective	テンプレートからグラフを作成し,選択した CI に基づいて設定されるメトリック・ リストから必要なメトリクスを選択して,一時的なグラフを作成できます。詳細に ついては,「パフォーマンス・グラフ作成の概要」(285ページ)を参照してくださ い。

利用可能なコンポーネント

さまざまなアプリケーションのコンポーネントを, [マイ・ワークスペース] ページに追加できま す。次のセクションでは,利用可能な OMi コンポーネントについて説明します。ユーザ・インタ フェースの詳細については,「[コンポーネント ギャラリ] ダイアログ・ボックス」(237ページ)を 参照してください。

注: アプリケーションからコンポーネントにアクセスするには,そのアプリケーションのライセンスが必要です。

ー部のコンポーネントは,定義済みページとしても利用できます。詳細については,「定義済みページ」(222ページ)を参照してください。

次のアプリケーションからコンポーネントを追加できます。

- 「イベント管理」(225ページ)
- 「一般」(226ページ)
- 「NNMi」(226ページ)
- 「パフォーマンス管理」(228ページ)
- 「サービス状況」(228ページ)
- 「SiteScope」(230ページ)
- 「ユーザ・エンゲージメント」(230ページ)

イベント管理

コンポーネン ト名	説明
Actions	選択したイベント,関連CI,またはそのCIをホストするノードに適用できる, アクション(ツール,ラン・ブック,カスタム・アクション,およびパフォーマ ンス・グラフ)のリストが表示されます。詳細については,「アクション」(209 ページ)を参照してください。
Event Browser	監視中の動作環境で発生するすべてのイベントのサマリが表示されます。詳細に ついては, 「イベント・パースペクティブ」(282ページ)を参照してください。

コンボーネン ト名	説明
Event Browser with Details	監視中の動作環境で発生したすべてのイベントのサマリが表示されます。いっしょに表示される[詳細]ペインには,選択したイベントの詳細情報が表示されます。詳細については,「イベント・パースペクティブ」(282ページ)を参照してください。
Event Details	選択したイベントの詳細情報は,イベント・ブラウザの下にある専用ペインに,ま たはポップアップ・ウィンドウとして表示できます。詳細については, 「イベン ト・パースペクティブ」(282ページ)を参照してください。
Monitoring Dashboard	イベント・フィルタに一致するイベント,または参照ビューに含まれる構成アイ テムに関連するイベントのサマリを表示する監視ダッシュボードの設定を選択で きます。監視ダッシュボードは,複数のタイプのウィジェット(スタック・ウィ ジェットやパイ・ウィジェットなど)を使用してステータス情報を表示します。 詳細については,「監視ダッシュボード」(259ページ)を参照してください。
ROI Dashboard	投資利益率ダッシュボードには、OMi が受信したイベントと、オペレータによる 介入が必要であったイベントで自動処理したものの比率が表示されます。自動処 理されたイベントの比率が高いほど、OMi によるインフラストラクチャ管理への 貢献度が高くなります。一般的なイベントを手動で処理するコストがわかってい る場合、この値を OMi に入力できます。この値に基づき、OMi によって達成され たコスト節約の合計を表示できます。これらの統計情報は、OMi によってIT 環境 が監視されている間の任意の指定期間について表示できます。詳細については、 「投資利益率ダッシュボード」(275ページ)を参照してください。

一般

コンポーネン ト名	説明
Discover OMi	事前に定義されたパスに従って、OMiのさまざまな機能を順に試していきなが ら、OMiの機能を学習できます。このマップは、対話型のチュートリアルから始 まります。各手順には、組み込み情報や、追加リソース(関連 UI ページ、オンラ イン・ヘルプ、ビデオなど)へのリンクが含まれています。[OMi 探索] により 進行状況を追跡し、参照済みの領域を把握できます。進行状況はローカルに保存 されます。ブラウザのクッキーを削除する(またはマップ内の[状態のリセッ ト]をクリックする)と、進行状況が削除されます。

NNMi

NNMi コンポーネントにアクセスするには,適切なライセンスをインストールする必要があります。 NNMi コンポーネントは,インフラストラクチャ設定で NNM サーバへの接続を設定した場合にのみ表 示されます。

[管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定]

[ファウンデーション] > [他のアプリケーションとの統合] > [HP NNM] を選択します。

NNMi と OMi コンポーネント間のワイヤリングは, NNMi-OMi 統合が実装された場合のみ有効になります。統合の詳細については, HP ソフトウェア統合サイト

(http://support.openview.hp.com/sc/solutions/index.jsp#tab=tab3)の[Integrations] タブの [OMi] セクションを参照してください。

ヒント: NNMi ノード・グループ・マップをカスタマイズし、そのマップを URL にエクスポート すると、 [マイ・ワークスペース] への外部コンポーネントとして URL を追加できます。詳細 については、「外部コンポーネントの作成方法」(250ページ)を参照してください。

コンポーネン ト名	説明
Layer 2 Neighbor View	選択したデバイスと,そのデバイスから指定したホップ数以内にあるコネクタ・ デバイスのマップ・ビューが表示されます。このビューは,デバイス間のスイッ チの接続を理解するのに役立ちます。
Layer 3 Neighbor View	選択したデバイスと,そのデバイスから指定したホップ数以内にあるコネクタ・ デバイスのマップ・ビューが表示されます。このビューは,デバイス間のルータ の接続を理解するために役立ちます。
MPLS VPN Inventory	企業顧客向けのビューで,顧客の各サイトが MPLS ネットワークが提供するサー ビスを介してどのように接続されるかを示します。
Open Key Incidents	ネットワーク・オペレータにとって最も重要なインシデントが表示されます。こ れらのインシデントには,即時の対応が必要になることがよくあります。
Overall Network Health (Node Group Overview)	親ノード・グループを持たない, すべての(最上位レベルの)ノード・グループ を含むマップが表示されます。
Overall Network Health - Routers	ネットワーク内のルータ接続のノード・グループ・マップが表示されます。

OMi ユーザ・ガイド 第11章: [マイ ワークスペース]を使用した環境の監視

コンポーネン ト名	説明
Overall Network Health - Switches	ネットワーク内のスイッチ接続のノード・グループ・マップが表示されます。
Router Redundancy Groups Inventory	NNMi 管理者によって作成された,利用可能なルータ冗長性グループが表示されます。各ルータ冗長性グループは2つ以上のルータのセットで,情報パケットが目的の宛先に確実に届くように,1つ以上の仮想 IP アドレスを使用します。

パフォーマンス管理

コンボーネ ント名	説明
Performance Graphs	標準設定のテンプレートからグラフを描画できる [パフォーマンス] ペインを表示 できます。詳細については, 「パフォーマンス・グラフ作成の概要」(285ページ)を 参照してください。
Performance Graphs with Details	事前定義のグラフを描画できる詳細付きパフォーマンス・ペインを表示し,選択した CI に必要なメトリックを選択して,すぐにグラフを描画できます。詳細については, 「パフォーマンス・グラフ作成の概要」(285ページ)を参照してください。

サービス状況

コンポーネン ト名	説明
Changes and Incidents	選択した CI によって開かれるインシデントと,その CI を対象として計画された変 更と実際の変更が表示されます。詳細については,「変更およびインシデント・ コンポーネント」(138ページ)を参照してください。
Custom Image	ビューが示す実際の状況を表すユーザ定義のカスタム・イメージと,イメージの リアルタイム・ステータス・インジケータが表すビューの CI が表示されます。詳 細については,「カスタム・イメージ・コンポーネント」(142ページ)を参照して ください。
Geographical Map	ビューの CI に割り当てられた地理マップ上の地理的な場所に, リアルタイム・ス テータス・インジケータが表示されます。ステータス・インジケータには, その 地理的な場所にある CI の最悪ステータスが示されます。詳細については, 「地理 マップ・コンポーネント」(146ページ)を参照してください。

コンポーネン ト名	説明
Health Indicators	選択した CI の,現在のステータスの計算や設定に使用される状況インジケータに 関する詳細が表示されます。詳細については,「状況インジケータ・コンポーネ ント」(155ページ)を参照してください。
Health Top View	[イベント ブラウザ] ペインで選択したイベントの影響を受ける構成アイテム の,トポロジのビューが表示されます。詳細については,「状況トップ・ ビュー・コンポーネント」(163ページ)を参照してください。
Hierarchy	ビュー内の CI の階層,各 CI に割り当てられた KPI,およびそれらの KPI ステータス を表示します。階層コンポーネント内の CI を選択すると,その詳細リンクを表示 できます。詳細リンクをクリックすると,CI に関する包括的なデータを提供する 追加コンポーネントにアクセスできます。詳細については,「階層コンポーネン ト」(166ページ)を参照してください。
KPI Over Time	経過時間ごとの KPI ダッシュボードでは,選択した経過時間ごとの KPI および CI の ステータスやステータス・サマリを表示できます。ダッシュボードでは,履歴 KPI ステータス・データや監視対象環境の状況を一目で確認できる多数のウィジェッ トを選択できます。詳細については,「経過時間ごとの KPI ダッシュボード」(269 ページ)を参照してください。
Neighborhood Map	選択した CI の親 CI と子 CI が,インタラクティブな階層構造のグラフィックに表示 されます。詳細については,「隣接マップ・コンポーネント」(179ページ)を参照 してください。
Top View	ビジネス・アプリケーションにマッピングされたリアルタイムの IT パフォーマン ス・メトリクスを表す CI バーが, CI 間の関係を表す線のリンク付きで表示されま す。詳細については, 「トップ・ビュー・コンポーネント」(185ページ)を参照し てください。
Topology Map	インタラクティブな階層構造のグラフィックに,ビュー内の CI が表示されます。 トポロジ・マップでは CI 間のリンクが表示され,CI を層やグループに分けて表示 できます。詳細については,「トポロジ・マップ・コンポーネント」(192ページ) を参照してください。
View Explorer	ビューのリストと,各ビュー内の CI 階層が含まれています。このコンポーネント を使用すると,ビューの選択, CI の選択,または CI の検索ができます。ビュー・ エクスプローラは,ビューまたは CI の選択に対応する,その他のコンポーネント でも使用されます。詳細については,「ビュー・エクスプローラ・コンポーネン ト」(200ページ)を参照してください。
Watch List	複数のビューの重要な CI の状況に関する高レベルの概要が表示されます。詳細に ついては, 「監視リスト・コンポーネント」(204ページ)を参照してください。

SiteScope

コンポーネント名
SiteScope Multi-View

ユーザ・エンゲージメント

コンポーネント名	説明
User Engagement Achievements	実行中のすべての業績の概要がカテゴリ別にグループ化され,表示されます。無効な業績および一時停止した業績は,表示されません。各カテゴリには,進行状況バーが表示されます。詳細については,「業績」(18ページ)を参照してください。
User Engagement Dashboard	ユーザ・エンゲージメントでは、ゲーミング・テクノロジを使用し て、作業に対する関心を高め、OMiの使用方法を学習して徐々に知識 が増えていく過程で自分の業績を確認できます。詳細については、「 ユーザ・エンゲージメント」(17ページ)を参照してください。
User Engagement Experts	エキスパート・ボードを使用すると、OMiのさまざまな範囲で最も経 験豊富なユーザを組織内で特定し、連絡を取ることができます。ユー ザ・エンゲージメントの [エキスパート] ページには、全体的に最も 経験豊富なユーザと、選択したカテゴリについて最も経験豊富なユー ザが表示されます。各カテゴリにドリルダウンして、エキスパート・ ボードのすべての参加者のリストを表示できます。詳細については、 「エキスパート」(17ページ)を参照してください。
User Engagement Timeline	ユーザの業績の履歴が表示されます。タイムラインには,ユーザ・エンゲージメント参加の個人的な概要が表示され,共有されることはありません。詳細については,「タイムライン」(19ページ)を参照してください。

[マイ ワークスペース] のユーザ・インタフェース

本項の内容

- 「マイ・ワークスペース」(231ページ)
- 「 [ページ ギャラリ] ダイアログ・ボックス」(236ページ)
- 「 [コンポーネント ギャラリ] ダイアログ・ボックス」(237ページ)
- 「[新規コンポーネント]/[コンポーネントの編集]ダイアログ・ボックス」(239ページ)
- 「[ワイヤリング]ダイアログ・ボックス」(242ページ)

マイ・ワークスペース

[マイ・ワークスペース] では、OMi から標準設定ページを表示し、OMi コンポーネントや外部コン ポーネントを含む新しいページを作成できます。各ページはワークスペース内にタブとして表示され ます。標準設定のページのリストについては、「定義済みページ」(222ページ)を参照してくださ い。標準設定の OMi コンポーネントのリストについては、「利用可能なコンポーネント」(225ペー ジ)を参照してください。

アクセス方法

[ワークスペース] > [マイ ワークスペース]

- 重要情報:このヘルプ・トピックは,標準設定以外のページを作成して OMi メニュー・バーの [ヘルプ] > [このページのヘルプ]にアクセスすると表示されます。
- 関連タスク: 「[マイワークスペース]のセットアップ方法」(244ページ).

詳細

ページ管理ツールバー

ワークスペースの右上にあるページ管理ツールバーでは、ページの作成、ページへのコンポーネント の追加、コンポーネント間の相互作用の定義を行うことができます。

UI 要素	説明
<ページ・セ レクタ>	このドロップダウン・リストからページを選択して,ワークスペースで開きます。 このリストには,ページ・ギャラリで定義されているページが含まれています。
	このボックスにページ名を入力し始めると,リストにはその名前が入力した文字で 始まるページのみが表示されます。

UI 要素	説明
C	更新 : ページを更新します。
	保存または名前を付けて保存:現在のページをページ・ギャラリに保存します。ダ イアログ・ボックスでは、ページに名前や説明を付けたり、そのページ用のカテゴ リを選択できます。 説明は、ページのツールチップとしてページ・ギャラリ内に表示されます。
	ページ・ギャラリ:ページ・ギャラリを開きます。ページ・ギャラリには、ユーザ が保存したページ以外に標準設定のページも表示されます。ページ定義の編集、ま たはページを開くことが可能です。ユーザ・インタフェースの詳細については、 「[ページギャラリ]ダイアログ・ボックス」(236ページ)を参照してください。
*	新規ページ: 新しいページを作成します。 新規ページを開いたら,レイアウトの設定,ページへのコンポーネントの追加,コ ンポーネント間のワイヤリングの定義を行うことができます。タスクの詳細につい ては,「[マイワークスペース]のセットアップ方法」(244ページ)を参照してくだ さい。
0 0	ページ・レイアウトの編集:既存のページのレイアウトを変更します。各レイアウトの左上角にあるレイアウト・ツールを使用して,レイアウト領域を変更します。 編集の終了:作業の終了後,このボタンをクリックして編集を終了します。
	コンポーネント:コンポーネント・ギャラリを開きます。コンポーネント・ギャラ リには,ユーザが追加したコンポーネント以外に標準設定のコンポーネントも示さ れます。コンポーネント定義の編集,またはページへのコンポーネントの追加を行 うことができます。ユーザ・インタフェースの詳細については,「[コンポーネン トギャラリ]ダイアログ・ボックス」(237ページ)を参照してください。
œ	ページ・ワイヤリング:コンポーネント間のワイヤリングを定義します。これにより、コンポーネント間での相互作用が決定されます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[ワイヤリング]ダイアログ・ボックス」(242ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
Q	スライドショーの開始 / スライドショーの終了 : 開いているページのスライド ショーを開始します。ダイアログ・ボックスでは,ページを循環する回数を定義で きます。ページは,表示される前に更新されます。
	スライドショーの実行中にこのボタンをクリックすると、スライドショーが終了し ます。
	注:ページの更新間隔がスライドショーの間隔より長い場合は,ページが更新 され ません 。たとえば,コンポーネントを1分ごとに更新するように設定されており, スライドショーのページが30秒ごとに循環する場合は,ページが更新されません。

レイアウト・ツール

レイアウトが空の場合は, 左上の領域にあるレイアウト・ツールを使用してレイアウトを定義できま す。レイアウトの中央に表示されるアイコンで, レイアウトの種類(水平, 垂直, またはタブ付き) が示されます。

UI 要素	説明
レイアウト・	・ツール
\gg	レイアウトの削除 : ページからレイアウトを削除します。
	コンポーネントの追加:コンポーネント・ギャラリを開きます。コンポーネントをダ ブルクリックして,レイアウト領域に配置します。ユーザ・インタフェースの詳細 については,「[コンポーネントギャラリ]ダイアログ・ボックス」(237ページ)を 参照してください。
	分割: 垂直レイアウトを上下 2 つのレイアウトに分けます。
	分割: 水平レイアウトを隣り合った2つのレイアウトに分けます。
5	水平に切り替え: レイアウトを垂直またはタブ付きから水平に変更します。この領域 に配置されるコンポーネントは,隣り合って追加されます。
5	垂直に切り替え: レイアウトを水平またはタブ付きから垂直に変更します。この領域 に配置されるコンポーネントは、上下に追加されます。

UI 要素	説明
5	タブに切り替え: レイアウトを垂直または水平からタブ付きに変更します。この領域 に配置されるコンポーネントは、タブとして追加されます。
レイアウト・	・アイコン
	<水平レイアウト>:レイアウト中央にこのアイコンがある場合は、そのレイアウト が水平であることを示します。この領域に配置されるコンポーネントは、隣り合っ て追加されます。
I	<垂直レイアウト>:レイアウト中央にこのアイコンがある場合は,そのレイアウト が垂直であることを示します。この領域に配置されるコンポーネントは,上下に追 加されます。
	<タブ付きレイアウト> : レイアウト中央にこのアイコンがある場合は,そのレイア ウトが水平であることを示します。この領域に配置されるコンポーネントは,タブ として追加されます。

コンポーネント・ツールバー

各コンポーネントの右上にあるコンポーネント・ツールバーで,コンポーネントを管理できます。 ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
6	次のいずれかを開きます。
	 プリファレンス:コンポーネントの名前を変更したり、更新頻度をカスタマイズできます。
	 ワイヤリング:このコンポーネントが、ページ上のほかのコンポーネントと相互作用する方法をカスタマイズできます。詳細については、「[ワイヤリング]ダイアログ・ボックス」(242ページ)を参照してください。
	• 更新 : 手動でコンポーネントを更新します。
	• ヘルプ : コンポーネントのヘルプにアクセスします。
	注:
	 コンポーネントによっては、これらのオプションのいくつかが利用できない場合が あります。
	 Mozilla Firefox では、ページ上に多数のコンポーネントがあるときに、コンポーネントの[プリファレンス]または[ワイヤリング]ダイアログ・ボックスを開く場合、ダイアログ・ボックスを別の場所にドラッグしないようにしてください。UIの問題が発生することがあります。
Þ	コンポーネントの構成 : コンポーネントで内部フィルタがサポートされている場合 は,そのコンポーネントのフィルタを定義します。
a	コンポーネントを独立したポップアップ・ウィンドウに表示します。
	注 : ここで開かれるポップアップ・ウィンドウでは,ワイヤリングはサポートされません。
* *	コンポーネントを一時的に折りたたみます。左のボタンは水平コンポーネント用,右 のボタンは垂直コンポーネント用です。
» ×	折りたたまれたコンポーネントを元に戻します。左のボタンは水平コンポーネント 用,右のボタンは垂直コンポーネント用です。
	注 : 水平レイアウトを折りたたむと、細い縞になります。コンポーネントを元に戻すに は、縞をクリックします。
×	垂直または水平のレイアウトで,コンポーネントを閉じたり,コンポーネントをペー ジから削除します。
	タブ付きレイアウトでは,タブを閉じるボタンが各タブに配置されます。メインの [閉じる]ボタンをクリックすると,レイアウトが削除されます。

[ページ ギャラリ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、ページを選択して[マイ・ワークスペース]で開いたり、 ページ・ギャラリを管理できます。ページ・ギャラリ内で、ページはカテゴリに割り当てられます。 ページ・カテゴリの追加、編集、削除、カテゴリへのページの割り当て、ページの表示、編集、削除 を行うことができます。

アクセス 方法	[マイ・ワークスペース] で, [ページ ギャラリ] 🔠 ボタンをクリックします。
重要情報	[マイ・ワークスペース]でページを開くには, ページ・ギャラリ内のページをダブ ルクリックします。
関連タス ク	「[マイ ワークスペース]のセットアップ方法」(244ページ)

カテゴリ (左側)

UI 要素	説明
*	新規カテゴリ: 新しいカテゴリを作成します。作成後,そのカテゴリにページを割 り当てることができます。詳細については,「ページおよびコンポーネントのカテ ゴリの変更方法」(254ページ)を参照してください。
	カテゴリ名の編集: ユーザ定義のカテゴリを選択してからこのボタンをクリックして、名前を変更します。標準設定のカテゴリ名は変更できません。
×	カテゴリの削除: ユーザ定義のカテゴリを選択してからこのボタンをクリックし て,カテゴリを削除します。標準設定のカテゴリは削除できません。
カテゴリ	ここには,ページが割り当てられたカテゴリのリストが表示されます。カテゴリ名 の後には,次のような内容を表示できます。
	 カテゴリ名に続く数字は、そのカテゴリに含まれるページ数を示します。
	 カテゴリ名に続く鍵のアイコンは、そのカテゴリが標準設定のカテゴリであり、削除や名前の変更が行えないことを示します。
	ツールバーを使用すると,カテゴリの管理,またはカテゴリを選択してそこに含ま れるページをダイアログ・ボックスの右側に表示できます。
	カテゴリは共有が可能で、1 つのページを複数のカテゴリに割り当てられます。

OMi ユーザ・ガイド 第11章: [マイ ワークスペース]を使用した環境の監視

ページ (右側)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
₽ ₽	ページを開く : ページを選択し,クリックして[マイ・ワークスペース]で開きま す。
2	ページのカテゴリ分け : ページを選択し,クリックしてそのページをカテゴリに割 り当てます。
	ページの複製: ページを選択し,クリックしてそのコピーを作成します。コピー 後,ページに変更を加え,新しい名前で保存できます。
	ダイアログ・ボックスでは,新しいページに名前や説明を付けたり,そのページ用 のカテゴリを選択できます。説明は,ページのツールチップとしてページ・ギャラ リ内に表示されます。
×	ページの削除: ページを選択してからクリックすると,選択したページがギャラリ から削除されます。
ページ	ここには, [マイ・ワークスペース]で表示できる標準設定のページや, ユーザが 保存したカスタム・ページが表示されます。
	ページを選択したら, ツールバーを使用してページの定義を編集するか, ページを ダブルクリックして [マイ・ワークスペース] で開くことができます。
[検索] ボックス	テキスト文字列を入力して,特定のページを検索します。

[コンポーネント ギャラリ] ダイアログ・ボックス

ページを開いた後は、このダイアログ・ボックスでコンポーネントを管理し、それらのコンポーネントを[マイ・ワークスペース]で開くことができます。このダイアログ・ボックスでは、コンポーネントのカテゴリの変更、カテゴリへのコンポーネントの割り当て、コンポーネントの表示、編集、削除を行うことができます。

アクセス方法	[マイ・ワークスペース] で,	[コンポーネントの追加] 볼 ボタンをクリッ
	クします。	

重要情報	[マイ・ワークスペース] でコンポーネントを開くには, コンポーネントを選 択してページにドラッグします。	
	標準設定で表示されるコンポーネントは,適切なライセンスを所有しているコ ンポーネントです。詳細については,「利用可能なコンポーネント」(225ペー ジ)を参照してください。	
関連タスク	「[マイ ワークスペース]のセットアップ方法」(244ページ)	

カテゴリ (左側)

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
*	新規カテゴリ: 新しいカテゴリを作成します。作成後,そのカテゴリにコンポー ネントを割り当てることができます。詳細については,「ページおよびコンポー ネントのカテゴリの変更方法」(254ページ)を参照してください。
Ø	カテゴリ名の編集: ユーザ定義のカテゴリを選択してからこのボタンをクリック して,名前を変更します。標準設定のカテゴリ名は変更できません。
×	カテゴリの削除: ユーザ定義のカテゴリを選択してからこのボタンをクリックし て,カテゴリを削除します。標準設定のカテゴリは削除できません。
カテゴリ	ここには,コンポーネントが割り当てられたカテゴリのリストが表示されます。 カテゴリ名の後には,次のような内容を表示できます。
	 カテゴリ名に続く数字は、そのカテゴリに含まれるコンポーネント数を示します。
	 カテゴリ名に続く鍵のアイコンは、そのカテゴリが標準設定のカテゴリであり、削除や名前の変更が行えないことを示します。
	ツールバーを使用すると、カテゴリの管理、またはカテゴリを選択してそこに割 り当てられたページをダイアログ・ボックスの右側に表示できます。
	カテゴリは共有が可能で、1 つのコンポーネントを複数のカテゴリに割り当てるこ とができます。

コンポーネント (右側)

UI 要素	説明
*	外部コンポーネントの追加: URL に基づいた新しいコンポーネントを追加します。
	これにより,新しいコンポーネントを定義するダイアログ・ボックスが表示され ます。詳細については,「[新規コンポーネント]/[コンポーネントの編集]ダ イアログ・ボックス」(239ページ)を参照してください。
	コンポーネントとして任意の URL を追加できます。
	コンポーネントのプロパティ編集:外部コンポーネントを選択し,このボタンをク リックしてコンポーネントの定義を編集します。詳細については,「[新規コン ポーネント]/[コンポーネントの編集]ダイアログ・ボックス」(239ページ)を参 照してください。
2	コンポーネントのカテゴリ分け: コンポーネントを選択し,このボタンをクリック してそのコンポーネントをカテゴリに割り当てます。
×	コンポーネントの削除: コンポーネントを選択し,このボタンをクリックして選択 したコンポーネントをギャラリから削除します。
コンポーネン ト	ここには, [マイ・ワークスペース]で表示できる標準設定のコンポーネント や, ユーザが保存した外部コンポーネントが表示されます。
	コンポーネントの選択後,ツールバーを使用して,コンポーネントの定義の編 集,またはページへのコンポーネントのドラッグを行うことができます。
[検索] ボッ クス	テキスト文字列を入力して,特定のコンポーネントを検索します。

[新規コンポーネント] / [コンポーネントの編集] ダイアロ グ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると,外部 URL に基づいてコンポーネントを定義できます。ほかのコンポーネントから送られた,CI属性などのコンテキストの属性を使用して URL のパターンを 定義するように,ワイヤリングをセットアップできます。

アクセス方法	コンポーネント・ギャラリにアクセスして[外部コンポーネントの追加]をク リックするか,外部コンポーネントを選択して[コンポーネントのプロパティ編 集]をクリックします。
重要情報	外部コンポーネントの URL は,https://,http://,ftp:// のいずれかの文字列で開始 する必要があります。
	これ以外の文字列で始まる URL を保存すると,OMi セッションがハングアップし ます。

OMi ユーザ・ガイド 第11章: [マイ ワークスペース]を使用した環境の監視

関連タスク	「外部コンポーネントの作成方法」(250ページ)
関連情報	「動的 URL を使用したコンポーネントの作成方法 – 使用例のシナリオ」(252ペー ジ)

<上部のペイン>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明				
名前	コンポーネントに割り当てる名前を入力します。				
URL	コンポーネントの URL を入力します。パラメータを使用して動的 URL を作成し ている場合は,URL の静的部分をここに入力します。				
	たとえば,文字列 hp を Google.com で検索する URL には,次の形式を使用しま す。http://www.google.com/search?q=hp				
	この URL の静的部分は,疑問符の前の次の部分です。 http://www.google.com/search				
説明	コンポーネントの説明を入力します。				
最新の更新ラ ベルを表示	コンポーネントで最終更新日時を表示する場合に,このチェックボックスを選択 します。				

[コンポーネントのカテゴリ分け] 領域

オプション:コンポーネントを割り当てる1つ以上のカテゴリを選択します。

[配線の構成] 領域

ワイヤリング・コンテキスト

この領域では、URL パターンの定義に使用する属性を含むコンテキストを1つ以上選択できます。

- [CIChange]を選択すると、URLの定義に CI 属性を使用できます。
- [EventChange]を選択すると、URLの定義にイベント属性を使用できます。
- [ViewChange]を選択すると、ビュー名を属性として使用できます。

OMi ユーザ・ガイド 第11章: [マイ ワークスペース]を使用した環境の監視

UI 要素	説明
+	コンテキストの追加 : URL パターンの定義に使用できる属性を含むコンテキストを 追加します。
	ダイアログ・ボックスで,追加するコンテキストを選択できます。
×	削除: コンテキストを選択し,このボタンをクリックしてリストから削除します。
<コンテキス ト>	各行は,URL パターンの作成に使用できる属性を含むコンテキストを表します。

URL パラメータと値

この領域では、ワイヤリング・コンテキストの属性を使用して、URL パラメータと値を追加して URL パターンを構築できます。

UI 要素	説明
*	新規パラメータ: URL パラメータを追加します。
	表示されるダイアログ・ボックスで,URL の次のいずれかの要素を選択します。パ ス,クエリ文字列,URL のフラグメント。そしてパラメータ名を入力します。
	次のパターンを使用します。http(s)://domain/ < path > ? < query_string > # < fragment >
	たとえば,http://www.google.com/search?q=hp に基づいて動的 URL を作成するには, q という名前の URL パラメータを追加します。
×	削除: URL パラメータを選択し,このボタンをクリックしてリストから削除します。
属性	ここには,URL パターンの構築に使用できる属性のリストが含まれます。このリスト は,[ワイヤリング コンテキスト]領域で選択したコンテキストに依存します。
	たとえば, [ワイヤリング コンテキスト]領域で[ClChange]を選択した場合は, URL パターンの構築に属性 < <cild>> を利用できます。</cild>
	属性を URL パラメータの値として使用するには,属性をこの領域からパラメータの [値]領域にドラッグします。
URL パラ	各行は, URL パターンの作成に使用される URL パラメータ名とその値を表します。
メータと 値	パラメータ名を定義してから,[属性]領域からそのパラメータの[値]領域に属性 をドラッグします。
	パラメータ名や値を編集するには、パラメータまたは値自体をクリックして、その内 容を編集します。

UI 要素	説明
URL パラ	ここには,URL フィールドに入力した静的 URL を使用して構築した URL パターンや,
メータ	[URL パラメータ] 領域で定義した URL パラメータが表示されます。

[ワイヤリング] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、コンポーネント間の相互作用を決定する、ページ上のコン ポーネント間のワイヤリングを定義できます。ページ上にコンポーネントを配置したあと、このダイ アログ・ボックスを使用して、コンテキストをどのコンポーネント(ソース)から、どのコンポーネ ント(ターゲット)に送るかを定義できます。ワイヤリングのセットアップが完了したら、ページを 保存します。

たとえば, [CIChange] ワイヤリング・コンテキストをトップ・ビュー (ターゲット・コンポーネント) に送信するソース・コンポーネントとして, ビュー・エクスプローラが定義されているとします。この場合にビュー・エクスプローラで CI を選択すると, トップ・ビューでもこの CI に焦点が当てられます。

アクセス方法	[マイ・ワークスペース]で,[ページ ワイヤリング] 💽 ボタンをクリックし ます。
関連タスク	「コンポーネント間のワイヤリングのセットアップ方法」(253ページ)

UI 要素	説明
コンテ キスト	ソース・コンポーネントを選択したあと,このソースからターゲット・コンポーネント に送信できるコンテキストのリストが表示されます。
	1 つ以上のターゲットに送信するコンテキストを選択して,ターゲット・コンポーネン トを選択します。
ソー ス・コ ンポー ネント	コンテキストをほかのコンポーネントに送信する可能性のある,ページ上のすべてのコ ンポーネントが表示されます。
	ソース・コンポーネントを選択して,コンテキストとターゲット・コンポーネントを選 択します。
	注 :ほかのコンポーネントに情報を送信する可能性のあるコンポーネントがページ上に ない場合は,このリストは空になります。この問題を解決するには,トップ・ビューや ビュー・エクスプローラなどの,CIまたはビューを選択できるコンポーネントをページ に追加します。

UI 要素	説明
ペー ジ・ワ イヤリ ングの サマリ	ページに定義されている,ワイヤリングのサマリが表示されます。各行には,ソース, ソースが送信するコンテキスト,このコンテキストをソースから受信するターゲット・ コンポーネントが表示されます。
ター ゲッ ト・コ ンボー ネント	ソース・コンポーネントとコンテキストを選択したあと,指定されたソースからこのコ ンテキストを受信する可能性がある,ページ上のすべてのコンポーネントが表示されま す。 ソース・コンポーネントからコンテキストを受信するターゲット・コンポーネントを1 つ以上選択します。

第12章: [マイ ワークスペース] のセットアッ プ方法

本項では, [マイ・ワークスペース]のセットアップ方法について説明します。次のタスクは省略可 能で,任意の順序で実行できます。

これらのタスクを実行できるかどうかは,自分のユーザ権限に依存します。ロールおよび権限の詳細 については,『OMi 管理ガイド』を参照してください。

- 「ページを開く」(244ページ)
- 「ページ・レイアウトの設定」(244ページ)
- 「ページへのコンポーネントの追加」(245ページ)
- 「コンポーネント・ギャラリへの外部コンポーネントの追加」(245ページ)
- •「コンポーネント間の相互作用の定義」(245ページ)
- 「ページおよびコンポーネントのカテゴリの変更」(246ページ)
- 「ページを閉じるか削除する」(246ページ)

ページを開く

[マイ・ワークスペース]には定義済みページがあり、ユーザが作成、保存したすべてのページとと もに、ページ・ギャラリに配置されます。詳細については、「定義済みページ」(222ページ)を参照 してください。

- ページを開くには、ワークスペースの右上の領域にある、ページ管理ツールバーの [ページの選 択] ドロップダウン・リストから対象となるページを選択します。 [ページの選択] にページ名 の一部を入力して、ドロップダウン・リストに表示されるページ数を制限することもできます。
- 新しいページを作成するには、ページ管理ツールバーの [新規ページ] ボタンをクリックします。

ページ・レイアウトの設定

ページを開いてから,ページ上でのコンポーネントの配置方法を設定できます。[マイ・ワークスペース]では,各レイアウトを水平(各コンポーネントを並べて表示),垂直(各コンポーネントを上下に表示),またはタブ付き領域として定義できます。

詳細については,「マイ・ワークスペース」(231ページ)を参照してください。

OMi ユーザ・ガイド 第12章: [マイ ワークスペース]のセットアップ方法

レイアウト定義の例については,「ページ・レイアウトの設定方法 - 使用例のシナリオ」(247ページ) を参照してください。

ページへのコンポーネントの追加

「利用可能なコンポーネント」(225ページ)で説明されているように、マイ・ワークスペース には OMi アプリケーションの標準設定のコンポーネントが用意されています。標準設定のコンポーネント は、ユーザが追加したすべての外部コンポーネントとともに、コンポーネント・ギャラリに配置され ます。

次のいずれかの方法で、ページにコンポーネントを追加できます。

- 空のレイアウト領域で[コンポーネントの追加]ボタンをクリックします。コンポーネント・ ギャラリでコンポーネントをダブルクリックして、レイアウト領域に配置します。
- ページ管理ツールバーの [コンポーネント ギャラリ] ボタンをクリックします。コンポーネント・ギャラリでコンポーネントを選択して、ページ上の領域にドラッグします。

詳細については, 「[コンポーネント ギャラリ]ダイアログ・ボックス」(237ページ)を参照してく ださい。

ページにコンポーネントを追加する際には、次の点に注意します。

- 対象の領域が[コンポーネントギャラリ]ダイアログ・ボックスで隠れる場合は、ダイアログ・ボックスのタイトル・バーをクリックして、画面上の別の場所にドラッグします。
- 新しいコンポーネントを、コンポーネントがすでに定義されている対象領域にドラッグする場合は、コンポーネントの白く表示されている部分ではなく、対象領域のタイトル・バーに新しいコンポーネントをドラッグします。

コンポーネント・ギャラリへの外部コンポーネントの追加

URL を [マイ・ワークスペース] 内のコンポーネントとして追加できます。ページを開いて,ページ 管理ツールバーの [**コンポーネント ギャラリ**] ボタンをクリックします。

[**外部コンボーネントの追加**] ボタンをクリックし, 「外部コンボーネントの作成方法」(250ページ)の説明に従ってコンポーネントを定義します。新しいコンポーネントがコンポーネント・ギャラリに追加され,任意のページに追加できるようになります。

詳細については,「[新規コンポーネント]/[コンポーネントの編集]ダイアログ・ボックス」 (239ページ)を参照してください。

コンポーネント間の相互作用の定義

[マイ・ワークスペース] でのページ上のコンポーネント間の相互作用は, 「**ワイヤリング**」と呼ば れます。コンポーネントをページ上に配置したあと, コンポーネント間での相互作用を定義できま す。 標準設定のページではワイヤリングが事前定義されています。標準設定のワイヤリング定義は,変更 することもできます。たとえば,ページ上の2つのコンポーネントが相互作用*しない*ようにする場 合,それらのコンポーネント間のワイヤリングを無効にする必要があります。 [ページ ワイヤリン グ] ボタン [€] をクリックし,対応するチェックボックスをクリアします。

詳細については, 「コンポーネント間のワイヤリングのセットアップ方法」(253ページ)を参照して ください。

ページおよびコンポーネントのカテゴリの変更

[マイ・ワークスペース]のページ・ギャラリおよびコンポーネント・ギャラリには、ページやコン ポーネントの整理に役立つ標準設定のカテゴリがあります。カテゴリの追加、ユーザ定義カテゴリの 編集または削除、ページやコンポーネントに対するカテゴリの追加や削除を行うことができます。

タスクの詳細については, 「ページおよびコンポーネントのカテゴリの変更方法」(254ページ)を参照してください。

ページを閉じるか削除する

ページを閉じるには,ページ右上角にある閉じるアイコンをクリックします。ワークスペースでページが閉じますが,ページ・ギャラリからは削除されません。

ページをページ・ギャラリから削除するには, [ページ ギャラリ] ボタンをクリックし, ページを 選択して削除します。詳細については, 「 [ページ ギャラリ] ダイアログ・ボックス」(236ページ) を参照してください。

ワークスペースでのユーザ権限

ワークスペースのコンポーネントやページを操作するための権限は, [ユーザ, グループ, および ロール] で定義されます。

アクセス方法

[管理] < [ユーザ] < [ユーザ, グループ, およびロール] < [ロールの編集] または [ロールの作 成] < [権限] < [ワークスペース]

ユーザを対象に定義できる操作は、次のようなワークスペース内の領域に依存します。

- 定義済みページ:これらのページは、すぐ使用できるように事前に定義されています。ユーザがこれらのページでコンポーネントを追加、変更、または削除することはできません。ユーザ権限で 定義できる操作は、ユーザがこれらのページを表示できるようにするためのビューのみです。
- ユーザ・ページおよびユーザ・コンボーネント:ユーザには、追加、変更、ビュー、削除、フル・ コントロールの各操作を、ユーザ定義のページおよびコンポーネントで実行するための権限を付 与できます。

ユーザ・ページには、[マイ・ワークスペース]に固有の**ロック済み**と呼ばれる追加の権限レベルが あります。特定のユーザに対して情報の監視のみを許可し、ページでフィルタの表示または適用を許 可しないようにするには、**ロック済み**権限をユーザ定義のページに適用できます。これは、サービス 状況コンポーネント(トップ・ビュー、階層、地理マップなど)のような組み込みのビュー・エクス プローラを含むページと、イベント・ブラウザに関係します。

ページ・レイアウトの設定方法 - 使用例のシナリオ

次のセクションでは,ページ上のコンポーネントのレイアウトを設定する方法の例を示します。レイ アウトによって,ページ上の領域の数,各コンポーネントの配置方法(水平,垂直,タブ付き領域) などのページの外観が定義されます。

ページ上に配置するコンポーネントやそれぞれの配置方法を事前に計画し,その内容に従ってページ・レイアウトを設定することをお勧めします。

1. 背景

ACME 社で管理者として働く Adam は,ページの左側に 2 つのコンポーネントをタブ形式で配置 し,同じページの右側に垂直領域(各コンポーネントを上下に配置)を配置したページをセッ トアップしようと考えています。

2. ページを開く

水平レイアウトを標準設定で備えた、新しいページを開きます。

新規ページ(1) ×	ページの選択	✓ C	P2	00	*1 8	>°	-e-
		H i					

3. ページ・レイアウトの垂直への切り替え

左上の領域のレイアウト・ツールから, [**垂直に切り替え**]をクリックします。レイアウトが 水平方向に変更されます。

新規ページ(1) ×	ページの選択	~ 0	P2	00	*1 🗟	50	-@- Q

4. ページの分割

次に [分割] をクリックして、レイアウトを左側と右側のペインに分けます。

新規ページ(1) ×	ページの選択	 C C	ଛ ∴ ⊛ ©

5. 左側のペインへのタブ・レイアウトの作成

左側のレイアウト内で [**タブに切り替え**] をクリックして, 左側のペインにタブ付き領域を作成します。

新規ページ(1) ×	ページの選択	
新規ページ(1) ×	ページの選択 ▼ ĭi 品	

6. 結果

Adam はここで,レイアウト内の2つの領域にコンポーネントを追加します。画面の左側に追加 されたコンポーネント(Top View および Topology Map)はタブに分かれて表示され,右側に追 加されたコンポーネント(Hierarchy および Geographical Map)は垂直に並んで表示されます。



外部コンポーネントの作成方法

次のタスクでは,URLを使用してコンポーネントを作成する方法について説明します。入力したURL がそのまま開かれる静的URLを使用できます。また,コンポーネントのURLがページ上のほかのコ ンポーネントに応答するように動作する動的URLを作成することもできます。

動的 URL に基づいてコンポーネントを作成する方法を紹介したシナリオについては, 「動的 URL を 使用したコンポーネントの作成方法 – 使用例のシナリオ」(252ページ)を参照してください。

注: 外部コンポーネントの URL は, https://, http:// のいずれかの文字列で開始する必要 があります。

1. [コンポーネントの追加] ダイアログ・ボックスの表示

コンポーネント・ギャラリを開き,コンポーネント・ギャラリ・ツールバーの [**外部コンポー** ネントの追加] ボタンをクリックします。 [**新規コンポーネント**] ダイアログ・ボックスが表 示されます。詳細については,「 [新規コンポーネント] / [コンポーネントの編集] ダイアロ グ・ボックス」(239ページ)を参照してください。

2. URL の静的部分の定義

[新規コンポーネント] ダイアログ・ボックスの上の領域に, コンポーネント名とコンポーネ ントの URL を入力します。

- 静的 URL を使用してコンポーネントを作成するには,完全な URL を入力します。
- 動的 URL を使用してコンポーネントを作成するには, URL の静的な部分のみを入力します。
- 3. コンポーネントのカテゴリ分け(任意)

コンテンツの整理を容易にするために、ページおよびコンポーネントを標準設定のカテゴリまたはユーザ定義のカテゴリに割り当てることができます。詳細については、「ページおよびコンポーネントのカテゴリの変更方法」(254ページ)を参照してください。

[コンポーネントのカテゴリ分け]領域で、コンポーネントに割り当てるカテゴリを1つ以上 選択します。この設定は任意です。

4. URL の動的部分の定義

動的 URL を使用してコンポーネントを作成する場合は,次の手順で行います。

- a. [**ワイヤリング コンテキスト**] 領域で,1つ以上のコンテキスト(このコンテキストの属性 を URL パターンの定義に使用)を次のように選択します。
 - CI が選択されているコンポーネントに応答するように URL が動作する必要がある場合
 は、[CIChange]を選択します。
 - イベントが選択されているコンポーネントに応答するように URL が動作する必要がある 場合は, [EventChange]を選択します。
 - ビューが選択されているコンポーネントに応答するように URL が動作する必要がある場合は、[ViewChange]を選択します。
- b. **[URL パラメータ**] と [値] 領域で, URL パターンの定義に使用する URL パラメータを 1 つ 以上追加します。次のパターンを使用して, URL のパス, クエリ, URL のフラグメントを定 義できます。

http(s)://domain/ <path> ? <query_string> # <fragment>

たとえば、動的 URL パラメータを使用すれば次のいずれかを作成できます。

- o www.google.com/search?hl=<<lang>>&&q=<<viewID>>&
- en.wikipedia.org/wiki/<<articleName>>

次のようなパターンにするとします。http://download.oracle.com/javase/1.4.2/docs/api/<<<className>>.html#<<methodName>> この場合,次のURLにアクセスします。

http://download.oracle.com/javase/1.4.2/docs/api/java/net/URL.html#toString() (これは有 効な URL です)。

c. [**属性**] リストには, [**ワイヤリング コンテキスト**] 領域で選択したコンテキストに基づ いた, URL パターンの構築に使用できる属性の一覧が含まれます。属性をパラメータ値とし て使用するためには, [**属性**] リストの属性を URL パラメータの [**値**] 領域にドラッグし ます。

[URL パラメータ] 領域には、ダイアログ・ボックス上部の領域にある静的 URL を使用して 構築された動的 URL と、定義した URL パラメータが表示されます。

動的 URL を使用したコンポーネントの作成方法 – 使 用例のシナリオ

ACME 社で管理者として働く Jane は,ページの左側に サービス状況 のトポロジ・マップを表示し, 右側には ACME 社のサポート・ディレクトリを表示するように [マイ・ワークスペース] にページを セットアップしようと考えています。

トポロジ・マップで CI が選択されると, この CI に問題が発生した場合の連絡先の詳細がサポート・ ディレクトリに表示されます。

ACME サポート・ディレクトリの動的 URL は, 次のようになります。 http://www.acme.com/support/search?q=< < 連絡先 > >

ヒント: このシナリオでは,動的 URL はクエリ文字列を使用してビルドされています。次のパ ターンを使用して, URLのパス, URL のフラグメントを定義することもできます。http (s)://domain/ <**path**> ? <**query_string**> # <**fragment**>

- Jane は新しいページを開き、2つのペインに分割します。コンポーネント・ギャラリを開き、 トポロジ・マップを左側のペインにドラッグします。続いて、コンポーネント・ギャラリ・ ツールバーの [**外部コンポーネントの追加**] ボタンをクリックします。
- 2. [コンポーネントの追加] ダイアログ・ボックス上部の領域で,コンポーネント名に「ACME サポート」と入力し,サポート・ディレクトリの URL の静的な部分を次のように入力します。 http://www.acme.com/support/search
- 3. [**ワイヤリング コンテキスト**]領域で、コンテキスト・リストに [CIChange]を追加します。 これにより、トポロジ・マップで CI が選択されると、サポート・ディレクトリが応答します。
- 4. [URL パラメータ] と [値] 領域で, qと名前を付けた URL パラメータを追加します。
ACME 社では <<ClContact>>という名前の CI 属性を使用して, CI に問題がある場合の連絡先を定義 します。 [**属性**] リストには, 属性<<ClContact>>が含まれます。この属性を **q** という名前のパラ メータの [値] フィールドにドラッグします。

URL パターンは次のようになります。http://www.acme.com/support/search?q=<<ClContact>>

- 5. **[OK**] をクリックしてコンポーネントを保存し,続いて ACME サポート・コンポーネントを右 側のペインにドラッグします。
- 次に、ページ管理ツールバーの[ワイヤリング]ボタンをクリックして、トポロジ・マップの ソース・コンポーネントから ACME サポートのターゲット・コンポーネントに CIChange コンテ キストが送信されるように、ページのワイヤリングを定義します。

トポロジ・マップでCIが選択されると、そのCIに関する連絡先の詳細がサポート・ディレクトに表示されます。

コンポーネント間のワイヤリングのセットアップ方法

次のタスクでは,ページ上のコンポーネント間のワイヤリングを設定する方法について説明します。 ワイヤリングは,コンポーネント間の相互作用を定義します。

あるコンポーネントから、そのコンポーネントの変更内容を示すワイヤリング・コンテキストを別の コンポーネントに送信し、これを受け取ったコンポーネントで、変更に応答した動作を実行できま す。たとえば、[CIの選択] ワイヤリング・コンテキストをトップ・ビュー(ターゲット・コン ポーネント)に送信するソース・コンポーネントとして、ビュー・エクスプローラが定義されている とします。この場合にビュー・エクスプローラで CIを選択すると、トップ・ビューでもこの CI に焦 点が当てられます。

標準設定のページには事前にワイヤリングが定義されています。標準設定のワイヤリングの定義は変 更も可能です。

1. [ワイヤリング] ダイアログ・ボックスの表示

ワイヤリングを設定するページを開いて,ページ管理ツールバーの [ページ ワイヤリング] ボ タンをクリックします。 [ワイヤリング] ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細につい ては,「[ワイヤリング] ダイアログ・ボックス」(242ページ)を参照してください。

- ワイヤリングのソース・コンポーネントの選択
 [ワイヤリング]ダイアログ・ボックスの左側にある [ソース コンボーネント]のリストから,1つ以上のターゲット・コンポーネントにコンテキストを送信するコンポーネントを選択します。
- 3. ソース・コンポーネントから送信するコンテキストの選択

[**コンテキスト**]のリストに,選択したソース・コンポーネントから送信できるコンテキスト が表示されます。

- ソース・コンポーネントで異なる CI が選択されている場合にどのコンポーネントに通知する かを制御するには, [CISelection]を選択します。
- ソース・コンポーネントで異なるイベントが選択されている場合にどのコンポーネントに通 知するかを制御するには、 [EventChange]を選択します。
- ソース・コンポーネントで異なるビューが選択されている場合にどのコンポーネントに通知 するかを制御するには, [ViewChange]を選択します。

4. ワイヤリングのターゲット・コンポーネントの選択

[ワイヤリング]ダイアログ・ボックスの右側にある [**ターゲット コンポーネント**]のリストから,ソース・コンポーネントからコンテキストを受け取るコンポーネントを1つ以上選択します。

[ページ ワイヤリングのサマリ] 領域に, そのページに定義されているすべてのワイヤリング が表示されます。

別のソース・コンポーネントからこのページへのワイヤリングを定義するには,上記の手順を 必要に応じて繰り返します。

ページおよびコンポーネントのカテゴリの変更方法

[マイ・ワークスペース] でのコンテンツの整理を容易にするために,ページおよびコンポーネント のカテゴリへの追加またはカテゴリからの削除,新規カテゴリの作成,ユーザ定義のカテゴリの編集 または削除ができます。本項では,ページやコンポーネントの整理に役立つ,ページ・ギャラリおよ びコンポーネント・ギャラリ内のカテゴリの操作方法について説明します。

ヒント: カテゴリは相互に共有が可能で、1つのページやコンポーネントを複数のカテゴリに割り当てることができます。

- ページに関する詳細については、「[ページギャラリ]ダイアログ・ボックス」(236ページ)を参照してください。
- コンポーネントに関する詳細については、「[コンポーネント ギャラリ]ダイアログ・ボックス」(237ページ)を参照してください。

新規カテゴリの作成

[マイ・ワークスペース] には、ページやコンポーネントを割り当てるカテゴリが用意されていま

す。新しいカテゴリを追加するには、ページ管理ツールバーの[**コンポーネント ギャラリ**]または [ページ ギャラリ] ボタンをクリックして、 [新規カテゴリ] ボタンをクリックします。新しいカ テゴリの名前を入力します。

続いて,既存のページやコンポーネントをカテゴリに割り当てたり,新規の外部コンポーネントをカ テゴリに追加できます。

ユーザ定義カテゴリの名前変更または削除

ユーザ定義カテゴリの名前を変更するには、カテゴリを選択して[**カテゴリ名の編集**]ボタンをクリックします。

ユーザ定義カテゴリを削除するには,カテゴリを選択して [**カテゴリの削除**] ボタンをクリックしま す。

標準設定のカテゴリに対しては、名前の変更や削除はできません。

カテゴリへのページまたはコンポーネントの割り当て

ページまたはコンポーネントをカテゴリに割り当てるには,対象のページまたはコンポーネントを選 択し,対応する [ページのカテゴリ分け] または [コンポーネントのカテゴリ分け] ボタンをクリッ クします。ページまたはコンポーネントを割り当てる1つ以上のカテゴリを選択します。

ページまたはコンポーネントのカテゴリの割り当ての変更

ページまたはコンポーネントのカテゴリの割り当てを変更するには、ページまたはコンポーネントを 選択して、対応する [ページのカテゴリ分け] または [コンポーネントのカテゴリ分け] ボタンをク リックします。必要に応じて、ページまたはコンポーネントに割り当てるカテゴリを変更します。

最大ページ数の変更方法

標準設定では,同時に開けるページ数は10ページまでです。複数のページを開いている場合,5 ページまでは(どのページが一番最近アクセスされたかに基づいて)自動的に更新されます。それ以 外の開いているページは,選択されたときに更新されます。

これらの制限は、マイ・ワークスペース および サービス状況 の両方に適用されます。

このセクションでは,これらの制限を変更する方法について説明します。これらの制限値を大きくす ると,パフォーマンスが低下する可能性があります。

開けるページまたはアクティブ・ページの最大数の変更

[マイ・ワークスペース]および サービス状況 で,開けるページの制限または自動的に更新される ページ数を変更するには,インフラストラクチャ設定を開きます。

[管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定]

- 1. [アプリケーション] > [MyBSM] を選択します。
- 2. [MyBSM 一般] 領域で, [開けるページの最大数] または [アクティブ ページの最大数] の 項目を必要に応じて変更します。

ページの最大数を増やすと、パフォーマンスに影響する可能性があります。

[マイ ワークスペース] のトラブルシューティング

[マイ ワークスペース] のページおよびコンポーネントが欠 落している

実行中の OMi デプロイメントでデータベースを変更した場合, [マイ・ワークスペース] にはページ およびコンポーネントがなくなります。ページおよびコンポーネントを復元するには,次の手順を実 行します。

1. ディレクトリ

<OMi_HOME_GATEWAY>/conf/uimashup/import

これには, loaded と toload の 2 つのディレクトリが含まれています。

- 2. loaded ディレクトリの内容を toload ディレクトリにコピーします。
- 3. OMi を再起動します。

第三部: ダッシュボード

ダッシュボードには、環境の状況の概要がグラフィック形式で表示されます。データはリアルタイム で更新されるため、常に最新の情報が表示されます。OMiには標準設定で次のダッシュボードがあり ます。

- ・監視ダッシュボード:(以前のイベント・ダッシュボード)監視ダッシュボードには,監視対象 となっている環境内のイベントの概要が示されます。監視ダッシュボードの使用により,環境の 状況をすばやく評価でき,また,注意を要する領域を特定できます。詳細については,「監視 ダッシュボード」(259ページ)を参照してください。
- 360°: このページには、選択したビューの CI のステータスに関する概要が表示されます。ビュー内の CI の階層、各 CI に割り当てられた KPI、それらの KPI ステータスが表示されます。詳細については、「360° View」(268ページ)を参照してください。
- 経過時間ごとの KPI: 経過時間ごとの KPI ダッシュボードでは、選択した KPI および CI のステータ スまたは値を、経過時間ごとに表示できます。このレポートでは、多数のレイアウトから選択し てステータスと値を一目で監視できます。詳細については、「経過時間ごとの KPI ダッシュボー ド」(269ページ)を参照してください。
- ROI ダッシュボード:(投資利益率) ROI ダッシュボードには、OMi が受信したイベントと、オペレータによる介入が必要であったイベントで自動処理したものの比率が表示されます。自動処理されたイベントの比率が高いほど、OMi によるインフラストラクチャ管理への貢献度が高くなります。一般的なイベントを手動で処理するコストがわかっている場合、この値を OMi に入力できます。この値に基づき、OMi によって達成されたコスト節約の合計を表示できます。これらの統計情報は、OMi によって IT 環境が監視されている間の任意の指定期間について表示できます。詳細については、「投資利益率ダッシュボード」(275ページ)を参照してください。

OMi ユーザ・ガイド 第III部: ダッシュボード

第13章: 監視ダッシュボード

監視ダッシュボードには,監視対象となっている環境内のイベントの概要が示されます。監視ダッシュボードの使用により,環境の状況をすばやく評価でき,また,注意を要する領域を特定できます。

たとえば、オペレータは監視ダッシュボードを次の目的で使用できます。

- 監視対象の環境の概要を把握する。
- さまざまな OMi コンポーネントの状況ステータスを確認する。
- 日々の管理操作の開始点にする。
- イベント・フィルタをイベント・ブラウザにすばやく適用する。

• イベントでの作業中に、監視対象の環境に対して注視し続ける。

監視ダッシュボードは,複数のタイプのウィジェット(スタック・ウィジェットやパイ・ウィジェットなど)を使用してステータス情報を表示します。各ウィジェットはイベント・フィルタ,ビュー, またはその両方を参照し,フィルタの基準に一致し,参照ビューに含まれている構成項目に関連しているイベントのステータスのみを表示します。

OMi では, 監視ダッシュボードは マイ・ワークスペース コンポーネントとして使用可能で, 必要に 応じて マイ・ワークスペース ページに追加できます。

アクセス方法

[ワークスペース] > [ダッシュボード] > [Monitoring Dashboard]

詳細

監視ダッシュボードとほかの [マイ・ワークスペース] コンポーネントとの結合 OMiページは,一緒に表示され,相互作用し合う複数のコンポーネントで構成されています。ページ 内では,コンポーネント間での情報の交換が可能なため,1つのコンポーネントが別のコンポーネン トで発生した変更に対応できます。

たとえば,監視ダッシュボードのコンポーネントをイベント・ブラウザのコンポーネントまたはトッ プ・ビューのコンポーネントと結合することが可能です。ウィジェットをクリックすることで,コン テキストがイベント・ブラウザとトップ・ビューに渡されます。イベント・ブラウザはイベント・ フィルタまたはビューに一致するイベントのみを表示する,という反応をします。トップ・ビューは ウィジェットに関連付けられたビューのみを表示する,という反応をします。

• 例:監視ダッシュボードおよびイベント・ブラウザ

未割り当ての高優先度ウィジェットをクリックすると、イベント・ブラウザは[未割り当ての高 優先度]イベント・フィルタに一致するイベントのみを表示します。



• 例:監視ダッシュボードおよびトップ・ビュー

MS Active Directory ウィジェットをクリックすると,トップ・ビューがそのウィジェットに関連 付けられている DC1 ビューを表示するようになります。また,イベント・ブラウザが MS Active Directory イベント・フィルタに一致するイベントのみを表示するようになります。



• [マイ・ワークスペース] のコンテキスト・ワイヤリング

監視ダッシュボードのコンポーネントは、次のワイヤリング・コンテキストをターゲット・コン ポーネントに送信します。

- EventDashboardClickEvent:イベント・ブラウザは EventDashboardClickEvent コンテキストに 対して、ダッシュボード・ウィジェットに関連付けられているフィルタまたはビューに一致す るイベントのみを表示する、という反応をします。
- ViewChange: ViewChange コンテキストは、たとえばトップ・ビューなどの多数のコンポーネントによって消費されます。

ワイヤリングの詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

ウィジェットのタイプ

監視ダッシュボードにはさまざまなウィジェットのタイプを含めることができます。それぞれのタイ

プで,最大危険域のイベントの重要度を反映した色分け表示(たとえば,重大度が致命的の場合は 赤)により,監視対象の領域のステータスを迅速に判断できます。重大度ごとのイベントの数も表示 されます。

監視ダッシュボードに組み込むことが可能なウィジェットのタイプは次のとおりです。

• Overview ウィジェット (通常モード): 右上隅の数字はフィルタやビューに一致するすべてのイ ベントの数を示します。

Overview ウィジェットは標準およびコンパクト・モードで表示可能です。コンパクト・モードでは、重大度のアイコンと対応する数字が非表示になります。



• Simple Status ウィジェット



・ Stack ウィジェット



• Pie ウィジェット



• History ウィジェット: History ウィジェットは重大度(Y軸)および時間(x軸)ごとのイベントの数を表示します。



• Group ウィジェット: Group ウィジェットは,共通の見出し(下記の例では[データセンタス テータス])の下で複数のウィジェットをグループ化します。

タイトル・バーの「ランプ」の色はグループ内の最大危険域イベントの重大度を示します。グ ループ内のウィジェットがステータス情報を表示しない場合(たとえば,フィルタに一致するイ ベントがない場合など),グループ・ウィジェットはステータス情報を表示しません。



タスク

本項の内容

- 「監視ダッシュボードの表示方法」(264ページ)
- 「[マイワークスペース] での監視ダッシュボード・ページの作成方法」(265ページ)

監視ダッシュボードの表示方法

注: ユーザ定義の [マイ・ワークスペース] ページを表示するには,管理者が [管理] > [ユー ザ] > [ユーザ,グループ,およびロール] でユーザに表示権限を与える必要があります。

監視ダッシュボードを表示するには、次の手順を実行します。

- 1. [ワークスペース] > [マイ・ワークスペース] に移動します。
- 2. [**ダッシュボード構成を選択してください**]ドロップダウン・リストで,監視ダッシュボード・ページを1つ選択します。

ドロップダウン・リストに監視ダッシュボード・ページが表示されていない場合,「[マイワークスペース]での監視ダッシュボード・ページの作成方法」(265ページ)の説明に従って, 監視ダッシュボード・ページを作成する必要があります。

監視ダッシュボードを [マイ・ワークスペース] の外部に表示するには,次の手順を実行します。

次の URL を使用して, [マイ・ワークスペース] 外部の Web ブラウザに監視ダッシュボードのページを表示できます。

http://<サーバ名>.<ドメイン名>/opr-web/opr-event-dashboard

2. [**ダッシュボード構成を選択してください**] ドロップダウン・リストで, 監視ダッシュボー ド・ページを1つ選択します。

選択した監視ダッシュボード・ページが開き,中間ビューで表示されます。コンパクトな ビューまたは大きなビューに変更するには,対応するモード・パラメータを次のように設定し ます。

監視ダッシュボードの URL に次のパラメータを設定できます。

 dashboardId:監視ダッシュボードのID。監視ダッシュボードに直接アクセスできます。特定の監 視ダッシュボードを表示するには、次のように dashboardId パラメータを URL に追加します。

http://<サーバ名>.<ドメイン名>/opr-web/opr-event-dashboard?dashboardId=<ダッシュボード ID>

ヒント: 監視ダッシュボード ID は, ダッシュボード・デザイナのダッシュボードのプロパ ティに表示されます。

 drilldown:標準設定で、スタンドアロンの監視ダッシュボードのウィジェットをクリックすると スタンドアローンのイベント・ブラウザが開き、関連するイベント・フィルタの基準に一致し、 参照ビューに含まれる構成アイテムに関連するイベントのステータスを表示します。イベント・ ブラウザへのイベントのドリルダウンを無効にするには, URL の drilldown パラメータを false に 設定します。

http://<サーバ名>.<ドメイン名>/opr-web/opr-event-dashboard?drilldown=false

イベントのドリルダウンを有効にするには、パラメータを省略するか、true(標準設定値)に設 定します。

compactMode:フォント・サイズを縮小し、コンパクトなビューで監視ダッシュボードを表示します。監視ダッシュボードをコンパクトにすると、表示スペースが少なくて済みます。コンパクト・モードを有効にするには、URLの compactMode パラメータを true に設定します。

http://<サーバ名>.<ドメイン名>/opr-web/opr-event-dashboard?compactMode=true

コンパクト・モードを無効にするには、パラメータを省略するか、false(標準設定値)に設定します。

 largeMode:たとえばウィジェットのヘッドラインなどに、大きなフォントを使用して監視ダッシュボードを表示します。ラージ・モードを有効にするには、URLのlargeMode パラメータを true に設定します。

http://<サーバ名>.<ドメイン名>/opr-web/opr-event-dashboard?largeMode=true

ラージ・モードを無効にするには、パラメータを省略するか、false(標準設定値)に設定します。

[マイ ワークスペース] での監視ダッシュボード・ページの作成方法

- 1. メニュー・バーで [マイ・ワークスペース] を選択します。
- 2. 新しいページを作成します。
- 3. *オプション:*ページのレイアウトを設計します。

たとえば,監視ダッシュボードとイベント・ブラウザの両方を1つのページに表示するには, ページを2つの水平ペインに分割します。

- [コンポーネント ギャラリ]を開き, [Event Management] カテゴリを選択します。
 [Monitoring Dashboard] コンポーネントを選択し, 作成中のページにドラッグします。
- 5. ダッシュボードを設定し, [OK] をクリックします。

注:

 ダッシュボードの設定を [マイ・ワークスペース] ページにロードするには、管理者は [ユーザ管理] でユーザに監視ダッシュボードの表示権限を与える必要があります。

[管理] > [ユーザ] > [ユーザ, グループ, およびロール]

詳細については,OMi 管理ガイドを参照してください。

- 管理者は,ダッシュボード・デザイナを使用して監視ダッシュボードを作成します。詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。
- OMi コンテンツ・パックの OOTB コンテンツは、監視ダッシュボードによって、ユーザの環境監視がどの程度向上するかを示すための数個の監視ダッシュボード設定を備えています。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。
- オプション:ユーザのページに、イベント・ブラウザのコンポーネントなど他のコンポーネント を追加します。

監視ダッシュボードのコンポーネントには、標準設定のワイヤリングが含まれます。この標準 設定のワイヤリング定義は、必要に応じて変更できます。

- 7. [**OK**] をクリックします。
- 8. ユーザのページをページ・ギャラリに保存します。

トラブルシューティング

ダッシュボード・ウィジェットの一致するイベント・フィルタが見つかりません でした

監視ダッシュボード内のウィジェットが、「ダッシュボード・ウィジェットの一致するイベント・フィルタが見つかりませんでした」という警告を表示する場合、参照されたイベント・フィルタは存在しないか共有されていない状態です。

ダッシュボード・ウィジェットに一致するビュー・フィルタがありません

監視ダッシュボード内のウィジェットが、「ダッシュボード・ウィジェットに一致するビュー・フィ ルタがありません」という警告を表示する場合、参照された RTSM ビューは存在しません。 ダッシュボード・ウィジェットの一致するイベント・フィルタが複数見つかりま した

監視ダッシュボード内のウィジェットが,「ダッシュボード・ウィジェットの一致するイベント・ フィルタが複数見つかりました」という警告を表示する場合,複数のフィルタが同じ名前を持ってい るため,監視ダッシュボードはウィジェットで使用するフィルタを特定できません。

ダッシュボード・ウィジェットのビュー・フィルタをクリアする権限がありませ ん

監視ダッシュボード内のウィジェットが、「ダッシュボード・ウィジェットのビュー・フィルタをク リアする権限がありません」という警告を表示する場合、ユーザにはすべてのイベントを表示するた めにビューベースのフィルタリングを削除する権限がありません。[表示フィルタのクリア]の設定 の詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

ダッシュボード・ウィジェットのビュー・フィルタを設定する権限がありません

監視ダッシュボード内のウィジェットが、「ダッシュボード・ウィジェットのビュー・フィルタを設 定する権限がありません」という警告を表示する場合、ユーザには参照ビューで必要な権限がありま せん。ユーザへのビューの割り当ての詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

誤ったダッシュボード設定が選択されました

ダッシュボード設定を選択したが、それを変更する場合、監視ダッシュボードのショートカット・メニューで[新規ダッシュボード構成を選択してください...]オプションをクリックし、[**ダッシュ** ボード構成を選択してください]ドロップダウン・リストを再度開きます。

第14章: 360° View

このページには,選択したビューの CI のステータスに関する概要が表示されます。ビュー内の CI の 階層,各 CI に割り当てられた KPI,それらの KPI ステータスが表示されます。

階層コンポーネント内の CI を選択すると,その詳細リンクを表示できます。詳細リンクをクリック すると,次のコンポーネントにアクセスできます。ビジネス影響度,状況インジケータ,警告,変更 およびインシデント。

このページは、サービス状況 アプリケーションから取得されます。

アクセス方法

[ワークスペース] > [ダッシュボード] > [360° View]

タスク

本項の内容

 「360° View ダッシュボードを [マイ ワークスペース] コンポーネントとして表示する方法」 (268ページ)

360° View ダッシュボードを [マイ ワークスペース] コンポーネントとして表示 する方法

360° View ダッシュボードは, [マイ ワークスペース] コンポーネントとして表示できます。

コンポーネントの詳細については, 「ページへのコンポーネントの追加」(245ページ)を参照してく ださい。

[マイ ワークスペース]の詳細については,「[マイ ワークスペース]を使用した環境の監視」 (221ページ)を参照してください。

ワイヤリングの詳細については, 「コンポーネント間のワイヤリングのセットアップ方法」(253ページ)を参照してください。

第15章: 経過時間ごとの KPI ダッシュボード

経過時間ごとの KPI ダッシュボードでは,選択した経過時間ごとの KPI および CI のステータスやス テータス・サマリを表示できます。ダッシュボードでは,履歴 KPI ステータス・データや監視対象環 境の状況を一目で確認できる多数のウィジェットを選択できます。

アクセス方法

[ワークスペース] > [ダッシュボード] > [KPI Over Time]

詳細

本項の内容

- 「経過時間ごとの KPI ダッシュボードをページとして使用」(269ページ)
- 「 [構成アイテム] ダイアログ・ボックス」(270ページ)
- 「[主要管理指標] ダイアログ・ボックス」(271ページ)
- 「ウィジェットのタイプ」(271ページ)
- 「経過時間ごとの KPI ダッシュボードをコンポーネントとして使用」(272ページ)

経過時間ごとの KPI ダッシュボードをページとして使用

ダッシュボードには,各構成アイテムのステータスや,アタッチされている主要管理指標(KPI)の 各インスタンスが表示されます。頻繁に使用される KPI は,未割り当てや未解決のイベント,および システム,ネットワーク,ソフトウェアのパフォーマンスや可用性などです。ダッシュボードは,ビ ジネス・サービス,アプリケーション,ビジネス・プロセスなどの高レベルの構成アイテム(CI)に ついての KPI 情報を提供します。

たとえば, OMi ユーザがヨーロッパ, USA, アジアのクラウド環境の監視を設定したとします。最上 位レベルのビジネス・サービスと基盤のクラウド・インフラストラクチャを表す CI が作成されてい ます。

システム・パフォーマンス,システム可用性,ネットワーク・パフォーマンス,ネットワーク可用性の KPI が各環境で計算されます。現在の KPI ステータスを表示する「マイ クラウド」というビューが 作成されています。

ヨーロッパのクラウドの現在の KPI ステータスは赤(危険域)です。OMi ユーザは問題を修正し、ほかのクラウド環境よりもヨーロッパの問題が多いかどうかを調べることを決定します。

OMi ユーザは経過時間ごとの KPI ダッシュボードの「マイ クラウド」ビューにアクセスし,3つの最 上位レベル (ヨーロッパのクラウド,USA のクラウド,アジアのクラウド)を選択します。次に, ユーザは1か月前から現在までを選択します。経過時間ごとの KPI ダッシュボードには,先月の3つ の CI ごとに4つの KPI のステータスが表示されます。

これで、OMi ユーザは、ほかのクラウド環境と比較したヨーロッパのクラウドのステータスに関する 情報を取得しました。

• 経過時間ごとの KPI ダッシュボードの移動

矢印ボタンを使用して,履歴データを移動できます。ダッシュボードに表示される時間ウィンド ウを選択するには、[日], [週], [月]を選択します。移動する時間を選択するには, [時 間], [日], [週]ボタンを使用します。

 『開始時間の選択]ボタンを使用すると、特定の時点に簡単にアクセスできます。また、

 現在 [現在の時間に移動]ボタンを使用すると、ダッシュボードがリセットされて、現在の

 日時が表示されます。

ウィジェットに表示されるデータを視覚的にフィルタできます。これは,現在の選択内容に基づいて自動的に再計算されます。

フィルタの選択内容をリセットするには、[フィルタのクリア]をクリックします。フィルタの 選択内容を変更するには、削除するフィルタをクリックします。

重要情報

ダッシュボードには,永続的な KPI を持つ CI のデータのみが表示されます。詳細については, 『OMi 管理ガイド』を参照してください。

CI に対して [**この CI に対する経過時間ごとの KPI データの保存**] オプションが選択されているこ とを確認してください。詳細については, 『OMi 管理ガイド』を参照してください。

ダッシュボードには,選択した KPI のステータスのみが表示されます。これらの KPI は,RTSM 内 に値を持っている場合もありますが,ダッシュボードには表示されません。

モニタ CI 以外のすべての CI のショートカット・メニューには, [経過時間ごとの KPI レポート] オプションが含まれています。

[構成アイテム] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、セッション中に、経過時間ごとの KPI ダッシュボードに含める CI を選択できます。ダッシュボードには、ここで選択した CI に基づいた情報が表示されます。

経過時間ごとの KPI ダッシュボードにアクセスしたときにデータを表示するには, 😭 [構成アイ

テムを選択]ボタンをクリックして、CIのダイアログ・ボックスを開きます。

次に示す基準を満たす CI のみを選択で利用できます。

- KPI がアタッチされた Cl。
- 一定期間, KPI データ(履歴データ)を保存するようにフラグが付けられた CI。詳細については, 『OMi 管理ガイド』を参照してください。
- RTSM において [一定時間内レポートのための KPI 履歴を保存する] 属性値が true に設定されて いる CIT 属性を持つ CI。

[主要管理指標] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、セッション中に、経過時間ごとの KPI ダッシュボードに含める KPI を選択できます。ダッシュボードには、ここで選択した KPI に基づいた情報が表示されます。

CIの主要管理指標を表示するには、 🔊 [主要管理指標をフィルタ] ボタンをクリックします。

[主要管理指標] ダイアログ・ボックスが開きます。

標準設定では,すべての KPI が選択されています。ダッシュボードから KPI を除外するには,この選 択をキャンセルします。

ウィジェットのタイプ

経過時間ごとの KPI ダッシュボードの一部として次のウィジェットを選択できます。ウィジェットを 表示するには, [KPI ステータス ウィジェットを選択] ボタンをクリックします。 [ウィ

ジェット]ダイアログ・ボックスが開きます。

• 構成アイテム単位のステータス (ヒート・マップ)

ヒート・マップ・ウィジェットには、レポート精度で定義された間隔で、選択した CI の KPI デー タが表示されます(x軸の凡例には、各ポイントの時間間隔が表示されます)。各タイルは、時 間枠全体の特定の期間を表します。

ヒート・マップをフィルタするには、ダッシュボード・ヘッダ・ボタン、1 つ以上のタイル、 ウィジェットの下部にあるタイムスタンプをクリックします。グラフの時刻フッタにある任意の 時間セグメントをクリックし、その期間中のすべての CI と KPI の情報を表示できます。ヒート・ マップ・タイルをクリックすると、ほかのウィジェットで表示されるデータをフィルタできま す。

各ヒート・マップ・タイルには、その時間単位で最も重要な KPI ステータスが表示されます。

• パーセンテージ単位のステータス(円グラフ)

円グラフ・ウィジェットは、CIの KPI インスタンスの合計を表し、選択した時間間隔における KPI のステータスの概要を示します。円グラフは、色付けされたステータスのスライスに分けられま す。各スライスは、KPI が特定のステータスを維持する時間のパーセンテージを示します。同じ期 間で発生している場合、より重要なステータスが優先されます。

• ステータスの詳細(テーブル)

テーブル・ウィジェットには、各 CI の KPI ステータスの変更に関する詳細情報が表示されるため、詳細な調査を行う場合に便利です。

• OK ステータスのパーセンテージ(数値)

OK ステータスのパーセンテージ・ウィジェットには,選択したすべての CI および KPI が OK ス テータスであった時間のパーセンテージが表示され,監視対象時間ウィンドウのパーセンテージ として稼働時間のわかりやすい概要が提供されます。

• OK 以外のステータスの時間(数値)

OK 以外のステータスの時間ウィジェットには,選択した CI および KPI のいずれかが OK ステータ スでなかった実際の時間が表示され, KPI のダウンタイム全体のわかりやすい概要が提供されま す。

• トレンド (棒グラフ)

各カラムには,経過時間ごとのほかのすべてのステータスに対する OK ステータスのパーセン テージが表示されます。たとえば,ある KPI が期間中に [**OK**] ステータスを 80%, [注意域] ス テータスを 20% 維持している場合,棒グラフには 80% の OK ステータスが表示されます。

・トレンド(スパークライン)

スパークラインには、すべてのステータスの組み合わせに基づいて、選択した CI の KPI のステー タス・トレンドが表示されます。注意域レベル・ラインでは、ステータス・トレンド全体をすば やく確認して評価できます。フィルタが適用されていない場合、スパークライン・ウィジェット には、ヒート・マップ・スパークラインに表示される最も重要なステータスのトレンドが表示さ れます。

経過時間ごとの KPI ダッシュボードをコンポーネントとして使用

経過時間ごとの KPI ダッシュボードは, [マイ ワークスペース] コンポーネントとして表示できます。

コンポーネントの詳細については、「ページへのコンポーネントの追加」(245ページ)を参照してください。

- [マイ ワークスペース] の詳細については, 「[マイ ワークスペース] を使用した環境の監視」 (221ページ)を参照してください。
- ワイヤリングの詳細については, 「コンポーネント間のワイヤリングのセットアップ方法」(253 ページ)を参照してください。

タスク

本項の内容

• 「経過時間ごとの KPI ダッシュボードでの CI および KPI の表示方法」(273ページ)

経過時間ごとの KPI ダッシュボードでの CI および KPI の表示方法

1. 【構成アイテムを選択】ボタンをクリックして、CIのダイアログ・ボックスを開きます。
 KPI データのある CI を選択して、ビューを検索、参照できます。

ビューの参照: [構成アイテム] ダイアログ・ボックスの標準設定モード。ビューと CI を選択 できます。

検索: [検索] リンクをクリックすると、検索モードに移行します。

[OK] をクリックすると,現在表示されているビューで選択した CI のみがダッシュボード・フィルタ用に保存されます。 [OK] をクリックする前に別のビューを選択すると,以前選択した CI はすべて破棄されます。

経過時間ごとの KPI ステータスを表示する CI を選択します。標準設定では、CI が選択されるま でダッシュボードにデータは表示されません。詳細については、「[構成アイテム]ダイアロ グ・ボックス」(270ページ)を参照してください。

2. オプション: 🔊 [主要管理指標をフィルタ] ボタンをクリックして, KPI のダイアログ・ボッ

クスを開き,表示する KPI を選択,選択解除します。詳細については,「[主要管理指標]ダイ アログ・ボックス」(271ページ)を参照してください。

標準設定では,選択した CI のすべての KPI が事前に選択されています。

3. オプション: **IFFI ステータス ウィジェットを選択**] ボタンをクリックして, ウィジェッ

トのダイアログ・ボックスを開き,1つ以上のウィジェットを選択します。標準設定では,ヒート・マップが選択されています。詳細については,「ウィジェットのタイプ」(271ページ)を参照してください。

4. *オプション*:ダッシュボードの更新頻度と表示名を変更するには, **コンポーネント・ツールバー**の ▼ ボタンをクリックし, [**プリファレンス**] をクリックします。

ヒント: ダッシュボードをコンポーネントとして表示する場合, [**プリファレンス**] ダイア ログ・ボックスでウィジェットの選択を変更できます。

ウィジェットに表示されるデータを視覚的にフィルタできます。これは、現在の選択内容に基づいて自動的に再計算されます。フィルタの選択内容をリセットするには、[フィルタのクリア]をクリックします。フィルタの選択内容を変更するには、削除するフィルタをクリックします。

第16章: 投資利益率ダッシュボード

本項では,OMi インストールの有効性を監視するために使用する,投資利益率ダッシュボードのユー ザ・インタフェースについて説明します。

アクセス方法

[ワークスペース] > [ダッシュボード] > [Return on Investment]

詳細

投資利益率の概要

投資利益率ダッシュボードには、オペレータによる介入が必要であったイベントに対する、OMi に よって受信され自動処理されたイベントの比率が表示されます。自動処理されたイベントの比率が高 いほど、OMi によるインフラストラクチャ管理への貢献度が高くなります。一般的なイベントを手動 で処理するコストがわかっている場合、この値を OMi に入力できます。この値に基づき、OMi によっ て達成されたコスト節約の合計を表示できます。これらの統計情報は、OMi によって IT 環境が監視さ れている間の任意の指定期間について表示できます。

OMi は、次のような幅広い自動化機能を使用してイベントを処理するように設定できます。

- イベント・フィルタに基づくイベント抑制ルール。このいずれかのルールに一致するイベントは、処理が行われません。詳細については、"Event Suppression" on page 1を参照してください。
- 重複イベント抑制では、重複するイベントの発生を検出し、イベント・キーなどのイベント属性 に基づく重複を抑制したり、新しいイベントの設定可能な一連の属性に既存のイベントと同じ値 がある場合に重複を抑制します。詳細については、"Duplicate Event Suppression" on page 1を参照 してください。
- 関連イベントの状態の自動的な変更は、終了キー・パターンまたは状況の要因となる ETI を使用 する基本のイベント相関処理です。この相関処理では、既存のイベントのライフサイクル状態を closed または resolved に変更できます。詳細については、"Change the State of Related Events Automatically" on page 1を参照してください。
- ストリームベースのイベント相関処理(SBEC)では、ルールとフィルタを使用して、通常発生しているイベントまたはイベントの組み合わせを識別します。また、未公表扱いもしくは削除が可能なイベント、または、オペレータに生成、表示する新規イベントを必要とするイベントを自動的に識別することによって、このようなイベントの処理を簡素化できます。詳細については、 "Stream-Based Event Correlation" on page 1を参照してください。

- トポロジベースのイベント相関処理(TBEC)では,RTSMトポロジ情報を使用してイベント間の 関係を自動的に判別し,要因イベントを注意が必要なイベントとして強調表示した上で,症状イ ベントを抑制します。詳細については,"Topology-Based Event Correlation" on page 1を参照して ください。
- 自動アクションは、Operations Agent を実行しているシステムなどのターゲットでオペレータの 介入なしに自動的に実行できます。OMi-OO 統合が設定されている場合、アクションによって Operations Orchestration ラン・ブックをトリガできます。詳細については、『OMi - Operations Orchestration 統合ガイド』を参照してください。
- 時間ベースのイベント自動化機能は、特定の期間後にイベントの優先度を高くしたり、失敗した アクションを自動的に時間ベースで再起動するなど、イベントの処理を詳細に調整するために使 用できます。詳細については、"Time-Based Event Automation" on page 1を参照してください。

投資利益率のユーザ・インタフェース

投資利益率ダッシュボードでは、次の機能を使用して情報が表示されます。

円グラフ

2 セクタ円グラフには, OMi で自動処理されたイベントと, イベント・ブラウザが実際に受信した対 話型操作を必要とするイベントの比率が表示されるため, IT 組織にとっての OMi の価値を直ちに視覚 化できます。

イベントの合計

選択した期間中にIT 環境から OMi が受信したイベントの総数が表示されます。

OMi による削減

選択した期間中に OMi が自動処理したイベントの数が表示されます。

積み重ねグラフ

積み重ねグラフには、OMiオペレータが処理したイベントに対する自動処理されたイベントの比率 が、事前に設定された期間に分割されて表示されます。これらの期間の粒度は、全体の期間が長くな るほど低くなります。短い期間では1時間あたり1つの棒が表示され、たとえば合計期間が数日、数 週間、数か月と増えると、棒の粒度が低くなります。さらに、自動処理されたイベントのパーセン テージのトレースがグラフに重ねて表示されます。

コスト節約

[コスト節約の計算を有効化]が[オペレーション管理-投資利益率]インフラストラクチャ設定で 有効になっており,一般的なイベントを手動で処理するコストの値がOMiで入力されている場合,選 択した期間にOMiによって達成されたコスト節約の合計が表示されます。イベントおよび通貨ごとの コストの標準設定値は, [オペレーション管理-投資利益率]インフラストラクチャ設定で設定しま す。

タスク

「ROIコスト節約の計算を設定」(277ページ)

「ROIダッシュボードの使用」(278ページ)

「投資利益率ダッシュボード」(275ページ)

「投資利益率ダッシュボード」(275ページ)

「投資利益率ダッシュボード」(275ページ)

「ROIダッシュボードの印刷」(278ページ)

ROI コスト節約の計算を設定

投資利益率コスト節約の計算を設定するには,次の手順を実行します。

1. オペレーション管理のインフラストラクチャ設定を開きます。

[管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定]

次のセクションへ移動します。

オペレーション管理 - 投資利益率

- 2. [コスト節約の計算を有効化]を開き, [true] に設定するように編集(🥔)します。
- 3. オプション: OMI で達成される計算されたコスト節約を表示し,組織のイベントを手動で処理す る場合の標準設定値がある場合,その値を[イベントあたりのコスト]に入力します。さら に,所在地に応じて適切な通貨を[通貨]で設定します。
- 4. 投資利益率ダッシュボードに移動します。

[ワークスペース] > [ダッシュボード] > [Return on Investment]

- 5. [イベント コスト節約] ダイアログ (🃟) を開きます。
- 6. [Operations Manager i によるコスト節約をレポートに表示します] チェック・ボックスを選択 します。
- 7. イベントを処理するコストの値を選択します。選択肢は次のとおりです。

■ 標準設定値を使用

[オペレーション管理-投資利益率]の[イベントあたりのコスト]インフラストラクチャ 設定で設定した値が使用されます。

■ カスタム値を使用

関連する値フィールドで入力した値が使用されます。

8. **[OK**] をクリックします。

ROIダッシュボードの使用

投資利益率ダッシュボードを使用するには、次の手順を実行します。

1. 投資利益率ダッシュボードに移動します。

[ワークスペース] > [ダッシュボード] > [Return on Investment]

- 2. 投資利益率データを表示する期間を選択します。
 - [開始日]カレンダーを使用して、日付フィールドに直接日付を入力するか、マウスでカレンダーの日付をクリックして開始日を設定します。または、[今日]ボタンで現在の日付を選択します。
 - [終了日]カレンダーを使用して、日付フィールドに直接日付を入力するか、マウスでカレンダーの日付をクリックして終了日を設定します。または、[今日]ボタンで現在の日付を 選択します。

注: 選択した開始日と終了日が青の背景でカレンダーに表示されます。その期間内のその他 すべての日付は灰色の背景で表示されます。現在の日付(選択されていない場合)は黄色 の背景で表示されます。

ROI ダッシュボードの印刷

ダッシュボードの内容を印刷するには、次の手順を実行します。

1. 投資利益率ダッシュボードに移動します。

[ワークスペース] > [ダッシュボード] > [Return on Investment]

2. [印刷] ボタン (〒) をクリックします。

現在設定されている ROI ダッシュボードが印刷アプリケーションに送信されます。

UI 参照

[ダッシュボード] ペイン

UI 要素	説明
	イベント・コスト節約: [イベント コスト節約] ダイアログが開 き,投資利益率ダッシュボードでの OMi によるコスト節約情報の表 示を有効または無効にできます。
	注: [オペレーション管理 - 投資利益率] インフラストラクチャ 設定で [コスト節約の計算を有効化] が有効になっている必要 があります。イベントを処理するコスト ([イベントあたりの コスト]) と適切な通貨も指定されている必要があります。
時間枠の統 計	選択した投資利益率データの表示期間のサマリが表示されます。
イベントの 合計	選択した期間中にIT 環境から OMi が受信したイベントの総数が表示 されます。
0Mi による 削減	選択した期間中に OMi が自動処理したイベントの数が表示されま す。
OMi による コスト節約	選択した期間中に OMi によって達成されたコスト節約の合計が表示 されます。
	[オペレーション管理 - 投資利益率] インフラストラクチャ設定で [コスト節約の計算を有効化] が有効になっている必要がありま す。イベントを処理するコスト([イベントあたりのコスト])と 適切な通貨も指定されている必要があります。
	[イベント コスト節約]設定ダイアログで[Operations Manager i によるコスト節約をレポートに表示します]が選択されている必要 があります。

UI 要素	説明
時間枠	開始日:投資利益率の計算で選択された開始日が表示されます。
	終了日:投資利益率の計算で選択された終了日が表示されます。
	カレンダーで日付を選択するか[今日]ボタンを使用することで, [開始日]フィールドと[終了日]フィールドに直接日付を入力で きます。
	選択した開始日と終了日が青の背景でカレンダーに表示されます。 その期間内のその他すべての日付は灰色の背景で表示されます。現 在の日付(選択されていない場合)は黄色の背景で表示されます。

[イベント コスト節約] ダイアログ

UI 要素	説明
Operations Manager i による コスト節約をレ	このチェック・ボックスを選択すると, Operations Manager i ユーザ・インタ フェースでの投資利益率ダッシュボードの表示が有効になります。
コスト助約をレ ポートに表示しま す	注: [オペレーション管理 - 投資利益率] インフラストラクチャ設定で [コスト節約の計算を有効化] が有効になっている必要があります。イ ベントを処理するコスト([イベントあたりのコスト]))とその関連通 貨も指定されている必要があります。
標準設定値を使用	このオプションを選択すると、[オペレーション管理-投資利益率]インフ ラストラクチャ設定の[イベントあたりのコスト]設定で指定した値が使用 されます。
カスタム値を使用	このオプションを選択して代替値を指定すると、[オペレーション管理-投 資利益率]インフラストラクチャ設定の[イベントあたりのコスト]設定で 指定した値がオーバーライドされます。

第IV部: 操作コンソール

- イベント・パースペクティブ: [Event Perspective] ページには、イベント関連の情報が表示されます。
- 状況パースペクティブ: [Health Perspective] ページには,選択したイベントに関連するトポロ ジ情報および状況インジケータが表示されます。この表示では、イベントを別の複数の観点から 同時に確認でき,複雑な関係および依存関係をより明確にします。

たとえば、次の内容を表示できます。

- アクティブなイベント一覧。
- 選択したイベントに関連する CI のトポロジ・ビュー。
- オブジェクト,状態,値に割り当てられた状況インジケータ。
- パフォーマンス・パースペクティブ: グラフおよび表を生成して、環境内の監視対象のオブジェクトの動作を図示できます。生成されるグラフからは、重要なパフォーマンス・メトリクスの概要(CPU およびスワップ領域の使用率の経時変化、メモリ・ページの利用、および可用性など)がわかります。

さまざまな種類からグラフを選択して、グラフに含める詳細、期間、表示形式(グラフ、チャート、表など)を設定できます。また、複数のタブを使用して同一のデータを別の形式で表示する こともできます。

パフォーマンス・グラフの詳細については,「パフォーマンス・グラフ作成の概要」(285ページ) を参照してください。グラフでデータの表示方法を調整する方法の詳細については,「グラフの 種類」(287ページ)を参照してください。

- OMi 探索:事前に定義されたパスに従って、OMiのさまざまな機能を順に試していきながら、OMiの機能を学習できます。このマップは、対話型のチュートリアルから始まります。各手順には、組み込み情報や、追加リソース(関連 UIページ、オンライン・ヘルプ、ビデオなど)へのリンクが含まれています。[OMi 探索]により進行状況を追跡し、参照済みの領域を把握できます。進行状況はローカルに保存されます。ブラウザのクッキーを削除する(またはマップ内の[状態のリセット]をクリックする)と、進行状況が削除されます。
- OMi 状況ステータス: [OMiOMi Health Status] ページには, OMi デプロイメントの状況ステータ ス情報が表示されます。OMi では, 効率的な運用を行うために, そのコンポーネントの状況が追 跡され, 問題が報告されます。これにより, 是正処置や予防処置を講じることができます。

第17章: イベント・パースペクティブ

[Event Perspective] ページでは, IT 環境で発生するイベントの管理をより適切に行うことができます。

イベント・パースペクティブには、次の主要ペインがあります。

• ビュー・エクスプローラ

構成アイテム・データベースの内容を表示します。これにより、データベースの内容の参照方法 を決定するフィルタを設定できます。詳細については、「ビュー・エクスプローラ・コンポーネ ント」(200ページ)を参照してください。

• イベント・ブラウザ

監視している運用環境で発生するすべてのイベントの詳細な概要を表示します。詳細について は,「イベント・ブラウザ」(30ページ)を参照してください。

• イベント詳細

選択したイベントの情報をさらに細かく表示します。イベントの詳細は,イベント・ブラウザの下にペインとして,またはポップアップ・ウィンドウとして表示できます。詳細については, 「イベント詳細」(65ページ)を参照してください。

・ [Actions] ペイン

イベント・ブラウザで選択したイベントから実行できる,ツール,HPOM アクションおよびラン・ブックを表示および実行します。詳細については,「ツール」(214ページ),「アクション」(209ページ),「Operations Orchestration ラン・ブックの起動」(59ページ)を参照してください。

すべてのペインのサイズは手動で変更できます。また, [展開] ボタンおよび [折りたたみ] ボタン を使用して,表示形式を定義済みの設定に変更できます。 [復元] ボタンでは,関連付けられている ペインを標準設定のサイズに戻すことができます。

第18章: Health Perspective

[Health Perspective] タブは、イベントのコンテキストにおける関連 CI のヘルスを表示するために 使用します。 [Health Top View] に表示される内容は、イベント・ブラウザで選択したイベントに よって決まり、 [Health Indicators] ペインに表示される内容は、 [ヘルス トップ ビュー] で選択し た CI によって決まります。

[Health Perspective] タブでは,オブジェクトの状況ステータスを把握するには次のペインが役に 立ちます。これらのペインは,どのビジネス・ルールおよび KPI が使用されているかと,選択したオ ブジェクトの状況ステータスが関連オブジェクトの状況にどのように影響するかを示します。

• View Explorer

監視している環境内のすべてのオブジェクト一覧を示します。詳細については,「ビュー・エク スプローラ・コンポーネント」(200ページ)を参照してください。

Event Browser

監視している環境内のアクティブ・イベント一覧を示します。詳細については, 「イベント・ブ ラウザ」(30ページ)を参照してください。

Health Top View

[Health Perspective] タブの [Health Top View] ペインには, [Event Browser] ペインで選択し たイベントに影響する構成アイテムのトポロジ・ビューが表示されます。ビューには, 監視オブ ジェクトである構成アイテム間の関係が示され, それらの現在の状況ステータスが示されます。 [Health Top View] では, 個々のオブジェクトの状況がほかのオブジェクトの状況にどのように 影響するか確認することもできます。

[Health Top View] は根本的な要因の分析が必要な問題の調査で使用されるよう設計されていま す。詳細については、「状況トップ・ビュー・コンポーネント」(163ページ)を参照してくださ い。

• Health Indicators

選択されている構成アイテムの可用性やパフォーマンスなどの状況関連の情報の計算に使用できる,選択されている CI の KPI および状況インジケーター覧を示します。詳細については,「状況 インジケータ」(128ページ)を参照してください。

・ [アクション] ペイン

イベント・ブラウザで選択したイベントで実行できるツール,アクション,ラン・ブックを表示,実行します。詳細については,「ツール」(214ページ),「アクション」(209ページ),「Operations Orchestration ラン・ブックの起動」(59ページ)を参照してください。

状況インジケータおよび主要管理指標を使用して,オブジェクトの状況を判断します。OMi では,選択したオブジェクトと直接関連付けられている問題の重要度が計算され,依存オブジェクトに関するその他の情報とこの情報が組み合わせられます。結合されたデータは,オブジェクトの全体的な状況を示す KPI を評価して設定する計算ルールに渡されます。

オブジェクトの [Health Top View] 上の色は、そのオブジェクトの状況および、そのオブジェクトに 使用されるオブジェクトがある場合、その最もクリティカルなステータスが示されます。たとえば、 正常域を示すのに緑を、危険域を示すのに赤を使用できます。使用される色はビューでの設定により ます。ビューでの設定によって、CIの色が決定されます。

HIと KPI の詳細については, 「状況インジケータ」(128ページ)と「HI ベースの KPI の計算」(130ページ)を参照してください。

第19章: パフォーマンス・グラフ作成の概要

パフォーマンスグラフ作成では,監視している構成アイテム・タイプのグラフの描画やカスタム・グ ラフの設計を行うことができます。また,1つ以上の構成アイテム(CI)上のリソースやアプリケー ションの複数のインスタンスの比較を行うこともできます。

フォーマット済みおよびカスタムのグラフおよびレポートを使用して、次のことを実行できます。

- 監視対象のエンティティ(アプリケーション、システム、ネットワークなど)のパフォーマンス を評価する
- 使用傾向を分析する
- 使用方法を相関処理する
- アプリケーションおよびシステムのパフォーマンスを比較する

この後の項では、様々なグラフ作成機能について説明します。

グラフの描画

パフォーマンス・グラフ作成を使用して,事前定義のテンプレートからのグラフの作成や,選択した CIの独自のグラフの作成を行うことができます。次の領域のいずれかからパフォーマンス・グラフを 起動できます。

・ マイ・ワークスペース ページ

パフォーマンス・グラフを [マイ・ワークスペース] に追加できます。グラフを表示するには, [マイ・ワークスペース] ページの作成中にグラフ作成コンポーネントをドラッグ・アンド・ド ロップします。 [Performance Graphing] コンポーネントを使用して,事前定義されたグラフの 作成を選択することもできます。また, [Performance Graphs with Details] コンポーネントを 使用して,選択した CI の即興グラフを作成することもできます。詳細については,「 [マイ ワークスペース] でのグラフの描画」(291ページ)を参照してください。

[Performance Perspective] ページ

[Performance Perspective] では、テンプレートからグラフを作成することができます。また、 選択した CI に必要なメトリックを選択することによって、即興のグラフを描画することもできま す。詳細については、「パフォーマンス・パースペクティブからのグラフの描画」(293ページ)を 参照してください。

・ [イベント ブラウザ] ペイン

ショートカット・メニューから [**表示**] オプションを使用して [イベント ブラウザ] ペインから グラフを描画できます。選択したノード,イベント,または選択した CI について利用可能なグラ フを起動できます。詳細については,「OMi からのグラフの描画」(291ページ)を参照してくださ い。

• ビュー・エクスプローラ

利用可能なショートカット・メニューを使用して, [View Explorer] ペインから選択した CI につ いてグラフを描画できます。詳細については, 「OMi からのグラフの描画」(291ページ)を参照し てください。

グラフの設計

[パフォーマンス グラフ作成]では、デザイン・ウィザードを使用してカスタマイズしたグラフを 設計できます。デザイン・ウィザードは、さまざまなタイプのグラフを作成するのに役立ちます。次 の領域からグラフを設計できます。

[Performance Perspective] ページ

[Performance Perspective] では, [グラフの描画] ウィンドウの [オプション] メニューから [設定] を選択してグラフを設計できます。デザイン・ウィザード・ウィンドウが開きます。詳 細については, 「グラフの編集」(295ページ)を参照してください。

・ [イベント ブラウザ] ペイン

ショートカット・メニューから [設定] オプションを使用して [イベント ブラウザ] ペインから グラフを描画できます。デザイン・ウィザード・ウィンドウが開きます。詳細については,「グ ラフの設計」(294ページ)を参照してください。

• ビュー・エクスプローラ

ショートカット・メニューから [**設定**] オプションを使用して, [View Explorer] ペインから選 択した CI のグラフを設計できます。デザイン・ウィザード・ウィンドウが開きます。詳細につい ては, 「グラフの設計」(294ページ)を参照してください。

• パフォーマンス・グラフ作成ツール

パフォーマンス・グラフ作成ツールを使用して,選択した CI インスタンスについて新しいグラ フ・テンプレートを設計できます。

新しいグラフ・テンプレートの設計の詳細については,『OMi 管理ガイド』の「パフォーマン ス・グラフ作成ツールの開始方法」の項を参照してください。

注:詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。

0Mi ユーザ・ガイド 第19章: パフォーマンス・グラフ作成の概要

グラフの管理

グラフ作成では、次の管理関連機能を実行できます。

• グラフの編集

製品付属のグラフ・テンプレートを編集して,ユーザ定義のテンプレートとして保存することも できます。詳細については,「グラフの編集」(295ページ)を参照してください。

グラフの割り当て

グラフ・ファミリを CI タイプに割り当てられます。

・グラフの削除

自分で作成したグラフは,すべて削除することもできます。詳細については,「グラフの削除」 (296ページ)を参照してください。

グラフの種類

パフォーマンス グラフ作成では、さまざまな種類のグラフを利用できます。グラフの設計または編 集時には、必要なグラフの種類を選択できます。次の表に、利用可能なグラフのタイプを示します。

グラフのタイプ	説明
線グラフ	各メトリックは1本の線で示されます。このタイプのグラフでは,線のス タイルのみが有効です。
棒	各メトリックは垂直方向の棒で示されます。
領域	各メトリックは1本の線で示され,線の下のデータは同じ色で塗りつぶさ れます。グラフのすべてのメトリクスで同じ単位を使用する必要がありま す。このグラフは,塗りつぶし線グラフとも呼ばれます。
複合グラフ	各メトリクスは,線グラフ,面グラフ,または棒グラフとして別個に示さ れます。
	注: [グラフのデザイン] からグラフを描画,編集している場合,グ ラフのタイプとして複合は選択できません。
水平の棒	各メトリックは水平方向の棒で示されます。
円グラフ	各メトリックは円グラフの一部として示されます。
ゲージ	各メトリックは単一の自動車型のダイヤル・ゲージとして示されます。

OMi ユーザ・ガイド 第19章: パフォーマンス・グラフ作成の概要

グラフのタイプ	説明
テーブル	各メトリックは列に,各レコードは行に,データは表形式で示されます。
水平の表	各メトリックは列に,各レコードは行に,表形式で示されます。
キャパシティ	最大値に対するメトリック値を表示します。
	注: [グラフのデザイン] からグラフを描画,編集している場合,グ ラフのタイプとしてキャパシティは選択できません。
ベースライン	標準の週における1つのメトリックの平均値が示されます。このベースラ インはデータ・ソースからのすべての有効データを使用して生成されま す。標準の週のベースラインの計算には,選択したシステムの7日を超え るデータが必要です。大量に履歴データがある場合,計算に数分間かかる 場合があります。
	注: [グラフのデザイン] からグラフを描画,編集している場合,グ ラフのタイプとしてベースラインは選択できません。

ベースライン・グラフ

ベースライン・グラフは、リソースの使用におけるパターンを識別するのに便利です。

ベースライン・グラフを指定すると、8 つグラフが描画されます。一連のグラフ内の最初のグラフ は、週の各曜日および1日の時刻ごとのメトリックの平均値が示される[通常の週] グラフです。こ れ以外に、各曜日ごとのグラフが7つ示されます。これらには、その日の実際のデータに対する、メ トリックの予想最高値と予想最低値が示されます。日単位のグラフでは、その日の特定の時刻におけ る期待値の範囲が青の線で示されます。期待値は、システムの過去のすべてのデータを検証し、週の 各曜日の各時刻の統計を計算して決定されます。青の線では、データ・ポイントの 80% が通常含ま れる範囲が示されます。赤の線では、1日の各時刻の実データが示されます。

グラフの概要

パフォーマンス・グラフ作成は,次のもので構成されるグラフ・ファミリ・ツリーを使用して構成されています。

・ ファミリ

グラフを構成するグループを指します。

• カテゴリ
ファミリ内で論理的にグループ分けされているグラフのサブ・グループを指します。

名前

グラフの定義を識別する固有名です。

標準設定のグラフ

グラフ・ファミリ内の標準設定のグラフには、すべてのリソースまたはアプリケーションのパフォーマンス計測に最も重要なメトリックが含まれます。グラフ・ファミリまたはカテゴリは CI にマップできます。グラフ・ファミリまたはカテゴリを関連付けられている CI のグラフを起動すると、グラフ・ファミリまたはカテゴリの標準設定のグラフが描画されます。グラフ・ファミリは1 つ以上の標準設定のグラフを持つことができます。グラフ・ファミリに標準設定のグラフがない場合、ファミリまたはカテゴリ内の最初のグラフが選択されます。

データ・ソース

データ・ソースとは,デプロイされるエンティティまたは要素を監視するエージェントまたはエー ジェント・コンポーネントです。ただし,HP SiteScope では,エージェントをデプロイしなくても データ収集できます。

パフォーマンス・グラフ作成は, RTSM 内で Monitored_by 属性に対して設定されているデータ・ ソースを検査し,一覧中のデータ・ソースからのみデータを収集します。たとえば, CI が SiteScope のみによって監視されている場合, [パフォーマンス グラフ作成] は SiteScope データ・ソースから のみデータを収集します。Monitored_by 属性に値が設定されていないと, パフォーマンス・グラフ 作成は HP Operations Agent のデータ・ソースへの接続を試みます。

データ・ソースは,監視対象の要素に関するデータを継続的に収集し,将来使用するためにデータ・ ストアに格納します。パフォーマンス・グラフ作成を使用して,永続的なデータ・ストアに格納さ れたこの履歴データを表示できます。

パフォーマンス グラフ作成は、次のデータ・ソースをサポートしています。

- HP Performance Agent
- HP Operations Agent
- SiteScope (エージェントレス)
- Sitescope RTM
- BSM Connector

注: HP Operations エージェント(11.00)のリアルタイム・メトリック・アクセス・コンポー

ネントでは,監視対象の要素についてパフォーマンス・データにリアルタイムでアクセスでき ます。

メトリクス

メトリックとは,リソースの運用状況およびパフォーマンスを示す測定値のことです。これは,監視 対象リソースの状況,パフォーマンス,可用性を監視して測定するために使用できるパラメータまた は一連のパラメータです。

パフォーマンス・グラフ作成を使用して,このデータをグラフ形式または表形式で表示できます。描 画されたグラフは,選択したメトリクスで利用できるデータ・ポイントで構成されています。メト リック・クラスとは,報告するデータ・タイプに基づいてグループ化された関連のある一連のメトリ クスです。

HP Operations Agent および HP Performance Agent によって収集されたメトリック値により,監視対 象システムに関する次の情報が得られます。プロセス,アプリケーション,トランザクション, CPU,ファイル・システム,ディスク,ネットワーク・インタフェース,論理システム。こうした詳 細により,監視対象システムの運用効率および状況が示されます。さらに,さまざまなスマート・プ ラグイン (SPI) でこうしたエージェントが補完され,これらの管理対象システムで実行されるさま ざまなアプリケーションに関する詳細情報が得られます。

SiteScope は、エージェント・ソフトウェアに頼らずにさまざまなシステムからメトリクスを収集します。HP SiteScope によって収集されたメトリック値によって、サーバ状況、URL の可用性、Webサービス、データベース、アプリケーション・サーバに関する情報が得られます。これらの収集されたパラメータにより、IT インフラストラクチャの可用性とパフォーマンスが示されます。

BSM Connector では,サードパーティ・システム(通常は,Enterprise Management System)によっ て収集されたデータを OMi に統合します。BSM Connector によって収集されたメトリックにより, サードパーティ・ソフトウェアによって監視されるシステムおよびアプリケーションに関する情報が 得られます。パフォーマンス・グラフ作成では,BSM Connector 9.20 以降がサポートされています。

グラフの管理 - ワークフロー

製品付属のグラフ・テンプレート以外に,カスタム・グラフを設計することができます。デザイン・ ウィザードを使用して,必要なデータを示す独自のグラフ・テンプレートを作成できます。また,標 準のテンプレートの既存のグラフ定義を編集して,ユーザ定義のテンプレートとして保存することが できます。構成アイテム・タイプにグラフ・ファミリまたはカテゴリをマップできます。

詳細については, 『OMi 管理ガイド』の「パフォーマンス・グラフ・マッピング」の項を参照してく ださい。 パフォーマンス・グラフ・コンポーネントを使用して、テンプレートからグラフを描画できます。パ フォーマンス・グラフ・コンポーネントによって、選択した CI またはビューに変更を加えることで グラフを描画することもできます。詳細については、「[マイ ワークスペース]でのグラフの描 画」(291ページ)を参照してください。

また, [Performance Perspective] ページからは, 即興のグラフを描画することもできます。詳細に ついては, 「パフォーマンス・パースペクティブからのグラフの描画」(293ページ)を参照してくだ さい。

[マイ ワークスペース] でのグラフの描画

[マイ・ワークスペース]の作成中に,パフォーマンス・グラフをコンポーネントとして追加できます。パフォーマンス・グラフ・コンポーネントを使用して,選択した CI についてテンプレートから グラフを描画できます。CI について必要なメトリクスを選択することで,独自のグラフを作成することもできます。

パフォーマンス・グラフを[マイ・ワークスペース]に追加するには、次の手順を実行します。

- 1. ページ管理ツールバーの [新規ページ] ボタンをクリックします。
- 2. [**分割**] ボタンをクリックします。レイアウト領域を多数の垂直または水平のペインに分割できます。
- [コンポーネントの追加] アイコンをクリックします。 [コンポーネント ギャラリ] ウィンド ウで [Performance Graphing] または [Performance Graphs with Details] をダブルクリック し、ペインの1つに配置します。

または、ページ管理ツールバーの [**コンポーネント**] ボタンをクリックします。コンポーネント・ギャラリから [Performance Graphs] または [Performance Graphs with Details] を選択し、ページ上の任意の領域にドラッグします。

4. コンポーネント・ギャラリから [View Explorer] を選択し,ページ上の任意の領域にドラッグ します。

パフォーマンス・グラフ・コンポーネントを使用して,テンプレートからグラフを描画できます。 [Performance Graph with Detail] コンポーネントでは, [Performance] 表示枠を起動して,テン プレートからグラフを描画したり即興で独自のグラフを作成したりできます。

OMi からのグラフの描画

定義済みのテンプレートのセットからグラフを描画したり,独自のグラフ・テンプレートを設計した りできます。グラフは次のいずれかの方法で描画できます。

[View Explorer] ペインからグラフを描画するには,次の手順を実行します。

- 1. グラフを描画する CI を右クリックします。
- メニュー・オプションから [表示] > [パフォーマンス グラフ (CI)] を選択し、選択した CI の グラフを描画します。

[表示] > [パフォーマンス グラフ(隣接)]を選択して,選択した CI および隣接 CI のグラフ を描画します。

選択した CI の標準設定グラフを示した新規ウィンドウが開きます。構成アイテム・ツリーと選 択パネルは,標準設定で折りたたまれています。構成アイテム・ツリーを展開するには ▶ を クリックし,選択パネルを展開するには ≫ をクリックします。

隣接グラフの場合,最初に選択した CI の標準設定グラフのみを示した新規ウィンドウが開きま す。構成アイテム・ツリーに,選択した CI と隣接する CI が表示されます。標準設定では,グラ フの選択パネルは折りたたまれています。隣接 CI のグラフを描画するには,該当する CI を選択 してグラフを描画します。

[イベント パースペクティブ] タブからグラフを描画するには,次の手順を実行します。

- 1. グラフを描画するイベントを [Event Browser] ペインで右クリックします。
- メニュー・オプションから、 [表示] > [パフォーマンス グラフ(隣接)] または [パフォーマンス グラフ(CI)] を選択します。

選択した CI の標準設定グラフを示した新規ウィンドウが開きます。構成アイテム・ツリーと選 択パネルは,標準設定で折りたたまれています。構成アイテム・ツリーを展開するには [▶] を クリックし,選択パネルを展開するには [≫] をクリックします。

注: 複数のインスタンスがある CI のグラフを描画する場合,パラメータ,最大インスタンスの値が適切に設定されていることを確認します。グラフを描画する際,このパラメータで 指定した値のインスタンス数のみが表示されます。インスタンス数がこのパラメータ値を 超過する場合,超過したインスタンスはこのグラフには表示されません。

詳細については, 『OMi 管理ガイド』の「パフォーマンス・グラフ作成のインフラストラクチャ設定マネージャ」の項を参照してください。

イベントのグラフを起動すると、各ファミリまたはカテゴリの標準設定のグラフが新しいブラウザ・ ウィンドウに表示されます。グラフ・ファミリまたはカテゴリに標準設定のグラフがない場合、ファ ミリまたはカテゴリ内の最初のグラフが選択されます。描画されたグラフを詳細に分析するさまざま なオプションが用意されています。詳細については、「描画済みグラフのオプション」(301ページ) を参照してください。

描画されるグラフ数は、グラフごとのメトリックの値、グラフ・テンプレートに設定されているグラフ・タイプ、CIの数といった、グラフ・テンプレートに帰属する属性によって異なります。「グラフ

属性 - 一覧および説明」(326ページ)および(グラフ・テンプレートに表示される)キーワードを参照 してください。

選択した CI についてグラフの選択を変更するには,次の手順を実行します。

- 1. 定義済みのグラフのリストからグラフ・タイプを選択します。
- 2. [グラフの作成] 🔟 をクリックします。選択したグラフが描画されます。
- 3. 前の選択をすべてキャンセルするには、 [選択解除] 눱 ボタンをクリックします。

パフォーマンス・パースペクティブからのグラフの描 画

事前定義のグラフ・テンプレートからのグラフの起動や,選択した CI に必要なメトリクスの選択に よる即興のグラフの作成を行うことができます。 [ワークベンチ] ページから次のいずれかの方法で グラフを描画できます。

グラフ・テンプレートからグラフを描画するには、次の手順を実行します。

1. 構成アイテム・ツリーから、グラフを描画する CI を選択します。

注: グラフを描画するためにツリー・ビューから選択できる CI は 1 つのみです。複数の CI を選択した場合は,関連するデータ・ソースが見つからないことを示すエラーが表示され ます。

2. [Performance] ペインから [**グラフ**] タブを選択します。このタブには,選択した CI に基づい て定義済みのグラフのリストが表示されます。

選択した CI によっては、標準設定のグラフが事前選択されています。

事前選択したグラフを描画させない場合は, [選択解除] ៉ をクリックします。

- 3. 定義済みのグラフのリストから1つ以上のグラフを選択します。複数のグラフをリストから選 択するには, **CTRL**キーを押してグラフを選択します。
- 4. [グラフの作成] 🔟 をクリックします。

[作成したグラフ] 表示枠にグラフが描画されます。

即興でグラフを描画するには、次の手順を実行します。

- 1. **構成アイテム・ツリー**から, グラフを描画する CI を選択します。 [Performance] ペインの [メ トリクス] タブには, 次が表示されます。
 - メトリック クラス 使用可能なメトリック・クラスのリストを表示します。複数のメトリック・クラスがある場合にのみ表示されます。
 - インスタンス [インスタンス]表示枠は、マルチインスタンスのメトリック・クラスを選択した場合にのみ表示されます。メトリック・クラスについて利用可能なインスタンスをすべて一覧にします。
 - メトリクス [メトリクス] 表示枠には、選択したメトリック・クラスまたは使用可能なメトリック・クラスに対応するメトリックのリストが表示されます。

vCenter のメトリクスおよびさまざまなロギング・レベルの詳細については, VMware のド キュメントを参照してください。

- 2. 必要なメトリック・クラスを選択します。 [メトリクス] ボックスには, そのクラスに属する 数値メトリクス一覧が表示されます。
- 1つ以上のメトリックを、メトリック・リストから [作成したグラフ] 表示枠にドラッグ・アンド・ドロップします。選択したメトリクスについてグラフが描画されます。

メトリクスは任意の数だけドラッグ・アンド・ドロップしてグラフを描画できます。

注: RTM メトリクスを非 RTM グラフ・ウィンドウにドラッグ・アンド・ドロップすること はできません。逆も同様です。メトリクスのグラフは描画されません。

選択した CI についてグラフの選択を変更するには,次の手順を実行します。

- 1. 定義済みのグラフのリストからグラフ・タイプを選択します。
- 2. [グラフの作成] 🔟 をクリックします。選択したグラフが描画されます。
- 3. 前の選択をすべてキャンセルするには、 [選択解除] 눱 ボタンをクリックします。

グラフの設計

デザイン・ウィザードを使用してグラフを設計し,カスタマイズ済みテンプレートとして保存できま す。これらのカスタマイズ済みテンプレートを使用してグラフを描画できます。デザイン・ウィザー ドを使用して即興のグラフを描画することもできます。デザイン・ウィザードは次のいずれかの方法 で起動できます。

[View Explorer] ペインからグラフを設計するには,次の手順を実行します。

- 1. グラフを設計する CI を右クリックします。
- 2. [設定] > [パフォーマンス グラフ] を選択します。デザイン・ウィザード・ウィンドウが開き ます。

[Event Perspective] タブからグラフを設計するには,次の手順を実行します。

- 1. グラフを設計するイベントを右クリックします。
- 2. [設定] > [パフォーマンス グラフ] を選択します。デザイン・ウィザード・ウィンドウが開き ます。

[Performance Perspective] からグラフを設計するには,次の手順を実行します。

[Performance Perspective] ページの次の領域からデザイン・ウィザードを起動することもできます。

- ・ 描画したグラフ・ウィンドウで、
 [オプション] > [設定] をクリックします。デザイン・ウィ ザード・ウィンドウが開きます。
- テーブル・グラフ・ウィンドウで、 ([設定]) アイコンをクリックします。デザイン・ウィ ザード・ウィンドウが開きます。

デザイン・ウィザードを使用すると、グラフの設計に必要な一連の手順を順番どおりに実行できま す。詳細については、「[グラフ属性]タブ」(312ページ)を参照してください。

グラフの編集

パフォーマンス・グラフ作成では,作成したグラフを編集できます。また,製品付属のグラフ・テン プレートを編集して,ユーザ定義のグラフ・テンプレートとして別名で保存することもできます。

グラフ・テンプレートを編集するには、次の手順を実行します。

1. 次のようにして,パフォーマンス・グラフ・マネージャを開きます。

[管理] > [操作コンソール] > [パフォーマンス グラフ マッピング]

- 2. [利用可能なグラフ ファミリ] ペインから,編集するグラフを選択します。
- 編集 《 ボタンをクリックするか、グラフを右クリックし、 [グラフ テンプレートを編集:作成 ツールの開始]を選択します。 [パフォーマンスグラフ作成ツールの開始] ウィンドウが開き ます。
- 4. 一覧から CI インスタンスを選択し、 [次へ] をクリックします。 [パラメータの開始] に選択

した CI インスタンスに利用できるパラメーター覧が表示されます。

5. [**完了**]をクリックします。「[グラフ属性] タブ」(312ページ)が開きます。

描画されたグラフを編集するには,次の手順を実行します。

1. グラフ・ウィンドウから [**オプション**] > [**設定**] を選択します。デザイン・ウィザード・ウィ ンドウが開きます。

詳細については,「[特殊な属性]タブ」(322ページ)を参照してください。

- 2. [プレビュー]をクリックし、変更されたグラフを表示します。
- [デザインに戻る]をクリックしてデザイン・ウィザードを表示します。メトリクスを追加または削除してグラフを変更した場合、グラフ・ウィンドウから[オプション]>[設定]を選択し、デザイン・ウィザードを再度実行します。

注: [Performance] ペインに描画済みのグラフが複数ある場合, 描画済みの各グラフにある [設定] オプションでは選択したグラフのデザイン・ウィザードが起動されます。

グラフを編集するには、管理者としてログインする必要があります。ユーザ・ロールについては、『OMi 管理ガイド』の「ユーザ」の項を参照してください。

グラフの削除

作成したグラフはすべて削除できますが、製品付属のグラフは削除できません。

グラフを削除するには、次の手順を実行します。

1. 次のようにして, パフォーマンス・グラフ・マネージャを開きます。

[管理] > [操作コンソール] > [パフォーマンス グラフ マッピング]

- 2. [利用可能なグラフ ファミリ]ペインから,削除するグラフを選択します。
- 3. [項目を削除] 🞽 をクリックします。グラフが削除されます。

注: グラフの存在しないグラフ・ファミリは削除されます。

グラフを削除するには,管理者としてログインする必要があります。ユーザ・ロールについては,『OMi 管理ガイド』の「ユーザ」の項を参照してください。

[パフォーマンス グラフ作成]のユーザ・インタ フェース

本項の内容

- 「パフォーマンス・パースペクティブのグラフィカル・ユーザ・インタフェース」(297ページ)
- 「描画済みグラフのオプション」(301ページ)
- 「プロセスへのドリルダウン」(306ページ)
- 「[表グラフ] ウィンドウ」(309ページ)
- 「グラフのエクスポート・ダイアログ・ボックス」(311ページ)
- 「グラフ・デザイン」(311ページ)
- 「[グラフ属性] タブ」(312ページ)
- 「 [メトリック リスト] タブ」(316ページ)
- 「[メトリックの選択]ウィンドウ」(317ページ)
- 「 [メトリックのプロパティ] ウィンドウ」(318ページ)
- 「[特殊な属性] タブ」(322ページ)
- 「[グラフの保存]ダイアログ・ボックス」(325ページ)
- 「グラフ属性 一覧および説明」(326ページ)
- 「日付範囲パネル」(330ページ)

パフォーマンス・パースペクティブのグラフィカル・ユー ザ・インタフェース

アクセス方法	[ワークスペース] > [操作コンソール] > [Performance Perspective]
重要情報	本項の目的は, [Performance Perspective] タブについての理解を深める ことです。 [Performance Perspective] ページでは, テンプレートからグ ラフを描画することも, 必要なメトリクスを選択して即興のグラフを作成 することもできます。

関連タスク	「グラフの管理 - ワークフロー」(290ページ)
関連情報	「パフォーマンス・グラフ作成の概要」(285ページ)

本項では、次のペインについて説明します。

- 「ビュー・エクスプローラ」(298ページ)
- 「[Performance] ペイン」(298ページ)

ビュー・エクスプローラ

[View Explorer] ペインには CI の一覧がツリー・ビューで表示されます。ビューは独自のものを作成 できます。パフォーマンス・グラフ作成のツリー・ビューで CI を 1 つだけ選択し, グラフを描画し ます。複数の CI を選択した場合は, 関連するデータ・ソースが見つからないことを示すエラーが表 示されます。

ビュー・エクスプローラの詳細については,「ビュー・エクスプローラ・コンポーネント」(200ページ)を参照してください。

[Performance] ペイン

[Performance] ペインでは,選択した CI についてパフォーマンス・グラフを描画および表示できます。CI の定義済みのグラフの描画や,利用可能なメトリクスの一覧からのグラフの描画を行うことができます。

次の表では, [Performance] ペインで利用可能なタブについて説明します。

UI 要素	説明
定義済みのグラフ	[View Explorer] ペインで選択した CI に基づくグラフ・テンプレー トー覧が表示されます。

UI 要素	説明
メトリクス	次の情報が表示されます。
	 データ・ソース - 選択した CI で利用できるデータ・ソースを一覧 表示します。監視対象のノードにデータ・ソースが1つしかない 場合,このデータは表示されません。
	 メトリック・クラス - 選択したデータ・ソースの利用可能なメト リック・クラスを一覧表示します。選択したデータ・ソースにメ トリック・クラスが1つしかない場合、このデータは表示されま せん。
	 インスタンス - 選択したマルチインスタンス・メトリック・クラ スの利用可能なインスタンスを一覧表示します。
	 メトリクス - 選択したメトリック・クラスについて利用可能なメ トリクスを一覧表示します。
	[メトリクス] タブ上の利用可能な [更新] (^C) アイコンを 使用して, データ・ソースを更新できます。データ・ソースを選 択し, [更新] ボタンをクリックします。データ・ソースを更新 すると,利用可能なすべてのメトリック・クラス,インスタンス (ある場合),メトリクスが更新されます。
	また,このボタンを使用して,RTM データ・ソースを手動で更新 することもできます。

[作成したグラフ] ウィンドウ

描画済みのすべてのグラフは [Performance] ペインの [作成したグラフ] ウィンドウに表示されま す。 [作成したグラフ] ウィンドウのユーザ・インタフェース要素の詳細については, 「描画済みグ ラフのオプション」(301ページ)を参照してください。

[作成したグラフ] ウィンドウには次の要素が表示されます。

- メトリクスについてグラフを非表示または表示にできるメトリクスの凡例。
- データ・ソースがデータを収集するノードの名前。
- メトリック名、メトリック値、メトリックのタイムスタンプ。

注: SiteScope または BSM Connector データ・ソースを使用していて, CI でデータを 5 分監視 し,その期間内に複数のデータ・ポイントがある場合,グラフにはその期間内に受信された 最後のデータのみが表示されます。 描画済みのグラフに対して利用可能な機能を次に示します。

別の CI のメトリックと比較

- CIを選択します。選択した CI の利用可能なメトリクスと定義済みのグラフが表示されます。メ トリックを [メトリクス] ペインからドラッグ・アンド・ドロップします。グラフは [Performance] ペインに描画されます。
- 比較する2番目のCIを選択します。同じメトリックを[メトリクス]ペインから選択します。
 メトリックをドラッグして、前に描画したグラフにドロップし、それぞれのCIのデータを比較します。

たとえば、2つのCIから同じメトリックである「BYCPU_TOTAL_UTIL」を選択します。これでこの2つのCIと関連付けられているノードのCPUの合計使用量を比較できます。

メトリックの削除

凡例のメトリック名を右クリックし,削除を選択します。メトリックと対応する線がグラフから削除 され,凡例には表示されなくなります。

メトリックの追加

描画済みのグラフのウィンドウにメトリックをドラッグ・アンド・ドロップします。新しいメトリッ クがグラフに表示され,凡例に示されます。

メトリックの非表示

グラフ・ウィンドウの凡例のメトリック名をクリックします。メトリックの凡例が無効になり,メト リックのグラフがグラフ・ウィンドウに表示されなくなります。

メトリックの表示

凡例から無効のメトリックをクリックします。メトリックの凡例が有効になり,メトリックのグラフ がグラフ・ウィンドウに再表示されます。

1 つのグラフのメトリックの別のグラフへのコピー

1つのグラフから別のグラフにメトリックをドラッグできます。ドラッグ先のグラフには,新規に追加されたメトリックが表示されます。

グラフからメトリックを取り出す

1 つのグラフからメトリックをドラッグし,グラフ・パネル領域の空きスペースにドロップできます。選択したメトリックの新しいグラフが描画されます。

OMi ユーザ・ガイド 第19章: パフォーマンス・グラフ作成の概要

グラフを移動する

描画済みグラフの最上部バーをクリックしてドラッグし、描画済みグラフの順序を移動または再配置 します。

グラフのサイズを変更する

描画済みグラフのウィンドウの右下隅にカーソルを置き,クリックおよびドラッグを行ってウィンド ウのサイズを変更します。

描画済みグラフのオプション

アクセス 方法	[ワークスペース] > [操作コンソール] > [Performance Perspective]
重要情報	次の追加オプションでは、描画後のグラフをより詳細に分析できます。
関連タス ク	グラフの描画方法の詳細については, 「 OMi からのグラフの描画」(291ページ)を参 照してください。

本項では, グラフの内容を理解し, 利用可能な特性や機能を使用してその内容を変更する方法を説明 します。

- 「グラフ選択アイコン」(301ページ)
- 「[作成したグラフ] ウィンドウ」(302ページ)
- 「オプション・メニュー」(302ページ)
- 「グラフ・ウィンドウ・オプション」(303ページ)
- 「作成したグラフのズーム・イン・データ」(304ページ)

グラフ選択アイコン

[グラフ] タブには,選択した CI に関連付けられているグラフ,グラフ・ファミリ,カテゴリが表示されます。グラフ・ファミリ,カテゴリの標準設定のグラフ,または使用されている CI は標準設定で選択されています。

次の表は, [グラフ] タブで利用可能な機能を一覧表示しています。

UI 要素	説明
K.	グラフの作成: 選択した CI のグラフが描画されます。

0Mi ユーザ・ガイド 第19章: パフォーマンス・グラフ作成の概要

UI 要素	説明
6	選択をクリア: タブ内の選択をクリアします。
C	更新 : 定義済みのグラフのリストを更新します。

[作成したグラフ] ウィンドウ

次の表は, [作成したグラフ]ウィンドウのタイトル・バー上の利用可能な要素を一覧表示しています。

UI 要素	説明
折りた たみ(≪)	[定義済みのグラフ] および [メトリクス] タブを折りたたむには, このアイコンをク リックします。
展開(≫)	[定義済みのグラフ] および [メトリクス] タブを表示するには, このアイコンをク リックします。このアイコンは, タブを折りたたんだ後でのみ利用できます。
オプ ション	作成したグラフに対するメニュー・オプションを表示します。オプション・メニューで 利用可能な要素の詳細については, 「オプション・メニュー」(302ページ)を参照してく ださい。

オプション・メニュー

次の表は, [作成したグラフ] ウィンドウのタイトル・バーの [**オプション**] メニューにある要素を 一覧表示しています。

UI 要素	説明
ツールチップ	作成したグラフのツールチップを有効にする場合に,このオプションを選択しま す。選択した場合,描画済みのグラフ領域にマウスを重ねると,データ・ポイント の実際の値および選択したデータの時間間隔を示すテキスト・ボックスが開きま す。無効にすると,ポップアップ・ウィンドウは開きません。
日付範囲パネ ル	日付範囲パネルを開くには,このオプションを選択します。日付範囲パネルを使用 すれば,グラフを作成する対象の期間を速やかに変更できます。このオプションを 使用して,メトリックをドラッグ・アンド・ドロップして参照グラフを描画しま す。参照グラフは,異なるメトリクス間の相関を理解するのに役立ちます。グラフ をカスタマイズして,選択した時間単位について詳細データを表示することもでき ます。

UI 要素	説明
ナビゲーショ ン パネル	グラフ・ウィンドウにナビゲーション・パネルを表示するには,このオプションを 選択します。このオプションはリアルタイムに近いデータを表示するグラフについ てのみ使用できます。
すべてのグラ	開かれているグラフ・ウィンドウをすべて一度に閉じるには,このオプションを選
フを閉じる	択します。
お気に入りを ロード	お気に入りとして保存したグラフを開くには、このオプションを選択します。
お気に入りを	保存したお気に入りをリストから削除するには,このオプションを選択します。詳
削除	細については,「お気に入りの削除」を参照してください。
お気に入りと	描画済みのグラフをお気に入りとして保存するには,このオプションを選択しま
して保存	す。詳細については,「お気に入りとして保存」を参照してください。
ヘルプ	このオプションをクリックして,現在のページのヘルプ・コンテンツを表示しま す。
PDF としてエ	作成したすべてのグラフを PDF 形式のドキュメントにエクスポートするには,こ
クスポート	のオプションをクリックします。

グラフ・ウィンドウ・オプション

次の表は, [グラフ]ウィンドウで利用可能なオプションを一覧表示しています。

UI 要素	説明
Metric Legend	メトリックの対応するグラフを表示または非表示にするには, [Metric Legend] ボタ ンをクリックします。
	グラフからメトリックを削除するには,[Metric Legend]ボタンを右クリックして, [削除]を選択します。グラフ・ウィンドウから対応するグラフおよび凡例が削除され る。
C	自動更新オン / 自動更新オフ:[自動更新]オプションが有効の場合,描画済みのグラ フのデータは,グラフ・テンプレートの更新頻度で指定した値に応じて,決まった間隔 で更新されます。
< >	前へ/次へ: [パフォーマンス グラフ作成] には,グラフの描画時に [ポイント間隔] で 指定した値の時間間隔データに移動するために, [前へ] ボタンおよび [次へ] ボタン が用意されています。詳細については,「[ポイント間隔]値の指定」(314ページ)を 参照してください。

UI 要素	説明
>> <<	【先頭に付加/末尾に付加】: [パフォーマンスグラフ作成]には、グラフの描画時に [ポイント間隔]で指定した値に基づいて、隣接する時間間隔のデータを末尾または先 頭に付加するための [末尾に付加] ボタンおよび [先頭に付加] ボタンが用意されてい ます。詳細については、「[ポイント間隔]値の指定」(314ページ)を参照してくださ い。
[オプ ション] > [設 定]	デザイン・ウィザードを開くには,このオプションを選択します。
[オプ ション] > [テー ブルとし て表示]	データをテーブルとして表示するには,このオプションを選択します。
[オプ ション] > [エク スポー ト]	グラフを TSV, CSV, XLS, XML などの形式にエクスポートするには, このオプションを 選択します。詳細については, 「グラフのエクスポート・ダイアログ・ボックス」(311 ページ)を参照してください。
[オプ ション] > [ナビ ゲート]	[時刻の設定]ダイアログ・ボックスから開始日と終了日を選択するには、このオプ ションを選択します。描画済みのグラフのデータが更新され、選択した期間の日付が表 示されます。 [すべてのグラフに適用]チェック・ボックスを選択した場合、描画済み のすべてのグラフのデータが更新されます。
[オプ ション] > [リア ルタイム に起動]	選択したグラフに対してリアルタイムのグラフを描画するには,このオプションを選択 します。グラフは新しいグラフ・ウィンドウに表示されます。 リアルタイムのグラフからリアルタイムに近いグラフを起動するには,[オプション] > [ほぼリアルタイムに起動]を選択します。

作成したグラフのズーム・イン・データ

グラフの作成後,ズーム・インして短縮した期間のデータ・ポイントを表示してから,ズーム・アウトしてリセットし,元のグラフ表示に戻すことができる。ズーム・インまたはズーム・アウトでは, 要約レベルを調整できます。

- ズーム・インするには、グラフの矩形領域を左から右に、マウスでクリックしてドラッグする。
- ズーム・アウトするには、グラフを右から左にマウスでドラッグする。ズーム・アウトすると、 グラフは元の状態にリセットされる。

さまざまなレベルでズーム・インできます。ズーム・アウトのたびにグラフは以前の状態に戻る。

注: このオプションは,画像グラフのみに存在します。ただし,このオプションは,円,ゲージ,表,予測グラフに対してと,リアルタイム測定データ・ソースから作成したグラフに対しては利用できません。

お気に入りとして保存

描画済みのグラフをお気に入りとして保存するには、次の手順を実行します。

- 1. 必要なグラフを描画します。詳細については, 「パフォーマンス・パースペクティブからのグ ラフの描画」(293ページ)を参照してください。
- 2. [パフォーマンス] ペインの [□] ([お気に入りとして保存]) をクリックします。 [お気に入りとして保存] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3. グループの名前を [お気に入りの名前の入力] フィールドに入力します。

注:新しいグラフを既存のお気に入りリストに追加する場合,目的のお気に入りをドロップダウン・リストから選択します。

4. [保存]をクリックし、お気に入りリストを保存します。

グラフをリストに保存しない場合は, [キャンセル]をクリックします。

お気に入りの削除

保存したお気に入りを削除するには、次の手順を実行します。

- 1. [オプション] メニューから [お気に入りを削除] を選択します。 [お気に入りを削除] ダイ アログ・ボックスが開きます。
- 利用可能なお気に入りのリストから削除するお気に入りを [お気に入り] ボックスで選択します。

複数のお気に入りを選択するには、Ctrl キーを押しながら、目的のお気に入りを選択します。

- 3. [**削除**]をクリックします。選択したお気に入りを削除するかどうかを尋ねる確認メッセージ が表示されます。
- 4. [**はい**]をクリックして確定します。削除されたお気に入りは, [お気に入り]ペインに表示 されなくなります。

プロセスへのドリルダウン

[プロセスへのドリルダウン]オプションには, 描画済みのグラフに対応するプロセス情報が表示されます。 [オプション] > [プロセスへのドリルダウン] をクリックします。 [時刻の設定] ダイアログ・ボックスが開きます。プロセス・データを表示する期間をドラッグして設定します。 [プロセスへのドリルダウン] のデータが表示されます。

次の表は, [プロセスへのドリルダウン]ボックスで利用可能なアイコンと機能を一覧表示しています。

機能	説明
カラムの固定	このオプションを選択して,表グラフの1つ以上のカラムを固定します。この オプションにより,水平スクロール・バーを使用してカラム間を移動する際に ロックされたカラムを表示できます。
	[列をロック] チェック・ボックスを選択すると,標準設定により,最初のカ ラムは表示用としてロックされます。別のカラムを追加するには,ロックされ ていない列をドラッグし,ロック済みおよびロック解除済みのカラムを区別す る太線のカラム境界の前にドロップします。太線のカラム境界は,ロック済み のカラム範囲を示します。
Ⅲ Ⅲ Ⅲ <th>このアイコンをクリックすると, [表のハイライト] ダイアログ・ボックスが 開きます。 [プロセスのドリルダウン] テーブルのどの行を強調表示するのか に基づいて属性を設定できます。詳細については, 「[表のハイライト]の使 用」(307ページ)を参照してください。</th>	このアイコンをクリックすると, [表のハイライト] ダイアログ・ボックスが 開きます。 [プロセスのドリルダウン] テーブルのどの行を強調表示するのか に基づいて属性を設定できます。詳細については, 「[表のハイライト]の使 用」(307ページ)を参照してください。
₩₩ ₩9])	このアイコンをクリックすると, [表フィルタ] ダイアログ・ボックスが開き ます。 [プロセスのドリルダウン] テーブルのどの行を表示するのかに基づい て属性を設定できます。詳細については, 「[表フィルタ]の使用」(308ペー ジ)を参照してください。
① ① ① ① ① ① ① ① ① ③ ① ③ ① ③ ⑤	このオプションを使用して,テーブルからデータを CSV,TSV,Excel,XML の各 形式でエクスポートします。
メトリクス ([メトリク ス])	このアイコンをクリックすると, [プロセスのドリルダウン]テーブルのメト リックが追加,削除されます。詳細については, 「メトリックの選択」(309 ページ)を参照してください。
<i>》</i> ([設 定])	このアイコンをクリックすると, [グラフのデザイン]ダイアログ・ボックス が開きます。詳細については, 「グラフ・デザイン」(311ページ)を参照してく ださい。

機能	説明
	[自動更新] オプションが有効の場合, データは, グラフ・テンプレートの更 新頻度で指定した値に応じて, 決まった間隔で更新されます。

[表のハイライト]の使用

テーブルのセルを強調表示するには、メトリック値に基づいて条件を指定します。セルを強調表示す るには、次の手順を実行します。

- 1. (¹¹¹) [**表のハイライト**] アイコンをクリックします。 [表のハイライト] ダイアログ・ボッ クスが開きます。
- 2. セルを強調表示する必要があるかどうかに基づいて,必要なメトリックをドロップダウン・リ ストから選択します。
- 3. 必要な比較記号を利用可能な記号のリストから選択します。比較記号の詳細については、「比較記号」(307ページ)を参照してください。
- 4. メトリックに対して比較する値をテキスト・ボックスに入力します。
- 5. セルを強調表示する色をカラー・パレットから選択します。
- 6. [**追加**]をクリックします。強調表示条件が[条件]テーブルに追加されます。

追加した条件を削除するには、フィルタ条件を選択し、[削除]をクリックします。

追加したすべての条件を削除するには、 [すべて削除]をクリックします。

7. [OK]をクリックします。 [表のハイライト] ダイアログ・ボックスが閉じます。

設定した条件に一致する値がテーブルで強調表示されます。

比較記号

次の表に、
[表のハイライト]ダイアログ・ボックスで利用可能な比較記号を示します。

比較記号	説明
<=	以下
>=	以上
!=	等しくない

比較記号	説明
!~	類似ではない(先頭または後ろに「.*」の式を追加したテキスト)
=	等価
~	類似(先頭または後ろに「.*」の式を追加したテキスト)
<	より小さい
>	より大きい

[表フィルタ] の使用

テーブルの[表フィルタ]を使用して、テーブルのデータをフィルタ、表示できます。行をフィルタ するには、次の手順を実行します。

- 1. (
) [表フィルタ] アイコンをクリックします。 [表フィルタ] ダイアログ・ボックスが 開きます。
- セルをフィルタする必要があるかどうかに基づいて、必要なメトリックをドロップダウン・リストから選択します。
 - a. 必要な比較記号を利用可能な記号のリストから選択します。比較記号の詳細については, 「比較記号」(307ページ)を参照してください。
- 3. メトリックに対して比較する値をテキスト・ボックスに入力します。
- 4. 複数の条件を適用するには [AND] または [OR] のいずれかを選択します。
 - AND: 最初に設定した条件,および次の条件が同時に満たされる行をフィルタします。
 - OR:前または次の条件を満たす行をフィルタします。
- 5. [追加]をクリックします。フィルタ条件が [条件] テーブルに追加されます。
- 6. [OK] をクリックします。 [表フィルタ] ダイアログ・ボックスが閉じます。

テーブルには、設定したフィルタ条件に一致する行のみが表示されます。

フィルタ条件の更新

[表フィルタ]ダイアログ・ボックスでフィルタ条件を更新するには、次の手順を実行します。

1. (¹¹) [**表フィルタ**] アイコンをクリックします。 [表フィルタ] ダイアログ・ボックスが 開きます。

- 2. 更新するフィルタ条件をテーブルの条件のリストから選択します。前のフィールドのフィルタ 値が更新されます。
- 3. 必要に応じて値を更新します。
- 4. [更新]をクリックします。テーブルのフィルタ条件が更新されます。

追加した条件を削除するには、フィルタ条件を選択し、[削除]をクリックします。

追加したすべての条件を削除するには、[すべて削除]をクリックします。

メトリックの選択

[メトリクス]ウィンドウを使用して, [プロセスのドリルダウン]テーブルに表示するメトリックのリストを選択できます。メトリックを選択するには,次の手順を実行します。

- 1. 表示するメトリックを [利用可能なメトリック] のリストから選択します。
- 2. Þ をクリックします。メトリックが [表示するメトリック] リストに移動します。

[プロセスのドリルダウン] テーブルから既存のメトリックを削除するには, [メトリクス] ウィンドウの [表示するメトリック] リストからメトリックを選択します。 ケ をク リックします。メトリックが [利用可能なメトリック] リストに移動します。

- 3. ↑ アイコンと ◆ アイコンを使用して、メトリックの順序を変更し、目的の順序で表示します。
- 4. [プロセスのドリルダウン] テーブルの最初のカラムをロックするには, [最初のカラムを ロック] チェックボックスを選択します。
- 5. **[OK**] をクリックします。 [メトリック] ウィンドウが閉じ,選択したメトリックで [プロセスのドリルダウン] テーブルが更新されます。

[表グラフ] ウィンドウ

表グラフでは,数値形式で詳細データを表示できます。本項では, [表グラフ]ウィンドウに表示される情報の詳細について説明します。グラフを表として表示するには,グラフ・ウィンドウで [オプ ション] > [テーブル表示]を選択します。

注: [表グラフ] ウィンドウに日付メトリックがある場合,カラムの値は国際化されません。

[表グラフ] ウィンドウには次の要素が表示されます。

UI 要素	説明
カラムの固定	このオプションを選択して,表グラフの1つ以上のカラムを固定します。このオ プションにより,水平スクロール・バーを使用してカラム間を移動する際にロッ クされたカラムを表示できます。
	[列をロック] チェック・ボックスを選択すると,標準設定により,最初のカラ ムは表示用としてロックされます。別のカラムを追加するには,ロックされてい ない列をドラッグし,ロック済みおよびロック解除済みのカラムを区別する太線 のカラム境界の前にドロップします。太線のカラム境界は,ロック済みのカラム 範囲を示します。
型 (表の強 調表示)	このアイコンをクリックすると, [表のハイライト] ダイアログ・ボックスが開 きます。表のどの行を強調表示するかに基づいて属性を設定できます。詳細につ いては, 「[表のハイライト]の使用」(307ページ)を参照してください。
返 (表フィ ルタ)	このアイコンをクリックすると, [表フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きま す。表のどの行を表示するかに基づいて属性を設定できます。詳細については, 「[表フィルタ]の使用」(308ページ)を参照してください。
E	エクスポート: このオプションを使用して,テーブルからデータを CSV,TSV, Excel,XML の各形式でエクスポートします。
🎤 (設定)	このアイコンをクリックすると, [グラフのデザイン] ダイアログ・ボックスが 開きます。詳細については, 「グラフ・デザイン」(311ページ)を参照してくださ い。
C	自動更新オン / 自動更新オフ: [自動更新]オプションが有効の場合,データは, グラフ・テンプレートの更新頻度で指定した値に応じて,決まった間隔で更新さ れます。
< >	前へ/次へ: パフォーマンス・グラフ作成 には,ナビゲート用の[前へ]および [次へ]ボタンが用意されています。
×	メトリック・カラムの並べ替え: このオプションを使用して,メトリック・カラ ムのデータを昇順または降順で並べ替えます。

メトリック・カラムの順序の指定

カラム内のどのデータを並べ替える必要があるかに基づいて,メトリック・カラムの順序を指定でき ます。順序を指定するには,次の操作を実行します。

1. どのデータを並べ替える必要があるかに基づいて、メトリックを選択します。

順序を指定するメトリックに応じて, 値1が表示されます。

データの並び替え時に考慮に入れる必要のある次のメトリックにカーソルを移動し、▲アイコンまたは▼アイコンをクリックして、順序を設定します。

注:このオプションは、複数のメトリクスがある場合のみ有効です。

3. 必要なすべてのメトリックの並び替えを完了するまで、手順2を繰り返します。

各メトリックに対応する番号は、指定した順序を表します。

注: 順序をリセットするには,任意のメトリック名をクリックします。すると順序は1に設定されます。順序を再度指定できます。

4. 順序が1のメトリックに対応する ▲ アイコンまたは ▼ アイコンをクリックし、データを昇順または降順で表示します。

グラフのエクスポート・ダイアログ・ボックス

描画済みのグラフは次のいずれかの形式にエクスポートできます。TSV, CSV, Excel, XML。グラフ をエクスポートするには, グラフ・ウィンドウから [**オプション**] > [エクスボート] を選択しま す。 [グラフ] ウィンドウに [エクスポート] が開きます。

UI 要素	説明
キャンセル	ダイアログ・ボックスを閉じて[作成したグラフ]ページに戻 るには[キャンセル]をクリックします。
ОК	データを選択した形式でエクスポートするには[OK]をク リックします。
タイプ	グラフをエクスポートする形式を選択します。

グラフのエクスポート・ダイアログ・ボックスには、次の要素が含まれます。

注: Microsoft Excel または TSV グラフを選択する場合, Microsoft Excel および TSV ファイルを表示できるようブラウザを設定する必要があります。ブラウザ設定の詳細については, 「特定の形式(XLS/TSV)でグラフを表示できない」(332ページ)を参照してください。

グラフ・デザイン

アクセス方法 描画したグラフで [オプション] > [設定] をクリックします。

重要情報	グラフ作成では, [グラフのデザイン]機能を使用してカスタム・グラフを 作成できます。独自のグラフ・テンプレートを作成して,必要なデータを表 示することができます。また,製品付属のテンプレートの既存のグラフ定義 を編集して,ユーザ定義のテンプレートとして保存することができます。
関連タスク	「グラフの設計」(294ページ)
関連情報	「グラフの管理 - ワークフロー」(290ページ)

グラフ・デザインは次によって構成されています。

- 「[グラフ属性] タブ」(312ページ)
- 「 [メトリック リスト] タブ」(316ページ)
- 「[特殊な属性] タブ」(322ページ)

[グラフ属性] タブ

アクセ ス方法	メニュー・オプションで[設定] >[グラフの属性]を選択します。
重要情 報	[グラフ属性] タブでは, グラフを設計しながらグラフ属性を指定し, 後日使用するた めにテンプレートとして保存できます。
関連タ スク	「グラフの設計」(294ページ).
関連情	• 「グラフの管理 - ワークフロー」(290ページ)
平位	• 「グラフ・デザイン」(311ページ)

含まれている要素は次のとおりです。

UI 要素	説明
タイトル	グラフの名前を入力します。この名前は, 描画済みのグラフのタイトル・バーに表 示されます。または, タイトルとして任意の「代替変数」(321ページ)を使用するこ ともできます。
説明	グラフが示している事柄の全般的な情報を入力します。
	注 :各グラフの説明は,選択パネルでグラフ名の上にマウスを重ねると,ツール チップとして表示されます。

UI 要素	説明
グラフのタ イプ	ドロップダウン・リストから設計するグラフの種類を選択します。「グラフの種 類」(287ページ)一覧と説明はここをクリックします。
継続時間	グラフを設計する期間を指定します。数値を入力し,時間の単位を指定します。時 間間隔は,分,時間,日および週で指定可能です。 [すべて]を選択した場合, データ・ソースから収集し,エージェント・ログ・ファイルにログしたすべての データがグラフに入力されます。
ポイント間 隔	[ポイント間隔] (POINTS EVERY)の設定を使用すると,グラフの各ポイントで要 約するデータ量を制御して,グラフ上のデータの細かさ(データ・ポイントの数) を決定できます。詳細については,「[ポイント間隔]値の指定」(314ページ)を参 照してください。
ポイントの 最大数	グラフで1度に表示するレコード数(表グラフ)またはデータ・ポイント(画像グ ラフ)を入力します。標準設定の値は100です。グラフのデータ・ポイント数がこ れを超える場合, [前へ] および [次へ] ボタンが有効になり, すべてのデータ・ ポイントを表示するよう移動できます。
	ポイント数は選択したグラフのタイプによっても異なります。
	 表グラフの場合、ソフトウェア管理者が列数の標準設定の値を設定できます。ただし、グラフ・テンプレートの設計中に指定した値によって標準設定の値は無効になり、その値はグラフ・テンプレートに保存されます。
	 円グラフまたはゲージ・グラフを設計する場合、標準設定では、「ポイントの最 大数」は1に設定されます。この値は変更できません。
	グラフに推奨されるポイントの最大数は 1000 です。これよりも大きい値を選択する と,グラフの表示に時間がかかります。
グラフを CI 選択で指定 された標準	このチェック・ボックスを選択すると、設計したグラフがそのグラフが属するファ ミリまたはカテゴリの標準設定のグラフになります。
された標準 設定にする	注 :グラフ・ファミリまたはカテゴリには 1 つ以上の標準設定のグラフを持つこ とができます。
プレビュー	グラフをプレビューするには,[プレビュー]をクリックします。
保存/名前を 付けて保存	グラフを保存するには,[保存]または[名前を付けて保存]をクリックします。 [グラフの保存]ウィンドウが開きます。
キャンセル	保存せずにウィンドウを閉じるには, [キャンセル]をクリックします。
ヘルプ	現在のウィザード・ページのヘルプ・コンテンツを表示するには, [ヘルプ]をク リックします。

[ポイント間隔] 値の指定

[ポイント間隔] (POINTSEVERY)オプションを使用すると、グラフの各ポイントで要約するデータの量を制御できます。[ポイント間隔]オプションでは、グラフの細かさ(データ・ポイントの数) が決定されます。標準設定の値は自動です。次のオプションから選択できる。

- 「自動」(314ページ)
- 「5分」(315ページ)
- 「15分」(315ページ)
- 「30分」(315ページ)
- 「1時間」(315ページ)
- 「3時間」(315ページ)
- 「6時間」(315ページ)
- 「12時間」(315ページ)
- 「1日」(315ページ)
- 「未集計」(315ページ)

自動

このオプションを選択すると、表示するデータ・ポイント数が設定した範囲内で自動選択されます。 [自動]を選択すると、指定した日付範囲でグラフが見やすいレベルになるよう、データがグラフ作 成で自動的に要約されます。[日付範囲]および[ポイント間隔]の設定の組み合わせでポイントが 生成されすぎた場合は、すべての要求データを1ページに表示するよう[ポイント間隔]値が自動調 整されます。また、グラフ作成には[**末尾に付加**]および[**先頭に付加**]ボタンがあり、1ページで 表示可能なデータ・ポイント数を増やすことができます。

- [**木尾に付加>>**]をクリックすると,現在表示しているデータに加え,次のデータ・ポイントの データ・セットを表示できます。
- [先頭に付加<<] をクリックすると,現在表示しているデータに加え,前のデータ・ポイントの データ・セットを表示できます。

[末尾に付加]または[先頭に付加]をクリックすると, [グラフ作成]によって,現在表示してい るグラフにデータが追加されます。表示されるデータ・ポイント数は最初のグラフと同じですが,期 間は倍になります。たとえば,前月のデータを表示していて[先頭に付加]をクリックすると,前の 2か月間のデータを表示できます。 すべてのデータ・ポイントは同じページに表示されます。[ポイント間隔]の設定は,データが見や すいようにグラフ設定でリセットされます。すべての有効データが表示されると[末尾に付加]および[先頭に付加]ボタンは無効になります。

末尾に付加 / 先頭に付加の例を次に示します。

日付範囲および [ポイント間隔] の設定の組み合わせが 1/1/2009 から 8/1/2009 の 1 週間でポイント が 1 時間ごとである場合, [末尾に付加] / [先頭に付加] をクリックすると, 同じページに 1 週間 のデータが追加されます。3 時間ごとのデータ・ポイントが 2 週間分表示されます。 自動の例を次に示します。 たとえば, [期間] として 12 時間を指定すると, グラフにこのデータが 12 時間分表示され, この

注: 画像グラフの場合, [ポイント間隔]の選択が [自動] となる要約間隔はグラフ作成で [ポ イントの最大数] に設定した値に応じて決定されます。 [ポイント間隔]の選択が [自動] に

データが1ページに収まるようにグラフ作成で要約が自動的に設定されます。

イントの最大数」に設定した値に応じて決定されます。[ホイント間隔]の選択か[自動]に なっている場合[次へ]/[前へ]ボタンの動作は、ドロップダウンから自動以外の値が指定さ れている場合とは異なった動作になります。[自動]が選択されている場合、指定した期間の データは、グラフ作成に指定された要約間隔で表示されます。[次へ]/[前へ]オプションで は、同じ[ポイント間隔](要約)値の前後の期間のグラフが表示されます。

5分

指定した期間のデータが5分ごとに表示されます。

15 分

指定した期間のデータが15分ごとに表示されます。

30分

指定した期間のデータが30分ごとに表示されます。

1 時間

指定した期間のデータが1時間ごとに表示されます。

3 時間

指定した期間のデータが3時間ごとに表示されます。

6 時間

指定した期間のデータが6時間ごとに表示されます。

12 時間

指定した期間のデータが12時間ごとに表示されます。

1日

指定した期間のデータが1日ごとに表示されます。

未集計

データは要約されません。データ・ソースが収集した指定期間の未処理のデータが表示されます。グ

ラフ作成に設定したどの値も要約には影響しません。

注: [ポイント間隔]の値が [自動] 以外で,選択した時間範囲のデータを1つのグラフまたは表に収めることができない場合,表またはグラフは2ページ以上で表示され, [前へ] および [次へ] ボタンが有効になります。すべてのデータを表示するために前のページに移動するには [前へ] をクリックし,次のページに移動するには [次へ] をクリックします。 [ポイント間 隔]の値が [自動] 以外の場合, [木尾に付加] / [先頭に付加] オプションは無効になります。

[メトリック リスト] タブ

アクセス 方法	メニュー・オプションで[設定] > [メトリック リスト]を選択します。
重要情報	[メトリック リスト] タブでは,グラフを設計して後で使用するためにテンプレート として保存できます。
関連タス ク	「グラフの設計」(294ページ).
関連情報	• 「グラフの管理 - ワークフロー」(290ページ)
	・「グラフ・デザイン」(311ページ)

含まれている要素は次のとおりです。

UI 要素	説明
❶ _{新規項} 目	[メトリックの選択]ウィンドウが開きます。詳細については, 「 [メトリックの 選択]ウィンドウ」(317ページ)を参照してください。
④ 項目の 編集	メトリックのプロパティを編集するには,行を選択してこのアイコンをクリックし ます。「[メトリックのプロパティ]ウィンドウ」(318ページ)が開きます。
<mark>洋</mark> 項目を 削除	行を削除するには、その行を選択してこのアイコンをクリックします。
プレビュー	グラフをプレビューするには, [プレビュー]をクリックします。
保存/名前 を付けて保 存	[保存]または[名前を付けて保存]をクリックしてグラフを保存すると,[グラ フの保存]ダイアログ・ボックスが開きます。

0Mi ユーザ・ガイド 第19章: パフォーマンス・グラフ作成の概要

UI 要素	説明
キャンセル	保存せずに[デザイン]ウィザードを閉じるには, [キャンセル]をクリックしま す。
ヘルプ	現在のウィザード・ページのヘルプ・コンテンツを表示するには, [ヘルプ]をク リックします。

[メトリックの選択] ウィンドウ

アクセス 方法	メニュー・オプションで[設定]><i><【メトリック・リスト】タブ></i> を選択し,[新規 項目]をクリックします。
関連タス ク	「グラフの設計」(294ページ).
関連情報	「グラフの管理 - ワークフロー」(290ページ)

このページには次の要素が含まれます(ラベルのないユーザ・インタフェース要素は山括弧内に表示 されます)。

UI 要素	説明
<メトリッ ク・クラ ス・ツリー	メトリック・クラス・ツリーには,データ・ソースで有効な各クラスのメトリッ ク・クラスおよびメトリクス一覧が表示されます。メトリック一覧はメトリック・ クラス名を展開すると表示されます。
•	ウィンドウには, 選択した CI に対応するメトリックが表示されます。
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	クリックすると、メトリック・クラス・ツリーが展開されます。
1150 (折り たたみ)	クリックすると、メトリック・クラス・ツリーが折りたたまれます。
<mark>じつ</mark> (標 準設定に復 元)	クリックすると,すべての選択が削除されます。
ОК	選択を完了したら [OK] をクリックします。選択したメトリックの一覧が [デザイン] ウィザードの [メトリックのプロパティ] タブに表形式で表示されます。
キャンセル	クリックすると、変更がキャンセルされてウィンドウが閉じます。

[メトリックのプロパティ] ウィンドウ

特定のメトリックをどのようにグラフに表示するか設定できます。

重要情報	メトリックのプロパティを変更するには、次の手順を実行します。
	1. テーブルからメトリックを選択します。
	2. 🌌 [項目の編集] をクリックすると, [メトリックのプロパティ] ウィ ンドウが開きます。
	注: メトリックには色は指定できません。
関連タスク	「グラフの設計」(294ページ)
関連情報	「グラフの管理 - ワークフロー」(290ページ)

含まれている要素は次のとおりです。

UI 要素	説明
メトリック 名	メトリックの名前を編集できます。

UI 要素	説明
ラベル	メトリックのラベルを入力します。ラベルでこのメトリックをグラフまたは表で識 別できます。メトリックのラベルは一度に1つずつ変更します。ラベルにはリテラ ルな文字列を使用するか,特殊な代替変数への参照を含むことができます。
	 @@[LABEL] - メトリックのラベルはデータ・ソースによって指定されます。たとえば、(CPU %)。データ・ソースによってラベルが指定されていない場合、メトリック名が使用されます。
	• @@[METRIC] - メトリック名。たとえば, (GBL_CPU_TOTAL_UTIL)
	• @@[CLASS] - メトリックのクラス。例 : (GLOBAL)
	• @@[SYSTEM] - メトリックを提供しているノード名。例 : (mysys.net.com)
	• @@[DATASOURCE] - このメトリックのデータ・ソース。例: (PA, EPC)
	 @@metric - 同じデータ・ソースおよびクラスからのメトリック値。例 :@@BYDSK_DEVNAME では BYDSK_DEVNAME のメトリック値によってメトリック がラベル付けされる。BYDSK_DEVNAME のメトリック値が「0」の場合, Disk @@BYDSK_DEVNAME では「Disk 0」のラベルが生成されます。 例:@@[SYSTEM]:@@[CLASS]:@@[METRIC] では, 「mysys.net.com:GLOBAL:GBL_CPU_ TOTAL_UTIL」のようなラベルが生成されます。
	注:メトリックが1つしかないグラフでは、複数のノードが選択されている場合、自動的にシステム名がメトリックのラベルになります。グラフ作成では、 ラベルを指定しないと、標準設定のメトリックのラベル、つまりデータ・ソー スからメトリックまたはメトリック名用に提供されている任意のラベルが使用 されます。
Y 韩	グラフの Y 軸を左側に表示するか,右側に表示するかを,ドロップダウン・リスト から指定します。
	注 :このオプションは,線,面,複合のグラフ・タイプでのみ利用可能です。そ の他のどのグラフ・タイプでも, [右]のオプションはドロップダウン・リス トには表示されません。

UI 要素	説明
線のスタイ ル	線のスタイルは一覧から選択できます。このオプションは, グラフ・タイプとして [線グラフ]を選択している場合のみ利用できます。
	次の線のスタイルを選択できます。
	• 実線
	• 点線
	• 破線
	• 一点鎖線
	• 一点破線
幅	線のスタイルの幅を指定できます。
色	アイコンをクリックすると、グラフでメトリックを表示する色を選択できます。
リセット	ボタンをクリックすると、色が白にリセットされます。
メトリク	メトリックのフィルタ条件を指定します。
ス・フィル タ	• メトリック名 - フィルタを適用するメトリックを選択します。
	• 比較記号 - 比較記号を選択します。詳細については, 「比較記号」(321ページ)を 参照してください。
	• 値 - 比較する値を入力します。
	• 追加 - メトリック・フィルタを適用するには, [追加]をクリックします。
	• AND/OR - 複数のフィルタを指定するには, AND または OR の論理演算子を使用し ます。
	• 更新 - 指定した条件を変更するには,フィルタ条件を選択し,条件を変更して [更新]をクリックします。
	• 削除 - フィルタ条件を削除するには,フィルタ条件を選択し, [削除] をクリックします。
	• すべて削除 - すべてのフィルタ条件を削除するには, [すべて削除]をクリック します。
ヘルプ	現在のウィザード・ページのヘルプ・コンテンツを表示するには, [ヘルプ]をク リックします。

UI 要素	説明	
キャンセル	変更を保存せずに終了するには, [キャンセル]をクリックします。	
OK	すべての変更を保存し,ウィンドウを終了するには[OK]をクリックします。 ラフ デザイン ウィザード - メトリック選択]ページが開きます。	[グ

比較記号

次の要素が含まれます(ラベルのない UI 要素は山括弧内に表示されます)。

Symbol	説明
=	と等しい
<	より小さい
>	より大きい
~	類似(先頭または後ろに「.*」の式を追加したテキスト比較)
!=	等しくない
!~	類似ではない(先頭または後ろに「.*」の式を追加したテキスト比較)
<=	より小さいか等しい
>=	より大きいか等しい

注: フィルタに文字列または式を指定する際は正規表現を使用します。たとえば、*C* ではなく .*C.* となります。

「~」および「!~」などの類似比較はワイルド・カードを使用できるテキスト比較です。これらの記号を選択した場合は、アプリケーション名に「xyz」のテキストを含むデータの選択に APP_NAME~.*xyz.* と指定するなど、有効な正規表現値を指定します。

代替変数

次の変数をグラフのタイトルまたはサブタイトルに使用できます。描画済みのグラフでは、実際の値 によってこれらの変数が置き換えられます。

変数	説明
@@[SYSTEM]	グラフが描画されるシステムの名前が表示されます。
@@DATERANGE	グラフが描画される継続時間が表示されます(たとえば,7日間)。

変数	説明
@@POINTSEVERY	各データ・ポイントの時間集計が表示されます。(たとえば,10 分間隔)。
@@STARTTIME	描画済みのグラフの開始時刻が表示されます。
@@STOPTIME	描画済みのグラフの終了時刻が表示されます。
@@metric	メトリックの値が表示されます(たとえば,@@APP_NAME を使用すると,タ イトルまたはサブタイトルにはメトリックの値が含まれます。これは,アプリ ケーションの名前です)。
	注 :このパラメータを使用するのは、メトリックの単一インスタンスがグ ラフで描画される場合のみです。単一グラフに複数インスタンスがある場 合は、すべてのインスタンス名がタイトルまたはサブタイトルの名前に追 加されます。

[特殊な属性] タブ

アクセス方法	メニュー・オプションで[設定]>[特殊な属性]を選択します。
重要情報	[特殊な属性] タブでは, グラフの設計中に特殊属性を指定できます。
関連タスク	「グラフの設計」(294ページ)
関連情報	• 「グラフの管理 - ワークフロー」(290ページ)
	• 「グラフ・デザイン」(311ページ)

選択したグラフの種類に応じて、次のオプションを選択します。

- 「画像グラフ用の特殊属性」(322ページ)
- 「表用の特殊属性」(323ページ)
- 「比較記号」(325ページ)

画像グラフ用の特殊属性

次の要素は、グラフ・タイプとして線、面、棒グラフを選択した場合に利用できます。

UI 要素	説明
左 Y 軸のラ ベル	• ラベル - 左側 Y 軸のラベルを指定します。
	• 最小値 - 左側 Y 軸上のポイントの最小値を指定します。ここを空にした場合, 軸の初期目盛りはグラフの値に合わせて自動調整されます。
	• 最大値 - 左側 Y 軸上のポイントの最大値を指定します。ここを空にした場合, 軸の初期目盛りはグラフの値に合わせて自動調整されます。
右 Y 軸のラ ベル	ラベル - 右側 Y 軸のラベルを指定します。これにより, グラフの右側 Y 軸を識別す るラベルを指定できます。 [メトリックのプロパティ] ウィンドウで [右 Y 軸] が最低 1 つのメトリックで選択されていないかぎり, このフィールドは表示され ません。
	最小値 - 右側 Y 軸上のポイントの最小値を指定します。ここを空にした場合, 軸の 初期目盛りはグラフの値に合わせて自動調整されます。
	最大値 - 右側 Y 軸上のポイントの最大値を指定します。ここを空にした場合, 軸の 初期目盛りはグラフの値に合わせて自動調整されます。
効果	積み重ね :面または棒グラフを設計している場合,グラフ内の1つのメトリックの 上に別のメトリックをスタックするには [Stacked] オプションを選択する。「積 み重ね」の効果により,重複部分のデータが見やすくなります。
	注 : [効果] オプションは, 棒および面グラフにのみあります。
プレビュー	グラフをプレビューするには, [プレビュー]をクリックします。
保存/名前を 付けて保存	[保存]または[名前を付けて保存]をクリックしてグラフを保存すると, [ウィザードをデザイン]ウィザード - [グラフの保存]ページが開きます。
キャンセル	デザイン・ウィザードを終了するには[キャンセル]をクリックします。
ヘルプ	現在のウィザード・ページのヘルプ・コンテンツを表示するには, [ヘルプ]を クリックします。

表用の特殊属性

次のオプションは, グラフ・タイプとしてテーブルを選択した場合に利用できます。これにより, 内容に応じてテーブルのセルをハイライトし, レコードに簡単にアクセスできるようにできます。また, メトリック値に基づいて表から内容をフィルタリングする条件を設定できます。含まれている要素は次のとおりです。

UI 要素	説明
表フィルタ	フィルタ条件を設定するメトリックを選択します。利用可能な「比較記号」(325 ページ)から値を選択し,メトリックと比較する値を入力する。たとえば 50 と入 力します。
	AND/OR - 複数のフィルタを指定するには,AND または OR の論理演算子を使用し ます。
	追加 - メトリック・フィルタを適用するには,[追加]をクリックします。
	更新 - 指定した条件を変更するには,フィルタ条件を選択し,条件を変更して [更新]をクリックします。
	注 :[グラフのデザイン]ウィザード - [メトリックのプロパティ]タブで追 加したメトリックは,フィルタ対象として一覧に表示されます。
表のハイライ ト	ドロップダウン・リストからハイライトするメトリックを選択します。比較記号 を選択し,メトリックと比較する値を入力します。
	行を強調表示する色をカラー・パレットから選択します。
	追加 - メトリック・フィルタを適用するには,[追加]をクリックします。
	更新 - 指定した条件を変更するには,フィルタ条件を選択し,条件を変更して [更新]をクリックします。
	注 :[グラフのデザイン]ウィザード - [メトリックのプロパティ]タブで追 加したメトリックは,フィルタ対象として一覧に表示されます。
削除	表の強調表示条件またはフィルタ条件を選択して, [削除]をクリックします。 表のハイライト条件またはフィルタ条件が削除され, グラフのプレビュー時また は描画時に表示されなくなります。
すべて削除	指定したすべてのフィルタ条件を削除するには, [すべて削除]をクリックしま す。
プレビュー	グラフをプレビューするには, [プレビュー] をクリックします。
保存/名前を付 けて保存	[保存]または[名前を付けて保存]をクリックしてグラフを保存すると, [ウィザードをデザイン]ウィザード - [グラフの保存]ページが開きます。
キャンセル	デザイン・ウィザードを終了するには[キャンセル]をクリックします。
ヘルプ	現在のウィザード・ページのヘルプ・コンテンツを表示するには, [ヘルプ]を クリックします。

表のハイライト例:
メトリック GBL_CPU_TOTAL_UTIL と比較記号 > (より大きい)と、メトリックの比較値4を選択し、 カラー・パレットから赤を選択すると、グラフのプレビューまたは描画時に、GBL_CPU_TOTAL_ UTIL>4 が赤でハイライトされた、設定した条件を満たすレコードを持つセルが示されます。

比較記号

表のハイライトまたはフィルタの指定に使用できる、比較記号は次のとおりです。

比較記号	説明
=	と等しい
>	より大きい
<	より小さい
>=	より大きいか等しい
<=	より小さいか等しい
!=	等しくない
!~	類似ではない

注: 表のフィルタおよび表のハイライトに関心のある理由を指定する場合,*C*などのワイルド カード式は使用しないでください。.*C*などの正規表現を使用します。

[グラフの保存] ダイアログ・ボックス

アクセス方法	メニュー・オプションで[設定] > [特殊な属性]を選択します。
関連タスク	「グラフの設計」(294ページ)
関連情報	「グラフの管理 - ワークフロー」(290ページ)

含まれている要素は次のとおりです。

UI 要素	説明
キャンセル	ダイアログ・ボックスを閉じるには, [キャンセル] をクリックします。
カテゴリ	グラフ・カテゴリ名を入力します(これは任意です。グラフはファミリ下で直接 グループ化できます)。
ヘルプ	現在のウィザード・ページのヘルプ・コンテンツを表示するには, [ヘルプ]を クリックします。

UI 要素	説明
ファミリ	グラフ・ファミリ名を入力します。
名前	グラフ名を入力します。
ОК	[OK] をクリックし,グラフ名を変更します。
保存	[保存] をクリックし,グラフを保存します。
名前を付けて 保存	別の名前でグラフを保存するには, [名前を付けて保存] をクリックします。

ヒント: 名前には,アルファベット,数字,特殊文字,空白を組み合わせることができます。 #, -, _以外の特殊文字を使用すると,次のエラー・メッセージが表示されます。 名前には,アルファベット,数字,特殊文字(#, -, _, スペース)の組み合わせしか使用でき ません。

ファミリ名およびカテゴリがすでに存在する場合,最初のいくつかのアルファベットを入力する と,グラフ作成の[ファミリ], [カテゴリ]および[名前]フィールドのテキスト・ボックス に名前が自動的に取り込まれます。

グラフ属性 - 一覧および説明

アクセス方法	[ワークスペース] > [操作コンソール] > [Performance Perspective]
重要情報	次の表には、すべてのグラフ属性、キーワード(グラフ・テンプレートに表示 される順序で)およびその説明があります。また表では、グラフ作成が別の標 準設定のグラフ・テンプレートの競合するパラメータをどのように処理するか も詳細に説明しています。
	注 : ソフトウェア管理者は,パフォーマンス・グラフ作成用のパラメータを設 定できます。詳細については,『OMi 管理ガイド』の「パフォーマンス・グラ フ作成のインフラストラクチャ設定マネージャ」の項を参照してください。
関連タスク	「グラフの設計」(294ページ)
関連情報	「グラフの管理 - ワークフロー」(290ページ)

次の表に、利用可能な要素を示してあります。

UI 要素	説明
Auto-Refresh	最新データでグラフが更新されるように、[パフォーマンスグラフ作成] コ ンポーネントが描画済みのグラフを自動的に更新する間隔。選択したグラ フ・テンプレートのいずれかでこのオプションが有効であれば、[パフォー マンスグラフ作成] コンポーネントでこのオプションが有効になります。
日付範囲	グラフに含める日時の範囲。DATERANGE:に値を指定しないと,標準設定の 日付値(つまり,今終了する7日間)が使用されます。日付範囲として[す べて]を指定すると,データ・ソースから収集されたすべてのデータがグラ フ作成で使用されます。 パフォーマンス・グラフ作成では,選択したグラフ・テンプレートのいずれ かに[すべて]の値が入っている場合,日付範囲の値として[すべて]が選 択されます。ただし,どの標準設定のグラフ・テンプレートにも[すべて]
	の値が入っていない場合, [ハフォーマンスクラフ1F成] コンホーネントでは, すべてのグラフ・テンプレートの最大値が選択されます。
グラフのタイプ	グラフ作成でサポートされるグラフ・タイプのリストについては, 「グラフ の種類」(287ページ)を参照してください。
	いずれかのグラフ・テンプレートのグラフ・タイプが表またはゲージの場 合,これらのグラフのタイプ用には別のグラフが描画されます。
Left-axis and right-	(任意の) 右 Y 軸の最大値。
axis max	(標準設定の)左 Y 軸の最大値。ゲージのグラフのタイプでは, パラメータ はゲージの目盛りで最大値となります。
	パフォーマンス・グラフ作成は、標準設定のグラフ・テンプレートのすべて の値の最大値をとります。
Left-axis and right- axis min	(標準設定の)左 Y 軸の最小値。ゲージのグラフのタイプでは,パラメータ はゲージの目盛りで最小値となります。
	(任意の) 右 Y 軸の最小値。
	パフォーマンス・グラフ作成は、標準設定のグラフ・テンプレートのすべて の値の最小値をとります。
Left-axis title and right-axis title	左 Y 軸のラベルを指定します。
	右Υ軸のラベルを指定します。
	パフォーマンス・グラフ作成は,選択したグラフ・テンプレートの利用可能 なすべての値を結合します。

UI 要素	説明
LineStyle	これはグラフ・タイプが実線のときのみ有効です。次の値から選択できま す。
	• 実線
	• 点線
	• 破線
	• 一点鎖線
	• 一点破線
	パフォーマンス・グラフ作成は,最後のメトリックから値を取得します。
LineWidth	このメトリックの線の幅のピクセル数。これは GRAPHTYPE が線で LINESTYLE が実線のときのみ有効です。標準設定値は 2 です。
	パフォーマンス・グラフ作成は,最後のメトリックから値を取得します。
メトリクス フィル タ	データに適用されるデータ・フィルタ。フィルタの指定と一致しないデー タ・レコードは最終的な計算では使用されません。パフォーマンス・グラフ 作成は,選択したグラフ・テンプレートのクラスのすべての有効値を結合し ます。

UI 要素	説明
グラフごとのメト リック	単ーグラフ上のメトリクスの最大数。標準設定は 8 です。
	パフォーマンス・グラフ作成は,選択したすべてのグラフ・テンプレートの 最大値を選択します。
	例:
	選択した CI に 2 つのグラフが関連付けられており,グラフごとのメトリック 数が一方のグラフでは 8,もう一方のグラフで 12 の場合,パフォーマン ス・グラフ作成は 12 の値を選択します。
	注 : 結果グラフのメトリクス数は, ソフトウェア管理者が [グラフごと のメトリクス] で設定した値によっても異なります。詳細については, Performance Graphing Infrastructure Settings Managerを参照してください。
	注 :結果グラフのメトリクス数は、ソフトウェア管理者が [グラフごと のメトリクス] で設定した値によっても異なります。詳細については、 『OMi 管理ガイド』の「パフォーマンス・グラフ作成のインフラストラ クチャ設定マネージャ」の項を参照してください。
Number of points	グラフに表示するデータ・ポイントの数。この値は、POINTSEVERY 値が [自動] に設定されているとき、各データ・ポイントのデータを要約してグラフを1つのウィンドウに収めるために使用します。POINTSEVERY 値がこれ以外の場合、パフォーマンス・グラフ作成によって各グラフのデータ・ポイントおよび時間間隔の数が決まり、前後の一連のデータ・ポイントまたは間隔を表示するオプションが提供されます。線、面、表グラフの標準設定の値は100 です。円またはゲージのタイプのグラフには数を指定する必要はありません。
	アプリケーションのパフォーマンスに影響する可能性があるので,1000 を 超える値を設定しないことが推奨されます。パフォーマンス・グラフ作成で は,選択したすべてのグラフ・テンプレートの有効最大値が選択されます。
ポイント間隔	グラフの細かさ(データ・ポイントの数)を決定します。この値は、 NUMBEROFPOINTS 値とともに、使用する要約レベルの決定で使用されます。 選択したグラフ・テンプレートのいずれかに [ポイント間隔] の値として [自動] がある場合、パフォーマンス・グラフ作成では [自動] が選択され ます。ただし、いずれのグラフ・テンプレートにも [自動] の値がない場 合、パフォーマンス・グラフ作成によってすべてのグラフ・テンプレートの 最小値が選択されます。詳細については、「[ポイント間隔] 値の指定」 (314ページ)を参照してください。

日付範囲パネル

[日付範囲パネル] オプションでは,特定の期間の詳細なデータを表示できます。日付範囲パネルに アクセスするには, [作成したグラフ] ウィンドウで [オプション] > [日付範囲パネル] を選択し ます。 [作成したグラフ] ウィンドウで ^K をクリックして,このパネルを表示することもできま す。

次の表は、グラフをカスタマイズするのに利用可能なすべてのオプションを一覧表示しています。

UI 要素	説明
	時間範囲を選択: [時刻設定]ダイアログ・ボックスから開始日と終了日を選択し て,その期間のデータを表示します。開始日と終了日の値は,データ・ソースで利用 可能な最も早いタイム・スタンプと最新のタイム・スタンプの間です。
A	前へ: [前へ] を選択して, 隣接する時間単位のデータを表示します。たとえば, リ ストから最新の時間を選択した場合, [前の1時間] オプションを使用してその期間 のデータを表示できます。 同じように, 任意の時間単位で隣接するデータを表示できます。
	次へ:隣接する時間単位のデータを表示するには[次へ]を選択します。たとえば、 リストから最新の時間を選択した場合、[次の1時間]オプションを使用してその期 間のデータを表示できます。 同じように、任意の時間単位で隣接するデータを表示できます。
-	
60	時間単位を調整:このオブジョブを使用して、時間単位リストから選択した時間単位に スライダを移動します。たとえば、リストから1時間を選択した場合、時間への調整 を使用でき、スライダが移動して1時間のデータが表示されます。
すべて	このオプションを選択して,日付範囲パネル内で行った変更を描画済みのすべてのグ ラフに適用します。
	このオプションを選択しなかった場合,変更は選択したグラフのみに適用され,選択 したグラフは強調表示されます。
日付範囲 パネルを 非表示(_ォ)	クリックして,日付範囲パネルを非表示にします。

トラブルシューティングと制限事項

本項では、パフォーマンス・グラフ関連のトラブルシューティングについて説明します。

- 「特定の形式 (XLS/TSV) でグラフを表示できない」(332ページ)
- 「RTSM 用の別々の CI の同一メトリクスの比較のために描画されたグラフがデータを表示しない」(332ページ)
- 「[表グラフ] ウィンドウを移動できない」(333ページ)
- 「リアルタイム・グラフ・ウィンドウで更新の受信が停止する」(333ページ)

- 「ウィンドウ・タイトルが更新されない」(333ページ)
- 「NIC を選択したときに定義済みのグラフが表示されない」(334ページ)
- 「表グラフからデザイン・ウィザードを起動したときにグラフを設計できない」(334ページ)
- 「無効になっているモニタの [作成したグラフ] ウィンドウを閉じるまで, [データ ソース] リ ストは更新されません。」(334ページ)

特定の形式 (XLS/TSV) でグラフを表示できない

ブラウザのセキュリティ設定で、Microsoft Excel および TSV 形式でファイルをダウンロードするオプ ションが有効であるか確認する必要があります。ブラウザ設定を確認するには、次のタスクを実行し ます。

- 1. Internet Explorer の [ツール] メニューで [インターネット オプション] を選択します。 [イン ターネット オプション] ウィンドウが開きます。
- [セキュリティ] タブをクリックします。ブラウザ設定のセキュリティ・レベルが高に設定されていることを確認します。[インターネット] アイコンが選択されていることを確認してから, [レベルのカスタマイズ] をクリックします。 [セキュリティ設定] ウィンドウが開きます。
- [ダウンロード]のセクションまでスクロール・ダウンし、[ファイルのダウンロード]の下の[有効にする]オプションを選択します。
- 4. **[OK]** をクリックして, [インターネット オプション] ウィンドウを閉じます。
- 5. [コントロール パネル]を開き, [フォルダ オプション]をダブルクリックします。
- 6. [ファイルの種類] タブをクリックし,登録されているファイルの種類を表示します。
- 7. XLS ファイル形式および TSV ファイル形式を [登録されているファイルの種類] から選択し, [詳細設定] ボタンをクリックします。 [ファイルの種類の編集] ウィンドウが開きます。
- 8. [ダウンロード後に開く確認をする]チェック・ボックスをクリックしてクリアします。
- 9. **[OK]** をクリックします。

RTSM 用の別々の CI の同一メトリクスの比較のために描画されたグラフがデータを表示しない

これが起きるのは,比較されるメトリクスをもった CI が,地域のタイムゾーンと同じシステム時刻 を設定されていない場合です。グラフにデータが表示されるようにするには,CI が位置する地域のタ イムゾーンにあわせてシステム時刻を設定します。

[表グラフ] ウィンドウを移動できない

ブラウザの最上部フレームの下の[表グラフ]ウィンドウのヘッダをドラッグ・アンド・ドロップする([オプション]>[テーブルとして表示]を使用)と,再び移動できなくなります。[表グラフ]ウィンドウの最上部バーはブラウザ・フレームの下にあるので,ウィンドウを閉じることもできなくなります。パフォーマンス・グラフ作成を再度使用するには,次の操作を実行します。

1. [表グラフ] ウィンドウの右下隅にある 🖾 アイコンを使用して, このウィンドウのサイズを変更します。

[オプション] メニューが [Performance] ペインのタイトル・バーに示されていれば,ウィンドウのサイズを変更する必要はありません。

2. [オプション] > [すべてのグラフを閉じる] をクリックします。

すべての描画済みグラフと [表グラフ] ウィンドウが閉じます。

リアルタイム・グラフ・ウィンドウで更新の受信が停止する

RTM データ・ソースをホストする HP Operations エージェント(またはエージェントの RTM コン ポーネント)が実行を停止すると, RTM データ・ソースから取得されたメトリクスで描画されたグ ラフは更新の受信を停止します。

HP Operations Agent または RTM コンポーネントが動作を停止した場合, グラフ・ウィンドウのタイトル・バーには次のようなメッセージが表示されます。

RTM データ・ソースが応答しません

HP Operations エージェント(またはエージェントの RTM コンポーネント)がノードで再び実行を開始すると、グラフ・ウィンドウでは更新されたグラフの表示が開始され、元のウィンドウ・タイトルが復元されます。

ウィンドウ・タイトルが更新されない

[デザイン] ウィザードを開くか,または [View Explorer] ペインからグラフを描画したときに新し いウィンドウが開きますが,ウィンドウ・タイトルは更新されません。この現象は,Internet Explorer (IE) バージョン 8 以降を使用している場合にのみ発生します。IE 7 または Mozilla Firefox ブ ラウザを使用している場合,タイトルは正常に更新されます。IE 8 以降のブラウザでこの問題を解決 するには,次の手順を実行します。

- [ツール] > [インターネット オプション] を選択します。 [インターネット オプション] ウィンドウが開きます。
- 2. [セキュリティ] タブをクリックします。
- 3. 適切なゾーンが選択されていることを確認してから、 [レベルのカスタマイズ...]をクリックし

ます。 [セキュリティ設定 - インターネット ゾーン] ウィンドウが開きます。

- 4. [その他] セクションに移動して, [サイズや位置の制限なしにスクリプトでウィンドウを開 くことを許可する] オプションで [有効化] を選択します。
- 5. **[OK**] をクリックします。
- 6. [インターネット オプション] ウィンドウで, [適用] をクリックしてから [OK] をクリック します。ブラウザを再起動します。

NIC を選択したときに定義済みのグラフが表示されない

ビュー・エクスプローラから CI として NIC の MAC アドレスを選択したときに,対応する定義済みの グラフが表示されません。この現象が発生するのは,[パフォーマンス グラフ マッピング]の作成 時に,NIC 名が MAC アドレスではなく定義済みのグラフにマップされるためです。定義済みのグラフ を表示するには,対応するホストを選択する必要があります。

表グラフからデザイン・ウィザードを起動したときにグラフを設計できない

表グラフからデザイン・ウィザードを開いた場合,標準設定では表グラフのプレビューが開きます。 [グラフのデザイン]ウィンドウはプレビューの背後にあるため使用できません。デザイン・ウィザー ドを使用するには,すべての表グラフを閉じます。表グラフは別のブラウザで参照用として開くこと ができます。

無効になっているモニタの[作成したグラフ]ウィンドウを閉じるまで, [データソース]リストは更新されません。

これは, [作成したグラフ] ペインに現在表示されているメトリックのモニタが SiteScope サーバから無効化されている場合に発生します。 [**更新**] をクリックしても, 無効になっているメトリックが [作成したグラフ] ペインに表示されます。この問題を解決するには, すべてのグラフを閉じてから [**更新**] をクリックします。

第19章: OMi 状況ステータス

[OMi 状況ステータス] タブには, OMi デプロイメントの状況情報が表示されます。OMi では, 効率 的な運用を行うために, そのコンポーネントの状況が追跡され, 問題が報告されます。これにより, 是正処置や予防処置を講じることができます。

[OMi 状況ステータス]には、OMi 自己監視コンポーネントの状況ステータスを提供するペイン、関連イベントのリストを表示するペイン、選択したオブジェクトの状況ステータスがビューの関連オブジェクトの状況にどのように影響するかを示すペインがあります。

• Monitoring Dashboard - OMi Health Status

各 OMi オブジェクトの状況ステータスの表示では, [簡易ステータス]ウィジェット, [円] ウィジェット, [履歴]ウィジェットを使用します。各ウィジェットは,状況関連の情報が表示 される OMi 領域を参照したり,すべての自己監視オブジェクトの全体的な状況ステータス・サマ リを提供したりします。

ウィジェットでは,最大危険域のイベントの重要度を反映した色分け表示(たとえば,重要度が 致命的の場合は赤)により,監視対象の領域のステータスを迅速に判断できます。重要度ごとの イベントの数も表示されます。

各ウィジェットはイベント・フィルタやビューを参照し,フィルタの基準に一致し,参照ビュー に含まれている構成アイテムに関連しているイベントのステータスのみを表示します。ウィ ジェットをクリックすることで,関連する OMi 自己監視領域に関する情報がイベント・ブラウザ とトップ・ビュー・コンポーネントに渡されます。そのため,イベント・ブラウザには,一致す るイベントのみが表示され,トップ・ビューには,ウィジェットに関連付けられているビューが 表示されます。

ウィジェットと監視ダッシュボードの詳細については, 「監視ダッシュボード」(259ページ)を参照してください。

次のウィジェット・グループは, [OMi 状況ステータス] 監視ダッシュボードの [**OMi Server**] 自己監視領域に含まれます。

Event Processing

このウィジェットには、イベント処理の状況に関するステータス情報が表示されます。多数の OMi ログ・ファイル (OMi Marble ステータス計算や OMi Sonic Bus キューの処理のログ・ファ イルなど)を監視します。イベント・ブラウザに表示されるイベントは、重要度 ERROR の監 視対象ログ・ファイル・エントリに対して作成されます。

Job Handling

このウィジェットには、デプロイメント・ジョブの状況に関するステータス情報が表示されま す。イベント・ブラウザに表示される重要なイベントは、さまざまなジョブ・デプロイメント の問題(OMiサーバから監視対象ノードへのポリシー・テンプレートの転送の失敗や、ノード からサーバへの割り当て情報の転送の問題など)に関連する可能性があります。

OMi OMi Server Processes

このウィジェットには, OMi サーバ・プロセスの状況に関するステータス情報が表示されま す。イベント・ブラウザに表示されるイベントは, OMi Nanny プロセス・ログ・ファイルを監 視したり, Nanny プロセス自体が起動して実行されているかどうかを監視したりすることで生成されます。

注: OMi Nanny プロセスは, OMi システムで実行されているすべてのプロセスを監視しま す。OMi プロセスが失敗すると, Nanny はこのプロセスを自動的に再起動し, この情報を 個別のログ・ファイルに記録します。

OMi Server Infrastructure

このウィジェットには, OMi サーバ・インフラストラクチャの状況に関するステータス情報 (ディスク IO 操作やシステムの領域使用率を監視することで生成される)が表示されます。

[OMi Server]の横にあるステータス・インジケータは、関連するウィジェットで表示されるす べてのステータスを統合します。最も重要なステータスが全体的なステータスとして反映されま す(ある領域で重要な問題が検出がされた場合、そのインジケータの色が赤に変わります)。

次のウィジェット・グループは, [OMi 状況ステータス] 監視ダッシュボードの [**HP Operations** Agent] 自己監視領域に含まれます。

Agent Health

このウィジェットには、HP Operations Agent の状況に関するステータス情報が表示されます。 イベント・ブラウザに表示されるイベントは、エージェントによって送信される内部メッセー ジから生成されます(イベントには、エージェントの通信の問題や失敗したプロセスが含まれ る場合があります)。

Agent Connectivity

このウィジェットには、HP Operations Agent の接続ステータスに関する情報が表示されます。 イベント・ブラウザに表示されるイベントは、エージェントのハートビート・チェックに関連 しています。設定した間隔内にエージェントからハートビート・イベントが送信されない場 合、問題が発生したことを示すイベントが作成されます。

[History] グラフは,重要度および時間ごとのイベントの数を表示するステータス・トレンド・ ウィジェットです。

[Overall] グラフは,一定期間に発生したすべてのイベントの重要度の概要が表示される円グラ フ・ウィジェットです。これは,色付けされたステータスのスライスに分けられ,各スライス は, [危険域], [注意域], [正常域]の状態のイベントの数を表します。

注: [Monitoring Dashboard - OMi Health Status] で選択したウィジェットにより、イベント・ブラウザに表示されるイベントやトップ・ビューとして選択されるビューが決まりま

す。

• Event Browser

OMi 自己監視環境で発生するイベントの詳細な概要を表示します。イベントのリストは, [Monitoring Dashboard - OMi Health Status]のウィジェットの選択に基づいて,動的に更新され ます。詳細については,「イベント・ブラウザ」(30ページ)を参照してください。

• Top View

[Event Browser] ペインに表示されるイベントの影響を受ける構成アイテム(CI)のトポロジ・ ビューが表示されます。ビューには、監視オブジェクトであるCI間の関係が示され、それらの現 在の状況ステータスが示されます。トップ・ビューに表示されるオブジェクトの色は、そのオブ ジェクトの最も重要なステータスが反映されます。少なくとも1つの重要な問題が検出される と、全体的なCIが赤でマークされます(使用される色はビューでの設定によります。たとえば、 [正常域]の状態に緑を、[危険域]の状態に赤を設定できます)。

OMi 自己監視と統合される 2 つのビューは, [OMi Deployment] と [OMi Deployment with HP Operations Agent] です。

トップ・ビューの詳細については, 「トップ・ビュー・コンポーネント」(185ページ)を参照して ください。

注: [OMi 状況ステータス] タブのすべてのペインのサイズは手動で変更できます。 [展開] ボ タンおよび [折りたたみ] ボタンを使用して,表示形式を定義済みの設定に変更したり,新しい ウィンドウで各ペインを開いたりできます。

ドキュメントのフィードバックの送信

このドキュメントに関するご意見は,電子メールでドキュメント・チームまでお寄せください。この システムで電子メール・クライアントが設定されている場合,上記のリンクをクリックすると,件名 の行に次の情報を含む電子メール・ウィンドウが開きます。

OMi ユーザ・ガイド (Operations Manager i 10.00) に関するフィードバック

フィードバックを電子メールに追加し、[送信]をクリックしてください。

電子メール・クライアントを使用できない場合は、上記の情報を Web メール・クライアントで新し いメッセージにコピーし、フィードバックを ovdoc-asm@hp.com に送信してください。

ご意見ありがとうございます。

